新発田市埋蔵文化財調査報告　第43

空毛遺跡　発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業（佐々木南部郷２期地区）

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅰ

２０１２

新発田市教育委員会

例　　言

1．本報告書は，新潟県新発田市飯島字空毛に所在する空毛（そりげ）遺跡の発掘調査記録である。

2．調査は，経営体育成基盤整備事業（佐々木南部郷２期地区）に先立つもので，新潟県新発田地域振興局の委託を受けた新発田市教育委員会が調査主体となり，現地調査を平成２１年６月１５日から９月１６日に実施した。

3．発掘調査の経費は，新潟県新発田地域振興局と新発田市が結んだ委託契約書に基づき，総額の 90%を事業者である新潟県新発田地域振興局が負担し，直接農家負担分である総額の 10%については，その半額を国庫補助，残りを県費補助および市の一般会計予算で負担した。

4．遺物・記録類は，新発田市教育委員会が一括して保管している。遺物の注記は「空毛」とし，必要に応じグリッド・層・日付等を記した。出土遺物は全点注記・分類作業を終えている。

5．出土遺物の図化作業は，笹澤正史（新発田市教育委員会）のほか，笹澤の指示のもと整理作業員が行った。写真撮影は遺構を鈴木暁（新発田市教育委員会）が，遺物を笹澤が行った。拓本・トレス及び挿図・図版の作成は，笹澤のほか，調査員の指示のもと整理作業員が行った。

6．本書の執筆は，第Ⅰ～Ⅲ章を鈴木が，残りを笹澤が行った。全体の構成は鈴木が取りまとめた。

7．第Ⅵ章の自然科学分析は，須恵器の胎土分析を株式会社第四紀地質研究所に，炭化物および木質遺物の放射性炭素年代測定を株式会社加速器分析研究所に，木製品の樹種同定を株式会社パレオ・ラボに，コハク資料の化学分析を財団法人元興寺文化財研究所にそれぞれ業務委託し，分析結果を掲載した。また，第Ⅴ章は浅井勝利氏（新潟県立歴史博物館）に釈読を依頼し，執筆をお願いした。

8．本書に掲載の地形図は，国土地理院発行 1/50,000 地形図「新発田」「中条」および佐々木土地改良区作成の地形図であり，必要に応じ縮小している。方位は，第１～３図では図の天が真北を，それ以外では，記号の方向が真北を示す。

9．遺物は掲載順に若い番号を振り分けていった（「図版No.」）。また，現地での遺物取り上げ時に割り当てた「遺物No.」も存在するが，本文中で述べる番号は「図版No.」である。

10．土色の観察は，『新版標準土色帖』（小山・竹原 1967）を用いた。

11．発掘調査から本書の作成にあたり，下記の諸氏・機関から多くのご協力・ご支援を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（順不同　敬称略）

青木　学　甘粕　健　諫山えりか　磯部保衛　伊藤喜代子　春日真実　加藤　学　小林　弘
斎藤あや　斉藤　準　関　雅之　高橋春栄　寺村光晴　西澤正和　橋本博文　藤巻正信
増子正三　水澤幸一　望月精司　吉井雅勇　渡邊朋和　渡邊裕之
新潟県教育庁文化行政課　新潟県新発田地域振興局　佐々木土地改良区　飯島甲地区自治会
飯島乙地区自治会　佐々木コミュニティセンター

目　　次

第Ⅰ章　遺跡の位置と周辺の遺跡

1　遺跡の位置と立地 …… 1
2　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 2

第Ⅱ章　調査の概要

1　調査に至る経緯 …… 4
2　調査体制 …… 5
3　発掘調査の方法と経過 …… 5
4　層序 …… 6

第Ⅲ章　遺　　構

1　遺構の概要 …… 8
2　１区の遺構 …… 9
3　２区の遺構（古墳時代） …… 19
4　２区の遺構（古代） …… 25

第Ⅳ章　遺　　物

1　器種分類 …… 45
2　１区出土の遺物 …… 46
3　２区出土の遺物 …… 60
4　木製品・石製品・土製品 …… 74
5　その他の遺物 …… 74

第Ⅴ章　文字資料

1　空毛遺跡出土の木簡について …… 96
2　空毛遺跡出土の墨書土器について …… 96

第Ⅵ章　自然科学分析

1　放射性炭素年代測定結果（AMS 測定） …… 98
2　空毛遺跡出土木材の樹種同定 …… 102
3　須恵器胎土分析（Ｘ線回析試験及び化学分析試験）鑑定報告 …… 107
4　空毛遺跡出土琥珀資料の化学分析 …… 113

第Ⅶ章　ま　と　め

1　古墳時代の土器の位置付け …… 116

2　古墳時代の木棺墓について …… 116
3　古墳時代の遺構の変遷について …… 118
4　古代の土器の位置付け …… 120
5　建物形式について …… 123
6　集落の変遷について …… 123
7　まとめ …… 125

引用・参考文献
報告書抄録

挿　図　目　次

第1図　空毛遺跡の位置 …… 1
第2図　遺跡周辺の地形 …… 2
第3図　周辺の遺跡分布 …… 3
第4図　基本土層 …… 7
第5図　遺跡範囲と確認調査の位置 …… 7
第6図　遺構配置図 …… 9
第7図　1・2号掘立柱建物 …… 10
第8図　3・4号掘立柱建物 …… 11
第9図　5・6号周溝式建物 …… 13
第10図　1区の遺構（1） …… 14
第11図　1区の遺構（2） …… 15
第12図　1・2号土坑，2・3号溝 …… 16
第13図　2号木棺墓・10号土坑，48・49号溝 …… 18
第14図　13・14号土坑，62号溝 …… 19
第15図　古墳時代の遺構（0・P区）（1） …… 20
第16図　古墳時代の遺構（0・P区）（2） …… 21
第17図　1号木棺墓 …… 23
第18図　20号掘立柱建物 …… 24
第19図　1号竪穴建物，1号性格不明遺構 …… 26
第20図　7・8号掘立柱建物 …… 27
第21図　9・10号掘立柱建物 …… 28
第22図　12号掘立柱建物 …… 29
第23図　13号掘立柱建物 …… 30
第24図　14・15号掘立柱建物 …… 31
第25図　16・17号掘立柱建物 …… 32
第26図　18・19号掘立柱建物 …… 33
第27図　2区の古代遺構（1） …… 35
第28図　2区の古代遺構（2） …… 37
第29図　2区の古代遺構（3） …… 38
第30図　1号流路 …… 39
第31図　器種分類図1　古墳時代後期 …… 46
第32図　器種分類図2　古代 …… 47
第33図　1区1・2号建物
及び関連遺構出土遺物 …… 48
第34図1区2号建物
関連遺構出土遺物 …… 49
第35図1区3・4・5・6号建物
及び関連遺構出土遺物 …… 50
第36図　1区5・6号建物関連遺構出土遺物 …… 52
第37図　1区5・6号建物
関連遺構及び土坑出土遺物 …… 53
第38図　1区土坑出土遺物 …… 54
第39図　1区土坑・溝出土遺物 …… 55
第40図　1区溝・ピット・流路出土遺物 …… 56
第41図　1区流路出土遺物（1） …… 57
第42図　1区流路出土遺物（2） …… 58
第43図　1区包含層出土遺物（1） …… 59
第44図　1区包含層出土遺物（2） …… 60
第45図　2区1号竪穴，
7・8号建物出土遺物 …… 61
第46図　2区9・10・12・13・18・19号建物
及び関連遺構，ピット出土遺物 …… 62
第47図　2区20号建物検出面
及び4号周溝状遺構出土遺物 …… 63
第48図　2区1号井戸出土遺物 …… 65
第49図　2区1号井戸，60a・60b溝出土遺物 …… 66
第50図　2区土坑出土遺物 …… 67
第51図　2区1号木棺墓出土遺物 …… 68
第52図　2区1号木棺墓及び関連遺構，
2号木棺墓出土遺物 …… 69

第53図　2区2号木棺墓，畝状小溝出土遺物 …… 70
第54図　2区畝状小溝，溝出土遺物 …… 71
第55図　2区溝，ピット，SX，流路出土遺物 …… 72
第56図　2区流路，包含層出土遺物 …… 73
第57図　2区包含層出土遺物（1） …… 75
第58図　2区包含層出土遺物（2） …… 76
第59図　木製品 …… 77
第60図　木製品，柱 …… 78
第61図　柱 …… 79
第62図　玉類，土製品，表土，立会調査出土遺物 …… 80
第63図　1・2号木簡 …… 97
第64図　放射性炭素年代測定グラフ …… 101
第65図　出土木製品の光学顕微鏡写真（1） …… 105
第66図　出土木製品の光学顕微鏡写真（2） …… 106
第67図　須恵器胎土分析関連グラフ（1） …… 111
第68図　須恵器胎土分析関連グラフ（2） …… 112
第69図　琥珀資料化学分析グラフ …… 115
第70図　空毛遺跡古墳時代後期の土器と対比資料　117
第71図　新潟県内の古墳時代後期の
　　木棺墓と考えられる事例 …… 118
第72図　空毛遺跡古墳時代遺構変遷図 …… 119
第73図　空毛遺跡の古代の土器と対比資料（1） … 121
第74図　空毛遺跡の古代の土器と対比資料（2） … 122
第75図　空毛遺跡古代遺構変遷図 …… 124

表　目　次

表1　遺構（掘立柱建物・周溝式建物）観察表 …… 40
表2　遺構（竪穴建物・木棺墓・井戸
　　・不明遺構・流路）観察表 …… 42
表3　遺構（土坑）観察表 …… 42
表4　遺構（溝）観察表 …… 43
表5　遺物観察表（1） …… 81
表6　遺物観察表（2） …… 94
表7　遺物観察表（3） …… 94
表8　遺物観察表（4） …… 95
表9　放射性炭素年代測定分析表（1） …… 100
表10　放射性炭素年代測定分析表（2） …… 100
表11　空毛遺跡出土木製品の樹種同定結果 …… 102
表12　空毛遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧 …… 104
表13　胎土性状およびタイプ分類表 …… 110
表14　胎土分析化学分析 …… 110
表15　胎土分析組成分類表 …… 110

図　版　目　次

図版1　1区・2区完掘状態，2号溝，1号木棺墓，
　　出土コハク玉
図版2　基本土層，1区遺構確認面，木棺墓，井戸，流路，
　　出土玉類
図版3　1区の調査（3～6号建物，土坑）
図版4　2区の調査（2号木棺墓，古墳時代の遺構）
図版5　2区の調査（1号井戸，1号竪穴，古墳時代の遺
　　構）
図版6　2区の調査（1号木棺墓，古墳時代の遺構）
図版7　2区の調査（7～12号掘立柱建物）
図版8　2区の調査（13～19号掘立柱建物，1号流路），
　　完掘状態
図版9　古代の土器（1）
図版10　古代の土器（2）
図版11　古代の土器（3）
図版12　古代の土器（4）
図版13　古代の土器（5），古墳時代の土器（1）
図版14　古墳時代の土器（2）
図版15　墨書土器，成形・調整・使用痕跡
図版16　木製品・土製品・玉・瑙

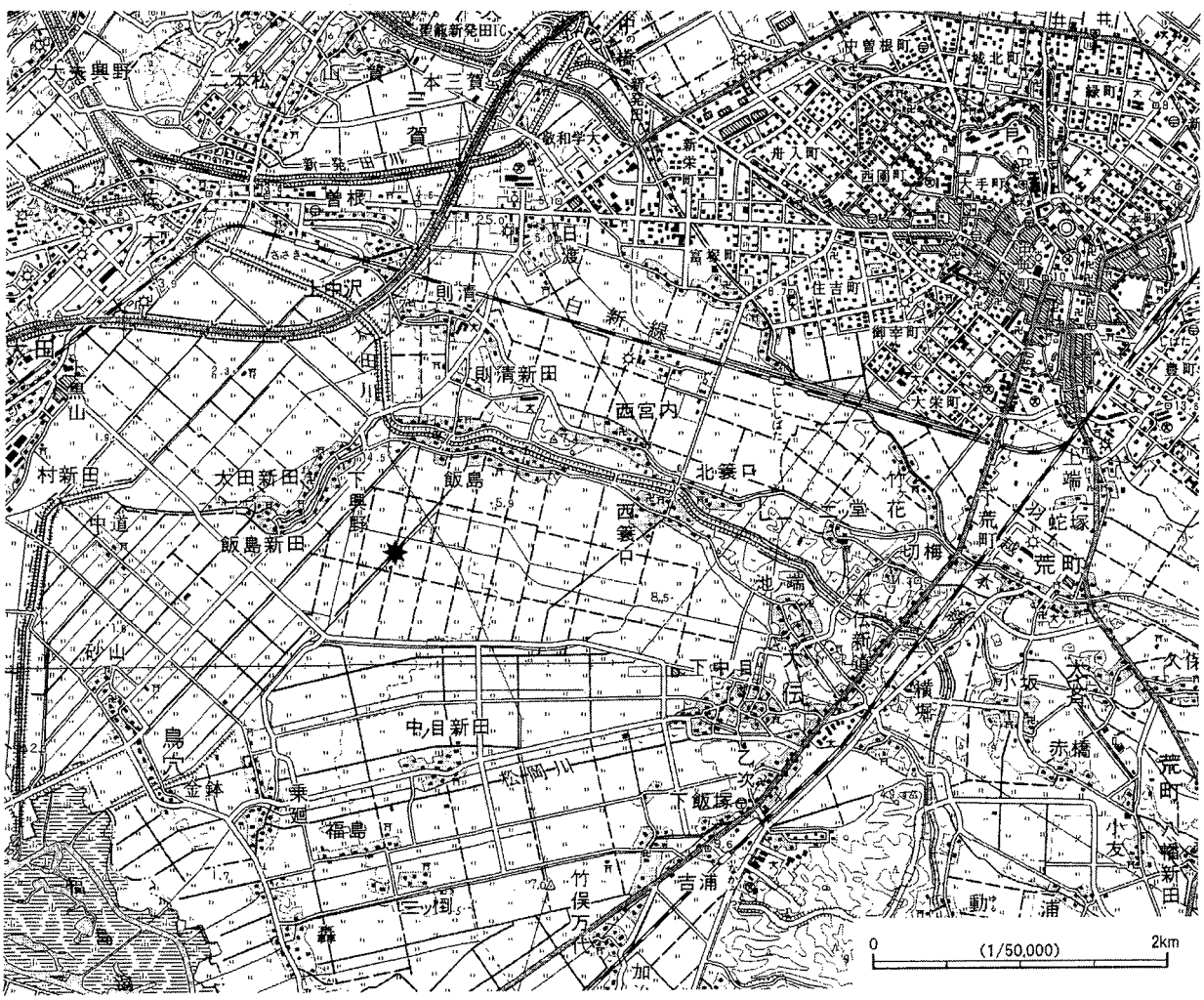
第Ⅰ章　遺跡の位置と周辺の遺跡

1　遺跡の位置と立地

新潟県新発田市は，新潟市の東方に位置する総面積 532.82 k ㎡，人口が約 10 万 2 千人の地方都市である。市街地は市の中央部にある旧新発田藩城下町とその周辺に発達し，その周囲には農村地帯が広がっている。

地勢を大観すると，新潟平野の一部をなす平野部と，その東縁部の孤立した丘陵，およびその東の五頭山地・櫛形山地，さらに東には飯豊山地が連なる地域といえる。平野部は，東側の山地から流下する加治川・太田川・折居川などの河川作用によって形成された台地・低地と，海岸線に平行な砂州・砂丘列のある海岸平野，および潟湖の干拓地などによって形成されている（国土地理院 1993）。

空毛遺跡は，新発田市飯島字空毛 1410 番地ほかに所在する。飯島集落は市街地西方に位置する佐々木地区に属し，一帯は沖積平野である。阿賀野川水系の一支流である太田川が地区の中央部を西流している。現在の太田川の流路は近世以後に整備されたものと考えられるが，その北側には蛇行する旧河川の跡が認められ，これが先行の流路と考えられる。正保４（1647）年の『正保越後国絵図』には，北飯島村の南側に福島潟へと注ぐ「佐々



第1図　空毛遺跡の位置

木河」が描かれており，これが旧河川にあたると推測され新発田藩成立以前には加治川の本流をなしていたとも考えられている（松田 1981）。現在の新発田市付近の地形図をみると，市の西側はこの旧流路による大きな扇状地が観取でき，現在に至る地形形成の上で主体的な要素であったといえよう。

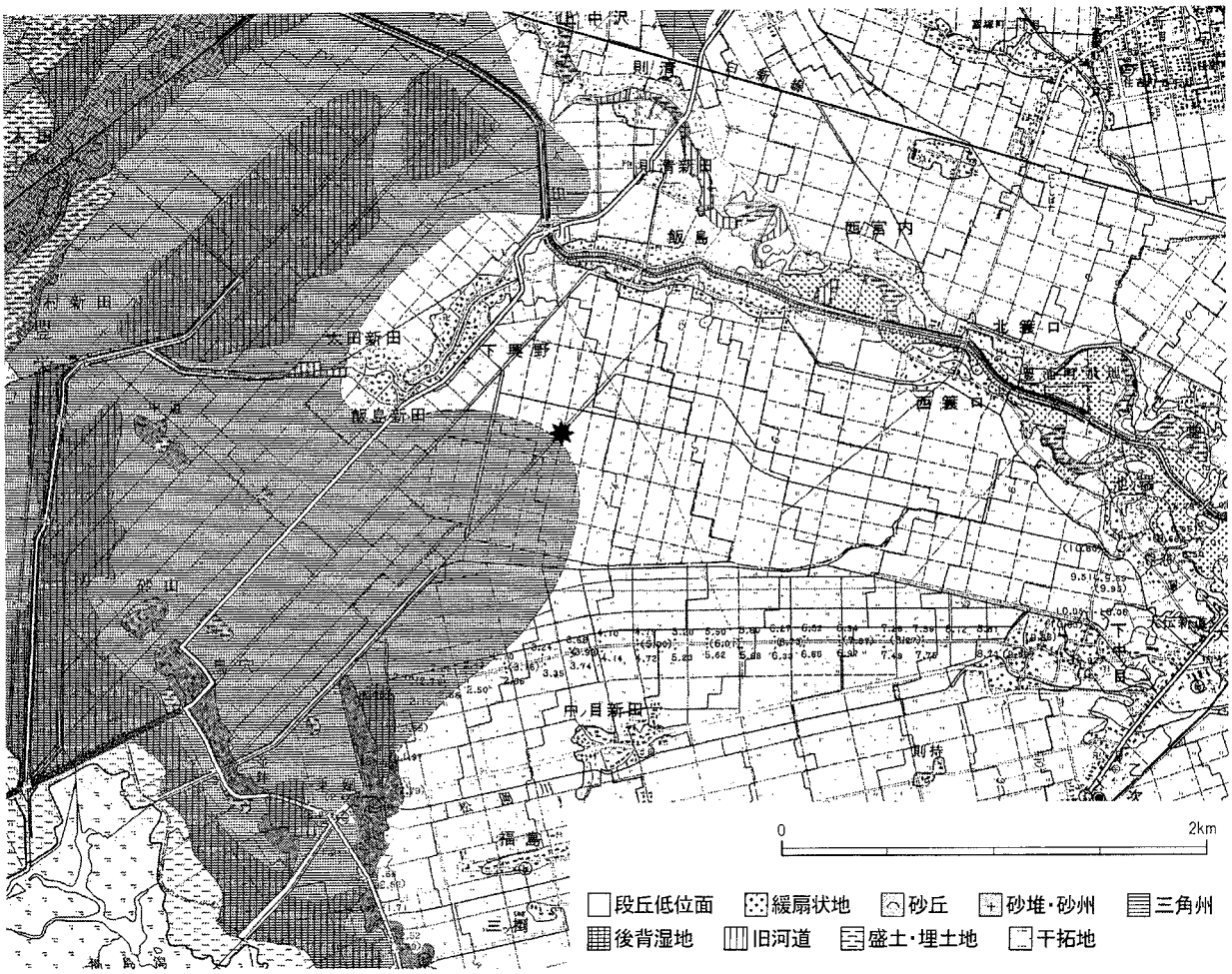
遺跡の南西側には福島潟が広がる。たび重なる干拓によりその多くが水田となっているが，『正保越後国絵図』では「長サ壱里八町半，横三一町」と描かれ，かつては広大な水域であった。福島潟は建保２（1214）年の「東大寺領諸庄田数所当等注進状」の「下御潟」にあたるとされ（荻野 1980），それ以前の成立と考えられるが，福島潟湖岸砂丘上の曽根遺跡では縄文時代晩期の土器が出土（川上 1997）し，そこまで遡る可能性もあろう。

遺跡の周辺の地形は，南東から北西方向に極めて緩く傾いている。地形分類では加治川による旧扇状地として分類されるが，福島潟低地の三角州地形と接しており，低地に面した潟端状の地形であったと考えられようか。

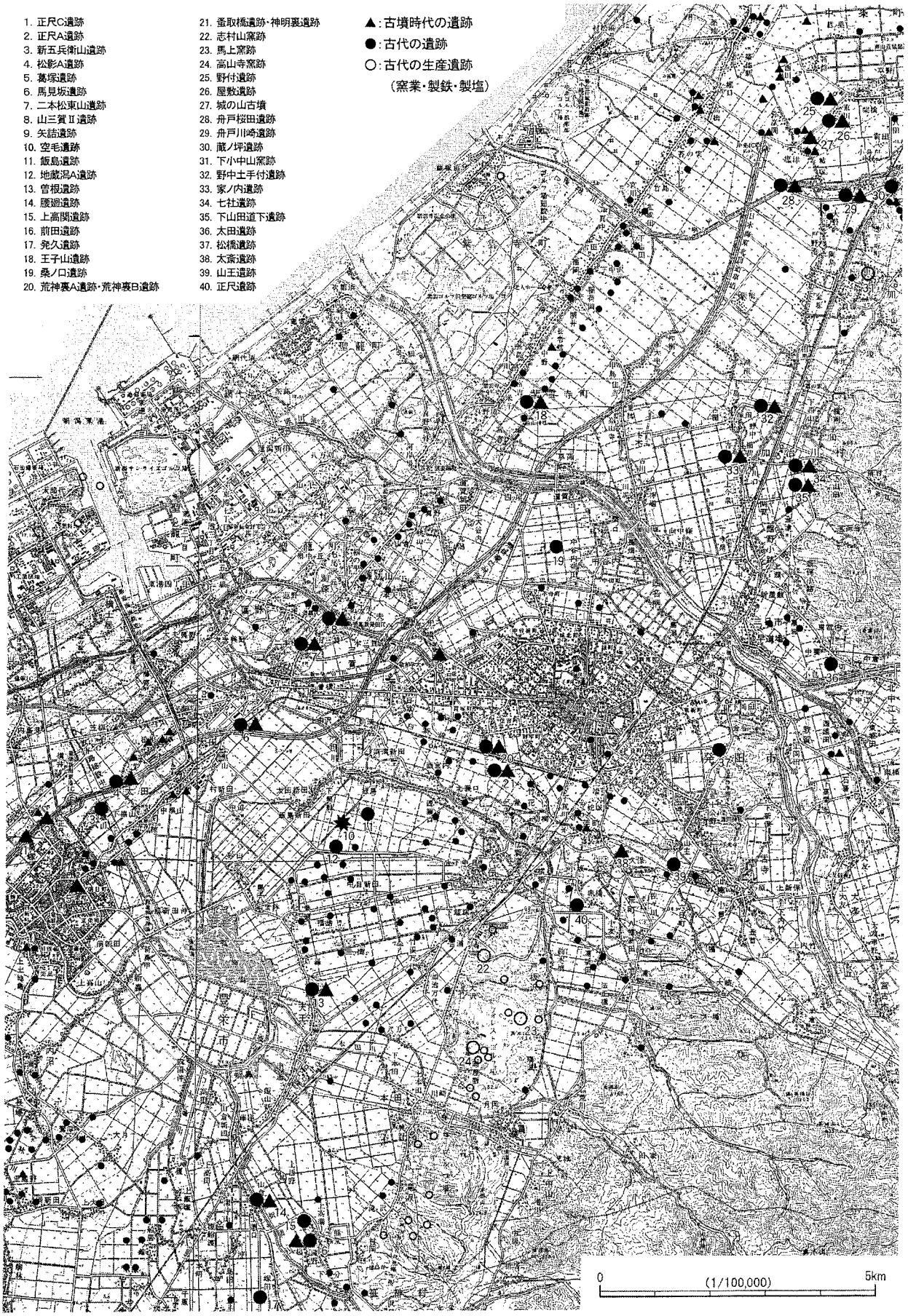
以上のように当地域の現在の地理的な環境は，遺跡の営まれていた古代以前とは大きく異なる。近世以後になっても水害を幾度も受けており，当時の環境とは大きく変容している可能性も考えられよう。

2　周辺の遺跡と歴史的環境

古墳時代　阿賀野川以北において確認された古墳は，前期の胎内市城の山古墳・籠ほろき山古墳（水澤 2006）と後期の村上市磐舟浦田山古墳群（甘粕ほか 1996）だけだが，集落跡については近年の調査の進展により資料の蓄積が進んでいる。本遺跡の北西方向に延びる砂丘列上には古墳時代前期・後期の馬見坂遺跡（田中 1960，関 2001，土橋ほか 2006），古墳時代前期の新潟市正尺Ａ遺跡・正尺Ｃ遺跡（土橋ほか 2006）・松影Ａ遺跡



第2図　遺跡周辺の地形


1. 正尺C遺跡
2. 正尺A遺跡
3. 新五兵衛山遺跡
4. 松影A遺跡
5. 葛塚遺跡
6. 馬見坂遺跡
7. 二本松東山遺跡
8. 山三賀Ⅱ遺跡
9. 矢詰遺跡
10. 空毛遺跡
11. 飯島遺跡
12. 地蔵潟A遺跡
13. 曽根遺跡
14. 腰廻遺跡
15. 上高関遺跡
16. 前田遺跡
17. 発久遺跡
18. 王子山遺跡
19. 桑ノ口遺跡
20. 荒神裏A遺跡・荒神裏B遺跡
21. 蚕取橋遺跡・神明裏遺跡
22. 志村山窯跡
23. 馬上窯跡
24. 高山寺窯跡
25. 野付遺跡
26. 屋敷遺跡
27. 城の山古墳
28. 舟戸桜田遺跡
29. 舟戸川崎遺跡
30. 蔵ノ坪遺跡
31. 下小中山窯跡
32. 野中土手付遺跡
33. 家ノ内遺跡
34. 七社遺跡
35. 下山田道下遺跡
36. 太田遺跡
37. 松橋遺跡
38. 太斎遺跡
39. 山王遺跡
40. 正尺遺跡
▲:古墳時代の遺跡
●:古代の遺跡
○:古代の生産遺跡
(窯業・製鉄・製塩)
0
(1/100,000)
5km

第3図　周辺の遺跡分布

（加藤ほか 2001），聖籠町山三賀Ⅱ遺跡（坂井 1989）・二本松東山遺跡（伊藤ほか 1993）などが点在する。福島潟東岸では曽根遺跡で古墳時代前期・後期の土器群が出土している（川上 1997 ほか）。同じく福島潟の沿岸部でも阿賀野市腰廻遺跡など古墳時代後期の遺跡が見つかっている（川上 2002）。遺跡の上流にあたる東側では蚤取橋遺跡（鶴巻ほか 2008）・荒神裏Ａ遺跡（鶴巻ほか 2005）・荒神裏Ｂ遺跡（渡邊ほか 2006）などが川沿いに分布するが，調査はいずれも限定的で集落の実態解明には至っていない。これらの古墳時代の集落は自然堤防や砂丘列などの微高地に点々と営まれていたと推測される。

奈良・平安時代　新発田市を含む旧北蒲原郡域は，古代においては越後国沼垂郡であったとされる。10 世紀に成立した『和名類聚抄』では，沼垂郡には沼垂・賀地・足羽の３郷が存在し，現在の新発田市付近は，後に立荘される加地荘との地名的な類似などから概ね賀地郷に属していたと考えられている（桑原 1980）。

沼垂郡衙の位置は明らかにされてはいないが，官衙関連と考えられる遺跡がいくつか存在する。曽根遺跡では「郡」「上殿」墨書土器や木簡・円面硯などが出土しており，郡衙関連の可能性が指摘されている（家田ほか 1981・1982，川上 1997）。また，生産遺跡では，遺跡南西の真木山丘陵・笹神丘陵に多数の須恵器窯跡・製鉄遺跡が分布する。真木山丘陵の須恵器窯では，８世紀前半の志村山窯跡（川上 1999），８世紀後半の岡屋敷窯跡（中川ほか 1962），８世紀末の高山寺窯跡（＝真木山Ａ）（戸根 1986），９世紀前半の馬上窯跡（＝真木山Ｄ）（坂井 1989）で発掘調査が行われており，製鉄遺跡では，万代かなくそ沢遺跡（＝真木山Ｂ）と五月山遺跡（＝真木山Ｃ）で発掘調査が行われている（関・本間 1981）。

第Ⅱ章　調査の概要

１　調査に至る経緯

平成 16 年に県営経営体育成基盤整備事業として佐々木南部郷２期地区（工事面積 196ha）が採択された。この時点で工区内の対象埋蔵文化財包蔵地は２箇所であったが，同年の分布調査により事業地内である飯島字空毛での遺物散布が確認され空毛遺跡として周知化された。この結果を踏まえ，平成 17 年７月に新潟県新発田地域振興局農村整備部（以下，県農地）・市農村整備課と市教育委員会（以下，市教委）で協議を行った。県農地は，同地区での早々の工事を予定していたが遺跡の存在を受け工事計画を見直すこととし，その後数度の協議を経て遺跡の広がりと土層の堆積状態などの把握を目的に範囲確認調査を実施することで合意した。市教委では平成 19 年９月 27 日付け生学第 1141 号で埋蔵文化財発掘調査の報告を行い範囲確認調査に着手した。なお，この費用は全額を文化財保護部局の負担とし，国庫・県費の補助を受け実施した。

工事計画の見直し案では，盛土保存による対応を基本としたため，範囲確認調査は遺跡から外れ削平可能な範囲を明示することと，範囲内であっても保護層の確保により工事の影響を受けない高さを提示することに主眼を置くこととなった。調査は 2.5～6m×1.6mのグリッドを重機で掘り下げた。調査区は 1000 ㎡あたり１～２ヶ所ずつ合計 62 箇所を調査した。その結果，古代の遺物包含層が確認され，土坑・溝・ピットの遺構を検出し，12,100 ㎡が本調査対象と判明した。

この結果を踏まえて再度県農地と協議を進めた結果，発掘に要する期間と費用を勘案して面工事部分は盛土対応とし，水路および農道部分の幅６ｍのみ本発掘調査での対応で合意に至った。平成 21 年４月 20 日付け芝振農整第 54 号での文化財保護法第 94 条２による「埋蔵文化財包蔵地の土木工事の通知」と同年４月 27 日付け芝振農整第 89 号による新潟県新発田地域振興局長からの調査依頼を受け，５月１日に本遺跡発掘調査にかかる費用

負担の契約を新潟県新発田地域振興局長と新発田市長の間で締結し，6月 12 日付け生学第 582 号で埋蔵文化財発掘調査の通知（文化財保護法第 99 条第 1 項）を県教育委員会に行い調査に着手した。なお，調査費用の分担については例言に記したとおりである。また，工事に伴い施工される仮排水路および湧水処理のための暗渠配管工事については掘削幅が狭小であることから工事立会いによる対応とし，前者を平成 21 年 3 月 16 日，後者を平成 22 年 9 月 8 日から 10 月 5 日にかけて実施した。

2　調査体制

平成 19 年度（範囲確認調査）

調査主体者　新発田市教育委員会(教育長　大滝　昇)
監　　理　高澤誠太郎（教育部長）
総　　括　杉本　茂樹（生涯学習課長）
調査担当者　本田　祐二（生涯学習課文化財技師）
調　査　員　田中　耕作（　〃　参事）
事　務　局　渡邉美穂子（　〃　主任）

平成 21 年度（発掘調査・整理作業）

調査主体者　新発田市教育委員会(教育長　大滝　昇)
監　　理　土田　雅穂（教育部長）
総　　括　杉本　茂樹（生涯学習課長）
　　田中　耕作（生涯学習課参事）
調査担当者　鈴木　暁　（　〃　主任）
調　査　員　笹澤　正史（　〃　臨時職員）
事　務　局　本田　祐二（　〃　文化財技師）

平成 22 年度（整理作業・報告書作成）

調査主体者　新発田市教育委員会
　　（教育長　大滝　昇　～11 月 30 日）
　　（教育長　塚野純一　12 月 24 日～）
監　　理　土田　雅穂（教育部長）
総　　括　杉本　茂樹（生涯学習課長）
　　田中　耕作（生涯学習課参事）
調査担当者　鈴木　暁　（　〃　主任）
調　査　員　笹澤　正史（　〃　臨時職員）
事　務　局　本田　祐二（　〃　文化財技師）

平成 23 年度（報告書作成）

調査主体者　新発田市教育委員会（教育長　塚野純一）
監　　理　新保　勇三（教育部長）
総　　括　荻野　正彦（生涯学習課長）
　　田中　耕作（生涯学習課文化行政室長）
調査担当者　鈴木　暁　（　〃　主任）
調　査　員　笹澤　正史（　〃　臨時職員）
事　務　局　本田　祐二（　〃　文化財技師）

3　調査の方法と経過

調査区の設定　ほ場整備工事の測量基準点を利用してグリッドの基準線を求めた。杭の打設はセオドライトを用い市教委で直接実施した。工事の基準点である A22 と A23 とを結ぶラインをＸ軸の，直交するラインをＹ軸の基準とした。この２点を結ぶラインを調査区のセンターラインとし，A22 からライン上で 200m 南側に原点①を，100 m南側に原点②を設置した。それぞれが調査区のｋｌおよびａｂのグリッド境とし，この点を基に 10m おきに杭を打設してメッシュを組んで大グリッドとした（第５図)。呼称はＸ軸（西東方向）にアルファベットの大文字を，Ｙ軸方向（北南方向）に小文字をあてがい，北西方向を優位として呼称した。さらに大グリッド内を２ｍおきに 25 分割して小グリッドを設定した。大グリッド同様に北西を優位としてＸＹとも１～５の座標の組み合わせで呼称した。グリッドの国家座標は KLkl の交点が X＝214573.2537，Y=68291.3782（第Ⅷ系）である。

調査の方法　本発掘調査は，範囲確認調査の結果を元に遺物包含層より上のⅡ層中位までをバックホーによって取り除き，以下を人力で掘り下げた。遺物包含層または遺構確認面に達するまではスコップを用い，遺構確認面ではジョレンで薄く剥ぎながら掘り下げた。遺物の多い地点では移植ゴテ・両刃鎌を使用し，さらに密集する地点では竹べら・竹串を併用した。遺物の取り上げは，基本的には出土日の層ごとに小グリッド単位で一括して取り上げたが，遺構出土および包含層出土のうち良好な遺物については，小グリッドの北側および西側のラインからの距

離を１cm 単位で計測し，併せてレベルを用いて標高を記録した。３次元計測した遺物は１点ずつ個別の№を振り分け計測記録や器種などとともに台帳に記載した。

遺構については，ジョレン等で平面プランを確認後，半裁または土層確認用のベルトを残して掘削し，土層の堆積状態・出土遺物の時期などから遺構時期の認定を行った。記録は，土層断面の図化・撮影・観察を行い，完掘後に撮影・平面図作成・レベリングを行った。また，途中で撹乱と判断した場合であっても，撹乱下に残された遺構の確認および遺物回収を目的として完掘した。

現地調査の経過　（日誌抄）

6月15日～18日　調査区は「飯島斜めの川」で分断されることから，南側の２区から着手した。バックホーによる表土掘削に引き続きレベル移動と基準杭打設を行った。表土および２層から多量の遺物が出土するため，重機掘削は浅目にして人力掘削へと移行した。

6月19日～6月24日　人力による掘り下げに続き遺構確認に着手。lmおよびpqの境で土器がまとまって出土する。特に後者では古墳時代の土器が多く出土し古墳時代および古代の遺跡であることが明らかになる。遺構確認面である地山は砂・シルト・粘土と場所により異なり，特に砂の地山では遺構を認識しづらく精査を繰り返す。近世以後の陶磁器等を含むプランについては撹乱と判断し，全掘する。遺構の切り合いが多いために，確認面では大きなプランとなり個々の検出が難しいため，この撹乱坑をサブトレンチと見立て遺構プランを確認した。切り合いが多いため全体的に遺構プランが不明瞭で面的な検出が困難であった。

6月25日～7月7日　遺構の掘り下げを始める。Kmでは畝状の溝を掘削し，記録を作成後土坑およびピットの掘削をおこなう。Kpでは方形の大型プランの掘削に着手し，竪穴建物と判明する。また60a･b号溝の掘削に着手。遺構の切り合いが著しく掘り下げながら判断を行っていく。Koではピット群を検出し数棟の掘立柱建物を調査する。また，湧水が著しいため調査区の両側に排水溝を掘削し水中ポンプでの強制排水を行うも効果は限定的であった。

7月14日～7月24日　入梅し雨天の日が続き久々の作業。湧水も相変らずで作業がはかどらない。砂地のために排水溝が崩落し，その復旧・浚渫に時間を要する。9号(1号木棺墓)および11号土坑(2号木棺墓）に着手。平面及び断面観察の結果から古墳時代の木棺墓とみて調査を行う。Kpで検出した大型の遺構は深度が大きく，土層および形状から井戸と判断した。

7月28日～8月12日　２区と並行して北側の１区に着手。重機で表土を掘削したのち排水溝を掘削し，湧水の著しい西側では暗渠を設置した。また，表土掘削の結果からKfよりも北側には遺構が広がらないためKf以南で遺構確認を行う。２区では引き続き遺構の掘削・記録作成を継続しつつKqの掘削に着手。流路跡を検出する。底面から木製品が多数出土し記録を作成しながら取り上げる。

8月17日～9月16日　湧水が下がったためKlmで精査を行ったところ掘立柱建物が検出される。掘削・記録作成を行い２区の調査を終了する。１区では引き続き調査を継続。Kf北端部で浅い落ち込みを確認。プランや堆積から流路跡と判断した。9月9日に完掘したのち器材等を搬出し現地調査を完了した。

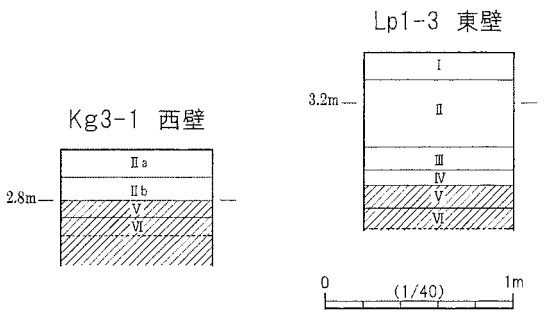
整理作業

発掘調査の終了後，屋内整理作業に着手した。平成21年度は出土遺物の水洗･注記作業および現場写真・遺物台帳を整理した。翌22・23年度は，図化遺物を選別して実測に入り，遺構図面の編集を行った。また，放射性炭素年代測定，樹種同定，須恵器の胎土分析，およびコハクの化学分析を専門業者に委託して実施した。また，文字資料は新潟県立歴史博物館の浅井勝利氏に依頼し鑑定と報告を得た。遺物の撮影，各図面のトレースを行い，原稿執筆とあわせて図版版下を作成して報告書を印刷・刊行した。

4　層　序

湧水対策として調査区壁際に掘削した排水路の断面を観察した。調査区が長いため箇所により堆積状況に異同はあるが以下に示す堆積状態に包括される。土層はⅠ～Ⅵ層に大別し，土質等の違いに応じ小文字のアルファベットを付して細分した。Ⅰ層は耕土。現況で20cm程度の層厚がありほぼ均一な広がりをみせる。Ⅱ層は旧耕土と考えられる２次堆積層で，暗褐色土を基本とし所により粘性を帯びる。Ⅲ層は灰オリーブの粘性シルトで炭化

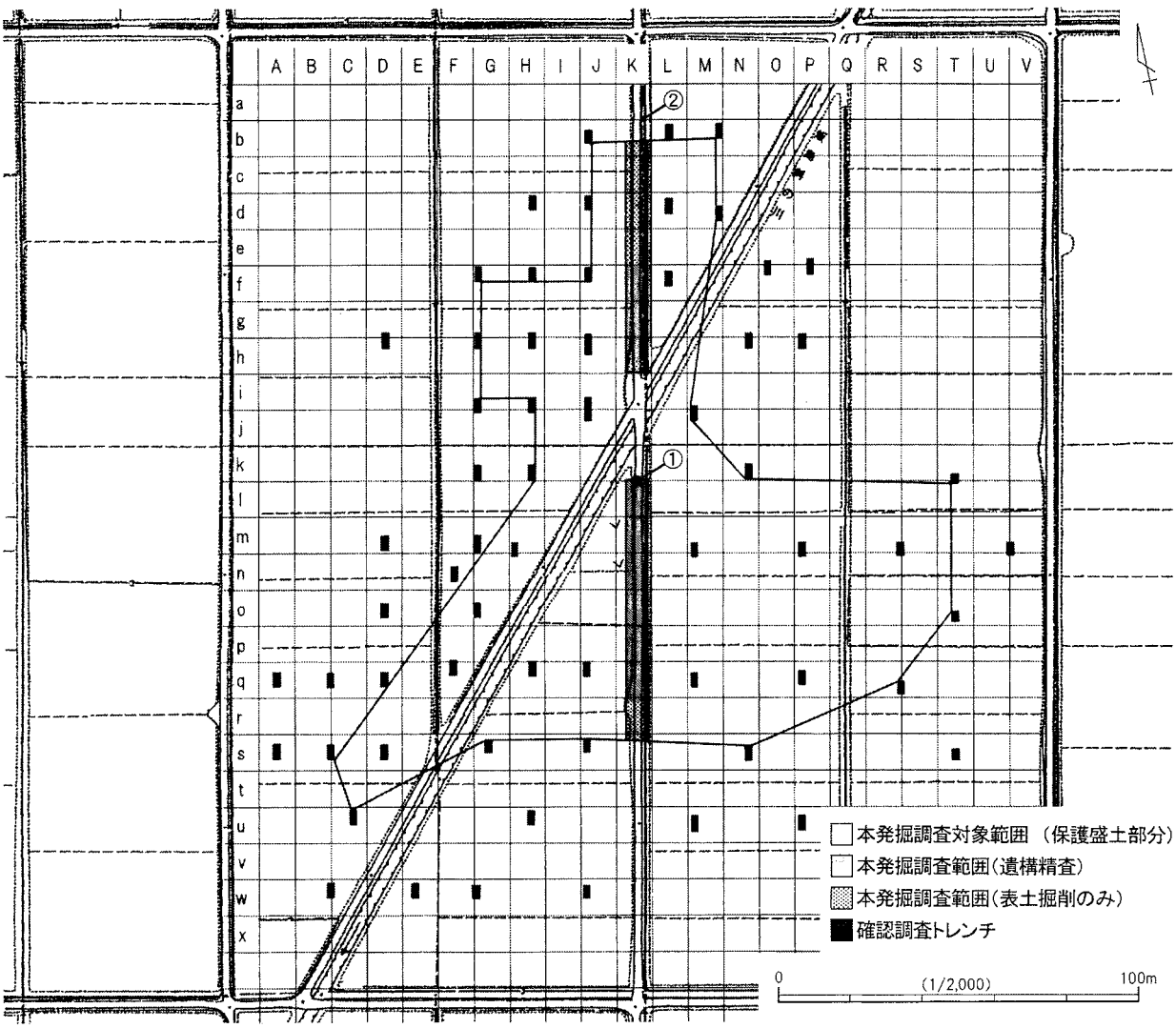
物を多く含む。古代および古墳時代後期の遺物包含層である。Ⅳ層はⅢ層に近似する粘性シルトだが，若干明るい。Kp 区付近にのみ分布し古墳時代前期の遺物を包含する。Ⅴ層以下は地山で，Ⅴ層がオリーブ灰～明オリーブ灰粘土，Ⅵ層が灰オリーブ砂～オリーブ灰細砂でいずれも水成堆積である。



Kg3-1 西壁
- Ⅱa 層　暗灰粘質土(N3/1)。黒色土に暗黄灰色粘土を挟み、炭化物・地山の砂ブロックを多く含む
- Ⅱb 層　暗灰黄粘土(2.5Y5/2)。5mm 以下の炭化物・Va 層の粘土ブロックを少量含む。
- Ⅴ層　オリーブ灰粘土(2.5GY6/1)。地山。
- Ⅵ層　灰オリーブ砂(5Y6/2)。地山。所によりやや目が粗くなる。

Lp1-3 東壁
- Ⅰ層　表土
- Ⅱ層　暗褐色土
- Ⅲ層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。5mm 以下の炭化物を含む。古墳後期の遺物包含層。
- Ⅳ層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。粘性強い。5mm 以下の炭化物を含む。古墳前期の遺物包含層。
- Ⅴ層　明オリーブ灰粘土(2.5GY7/1)。地山。
- Ⅵ層　オリーブ灰細砂(5GY6/1)。地山。

第4図　基本土層



第5図　遺跡範囲と確認調査の位置

第Ⅲ章　遺　　構

1　遺構の概要

第Ⅱ章３項で先述のとおり，調査区は「飯島斜めの川」排水路を挟んで南北に分断される。このため北側を１区，南側を２区として調査を行った。現地での発掘調査中は，検出した遺構を土坑・溝・ピット等に類別し，調査に着手した順に番号を付した。調査終了後，検討を行い概ね北側から番号を振り直した。また，整理の過程で種別が変わったもの，欠番となったものが存在する。

遺構の種別は平面・断面形状を基本とし，建物等ではピットなどの配置や深度，切り合い関係等を勘案して判断した。両区・各時期を通じて検出した遺構は，掘立柱建物17棟，周溝式建物２棟，竪穴建物１棟，木棺墓２基，井戸１基，土坑17基，溝76条，ピット307基，性格不明遺構（SX）１基，流路跡２条である。

遺構の帰属時期は，遺構の切り合い関係と出土遺物の時期を基本とした。ただし出土遺物については，レベル差を持たずに複数の時期の遺構が検出されること，遺構の切り合いが多いこと，後世の削平・撹乱が著しいことから，他時期の遺物の混入の可能性も十分に考えられる。よって，全体での遺構配置や個々の遺構の特徴なども踏まえて総合的に判断を行った。

掘立柱建物は間数の多い方を桁行，少ない方を梁間とし桁行方向を建物主軸とした。土坑は長軸と短軸で計測し長軸方向を主軸，溝も幅と長さを計測し，長さの延長線上をそれぞれの主軸方向とした。また，土坑・溝等は1cm単位で計測したが，掘立柱建物については10cm単位とし，表１～４に示した。

各遺構について，１区・２区の順で触れ，２区の遺構については古墳時代に帰属のものと古代に帰属するものとに分けて以下に記述する。

2　１区の遺構

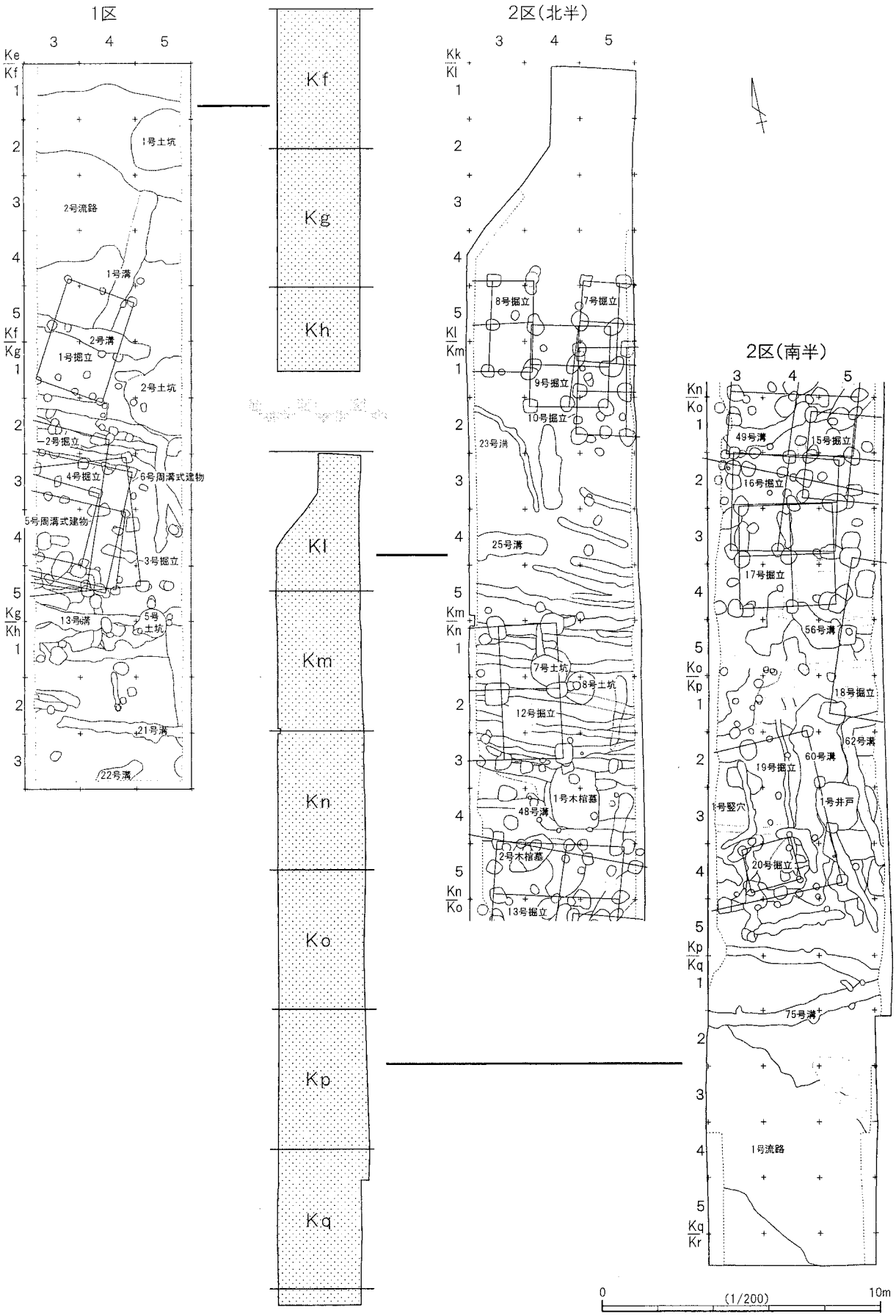
概　要　「飯島斜めの川」排水路の北側を１区とした。幅６ｍ×長さ26ｍの156㎡について遺構精査を行った。遺構はいずれも古代に属し，古墳時代の遺構は確認されなかった。また，古墳時代の遺物も出土していない。

調査区の北端部は北に向かってゆるく傾斜し，そのまま落ち込んでゆく自然傾斜と考えられる。それに近接して浅い流路跡が検出された。１号土坑のみこの流路の北側に位置するが，それ以外の遺構はすべて流路の南に分布している。１区中央部のＫｇではピット群と多数の溝が検出された。ピットの配置等から５棟の建物跡を確認し，このうちの２棟については，検討の結果から周溝式建物と判断した。また，溝はピット群の北側と南側を中心に分布する。３号掘立柱建物をのぞいて，主軸はおおむねN－20°～26°－Eで傾き，同一の方向である。溝もこれらの掘立柱建物と同様または直交方向の軸にあり，両者の関連性がうかがえる。なお，この５棟の建物はいずれも重複しておりたび重なる建て替えがあったといえよう。以下，遺構ごとに記述する。

１号掘立柱建物（第７･33図）　１区中央北側に位置する。２号流路に面しており，他の建物との重複関係はない。遺構の切り合い関係から２号溝および３号溝に先行する。須恵器無台杯が出土した。

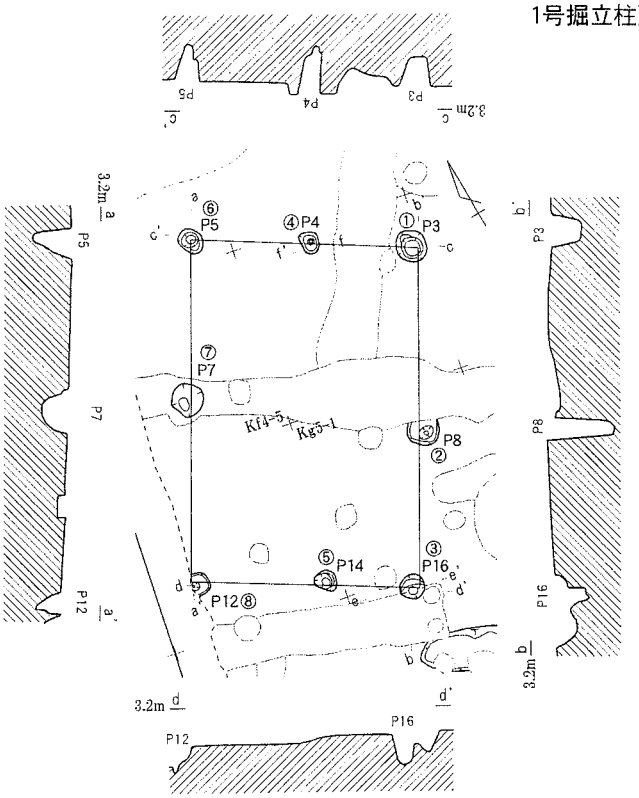
２号掘立柱建物（第７･33･34図）　１区中央南側に位置する。ピットの切り合い関係から６号周溝式建物および５･11･12号溝に後続する。なお，出土遺物の時期から重複する建物のうち最も後出と考えられる。北側に接する３号溝は雨落ち溝の可能性がある。

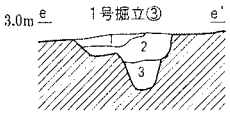
３号掘立柱建物（第８･35図）　１区中央南側に位置する。ピットの切り合い関係から４号掘立柱建物に先行


1区
2区(北半)
2区(南半)
Kf
Kg
Kh
Kl
Km
Kn
Ko
Kp
Kq
1号土坑
2号流路
1号溝
2号溝
1号掘立
2号土坑
2号掘立
4号掘立
6号周溝式建物
5号周溝式建物
3号掘立
13号溝
5号土坑
21号溝
22号溝
8号掘立
7号掘立
9号掘立
10号掘立
23号溝
25号溝
7号土坑
8号土坑
12号掘立
1号木棺墓
48号溝
2号木棺墓
13号掘立
49号溝
15号掘立
16号掘立
17号掘立
56号溝
18号掘立
62号溝
60号溝
19号掘立
1号竪穴
1号井戸
20号掘立
75号溝
1号流路
0
(1/200)
10m

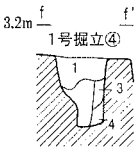
第6図　遺跡配置図

1号掘立柱建物

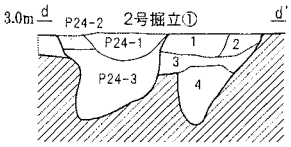




1号掘立ー③(P16)
1層　灰黄褐粘土(10Y6/2)。
1～3mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。
2層　灰黄褐粘土(10Y6/2)。
3層　暗灰黄シルト(2.5Y5/2)。



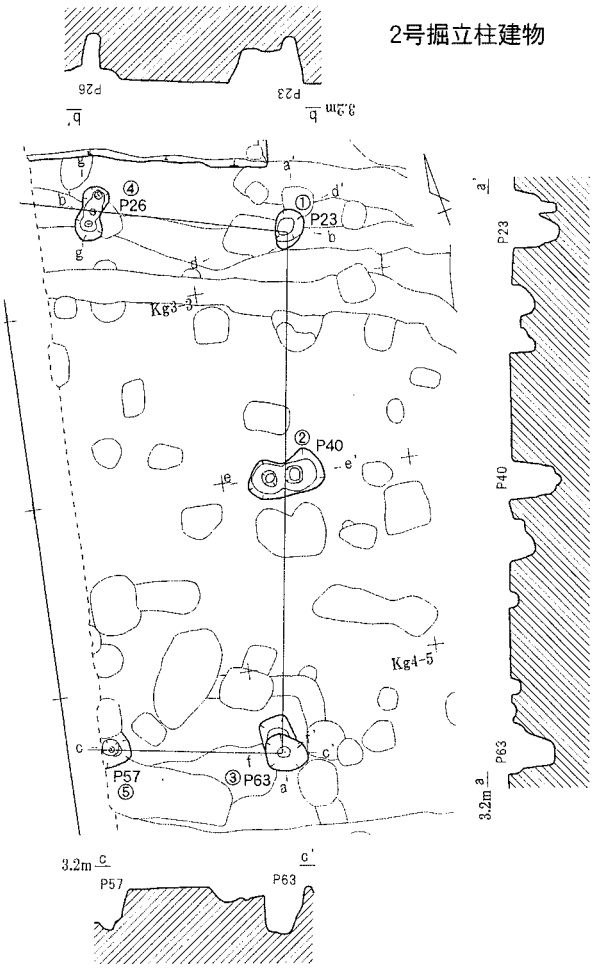
1号掘立ー④(P4)
1層　灰黄褐粘土(10Y6/2)。
2層　褐灰粘土(10YR4/1)。
3層　暗灰黄シルト(2.5Y5/2)。
4層　灰オリーブ粘性砂(5Y6/2)。

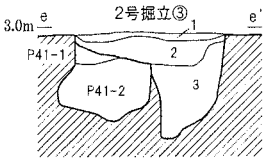


2号掘立ー①(P23)
1層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含み、黒色土をマーブル状に混入する。
2層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。
3層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1～5mmの炭化物を少量含む。
4層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)。1mmの炭化物、1～5mmのシルトブロックを少量含む。柱痕。

P24
1層　オリーブ黒色シルト(5Y3/2)。1～2mmの炭化物を少量、5～15mmのシルトブロックを多量に含む。
2層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～2mmの炭化物・シルトブロックを少量含む。
3層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1mmの炭化物を微量に含む。柱痕。

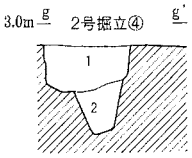
2号掘立柱建物



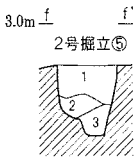


2号掘立ー③(P40)
1層　褐灰粘性シルト(10YR4/1)。1cm以下の炭化物含む。
2層　黄灰粘性シルト(2.5Y4/1)。
3層　オリーブ黒色粘土(5Y3/2)。

P41
1層　灰オリーブ砂(5Y5/2)。
2層　オリーブ黒色粘土(5Y3/1)。



2号掘立ー④(P26)
1層　灰黄褐粘土(10Y6/2)。1～3mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。
2層　褐灰粘土(10YR4/1)。

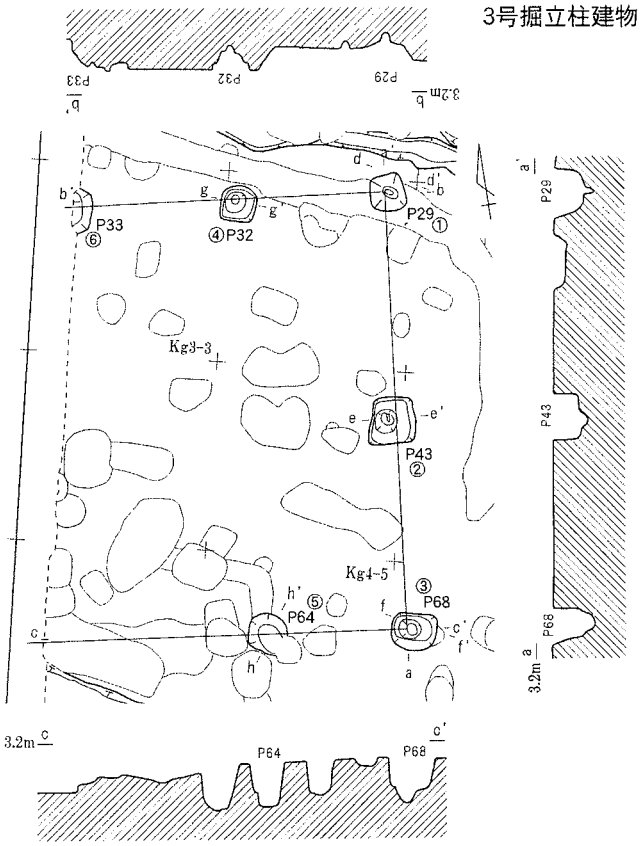


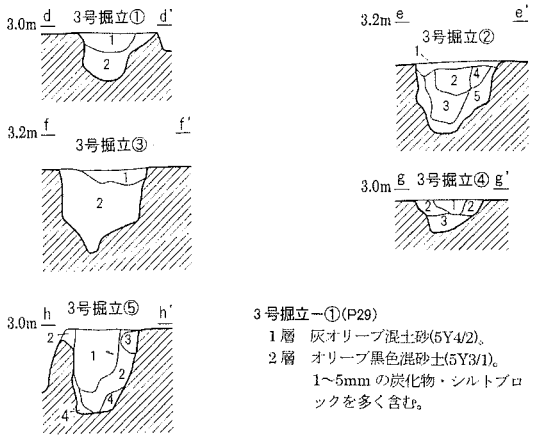
2号掘立ー⑤(P63)
1層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～3mmのシルトブロック、1～2mmの炭化物を少量含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。地山砂層を混入する。
3層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

第7図　1・2号掘立柱建物

3号掘立柱建物





3号掘立ー①(P29)
1層　灰オリーブ混土砂(5Y4/2)。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。

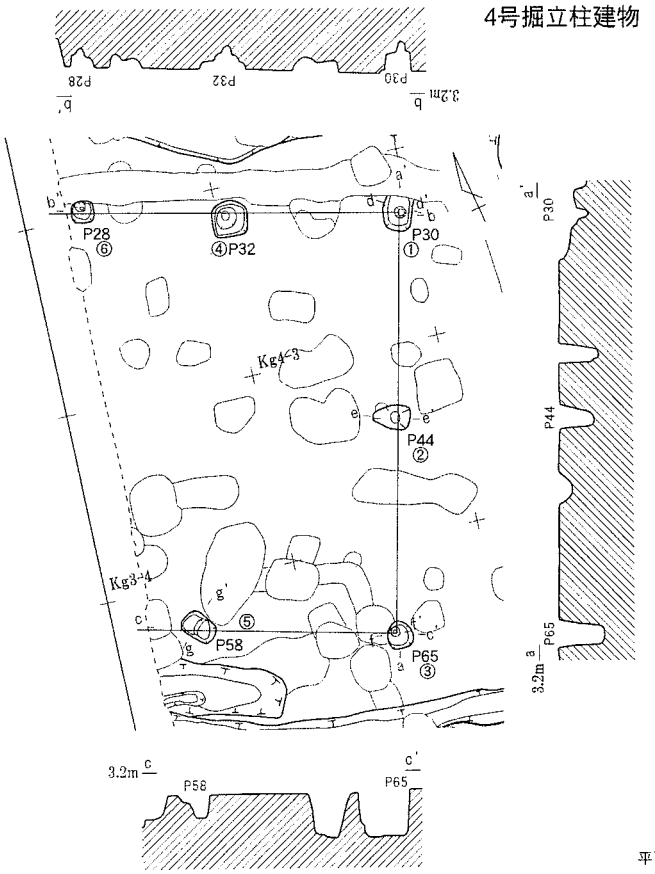
3号掘立ー②(P43)
1層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。
3層　灰オリーブ混土砂(5Y4/2)。
4層　暗オリーブ砂(5Y4/3)。
5層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1mmの炭化物を微量含む。

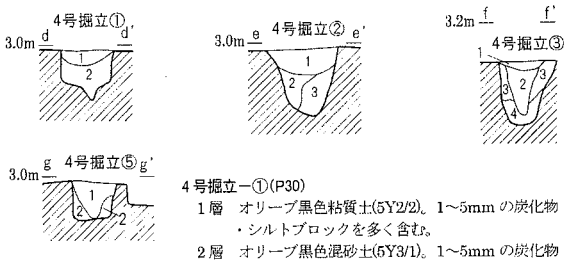
3号掘立ー③(P68)
1層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。3～5mmの炭化物、地山シルトブロックをやや多く含む。
2層　灰オリーブ混土砂(5Y4/2)。オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。ブロックが砂。

3号掘立ー④(P32)
1層　灰色粘土(7.5Y5/1)。灰白色シルトブロック混じる。
2層　灰色粘性シルト(5Y5/1)。
3層　黄灰粘性シルト(2.5Y4/1)。灰白シルトブロック混入。

3号掘立ー⑤(P64)
1層　灰色(N4/0)粘性シルト＋灰オリーブシルト(5Y6/2)と混合、5mm以下の炭粒多く含む。
2層　オリーブ黒色粘性シルト(5Y3/1)灰オリーブブロック混入。
3層　灰オリーブシルトブロック(7.5Y6/2)。
4層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y4/2)。

4号掘立柱建物





4号掘立ー①(P30)
1層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1～5mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。

4号掘立ー②(P44)
1層　灰色粘土(N4/0)。1cm以下の炭化物を多く含む。
2層　オリーブ黒粘土(7.5Y3/1)。
3層　灰オリーブ粘性砂(5Y4/2)。

4号掘立ー③(P65)
1層　オリーブ黒色土(5Y3/2)。1～3mmのシルトブロックを少量、1～3mmの炭化物を少量含む。
2層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)。1～5mmのシルトブロックを少量、1～3mmの炭化物を多量に含む。
3層　灰オリーブシルト(5Y5/3)、1～2mmの黒色土ブロックを少量含む。地山の再堆積。
4層　黒色粘質土(5Y2/1)。

4号掘立ー⑤(P58)
1層　褐灰粘性シルト(10YR4/1)。1cm以下の炭化物多量含む。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y4/2)。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

第8図　3・4掘立柱建物

し６・10号溝に後行する。主軸がN－6°－Eの傾きであり，重複する建物と様相を異にする。

４号掘立柱建物（第８・35図）　１区中央南側に位置する。ピットの切り合い関係から３号掘立柱建物および６号溝に後行する。北側に接する５号溝は雨落ち溝の可能性がある。須恵器無台杯が出土。

５号周溝式建物（第９・35・37図）　１区中央南側に位置する。現地調査時には掘立柱建物と考えていたが，周囲を溝（６・７号溝）が廻ること，規模が２区の1号竪穴建物と近似することから包括的に判断して周溝式建物（宮本1998）とした。

６号周溝式建物（第９・35・37図）　１区中央南側に位置する。５号建物と同様の理由から周溝式建物とした。ピットの切り合い関係から２号掘立柱建物に先行することが明らかである。周溝については５号建物と共通し，建て替えがあったものと考えられる。

１号土坑（第10・12・37図）　１区北側に位置する。先述のとおり２号流路の北側に位置する唯一の遺構である。東端は調査区外のため検出していない。直径２m程度と本遺跡では大きめの平面プランを持つ。地山のオリーブ灰粘土に掘り込まれているが，土坑の南側にはこの粘土を主体とした２次堆積層が広がっており掘削の残土を周堤状に盛っていた可能性がある。最下層は灰色の粘土であり，この層から完形に近い土師器椀や黒色土器皿が出土している。

２号土坑（第 10・12・37・38・39 図）　１区中央部東側に位置する。１号土坑同様に東半は調査区外へ続く大型の土坑である。土坑内部の南寄りではテラス状の段が形成され，中央から北寄りで一段深くなっている。平面形もやや不整形であり素掘りの井戸であった可能性もあろう。断面観察から当初は２つの土坑による重複とも考えたが，平面的には確認できず，埋没の過程によるものと判断した。土師器の甕・鍋・椀，須恵器杯などが出土している。

３号土坑（第 10・12・37 図）　１区中央部東側に位置する。調査区際に位置することから全体像は不明だが，検出した範囲から小規模な遺構と考えられる。４号溝に切られており，須恵器杯が出土している。

４号土坑（第 11・12・39 図）　１区南側に位置する。楕円形の小型の土坑で，多量の炭化物を含む１層中から土師器甕・須恵器杯が出土した。

５号土坑（第 11 図）　１区南側に位置する。小型円形の土坑で，13 号溝を切っている。

６号土坑（第 11 図）　１区南側の東端に位置する。調査区際に位置することから全体像は不明である。

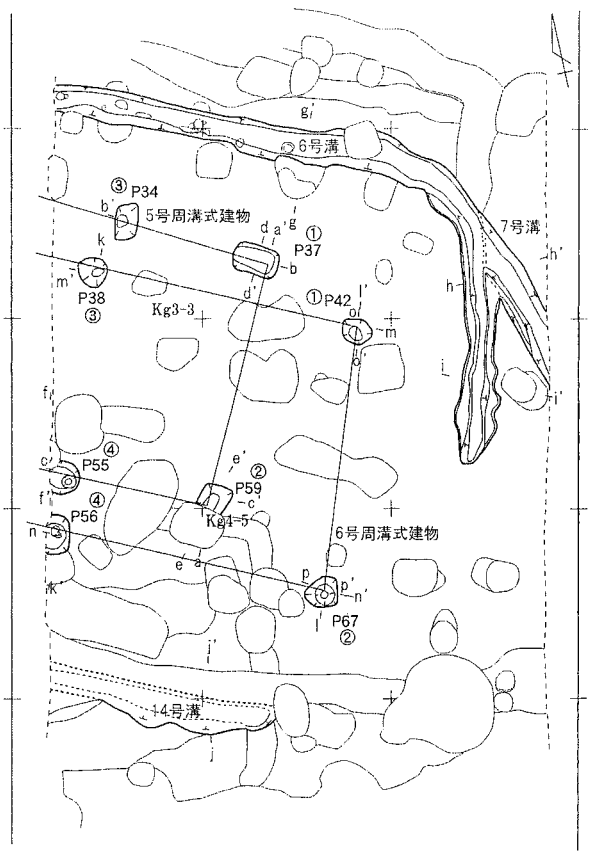
19 号土坑（第 11 図）　１区南側に位置する。浅い単層の小型不整形の土坑で，16 号溝を切っている。

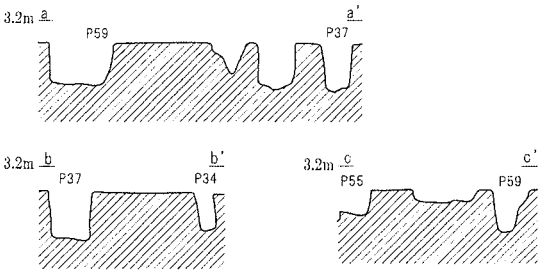
１号溝（第 10 図）　１区北側中央に位置する。３号溝と２号流路に切られており付近では最初期段階の遺構と考えられる。主軸が N－30°－E で，１区の溝の中では他と直交方向に延びており特異な存在である。

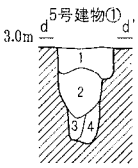
２号溝（第 10・12・34 図）　１区中央部に位置する。西端は調査区外に延びている。１号掘立柱建物・１号溝を切っており新しい段階の遺構といえる。埋土は３層からなり，２層の下部から土師器椀が一括して出土した。椀は正位と逆位のものがあるが，遺物の底面レベルはおおむね揃っていることからみて原位置を保っていると考えられる。このほか，土師器甕・鍋，須恵器杯，黒色土器皿などが出土している。また，遺構の切り合い関係から判断される時期は２号掘立柱建物と併行し，かつ主軸も一致することから関連する遺構の可能性がある。

３号溝（第 10・12・33 図）　１区中央部に位置する。西端は調査区外に延びている。１号掘立柱建物・４号溝を切っている。土師器甕，須恵器杯，黒色土器椀などが出土している。出土遺物は２号溝と同時期のものであり，遺構埋土の状況も２号溝と共通することから両者は同時期の埋没と考えられる。また，南に接する２号掘立柱建物と主軸が一致し，切り合い関係からみて同時期に併存する可能性があり，２号建物の雨落ち溝と判断した。

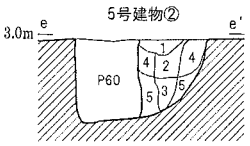
４号溝（第 10 図）　１区中央部に位置する。３号溝に切られ６・７号溝を切っている。１号掘立柱建物・４号

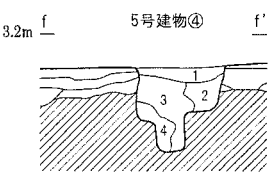






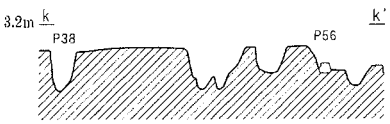
5号建物ー①(P37)
1層　灰色粘性シルト(N4/0)。1cm以下の炭化物・地山ブロック混入。
2層　オリーブ黒粘性シルト(7.5Y3/1)。地山ブロック混入。
3層　オリーブ黒粘土(7.5Y3/1)。
4層　暗灰黄粘性砂(2.5Y5/2)。

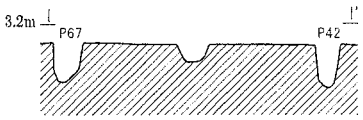


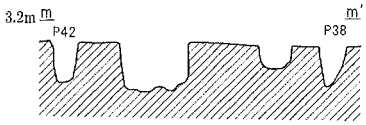


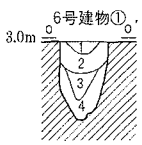
5号建物ー②(P59)
1層　褐灰シルト(10YR4/1)　5mm～1cmの炭化物多く含む。
2層　黒褐粘土(10YR3/1)。
3層　暗灰黄粘性シルト(2.5Y4/2)。
4層　黒褐粘土(10YR3/1)　暗灰黄砂混入。
5層　暗灰黄粘性砂(2.5Y5/2)。

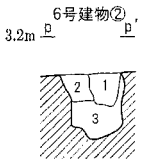
5号建物ー④(P55)
1層　褐灰粘性シルト(10YR4/1)。1cm以下の炭化物含む。
2層　暗灰黄混砂シルト(2.5Y5/2)。
3層　暗灰黄粘質土(2.5Y5/2)。
4層　黄灰シルト(2.5Y4/1)。

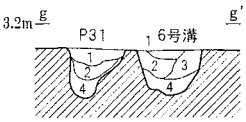


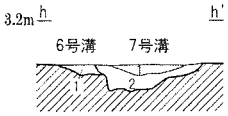


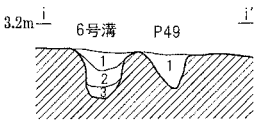


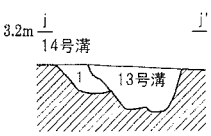












溝6（g－g'）
1層　灰色粘土(7.5Y5/1)。
2層　灰色粘性シルト(N5/0)。1cm以下の炭化物多く含む。
3層　灰色粘土(N6/0)。
4層　灰色粘性シルト(5Y4/1)。地山灰白シルト混じる。

P31
1層　灰色粘性シルト(N5/0)。5mmの炭化物多く含む。
2層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。
3層　オリーブ黒色粘性砂(7.5Y3/2)。

溝6（h－h'）
1層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)。1～3mmの炭化物・シルトブロックを多く含む。

溝7
1層　黒色土(2.5Y2/1)。1～5mmの炭化物を極めて多く含み、1～3mmのシルトブロックを多く含む。
2層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/1)。1～5mmの炭化物を多く含み、1～3mmのシルトブロックを少量含む。

溝6（i－i'）
1層　暗灰粘質シルト(N3/0)。1cm大の炭化物、灰白粘土ブロック混入。
2層　灰色粘土(7.5Y5/1)。
3層　黄灰粘性シルト(2.5Y6/1)。地山ブロック混入(灰白粘性シルト)。

P49
1層　灰色粘性シルト(N4/0)。灰白シルト(7.5Y8/1)の混層。1cmの炭化物を多く含む。

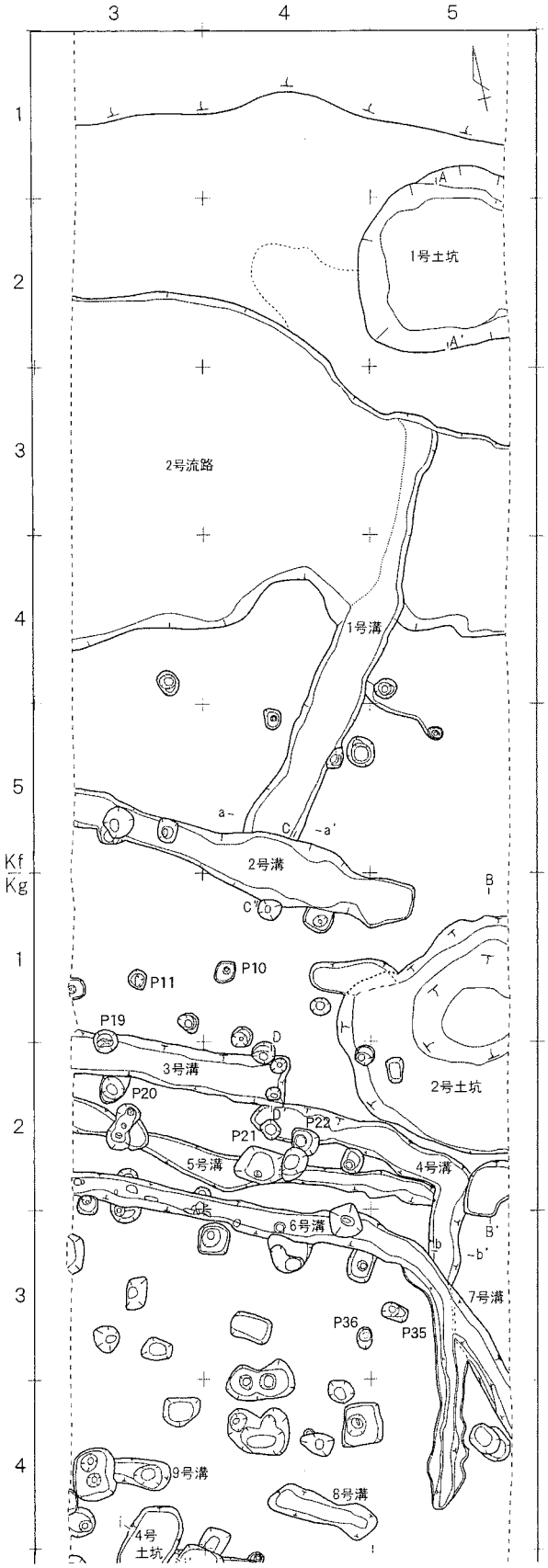
溝14
1層　黒褐色粘質土(2.5Y3/2)。5～10mmの炭化物、5～15mmのシルトブロックを多く含む。

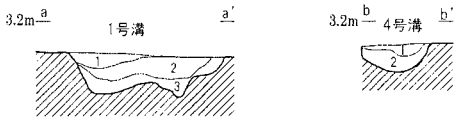
6号建物ー①(P42)
1層　灰色粘土(5Y4/1)。灰白粘土を含む。
2層　灰色粘土(N4/0)。
3層　オリーブ黒粘土(7.5Y3/1)。
4層　灰オリーブ粘性シルト(5Y4/2)。

6号建物ー②(P67)
1層　黒褐色土(2.5Y3/1)。1～15mmのシルトブロックを多く含み、1～3mmの炭化物を多く含む。
2層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～5mmのシルトブロック、1～3mmの炭化物を多く含む。
3層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～3mmのシルトブロック、1～5mmの炭化物を少量含む。地山砂を多く含む。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

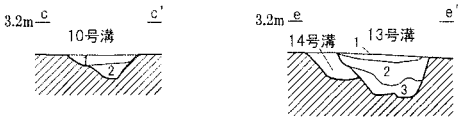
第9図　5・6号周溝式建物





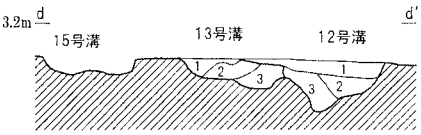
溝1
1層　灰色粘土(7.5Y4/1)。
2層　黄灰粘性シルト(2.5Y5/1)。灰白シルトブロック、炭化物混じる。
3層　灰色粘土(N5/0)。5mmほどの炭化物を含む。

溝4
1層　暗灰粘質シルト(N3/0)。1cm大の炭化物混入。
2層　黄灰粘性シルト(2.5Y6/1)。地山の灰白粘性シルトブロック混入。



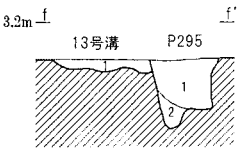
溝10
1層　黒色粘質土(5Y2/1)。1～5mmの炭化物、1～15mmのシルト・砂ブロックを多量に含む。
2層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)。5mmの炭化物を微量含む。

溝13（e－e'）
1層　黒色土(5Y2/2)。1～2mmの炭化物を少量含む。
2層　オリーブ黒色土(5Y2/2)。1～5mmの炭化物、シルトブロックを少量含む。
3層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/2)。5～10mmのシルトブロックを多く、1～5mmの炭化物を少量含む。



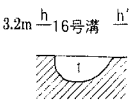
溝12
1層　灰色粘性シルト(5Y4/2)。1cm以下の炭化物多く含む。
2層　暗灰粘土(N3/0)。
3層　灰色粘土(N4/0)。地山ブロック(灰オリーブ砂、灰白シルト)混入。

溝13（d－d'）
1層　灰色粘土(N4/0)。1cm以下の炭化物多く含む。
2層　灰白粘質シルト(5Y7/2)。1層ブロック土混じる。
3層　灰色粘性シルト(N5/0)。炭化物地山ブロック(灰白シルト)混入。

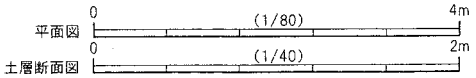


溝13（f－f'）
1層　黒色土(5Y2/2)。1～2mmの炭化物を少量含む。

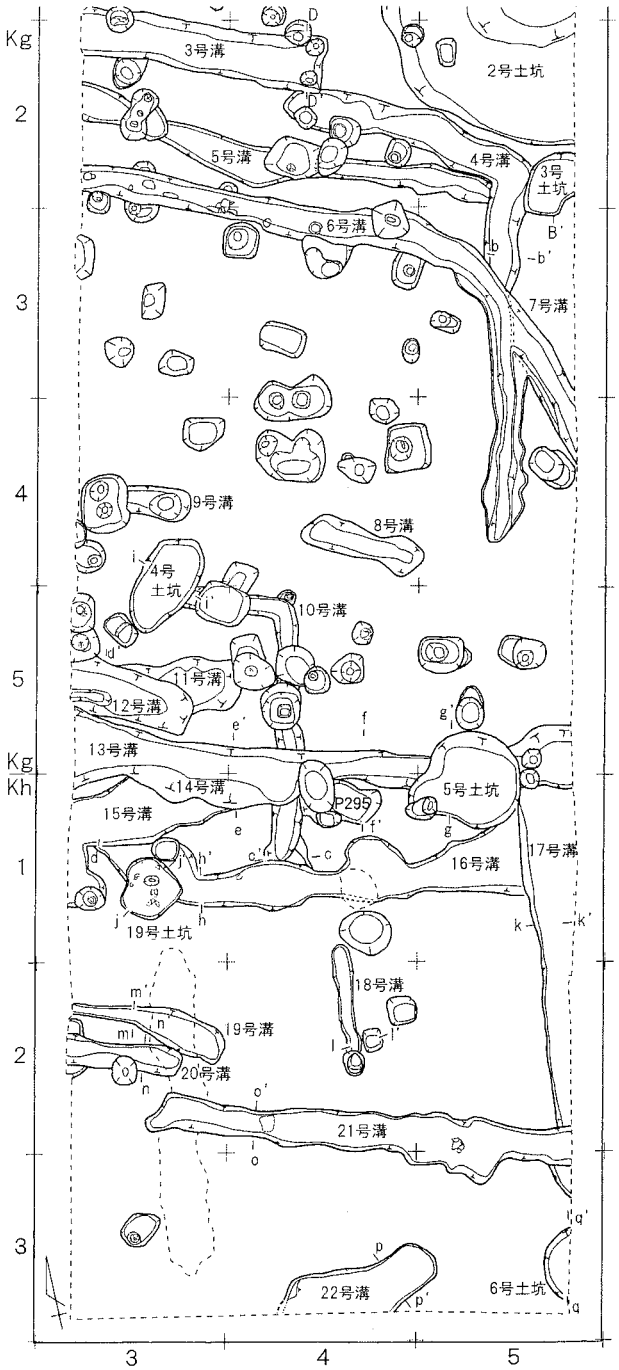
P295
1層　黒色粘質土(5Y2/1)。1mmの炭化物を多量、1~2mmのシルトブロックを少量含む。
2層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1mmの炭化物を少量含む。

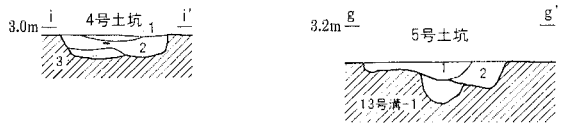


溝16
1層　オリーブ黒色土(5Y3/2)。2mmの炭化物を微量、1～3mmのシルトブロックを少量含む。



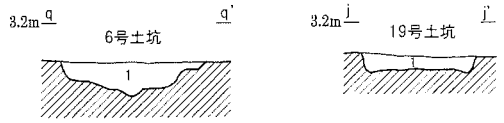
第10図　1区の遺構（1）





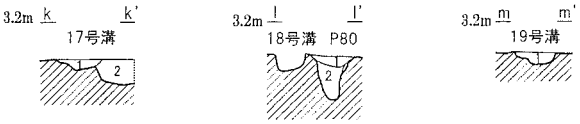
土坑4
1層　オリーブ黒色粘質土(5Y2/2)。1～3mmの炭化物を多量に、1～3mmのシルトブロックを少量含む。
2層　黒褐色粘質土(2.5Y2/2)。1～5mmの炭化物を多量、1～15mmのシルトブロックを多量に含む。
3層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/3)。1～3mmの炭化物を少量含む。

土坑5
1層　黒褐色土(2.5Y3/1)。1～3mmの炭化物を多量に、1～2mmのシルトブロックを少量含む。
2層　黒褐色粘質土(2.5Y3/2)。1～5mmの炭化物を多量、1～10mmのシルトブロックを多量に含む。



土坑6
1層　オリーブ黒色土(5Y3/2)。1～3mmの炭化物、シルトブロックを少量含む。

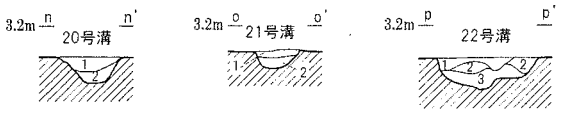
土坑19
1層　黒色粘質土(5Y2/1)。1～5mmの炭化物を多量、15mm以下のシルトブロックを多量に含む。



溝17
1層　黒褐色粘質土(2.5Y3/1)。3～5mmの炭化物、粘土ブロックを多量に含む。
2層　暗灰黄色粘土(2.5Y4/2)。5mmほどのシルトブロックを微量含む。

P80
1層　オリーブ黒色土(5Y3/2)。1～3mmの炭化物を少量、1mmの地山ブロックを微量含む。
2層　オリーブ黒粘質土(10Y3/2)。1～2mmの炭化物を少量含む。

溝19
1層　オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。1～3mmの炭化物・シルトブロックを微量含む。

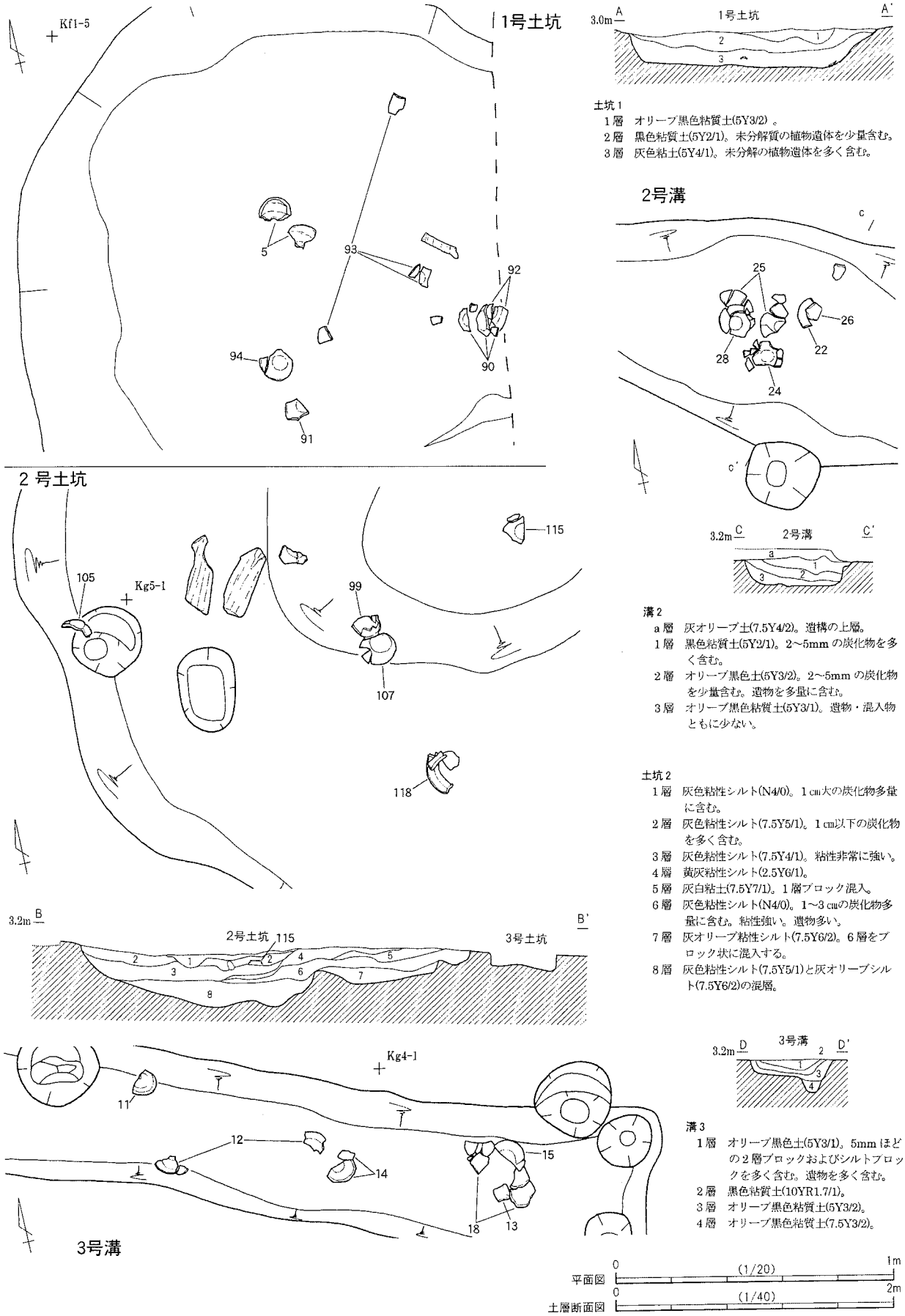


溝20
1層　オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。1～3mmの炭化物を多く、シルトブロックを微量含む。
2層　オリーブ黒色粘質シルト(7.5Y3/2)。

溝21
1層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～3mmの炭化物を多く、1～2mmのシルトブロックを少量含む。
2層　オリーブ粘質シルト(5Y3/2)。1mmの炭化物を微量に含む。

溝22
1層　黒色土(2.5Y2/1)。1～5mmの炭化物を多量、1～5mmのシルトブロックを少量含む。
2層　オリーブ黒色土(5Y3/1)。1mmの炭化物を少量、1～5mmのシルトブロックを多量に含む。
3層　灰オリーブシルト(5Y4/2)。5～15mmのシルトブロックを主体とし、2層類似のブロックを斑状に多く含む。

第11図　1区の遺構（2）



第12図　1・2号土坑、2・3号溝

溝を切っている。幅は 40 cm弱とほぼ均一だが，平面形は「く」の字状に屈曲する。主軸は４号掘立柱建物とおおむね共通し，関連する遺構の可能性がある。

５号溝（第 10・35 図）　１区中央部に位置する。２号掘立柱建物に切られる浅い溝である。南側の４号掘立柱建物に隣接し主軸が共通することから雨落ち溝と考えられる。須恵器杯が出土した。

６号溝（第９・36・37 図）　１区中央部に位置する。西端は調査区外に延びており，東側では途中から「く」の字状に屈曲する。断面形はU字状で 20～30 cmほどの深さである。土師器甕・椀，須恵器甕・杯などを出土する。遺構の切り合い関係から３・４号掘立柱建物，７号溝に先行し１区では最初期段階の遺構である。同じく最初期段階に属する５・６号建物とは主軸が共通し，かつ，これを囲う形で配置されることから両者は一体をなすものと判断し，同建物の周溝とした。

７号溝（第９・36・37 図）　１区中央部に位置する。東端は調査区外に延びている一方，北西側では６号溝と切り合っており範囲は明確ではない。断面観察では本溝が６号溝を切っていると判断したが，両者の埋土は近似しており平面的な範囲を捉えることは困難であった。６号溝とはその屈曲部分で結合し，その北西側には延びないことから６号溝の掘り替えの可能性が考えられる。６号溝に関連する５・６号建物は建て替えをおこなっており，本溝もこれに伴って掘削されたものかもしれない。なお，土師器甕・須恵器杯が出土している。

８号溝（第 11 図）　１区中央部に位置する。小規模だが深さのある溝である。

９号溝（第 11 図）　１区中央部に位置する。東端は調査区外に延びると思われる。８号溝の西側延長線上にあり，主軸が共通する上に規模も類似することから本来は一体となる可能性があろう。

10 号溝（第 10・11 図）　１区中央部に位置する。幅狭で浅い南北方向に主軸をもつ溝である。北側で「く」の字状に屈曲することから建物の雨落ち溝等の可能性があるが，これに対応する建物は検出できなかった。なお，3・4 号掘立柱建物や 13・14 号溝に切られていることから１区最初期段階の遺構といえる。

11 号溝（第 11・40 図）　１区南側に位置する。西側調査区外に延びると考えられるが 12 号溝に切られ不明である。位置からみて５・６号周溝式建物に関連するものか。土師器甕，須恵器杯を出土。

12 号溝（第 10・11・34 図）　１区南側に位置する。西側調査区外に延び 11・13 号溝を切り，土師器椀を出土している。近接する２号または４号掘立柱建物と関連する可能性がある。

13 号溝（第 10・11・35 図）　１区南側に位置する。調査区を横断する溝で東西とも調査区外に延びる。12 号溝に切られ 14 号溝を切る。切り合い関係・主軸方向からみて３号建物に付随する可能性がある。

14 号溝（第９・37 図）　１区南側に位置する。西端は調査区外に延びる。13 号溝に切られ北側の肩は不明である。切り合い関係や主軸方向からみて５・６号周溝式建物に付随する可能性がある。

15 号溝（第 10・11 図）　１区南側に位置する。幅広の溝だが西端は調査区外へと延び全容は不明である。

16 号溝（第 10・11・40 図）　１区南側に位置する。東西両端は７・15 号溝との切り合いで失われており不明である。また，５・19 号土坑にも切られており，最初期段階の遺構のひとつか。土師器鍋，須恵器杯が出土した。

17 号溝（第 11・39 図）　１区南側に位置する。東端は調査区外に広がる。土師器甕，須恵器杯が出土。

18 号溝（第 11 図）　１区南側に位置する。南北に主軸をもち，類似する溝の 10 号溝と関連するものか。

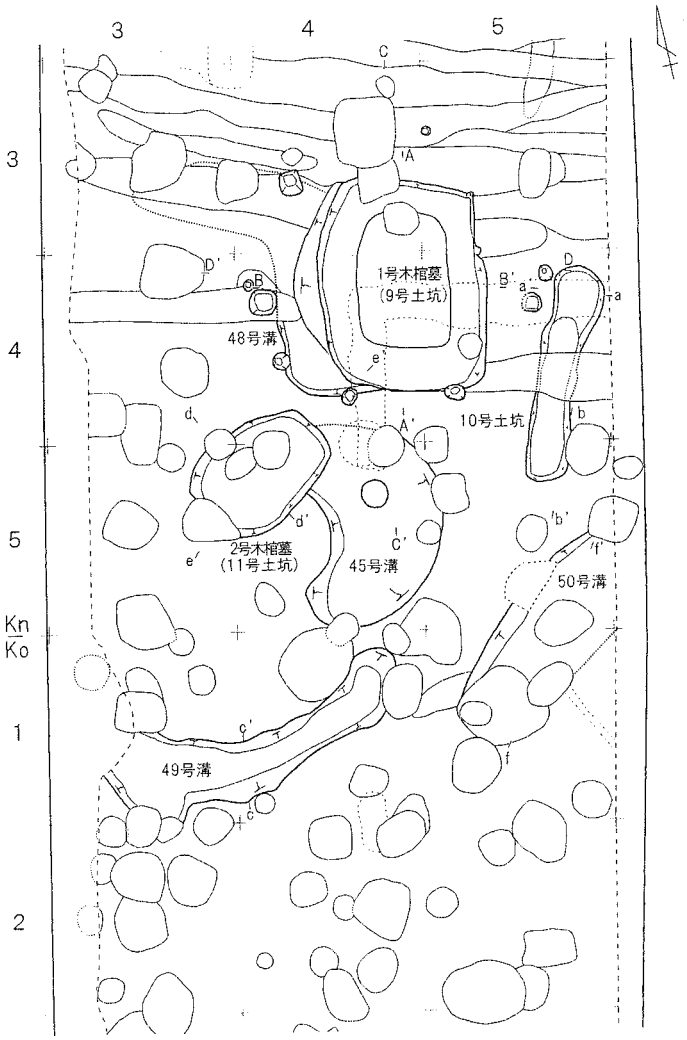
19 号溝（第 11 図）　１区南側に位置する。深度はごく浅く，西側は調査区外へと延びる。

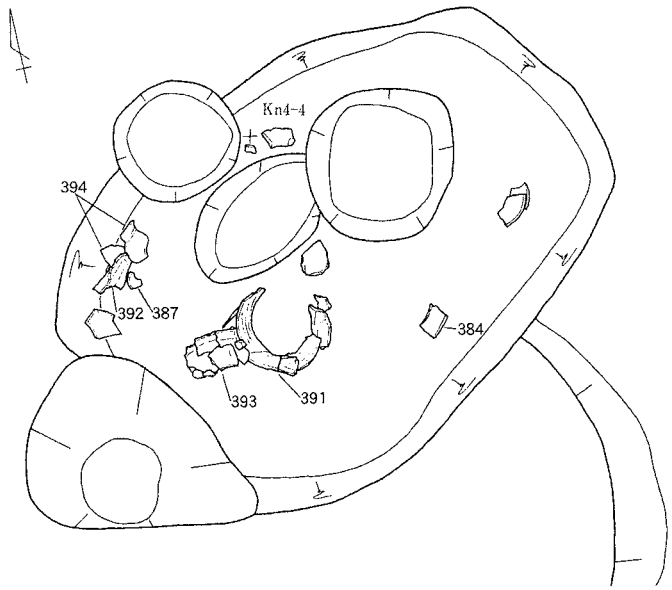
20 号溝（第 11・40 図）　１区南側に位置する。西端は調査区外へと延びる。須恵器杯が出土した。

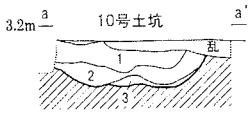
21 号溝（第 11・40 図）　１区南側に位置する。東端は調査区外へと延びる。須恵器壺・杯が出土した。

22 号溝（第 11・40 図）　１区南側に位置する。南端は調査区外へと延びる。土師器甕，須恵器杯が出土。

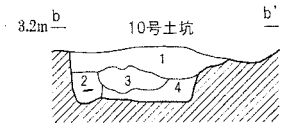
２号流路（第 10・40～42 図）　当初は自然地形の落ち込みと考えていたが，一定の幅を持ち調査区を横断する





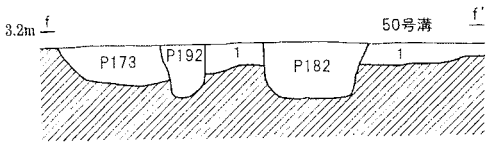


土坑 10
1層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1mm の炭化物を多く含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(7.5Y3/2)。川砂をベースとし、2層を3mm のブロック状に少量含む。1mm の炭化物を微量に含む。
3層　オリーブ黒色粗砂(5Y2/2)。

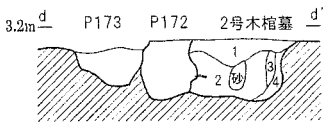


土坑 10
1層　黒褐色砂質土(2.5Y3/2)。1～3mm の炭化物を少量含む。
2層　黒色混砂土(2.5Y3/2)。
3層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。2に比べ砂が多い。
4層　オリーブ黒色粗砂(5Y2/2)。

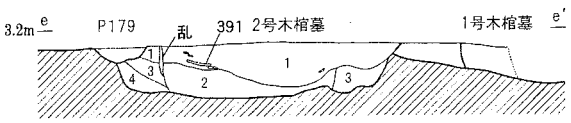
溝 49
1層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1～3mm の炭化物を少量含む。

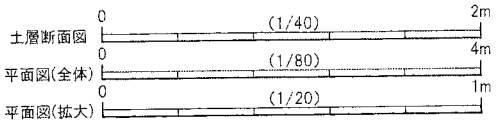


溝 50
1層　オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。地山ブロックを少量含む。

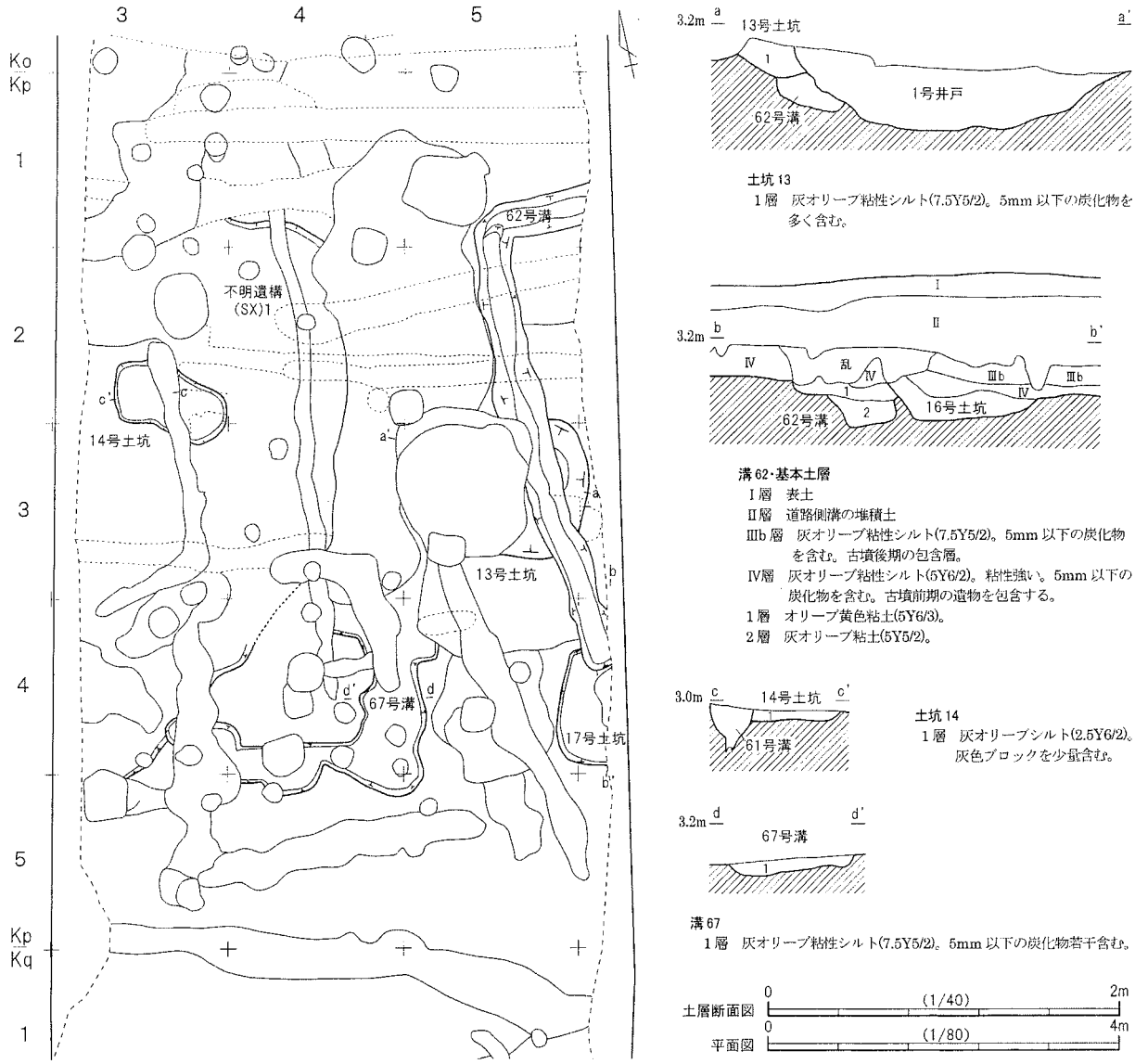


2号木棺墓(土坑 11)
1層　黒色土(5Y2/1)。1～3mm の炭化物を多く含み、1～5mm の地山砂ブロックを少量含む。古墳前期の土器を多く含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1層よりも黒色みが弱く、炭化物は微量。
3層　灰オリーブ混砂土(5Y4/2)。地山を由来とするも地山より土壌化している。混入物は少なく均質。やや粘性が強い。
4層　暗オリーブ砂(5Y4/3)。地山由来の粗砂を含む。





第13図　2号木棺墓・10号土坑、48・49号溝



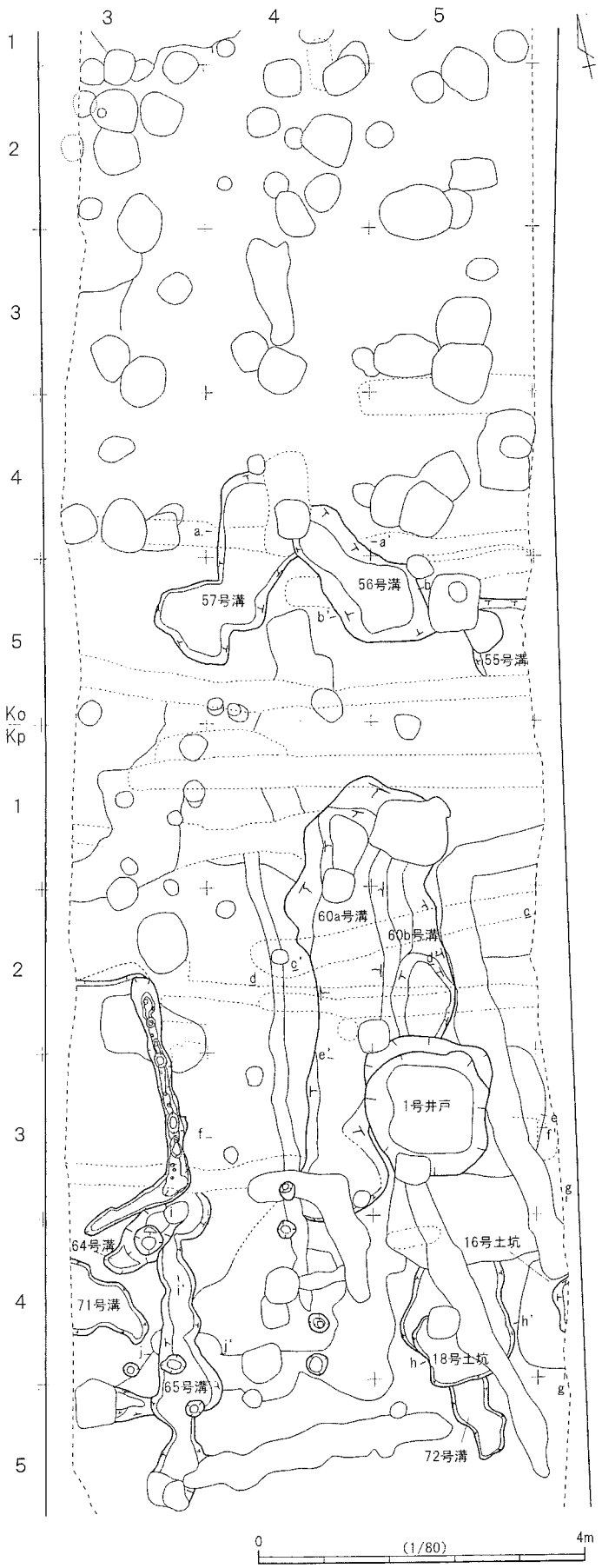
第14図　13・14号土坑、62号溝

ことから流路跡と判断した。上層と下層からなり土師器甕・椀，須恵器杯，黒色土器等が出土した。

3　２区の遺構（古墳時代）

概　要　「飯島斜めの川」排水路の南側を２区とし，幅６ｍ×長さ62ｍについて遺構の精査を行った。検出した遺構は出土遺物から古墳時代前期・後期および古代に属することが判明した。このうち本項では古墳時代の遺構について述べ，古代の遺構については次項で述べる。

調査区の北端部は北に向かい緩く傾斜し湿地状をなす。一方南端では古代の流路跡を検出し，それより南側では遺物は出土しなかった。古墳時代についてみると遺物はおおむねKnからKpの間で出土し，遺構もこの範囲でのみ検出された。古代の遺構と重複し，かつ後世の削平の影響もあってか古代の遺構確認面とレベル差はなかったため，古墳時代の遺構はこれらに切られており遺構確認は困難であった。このため，断面で確認したものや古代の遺構の掘削後に存在が明らかとなったものも少なくない。古墳時代前期の遺構は少なくKnおよびKpで確認されたのみである。Knでは木棺墓と考えられるものを含む土坑２基が，Kpでは溝と土坑が確認されたものの建物は検



第15図　古墳時代の遺構（O・P区）（1）

出できなかった。古墳後期はこれよりは広い範囲に分布するが，全体的に密度は希薄である。Knで木棺墓と考えられる土坑を，Ko・Kpで掘立柱建物1棟，井戸1基，土坑・溝を検出した。

以下，遺構ごとに記述する。

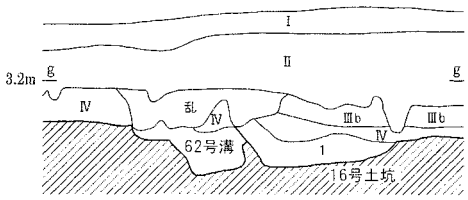
2号木棺墓（11号土坑，第13・52・53図）

2区中央部に位置する。南西端をはじめところどころ古代のピットに切られているもののおおむねの平面形状を残している。150cm×105cmの隅丸方形で深さは32cm，主軸の傾きはN－60°－Eである。断面形は肩から壁が垂直気味に落ち底面は平坦である。遺構埋土は4つに分層でき，土器が出土した1層の黒色土は炭化物を多く含む層で遺構上部の全面に広がる。1層下には炭化物の少ないオリーブ黒色混砂土の2層，地山に近似する灰オリーブ混砂土の3層，暗オリーブ砂の4層がみられる。2層は遺構の中央に底面まで堆積しており，3・4層はその周囲に認められた。この状況は，明瞭とは言い難いものの一部面的にも観察できた（写真図版4）。これらの状況から1層を封土，2層を棺の埋土，3・4層を裏込め土と考え，木棺墓の墓坑であるとの判断に至った。

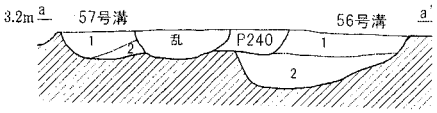
10 号土坑（第 13・50 図）　2区中央部に位置する。長幅比が4：1で溝状のプランを有する。撹乱のほか 47 号溝やピットに切られており，出土遺物からも古墳時代前期の遺構と判断しているが，1 層中からは古代の須恵器杯（327）が出土しており，撹乱の影響を受けていると考えられる。

13 号土坑（第 14・50 図）　2区南部に位置する。西半を1号井戸に大きく切られ全体像は不明である。残存部から浅い方形の土坑の可能性がある。出土した土師器甕から古墳時代前期の帰属である。

14 号土坑（第 14 図）　2区南部に位置す

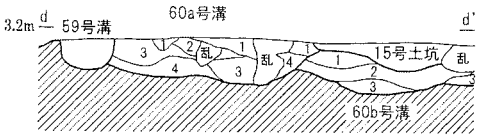


土坑16
1層　灰オリーブ粘土(5Y5/2)。5mm以下の炭化物多く含む。



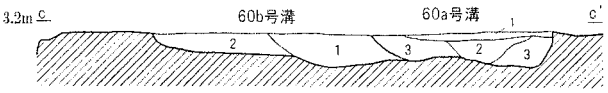
溝56
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。0.5～1cmの炭化物多く含む。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y5/3)。

溝57
1層　灰粘性シルト(7.5Y5/1)。微小な炭化物多く含む。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y5/2)。



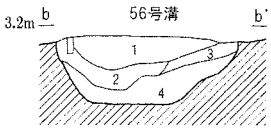
溝60a
1層　灰色シルト(5Y4/1)。5mm以下の炭化物多く含む。
2層　灰オリーブシルト(5Y6/2)。
3層　灰色粘性シルト(5Y5/1)。5mm～1cmの炭化物含む。
4層　灰色粘性シルト(7.5Y6/1)。

溝60b
1層　オリーブ灰粘性シルト(2.5GY6/1)。5mm以下の炭化物多く含む。
2層　灰色粘性シルト(N6/0)。5mm～1cmの炭化物多量含む。地山ブロック含む。
3層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。5mm以下の炭化物含む。

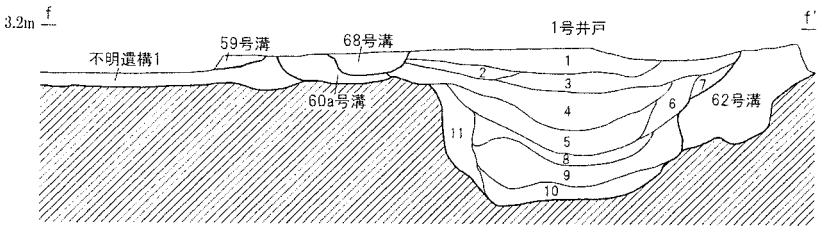


溝60a
1層　黒褐シルト(2.5Y3/2)。5mm以下の炭化物多く含む。
2層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。5mm～1cmの炭化物多量含む。
3層　灰オリーブ粘性砂。2層ブロック混入。5mm～1cmの炭化物含む。

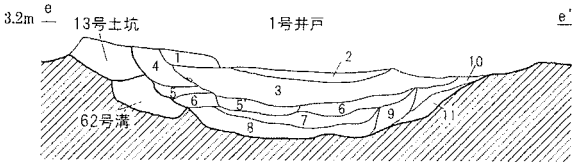
溝60b
1層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。5mm～1cmの炭化物多量含む。遺物多い。
2層　暗オリーブ灰シルト(2.5GY4/1)。5mm以下の炭化物含む。



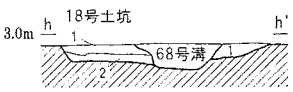
溝56
1層　オリーブ灰粘性シルト(2.5GY6/1)。5mm～1cmの炭化物含む。
2層　灰色粘性シルト(10Y6/1)。粘性非常に強い。
3層　灰オリーブシルト(7.5Y6/2)。
4層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)

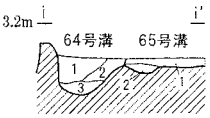


井戸1(f—f')
1層　黄灰粘性シルト(2.5Y5/1)。5mm～1cmの炭化物多く含む。
2層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)。粘性非常に強い。
3層　灰白粘土(7.5Y7/1)。5mm～1cmの炭化物上部に多量に含む。
4層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。5mm～1cmの炭化物多量に含む。
5層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y4/2)。モソモソしている。植物遺存体含む。
6層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。
7層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)。
8層　オリーブ黒色粘性シルト(7.5Y3/1)。炭を多量含む。植物遺存体多い。
9層　オリーブ灰粘性シルト(2.5GY5/1)。植物遺存体多い。
10層　暗オリーブ灰粘性シルト(2.5GY3/1)。植物遺存体多量含む。
11層　灰オリーブ粘土(7.5Y5/2)植物遺存体含む。



井戸1(e—e')
1層　灰色粘性シルト(5Y6/1)。5mm以下の炭化物多く含む。
2層　灰白色粘土(5Y8/1)。上部で1～3cmの炭化物を多量含む。
3層　灰色粘性シルト(N5/0)。5mm～1cmの炭化物多量含む。遺物多い。
4層　オリーブ灰粘性シルト(2.5GY5/1)。1cm大の炭化物含む。
5層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。4層ブロック混入
5'層　5層に準じる。
6層　灰色粘性シルト(5Y5/1)
7層　黄灰粘性シルト(2.5Y4/1)。砂粒を混入しボソボソする。下部に5mmほどの炭層。
8層　黄灰粘性砂(2.5GY5/1)。
9層　灰色粘性シルト(5Y5/1)。
10層　灰色粘性シルト(5Y6/1)。
11層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。粘性非常に強い。

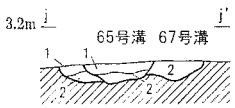




土坑18
1層　灰色粘性シルト(7.5Y6/1)。5mm以下の炭化物、地山ブロックを多く含む。
2層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。

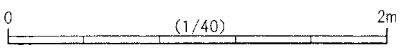
溝65
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。
2層　灰色シルトブロック。炭化物含む。

溝64
1層　暗オリーブ灰粘性シルト(2.5GY4/1)。5mm以下の炭化物多量含む。
2層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。地山ブロック混入。
3層　暗オリーブ灰粘性シルト(2.5GY3/1)。地山ブロック混入。



溝65
1層　灰色粘性シルト(10Y4/1)。5mm以下の炭化物多量含む。
2層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)。地山ブロック混入。

溝67
1層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。灰色シルトブロック混入。
2層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。灰色シルトブロック含む。



第16図　古墳時代の遺構（O・P区）(2)

る。1 号竪穴建物およびこれに付随する 61 号溝に切られる。浅い不整形の土坑で，出土遺物から古墳時代前期の帰属と考えられる。

16 号土坑（第 15･16 図）　２区南部に位置する。遺構のほとんどが東側調査区外にあり詳細は不明である。

17 号土坑（第 14･50 図）　２区南部に位置する。東側の大半は調査区外で一部のみを検出した。16 号土坑・62 号溝に切られることから古墳時代前期の遺構と考えられる。

18 号土坑（第 15･16･50 図）　２区南部に位置する。19 号掘立柱建物・68 号溝に切られる楕円形の土坑で，南側でテラス状の段を持つ。出土遺物から古墳後期に帰属する。

45 号溝（第 13 図）　２区中央部に位置する。２号木棺墓および 13・14 号掘立柱建物に切られている。緩く弧を描く深さ 15cm の浅い幅広の溝である。

48 号溝（第 13・17 図）　２区中央部に位置する。東側の１号木棺墓に切られており，12 号掘立柱建物，46 号溝にも切られている。切り合いおよび撹乱の影響もあり全体像は不明であるが，残存部から判断して幅広でゆるく弧を描く溝であったと考えられる。

49 号溝（第 13 図）　２区中央部に位置する。西端は調査区外に延びて全体像は不明ながら検出部分からみて円弧を描く溝と考えられる。西側では幅広だが東になるにつれ狭くなる。壁は緩傾斜で底面はやや平坦気味となる。２号木棺墓を囲むように弧を描くことから，これに関連する可能性がある。

50 号溝（第 13･54 図）　２区中央部に位置する。13･14 号掘立柱建物ほかの遺構に切られ全体像は不明。特に東壁は撹乱により不明確である。出土の黒色土器杯から古墳後期に属すると考えられる。

62 号溝（第 14 図）　２区南部に位置する。多くの遺構に切られるが深度が大きくおおむねの形状が把握できた。北端部で直角に屈曲する。東側は調査区外で明らかではないが南端部の状況から北端部同様に直角に屈曲するとみられ方形区画を形成する可能性がある。13 号土坑との切り合いから古墳時代前期と考えられる。

67 号溝（第 14･16･28･47 図）　２区南部に位置する。63・65 号溝に切られる。北端では形状を把握できなかった。南側で西へ屈曲する溝で両側縁とも整っていない。出土の土師器甕から古墳時代後期と考えられる。

56 号溝（第 15･16･55 図）　２区中央部に位置する。17・18 号掘立柱建物に切られる不整形の溝である。土師器甕・黒色土器杯を出土し古墳時代後期に属する。

1 号木棺墓(土坑 9)

1 層　オリーブ黒色混砂土(5Y2/2)。粘性やや弱くしまりやや強い。1～5mm の炭化物を多量に、1～5mm の焼土ブロックを少量含む。1～3mm の地山ブロックを微量に含む。地山粗砂由来の砂粒を多く含む。古墳後期の土器片を多く含む。
2 層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。粘性しまりともやや弱い。1～3mm の炭化物を微量含む。
3 層　黒褐色混砂土(2.5Y3/2)。粘性しまりともにやや弱い。3～10mm の炭化物を多く含む（1 層に比して少ない)。古墳後期の土師器を少量含む。
4 層　オリーブ褐色砂質シルト(2.5Y4/3)。地山等の再堆積か。レンズ状に混入。
5 層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/1)。粘性やや強く、しまりやや弱い。
6 層　黒褐色混砂土(10YR3/2)。粘性しまりともやや弱い。2～3mm 程の地山細砂ブロックを微量に含む。
7 層　黒褐色粘質土(7.5YR3/2)。粘性強くしまり弱い。1mm 程の炭化物を微量に含む。
8 層　オリーブ黒色混砂土(7.5Y3/1)。粘性しまりやや弱い。1mm 以下の炭化物を微量に含む（植物の根に由来か)。
9 層　黒褐色土(2.5Y3/2)。粘性やや強くしまりやや弱い。やや砂を含む。
10 層　オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性しまりやや強い。砂粒を少量含む。
11 層　灰オリーブ混土砂(5Y1/2)。
12 層　灰オリーブ砂(5Y4/2)。
13 層　暗オリーブ砂(7.5Y4/3)。
14 層　黒褐色混砂土(2.5Y3/2)。粘性しまりともやや弱い。1～5mm の炭化物を少量含む。
15 層　オリーブ黒色混土砂(5Y3/2)を主体とし、1mm 程の炭化物を微量含む。
16 層　黒褐色混土砂(2.5Y3/2)。
17 層　オリーブ黒色混砂土(7.5Y3/2)。粘性やや強くしまりやや弱い。
18 層　暗オリーブ粗砂(5Y4/3)。
19 層　暗オリーブ砂(7.5Y4/3)。
20 層　黒褐色混土砂(2.5Y3/2)。1mm ほどの炭化物を微量に含む。粗砂をベースとする。

P161

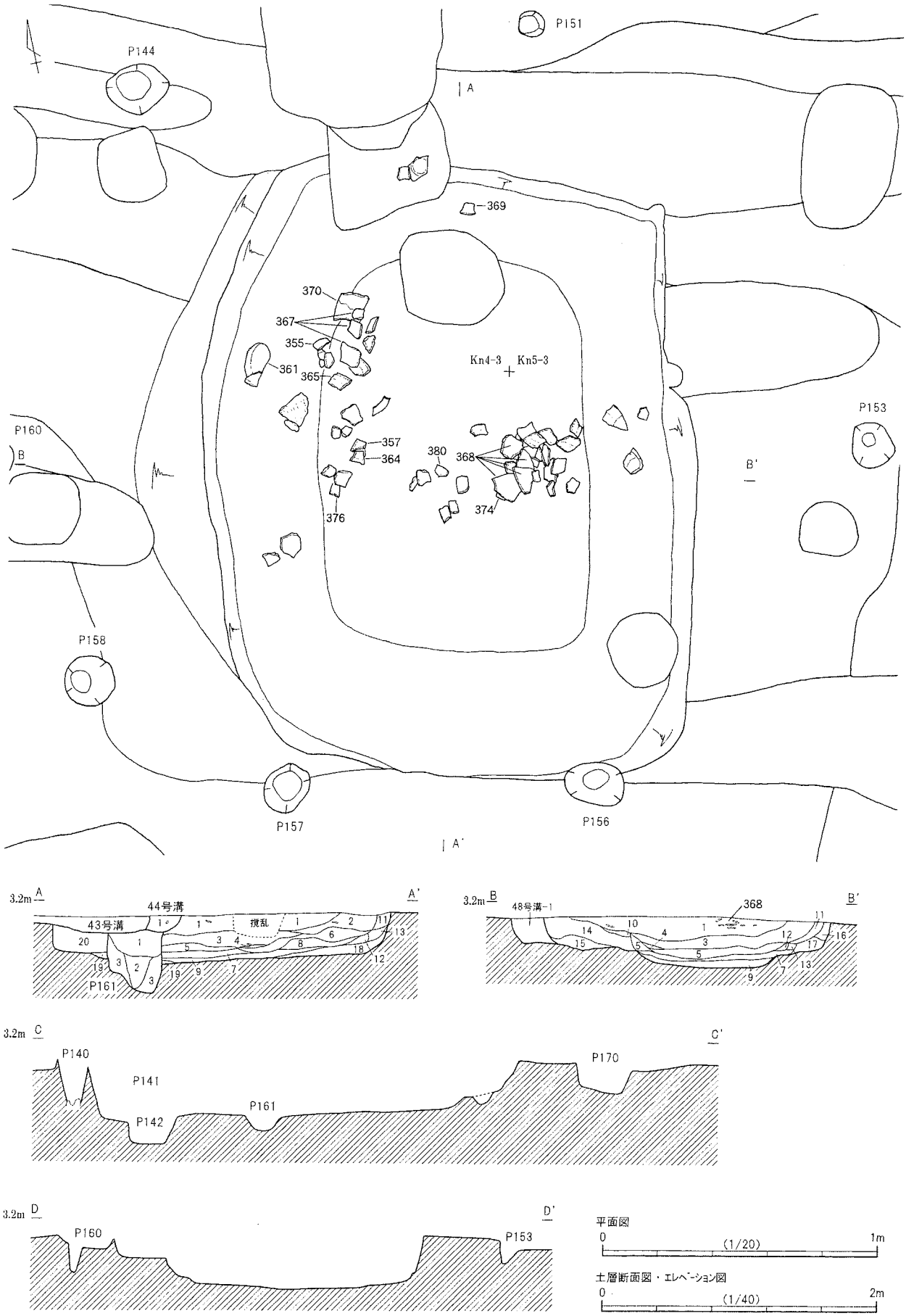
1 層　オリーブ黒色土(5Y2/2)。粘性やや強く、しまりやや弱い。地山由来の砂粒を少量含む。
2 層　オリーブ黒色粘質土(5Y3/1)。粘性強く、しまり弱い。未分解質の植物遺体を少量含む。ピット柱痕。
3 層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。粘性、しまりともやや弱い。

溝 44

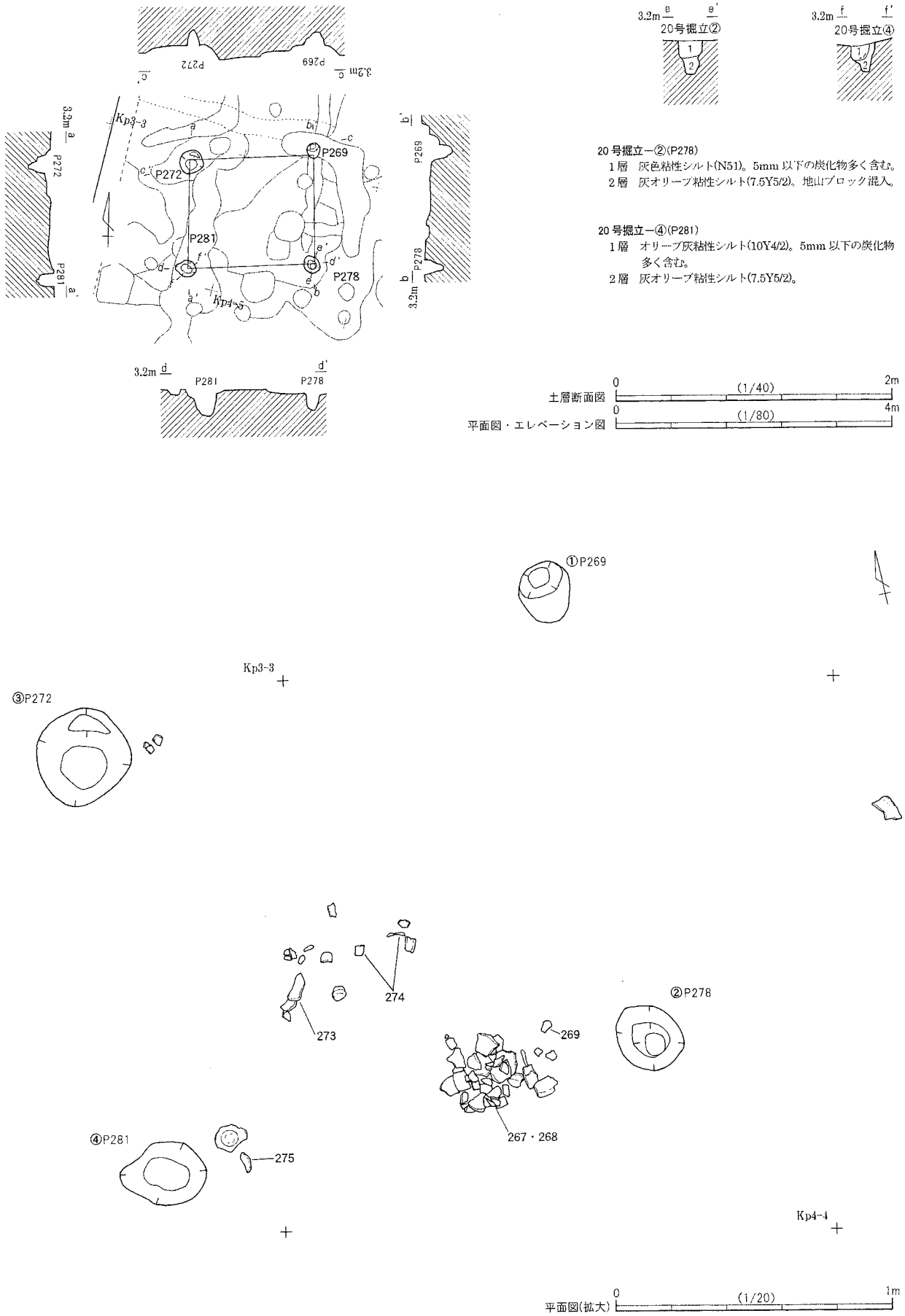
1 層　黒褐色土(10YR2/2)。1～5mm の炭化物を多量に含み、長さ 5～10cm の炭化材を多く含む。赤褐色(5YR4/6)の焼土ブロック(5mm) を多量に含む。

溝 48

1 層　黒褐色混土砂(2.5Y3/2)。1mm 程の炭化物を微量含む。


P151
P144
A
369
370
367
355
361
365
Kn4-3
Kn5-3
P153
P160
B
357
364
380
368
B'
376
374
P158
P157
P156
A'
3.2m A
44号溝
A'
43号溝
撹乱
P161
3.2m B
48号溝-1
368
B'
3.2m C
C'
P140
P141
P142
P161
P170
3.2m D
D'
P160
P153
平面図
0
(1/20)
1m
土層断面図・エレベーション図
0
(1/40)
2m

第17図　1号木棺墓



第18図　20号掘立柱建物

57 号溝（第 15･16 図）　２区中央部に位置する。17 号掘立柱建物に切られる。全体的に不整形を呈する浅い溝である。撹乱の影響から 56 号溝との切り合い関係は不明であった。

60a 号溝（第 15･16･49･62 図）　２区南部に位置する。断面観察から 60b 号溝を切ると判断したが，平面的な分別は不可能で ab の細分とした。幅広の大型の溝で古代の以降および１号井戸に切られる。出土遺物から古墳時代後期に属する。３層からコハク製棗玉１点が出土した。

60b 号溝（第 15･16･49 図）　２区南部に位置する。上記のとおり 60a 号溝に先行するものの完全に分別はできなかった。60a 号溝とは主軸を同じくし密接な関係が窺われる。出土遺物から古墳時代後期に帰属する。

64 号溝（第 15･16･54 図）　２区南部に位置する。65･67 号溝を切り 20 号掘立柱建物，61 号溝に切られる。古墳時代前期の土師器甕が出土しているが，遺構の切り合い関係から古墳時代後期の遺構と考えられる。

65 号溝（第 15･16･47 図）　２区南部に位置する。不整形で底面も凹凸がみられる。67 号溝を切り 20 号掘立柱建物，64・69 号溝に切られる。出土遺物から古墳時代後期に帰属する。

１号井戸（第 15･16･48･49 図）　２区南部に位置する。平面形は隅丸方形で深さ 84cm，底面はやや平坦気味である。60a･b 号溝，62 号溝などを切る。井戸枠等の構造は確認されず素掘りの可能性が高い。遺物は１～４層で多く出土し古墳時代後期の良好な資料が得られた。

１号木棺墓（９号土坑，第 13･17･51･52 図）　２区中央部に位置する。220cm×182cm で深さ 40cm の隅丸方形の遺構である。撹乱および古代の溝・ピットに切られ，遺構の北側部分は残りが悪い。土坑の内部には外形と近いプランで一段落ち込みが認められた。短軸の断面では落ち込みの段が確認できるが長軸方向では緩やかな立ち上がりで明瞭とは言い難い。遺構埋土はこの落ち込みに向かって下がる様子が観察される。この落ち込みの底部西際では幅５cm ほどの帯状プランが検出された。このプランはしみ状で断面の検出はできなかったがその直下より小木片が出土した（図版６）。これらの状況を考慮し本遺構は木棺墓であるとの判断に至った。古墳時代後期の土器が多数出土した１～３層は黒色味の強い炭化物を多く含む層で封土崩落土と考えられ，７層および９層は棺内への流入土の可能性がある。９層底部から先述した小木片が出土した。14～17・20 層はいずれも地山の砂層をベースとし，裏込めに当たる可能性がある。14 層の底面付近からは須恵器模倣の土師器杯（361）が出土している。18・19 層についても裏込めの一部として調査を行ったが，14～17 層でみられる炭化物などの混入がなく，地山の可能性も否定できない。なお，木棺部については排出土をすべて持ち帰り水洗選別を試みたが土器の砕片以外は出土しなかった。

20 号掘立柱建物（第 18･47 図）　２区南部に位置する。１間×１間の小型の建物で，64･65 号溝を切り 59・63 号溝に切られる。プランの検出面南半部で古墳時代後期の土器がまとまって出土し，建物に関連する可能性がある。遺構の切り合い関係とこの土器から古墳時代後期に属すると判断した。

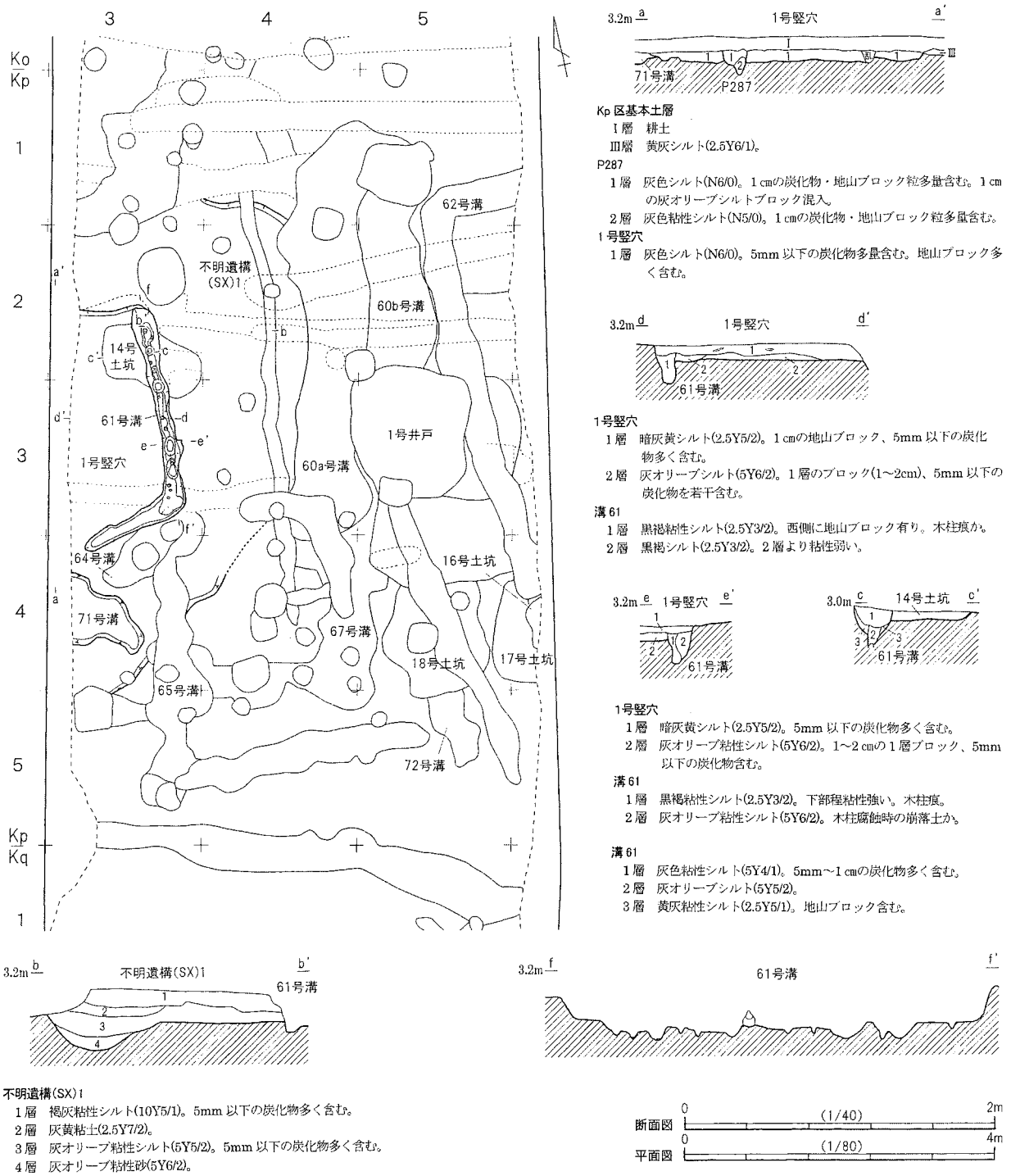
不明遺構(SX) 1（第 19･55 図）　２区南部に位置する。他の遺構や撹乱に切られ断片的にしか検出できず，壁は北端部で浅く確認できたのみで性格は不明である。切り合い関係と出土遺物から古墳時代の遺構とした。

４　２区の遺構（古代）

概　要　ここでは前項の概要でも述べた２区の範囲において検出した古代の遺構について述べる。古墳時代の遺構と検出面が同じことから，出土遺物と遺構の切り合い関係をもって遺構の時期を判断した。地形的特徴は古墳時代と同じく北端部が北にゆるく傾斜し南端部には流路が存在する。遺構はこの間で確認された。水田耕作による削平を受けたことから現状の遺構検出面はほぼ平坦だが，地山の状況からみて，もともとは調査区の中央部でやや高まり，南北に向け緩く傾斜していたものと考えられる。遺構は調査区のほぼ全域で確認されたが，掘立

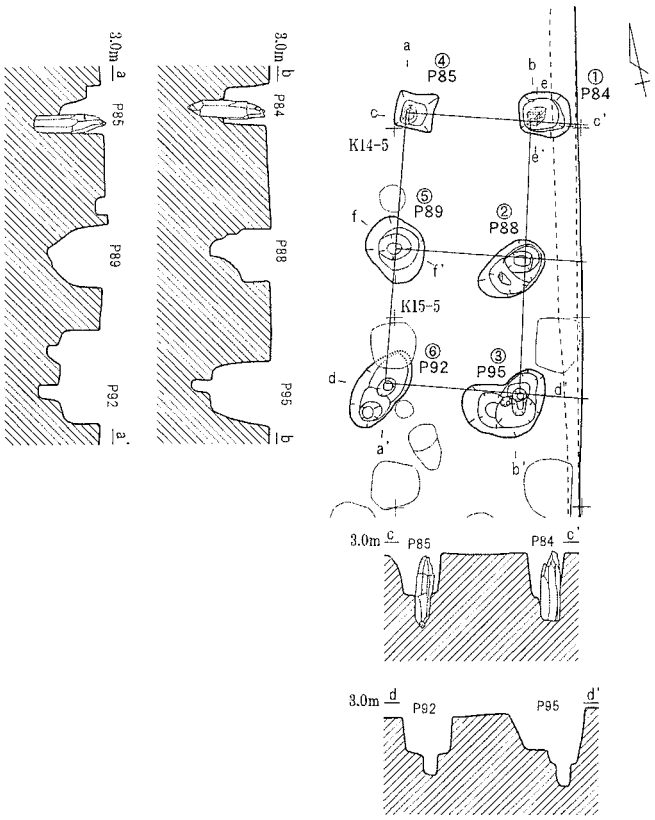
柱建物が北部および中央部に集中し，その間に畝状の溝群が分布する傾向がみられる。南部は竪穴建物，掘立柱建物，溝などが検出されたものの比較的遺構分布が希薄であった。以下，遺構ごとに記述する。

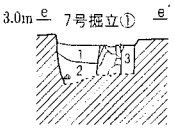
1号竪穴建物・61号溝（第19･45図）　2区南部に位置する。61号溝は1号竪穴の壁面を廻ることから本来一体のものとみてここで記述する。西側は調査区外に広がり全体像は明らかではないが，南北の辺が3m強であることから，竪穴建物としては小規模なものといえる。床面を精査したが主柱穴となるピットは検出されなかった。一方，壁面を廻る61号溝の底面には小ピットがほぼ等間隔に並んでおり部分的に木柱が残存していた。



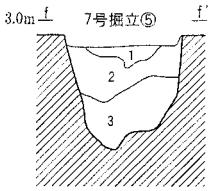
第19図　1号竪穴建物、不明遺構1

7号掘立柱建物



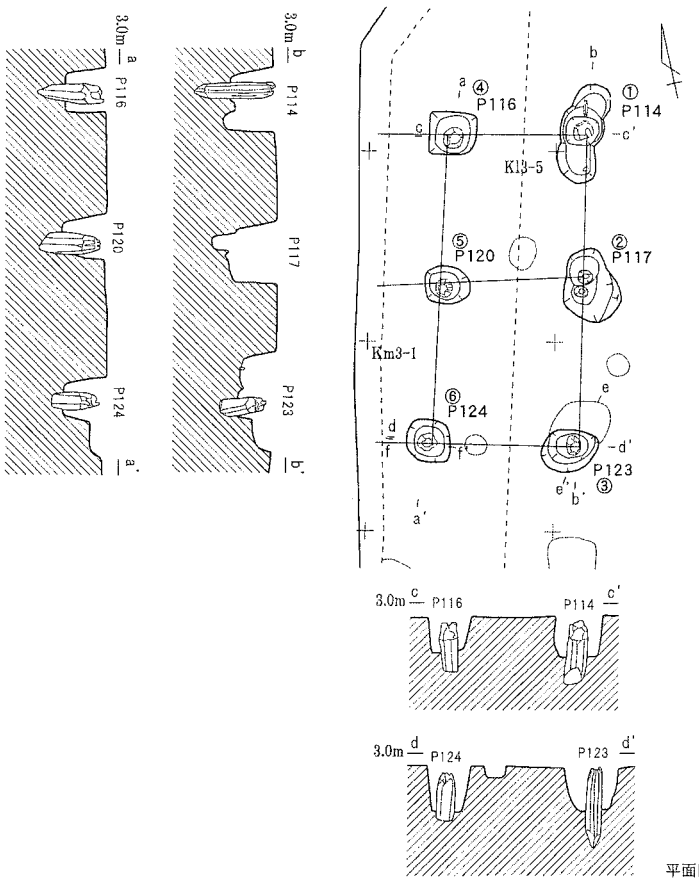


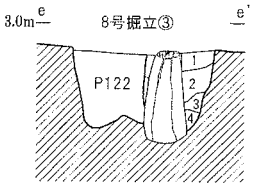
7号掘立ー①(P84)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/3)。地山ブロック混入。
2層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。地山ブロック・灰色シルトブロック混入。
3層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y4/2)。柱痕腐食部分。



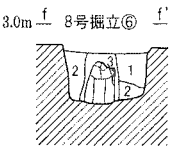
7号掘立ー⑤(P89)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。
2層　灰褐粘性シルト(2.5Y6/2)。灰白色シルトブロック混入。
3層　オリーブ灰色粘性シルト(2.5GY5/2)。灰白色シルトブロック混入。

8号掘立柱建物





8号掘立ー③(P123)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。黄白色粘土ブロック混入。
2層　オリーブ黄色粘性シルト(5Y6/3)。黄灰粘性シルト混入。
3層　灰白粘土(N7/0)。灰オリーブ粘性シルト含有。
4層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。

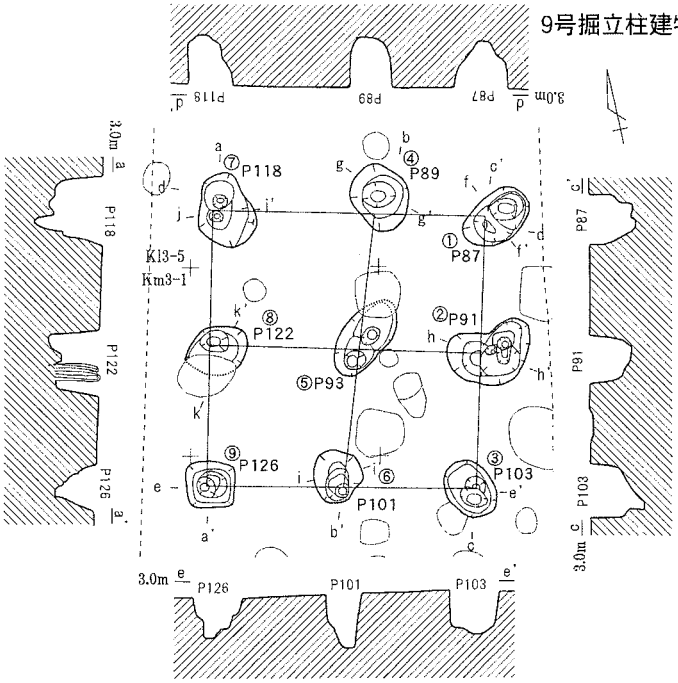


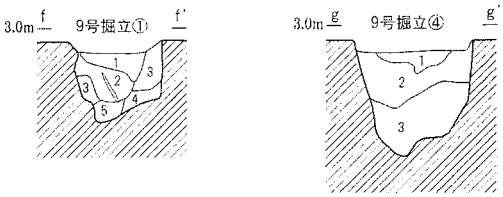
8号掘立ー⑥(P124)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。オリーブ黄色シルト混入。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。灰白色シルトブロック混入。
3層　褐灰粘土(7.5YR5/1)。

土層断面図　0 (1/40) 2m
平面図・エレベーション図　0 (1/80) 4m

第20図　7・8号堀立柱建物

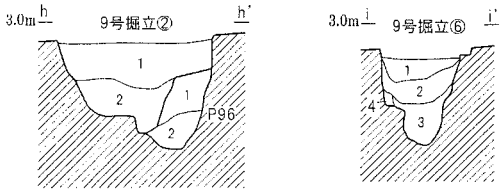
9号掘立柱建物





9号掘立ー①(P87)
1層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)。灰白色シルトブロック混じる。
2層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y4/2)。炭化植物含有。
3層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)とオリーブ黄色粘性シルト(5Y6/3)との混層。
4層　オリーブ灰色粘性シルト 2.5GY6/1。
5層　オリーブ灰色粘土(2.5GY5/1)。

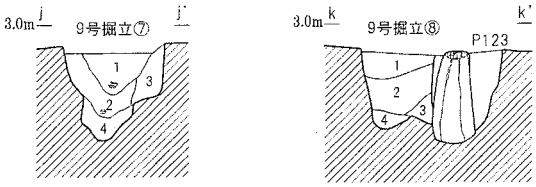
9号掘立ー④(P89)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。
2層　灰横粘性シルト(2.5Y6/2)。灰白色シルトブロック混入。
3層　オリーブ灰色粘性シルト(2.5GY5/2)。灰白色シルトブロック混入。



9号掘立ー②(P97)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/3)。図左側灰色シルトブロック多く含む。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y4/2)。一段下がる部分粘性強い。

P96
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。灰白色シルトブロック多量混入。
2層　暗オリーブ粘性シルト。粘性強い。

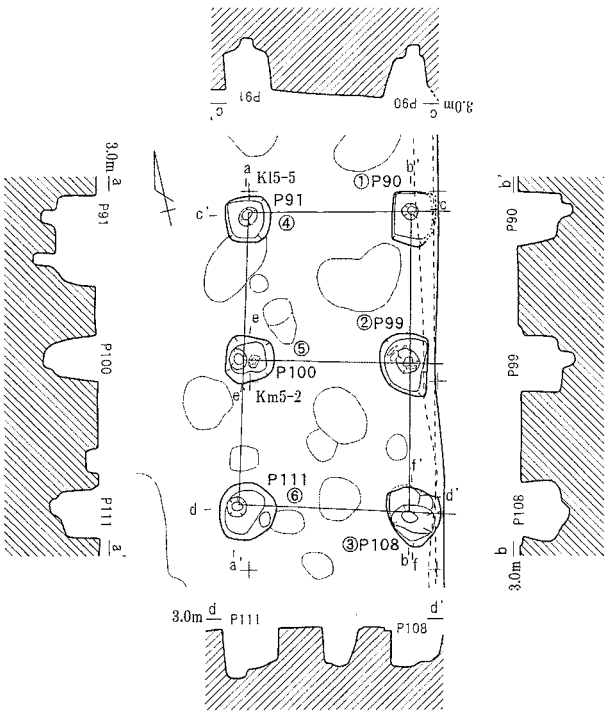
9号掘立ー⑥(P101)
1層　灰色粘性シルト(7.5Y5/1)。灰オリーブブロック・炭化植物含む。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。
3層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。粘性強い。
4層　灰色粘性シルト(7.5Y5/2)。

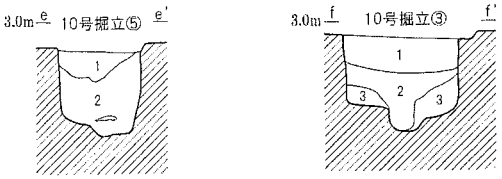


9号掘立ー⑦(P118)
1層　黄灰色粘性シルト。(7.5Y6/1)。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。1層ブロック混入。
3層　灰オリーブ粘性シルト。2層ブロック混入。
4層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。灰白色シルトブロック混入。

9号掘立ー⑧(P122)
1層　灰黄粘性シルト(2.5Y6/2)。
2層　オリーブ黄色粘性シルト(5Y6/3)。地山ブロック混入。
3層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。灰色シルト(N71)ブロック混入。
4層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。

10号掘立柱建物



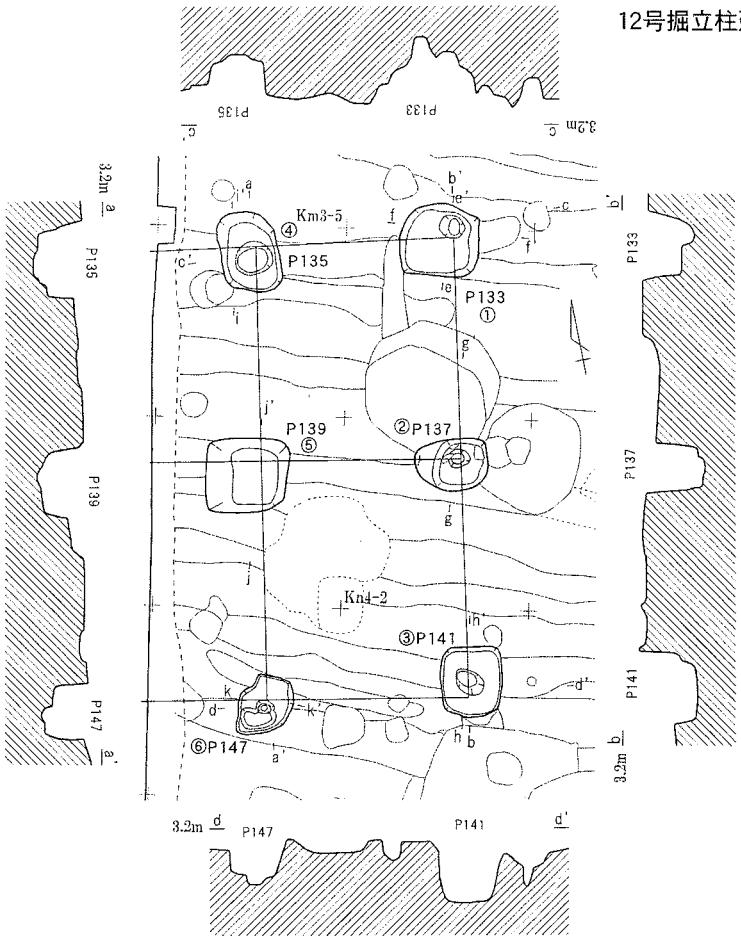


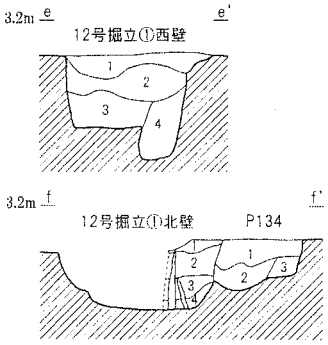
10号掘立ー⑤(P100)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/1)。灰白色シルトブロック混入。

10号掘立ー③(P108)
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/3)。灰白色シルトブロック多量混入。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y4/2)。灰白色シルトブロック混入。柱痕部分粘性強い。
3層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。灰白色シルトブロック多量混入。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

第21図　9・10号掘立柱建物





12号掘立ー①(P133) 西壁

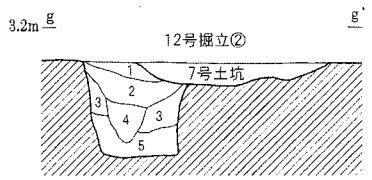
1層 灰オリーブシルト(5Y4/2)。1mmの炭化物微量に含む。5～10mmの地山シルトブロックを多く含む。
2層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。10～20cmの巨大なシルトブロックを含む。
3層 オリーブ黒色土(5Y3/1)。3～5mmのシルトブロックを少量、1mmの炭化物を微量に含む。
4層 灰オリーブシルト(5Y5/2)。地山ブロックを主体と、その間に2層と類似の土層をはさむ。

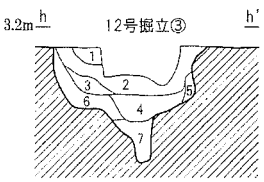
12号掘立ー①(P133) 北壁

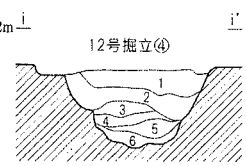
1層 暗灰黄色土(2.5Y4/2)。5cmほどの地山シルトブロック多量に含む。
2層 オリーブ褐色砂質土(2.5Y4/3)。
3層 にぶい黄褐色シルト(10YR5/3)。地山の2次堆積か。部分的にオリーブ黒色土を含む。
4層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。

P134

1層 オリーブ灰色土(10Y4/2)。2mm～5mmの地山ブロックを大量に含む。1mmの炭化物を微量に含む。
2層 灰オリーブ土(5Y4/2)。5mm以下の地山ブロックを少量含む。1mmの炭化物を微量に含む。
3層 灰オリーブ土(7.5Y4/2)。1～2mmの地山ブロックを微量に含む。







12号掘立ー②(P137) 西壁

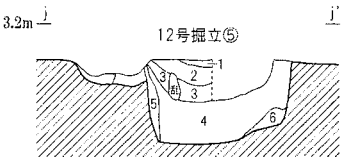
1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。
2層 黒褐色土(2.5Y3/2)。粘性やや強くしまりやや弱い。5mmほどの地山ブロックを少量、3～5mmの炭化物を微量に含む。
3層 黒褐色土(2.5Y3/2)。粘性やや強しまりやや弱。炭化物少量。
4層 オリーブ灰シルト(10Y4/2)。粘性やや強く、しまり弱い。地山シルトブロックの再堆積か。
5層 黒褐色土(2.5Y3/1)。粘性やや強くしまりやや弱い。5mmほどの地山ブロック、3～5mmの炭化物を微量に含む。

12号掘立ー③(P141)

1層 オリーブ黒色土(5Y3/1)。1～3mmのシルトブロックを少量含み、1mmの炭化物を少量含む。
2層 オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。1～3mmのシルトブロック多い。
3層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。1mmの炭化物を微量に含む。下面に厚さ5mmで炭化物の層を含む。
4層 オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。地山砂層を少量含み、1～5mmのシルトブロックを少量含む。
5層 オリーブ黒色土(5Y2/2)。3～5mmのシルトブロック多い。
6層 灰オリーブ混土砂(5Y4/2)。地山砂層をベースとしてオリーブ黒色土のブロックを少量含む。
7層 灰オリーブ混砂土(7.5Y4/2)。

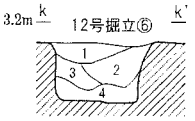
12号掘立ー④(P135)

1層 オリーブ黒色土(10Y3/2)。1～3mmの炭化物を少量、10～15mmの地山ブロックを少量含む。
2層 オリーブ黒色土(10Y3/2)。10～15mmの地山ブロックを多量に、1～3mmの炭化物を微量に含む。
3層 灰オリーブシルト(5Y5/3)。1～2cmのオリーブ黒色土ブロックを少量、1mmの炭化物を微量含む。
4層 暗オリーブ粘土(5Y4/3)。1mmの炭化物微量含む。
5層 灰オリーブシルト(5Y5/2)。地山の最堆積か。
6層 オリーブ黒色粘土(5Y3/2)。1mmの炭化物、2～3mmの地山シルトブロックを少量含む。



12号掘立ー⑤(P139)

1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)1cm～3cmの地山ブロックを多く含む。
2層 灰オリーブシルト(7.5Y5/2)。5cmほどの地山ブロックを主体とし、1mm～1cmほどのオリーブ黒色土ブロックを少量含む。
3層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。5mm～3cmほどの地山ブロックを少量含む。2～3mmほどの炭化物を微量含む。
4層 灰オリーブシルト(7.5Y5/2)。1cm～5cmの地山ブロックを多量に含む。
5層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。
6層 灰オリーブシルト(5Y5/3)。地山の再堆積か。
7層 灰オリーブシルト(7.5Y5/2)。2～3cmほどの地山ブロックが主体。1cm以下のオリーブ黒色土ブロックを少量含む。2層に近似。



12号掘立ー⑥(P147)

1層 灰オリーブ混砂土(5Y4/2)。1mmの炭化物を少量含む。
2層 オリーブ黒色砂質土(7.5Y3/2)。
3層 オリーブ黒色砂(5Y3/2)。
4層 灰オリーブ砂(5Y4/2)。

土層断面図 0 (1/40) 2m
平面図・エレベーション図 0 (1/80) 4m

第22図 12号掘立柱建物

このことから壁立式の建物であったと考えられる。また，61号溝は竪穴の底部に存在する2層上面から掘り込まれており，貼床状の構造をもっていた可能性がある。遺物は竪穴の１層から出土している。古墳時代後期の黒色土器が含まれるが，古代の須恵器も認められることなどから古代の遺構として扱った。

７号掘立柱建物（第20･45図）　２区北部に位置する。２間×１間の検出だが，東側調査区外に延びる２間×２間の総柱建物と思われる。ピットの切り合いから９･10号掘立柱建物に先行する。また，検出面で土器が多数出土し，それぞれに分布する建物に関連した遺物として扱った。P84･85では柱根が出土している。

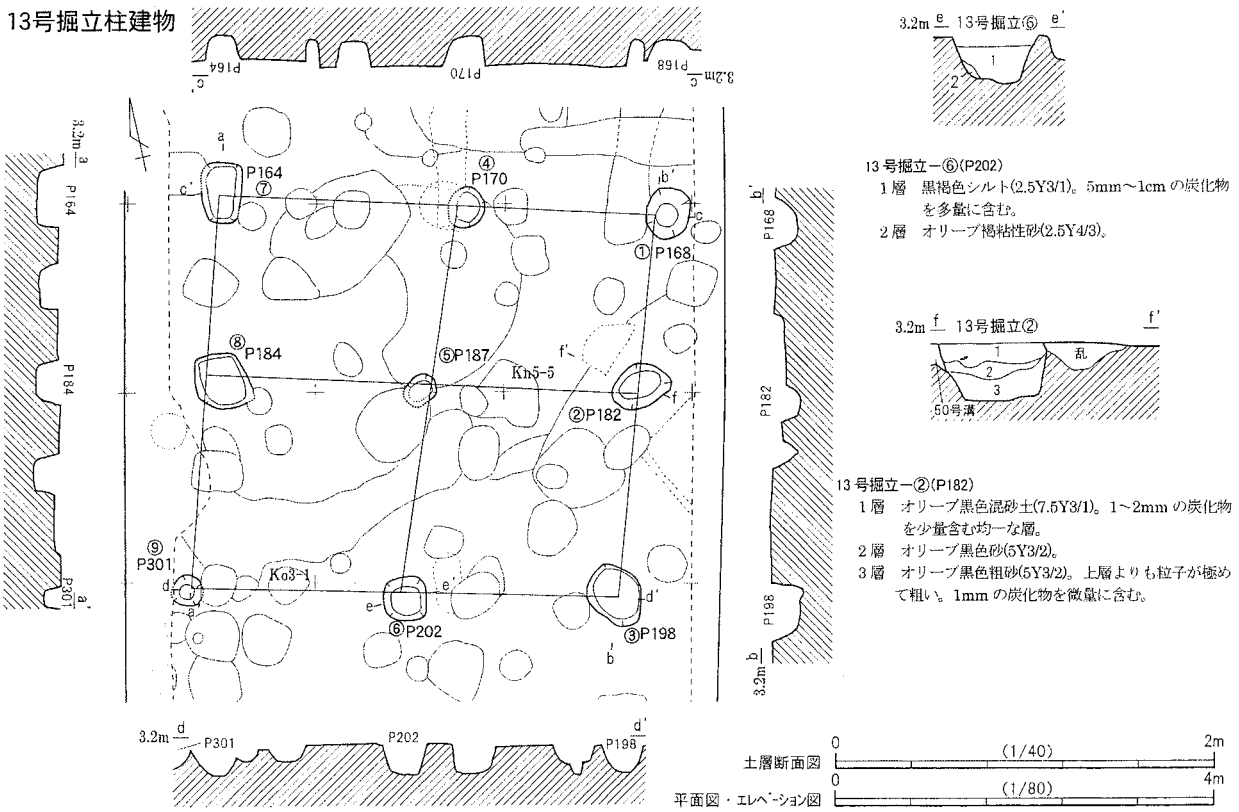
８号掘立柱建物（第20･45図）　２区北部に位置する。２間×１間の柱穴を検出したが西側調査区外へ延びる２間×２間の総柱建物と思われる。切り合いから９号掘立柱建物より後出である。P117を除き柱根が残存している。

９号掘立柱建物（第21･46図）　２区北部に位置する。桁行2.9m，梁間2.8mの２間×２間の総柱建物である。ピットの切り合いから８号掘立柱建物より古く７号掘立柱建物よりも新しい。

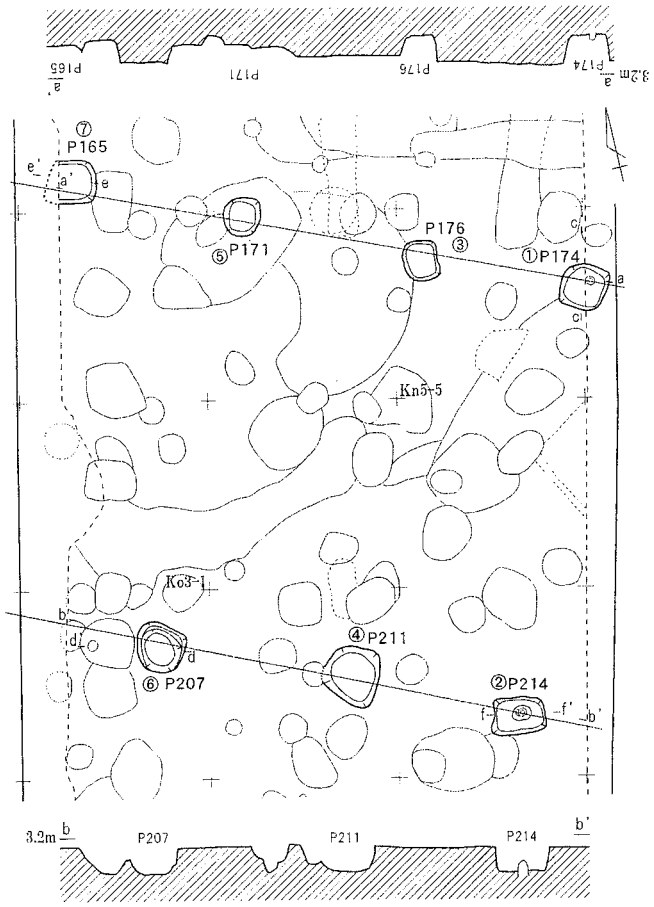
10号掘立柱建物（第21･46図）　２区北部に位置する。２間×１間の検出だが，東側調査区外に延びる２間×２間の総柱建物と思われる。7号掘立柱建物に後出し，位置が重なることから建て替えと考えられる。

12 号掘立柱建物（第 22･46 図）　２区中央部に位置する。２間×１間の検出だが，西側調査区外に延びる２間×２間の総柱建物であると思われる。畝状の溝群に切られており，それ以前の建物といえる。柱穴は必ずしも一様ではないが，方形または長方形を呈するものが多く，規模も一辺が 80cm 前後を主体とする。柱間が 2.2m あり，調査区北部の７～10 号掘立柱建物と比較して大型の建物であったと考えられる。遺物は P137 および P139 から出土している。

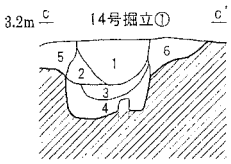
13 号掘立柱建物（第 23･46 図）　２区中央部に位置する。14～16 号掘立柱建物と重複し，ピットの切り合い



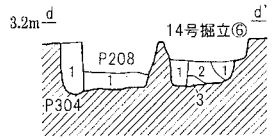
第23図　13号掘立柱建物



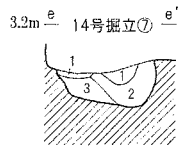
14号掘立柱建物



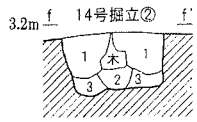
14号掘立ー①(P174)
1層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1～3mmの炭化物を少量含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。1～3mmの炭化物を少量含む。1層に比べ、砂多く含む。
3層　黒色粘質土(2.5Y2/1)。1mmの炭化物を微量に含む。いわゆる腐食土層。柱痕。
4層　オリーブ黒色粗砂(5Y3/2)。
5層　黒褐色混砂土(2.5Y3/2)。土坑15の土層。
6層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。1mmの炭化物を少量含む。



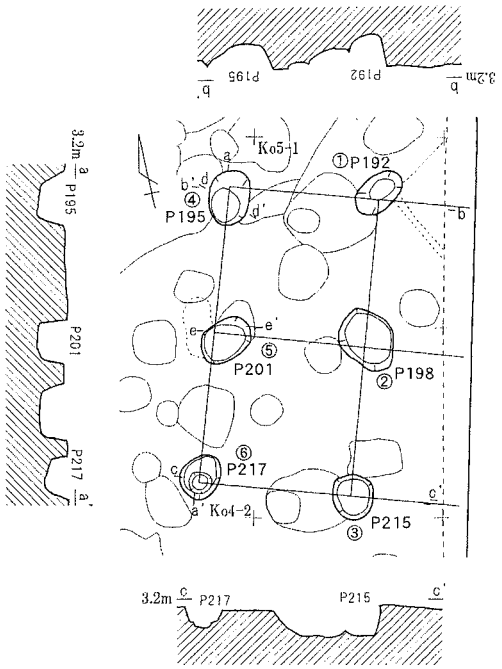
14号掘立ー⑥(P207)
1層　暗黄灰粘性シルト(2.5Y4/2)。黒褐色土のブロックを大量に含む(炭化した木か)。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y5/3)。
3層　灰オリーブ粘性砂(5Y5/3)。黒褐色土のブロックを大量含む。
P208
1層　暗灰黄粘性砂(2.5Y4/2)。黒褐ブロック大量含む(炭化した木か)。
P304
1層　黄灰粘性シルト(2.5Y4/1)。



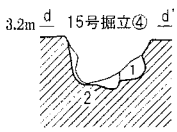
14号掘立ー⑦(P165)
1層　暗灰黄粘性シルト(2.5Y4/2)。
2層　灰色粘性シルト(N4/0)。5mm～1cmの炭化物多く含む。地山ブロック混入。
3層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y4/2)。



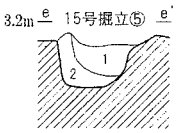
14号掘立ー②(P214)
1層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/1)。1～3mmの炭化物を少量含む。
2層　オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。1～3mmの炭化物を少量含む。1層に比べ、砂多く含む。
3層　黒色混砂土(2.5Y2/1)。1mmの炭化物を微量に含む。柱痕。



15号掘立柱建物



15号掘立ー④(P195)
1層　黒褐粘性シルト。5mm～1cmの炭化物多く含む。
2層　オリーブ褐粘性砂。1層ブロック混入。

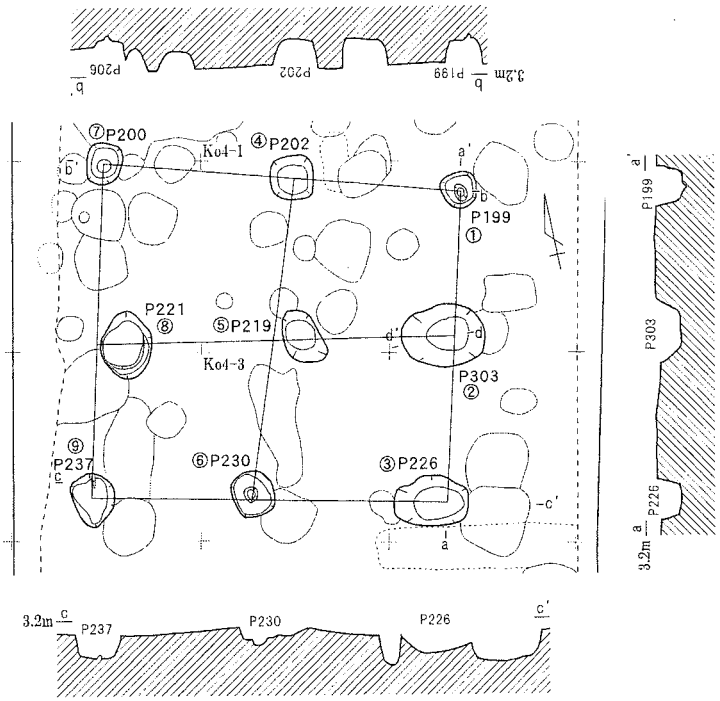


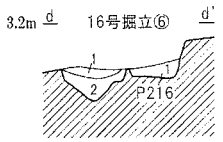
15号掘立ー⑤(P201)
1層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y5/2)。5mm以下の炭化物多く含む。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y4/2)。5mm以下の炭化物含む。

土層断面図　0 (1/40) 2m
平面図・エレベーション図　0 (1/80) 4m

第24図　14・15号堀立柱建物

16号掘立柱建物

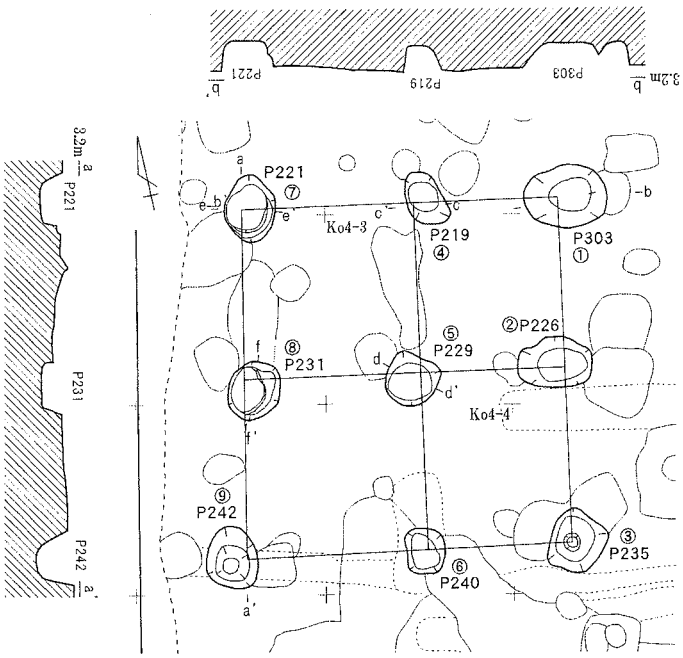


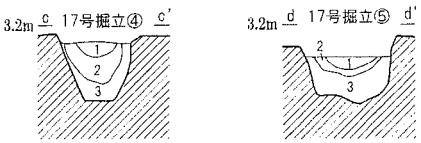


16号掘立ー⑥(P303)
1層　黒褐粘性シルト(2.5Y3/1)。5mm 大の炭化物含む。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y4/2)。

P216
1層　オリーブ黒粘性シルト(5Y3/1)。5mm 以下の炭化物含む。

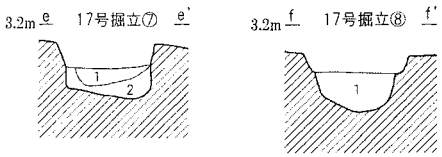
17号掘立柱建物





17号掘立ー④(P219)
1層　黒褐粘性シルト(2.5Y3/1)。5mm～1cm の炭化物多く含む。
2層　オリーブ褐粘性シルト(2.5Y4/4)。1層ブロック混入。
3層　灰オリーブ粘性砂(2.5Y4/2)。

17号掘立ー⑤(P229)
1層　オリーブ褐粘性シルト(2.5Y4/3)。5mm～1cm の炭化物を多く含む。
2層　炭層(植物遺存体混じる)
3層　灰オリーブ粘性砂。5mm 大の砂多く含む。



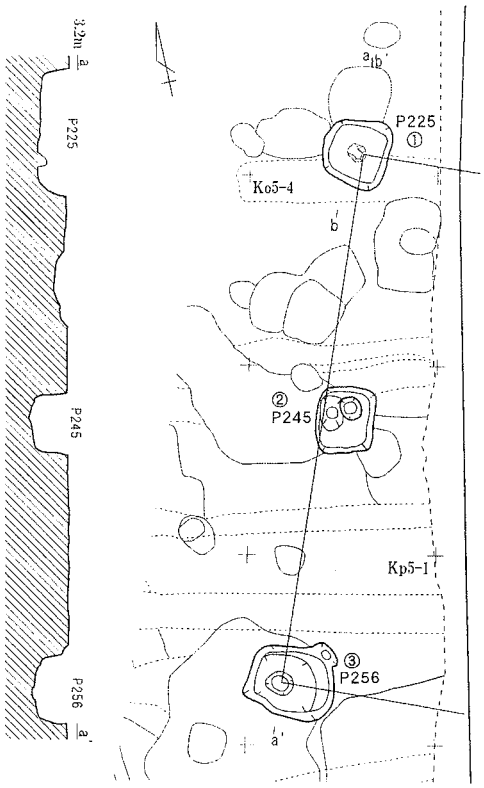
17号掘立ー⑦(P221)
1層　黒褐粘性シルト(2.5Y3/2)。5mm～1cm の炭化物多く含む。
2層　黄灰粘性砂(2.5Y4/1)。

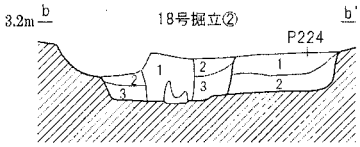
17号掘立ー⑧(P231)
1層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。5mm 以下の炭化物多く含む。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

第25図　16・17号堀立柱建物

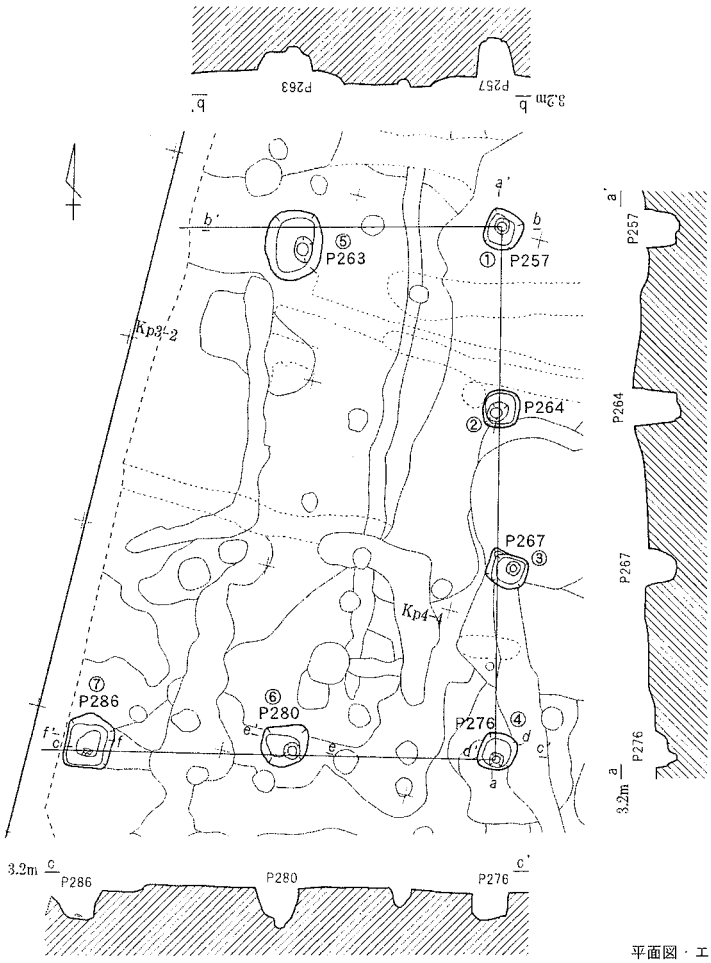
18号掘立柱建物

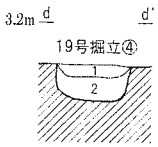




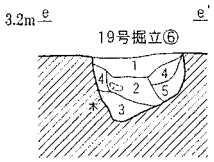
18号掘立－②(P225)
1層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y5/2)。
2層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y5/3)。
3層　オリーブ黒粘性砂(7.5Y3/2)。
P224
1層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y6/2)。
2層　灰オリーブ粘性砂(7.5Y6/2)。

19号掘立柱建物

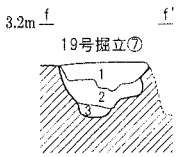




19号掘立－④(P276)
1層　黄灰粘性シルト(2.5Y5/1)。浅黄粘性シルトブロック混入。
2層　灰色粘性シルト(5Y4/1)。0.5mm以下の炭化物多く含む。



19号掘立－⑥(P280)
1層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。地山ブロック多量含む。炭化物含む。
2層　灰オリーブ粘土(7.5Y4/2)。柱倒痕。木質残存。
3層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。
4層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。1層ブロック混入。
5層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。2層ブロック混入。



19号掘立－⑦(P286)
1層　黄灰粘性シルト(2.5Y5/1)。炭地山ブロック混入。
2層　灰オリーブ粘性シルト(5Y6/2)。1層ブロック混入。
3層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

第26図　18・19号掘立柱建物

関係から 14 号掘立柱建物に先行する。桁行 4.7m，梁間 4.0mの２間×２間の総柱建物で，桁行が梁間に対してやや長い。P164 から土師器甕，P139 須恵器杯が出土している。

14 号掘立柱建物（第 24 図）　２区中央部に位置する。ピットの切り合い関係から３・15 号掘立柱建物を切っている。梁は東西ともに調査区外にあり判然としないが，桁行の柱間寸法からみて４間×２間の側柱建物であったと推察される。時期を特定づける遺物の出土はなかったが，切り合い関係と，畝状の溝群に接して重複せずに位置すること，建物主軸がこれらの溝と同一方向を向くことから溝群と同時期と考えられる。

15 号掘立柱建物（第 24 図）　２区中央部に位置する。２間×１間の検出だが東側調査区外に延びる２間×２間の総柱建物であると思われる。桁行が 2.9mで７～10 号掘立柱建物と同規模の建物である。時期を特定しうる遺物は出土しなかったが，ピットの切り合い関係から 14･16･17 号掘立柱建物に先行し，比較的早い段階の建物といえる。

16 号掘立柱建物（第 25 図）　２区中央部に位置する。桁行 3.7m，梁間 3.6mで正方形に近い２間×２間の総柱建物である。ピットの切り合いから 15 号掘立柱建物に先行する。また 17 号掘立柱建物と柱穴を共有するが，建て替えの結果によるものと判断した。

17 号掘立柱建物（第 25 図）　２区中央部に位置する。桁行・梁間ともに 3.6mの２間×２間の総柱建物である。ピットの平面形は一様ではないが，断面形は逆台形状をなし，深さも概ね揃っている。切り合い関係から 18 号掘立柱建物に先行し 15 号掘立柱建物よりも後出である。上記のとおり 16 号掘立柱建物と柱穴を共有するが，平面プラン上では 17 号の P229 が 16 号の P230 を切っており本建物の方が新しいといえる。

18 号掘立柱建物（第 26･46 図）　２区中央部から南部に位置する。調査区東壁際にある３つのピットからなる柱穴列であるが，柱間間隔が約 2.8mで等しいこと，ピットの規模と平断面形が類似すること，かつ他の建物主軸とこの柱穴列の向きが揃うことから２間×１間以上の掘立柱建物と判断した。P225 では柱根が残っていた。また，小片ではあるが須恵器無台杯が出土している。

19 号掘立柱建物（第 26 図）　２区南部に位置する。３間×２間の側柱建物で調査区の西側に広がる。ピットはいずれも隅丸方形の平面プランを有し，概して小型である。桁行の柱間はおおむね 1.6～2.0mで，梁間の約 2.2mに対してやや狭い。他の掘立柱建物と切り合いはなかった。

７号土坑（第 27･50 図）　２区中央部に位置する。直径約 1.4mの円形皿状の浅い土坑である。北東寄りでテラス状の段をもつ。当初は２基の土坑とも考えたが埋土に違いはなく１つの土坑と判断した。P137 を切っており 12 号掘立柱建物よりも新しい。１層から須恵器無台杯が出土している。

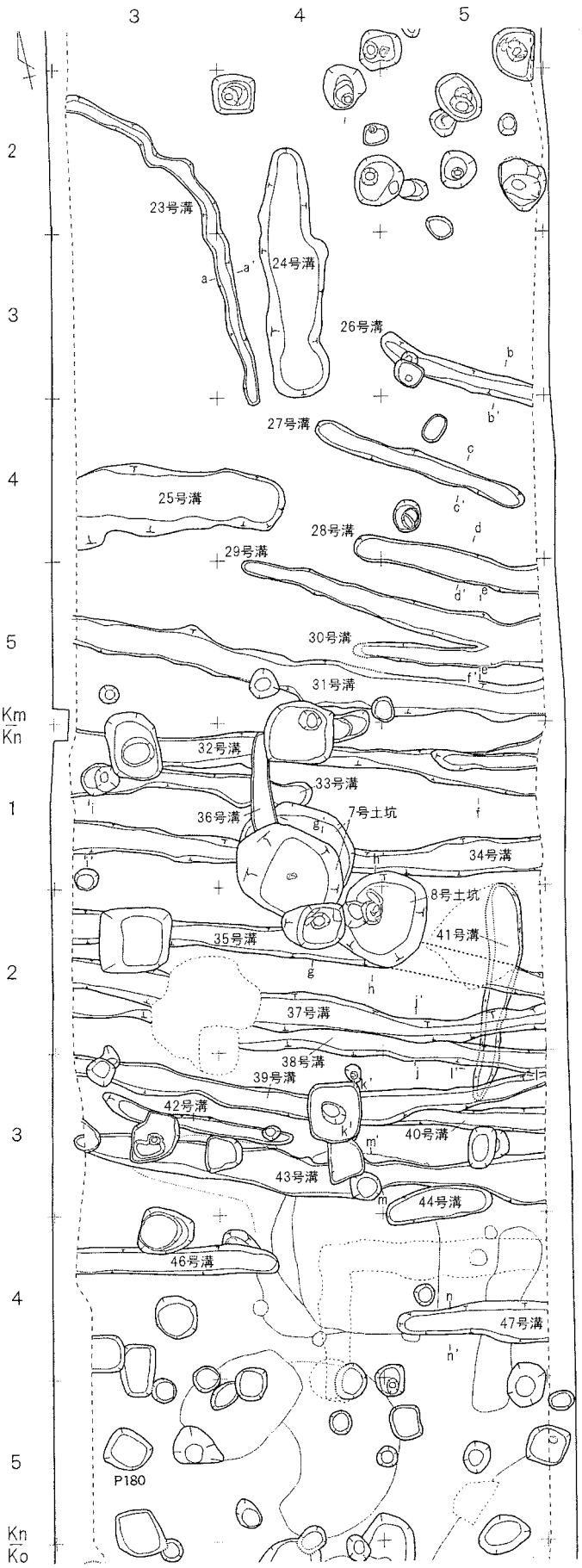
８号土坑（第 27･50 図）　２区中央部に位置する。長軸 112cm，短軸 105cm で円形状の平面プランを持つ。壁が緩く傾斜し皿状を呈する。埋土はオリーブ黒色土の単層で形状や規模も含めて隣接する７号土坑に近似する。ただし，７号土坑が P137 を切るのに対して本土坑は P307 に切られており，ピット群との関係から時期差があるのかもしれない。須恵器杯，甕または長胴壷が出土している。

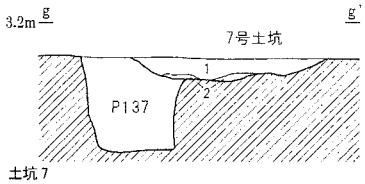
12 号土坑（第 28 図）　２区中央部に位置する。不整形の土坑で，南半を撹乱で失っており詳細は不明である。

15 号土坑（第 28 図）　２区南部に位置する。多くの遺構と切り合うことから調査の途中までは個別の遺構として認識できなかった。このため平面プランについては不明な部分が多い。確認された部分から浅い大型の土坑であったと思われる。土師器甕，須恵器無台杯，筒状土製品が出土している。

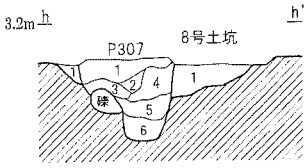
23 号溝（第 27 図）　２区北部に位置する。幅狭の浅い溝で西側調査区外へと延びる。中央付近で緩く屈曲している。付近は植物の根による撹乱に壊されており，残存状態は悪かった。

24･25 号溝（第 27 図）　２区北部に位置する。幅 80cm を超える幅広の溝でいずれも浅い。25 号溝は西側調査



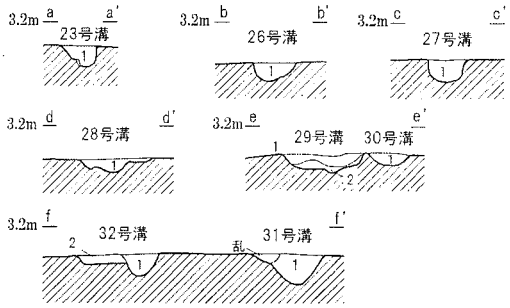


土坑7
1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性やや弱くしまり強い。5mm以下のオリーブシルトブロック(5Y5/4)を多く含む。3mm以下の炭化物を多く含む。
2層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性やや弱くしまり強い。1mmほどの炭化物を少量含む。

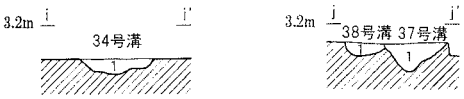


土坑8 1層 オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。粘性弱く、しまり強い。1mmほどの炭化物を少量含み、他層に比して比較的多く砂粒を含む。底部付近に厚さ3mmほどの黒色土層を部分的に含む。

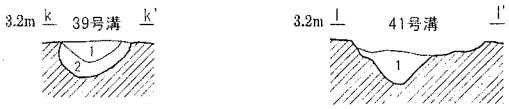
P307
1層 灰オリーブ土(5Y4/2)。地山ブロックを斑状に含む。炭化物を微量含む。
2層 オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。5mm程の地山ブロック・炭化物を微量含む。
3層 オリーブ黒色混土シルト(7.5Y3/2)。地山ブロック少量含む。
4層 灰オリーブ混土シルト(7.5Y5/2)。地山の再堆積。10cmを超える地山ブロックを主とし、川砂をブロック状に、2層をレンズ状に含む。
5層 灰色シルト(7.5Y4/1)。地山ブロックを多く含むが、3層よりも少ない。
6層 オリーブ黒色土(5Y2/2)。未分解質の植物遺体を少量含む。



溝23 1層 灰オリーブ粘土シルト(5Y5/3)。
溝26・27・28・30・31
1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性やや弱しまりやや強。炭化物微量。
溝29・32
1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性やや弱。炭化物微量含む。
2層 灰オリーブ粘土シルト(5Y5/3)。



溝34 1層 オリーブ黒色土(7.5Y3/2)。粘性やや強。1mm以下の炭化物、5mm～2cmの地山ブロックを多く含む。
溝37 1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性弱しまりやや強。炭化物少量。
溝38 1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性弱しまりやや強。炭化物微量。



溝39 1層 オリーブ黒色土(5Y3/2)。粘性弱しまり強。炭化物少量含む。
2層 灰オリーブ混砂土(5Y4/2)。粘性弱しまり弱。砂ブロック含む。
溝41 1層 オリーブ黒色砂(5Y2/2)。1～2mmの炭化物を少量含む。

溝43・47 1層 オリーブ黒色混砂土(5Y3/2)。粘性弱。炭化物少量含む。

土層断面図 0 (1/40) 2m
平面図 0 (1/80) 4m

第27図 2区の古代遺構 (1)

区外へ延びる。浅いことと撹乱に壊されていることから遺存状態は不良である。規模が近いこと，主軸が直交方向にあることから関連する遺構であろうか。

26～29・31 号溝（第 27・53・54 図）　２区北部に位置する。畝状に並行する溝群の北端を占める。27 号溝を除き東側調査区外へ延びるため全容は不明だが，長軸方向，溝の幅や深さ，断面形などに共通性があり，26・27・29 号溝は西側の端部が直線状に並ぶことから一連の遺構と思われる。

30・32～35・37～40・42・43 号溝（第 27・54 図）　２区中央部に位置する。26～29 号溝と同様に畝状に並行する溝群だが，長軸がやや西に傾くこと，溝同士の間隔が比較的狭いことから分けて記述する。ほとんどが東西の調査区外へと延びるため全体像は明らかではない。断面形状はＶ字状・Ｕ字状・逆台形状などバラエティがあるが，規模に大差はみられない。隣接の溝との切り合いもみられることから，数度にわたって構築されたことがわかるが，規模や軸に変化がないため，近接した時期に形成された遺構であろう。

44・46・47 号溝（第 27 図）　２区中央部に位置する。畝状に並行する溝群の南端にあたる。上述の２群に比べてわずかではあるが主軸が西に傾いている。周囲には並行する溝が見られず，性格がやや異なるのかもしれない。

36・41 号溝（第 27 図）　２区中央部に位置する。畝状の溝群と幅や深さに大きな差は認められないが，長軸はこれらに対して直交方向を向き異質である。また，36・41 号ともに上記の畝状溝群に切られており時間差が存在することは明らかである。これらから畝状の溝群とは性格の異なる遺構といえよう。

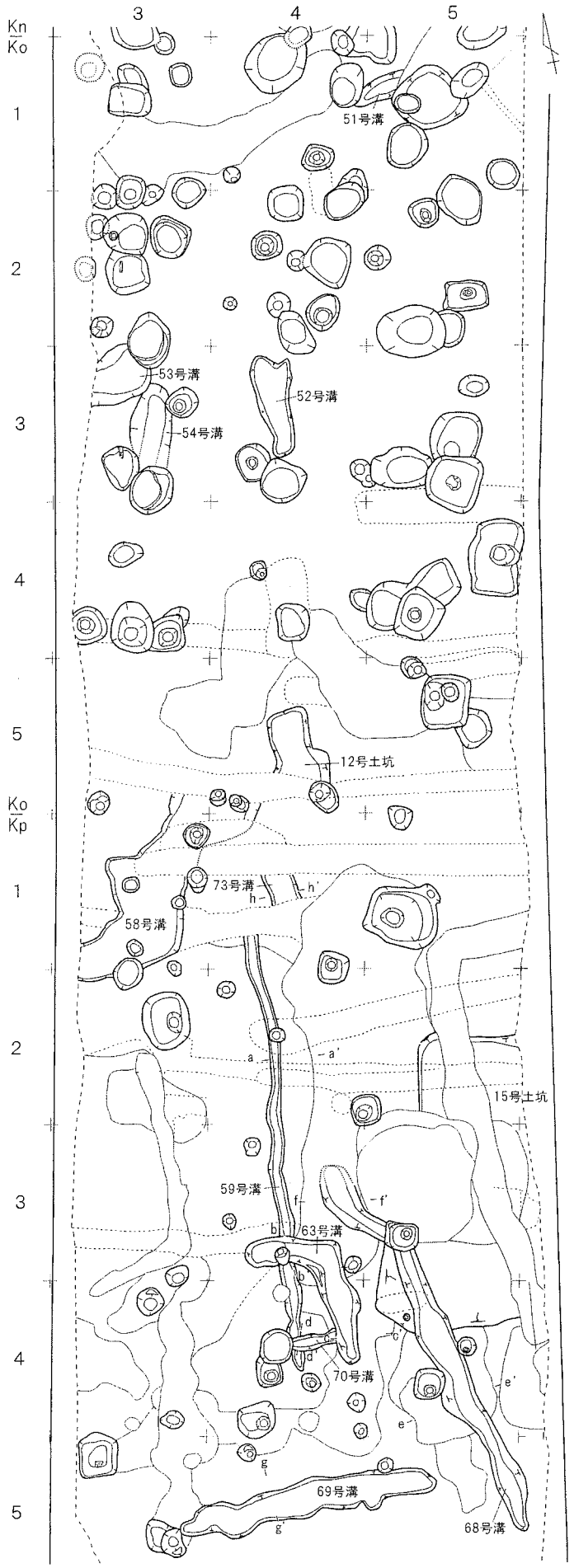
58 号溝（第 28・54 図）　２区南部に位置する。幅広・不整形な溝で，撹乱等に切られており詳細は不明。土師器甕が出土しており，古墳時代後期にさかのぼる可能性もあろう。

59・68・70・73 号溝（第 28 図）　２区南部に位置する。幅狭の浅い溝でいずれも 63 号溝に切られる。59 号溝と 70 号溝は主軸がほぼ直交方向にあり，切り合い関係から 59 号溝の方が古い。68 号溝は 59 号溝同様に南北方向に主軸をもつが，北端部で「く」字状に折れている。73 号溝は撹乱に切られ部分的な検出にとどまった。ただし，68 号溝の延長線上に位置することから関係があるかもしれない。

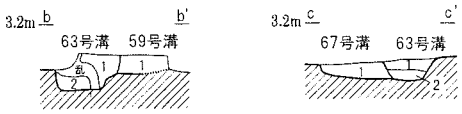
63 号溝（第 28・54 図）　２区南部に位置する。関係する遺構の全てを切っており，付近では最も新しい遺構である。途中で直角気味に屈曲している。

69・74・75 号溝（第 28・29・54 図）　２区南部に位置する。いずれも集落の南端に位置し，おおむね東西方向に主軸をもつ。74・75 号溝は両端ともに調査区外へ延びており詳細は不明である。古墳時代の土器が出土しているが，古代の土器もみられ古代の遺構と考えられる。

１号流路（第 29・30・55・56・59・60・63 図）　２区南端部に位置する。調査区外に延びるため全体像は不明だが，検出した範囲では長さ 8.6m・幅 2.6m・深さ 0.5m で，下部はシルトと砂の互層からなる。緩傾斜で落ち込んでおり肩は明瞭とは言い難い。テラス状となる部分も存在するが，その差は小さい。北側岸付近には肩に沿って小ピット状の窪みの連続がみられるが性格は不明である。底面上の８層は未分解質植物遺体を含むシルト層で多量の木製品が出土した。木製品には大小の材のほか，呪符木簡や斎串などが目立つ。また，墨書土器もみられることから，これらを用いた祭祀行為があったものと考えられる。なお，呪符木簡は流路の底面付近から「×」字状に折り重なって出土した。



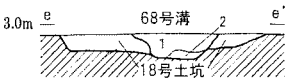
溝59
1層　オリーブ灰シルト(2.5GY5/1)。上部に5mmの炭化物含む。
溝70
1層　灰色粘性シルト(N6/0)。5mm～1cmの炭化物を含む。灰オリーブの地山ブロックを含む。

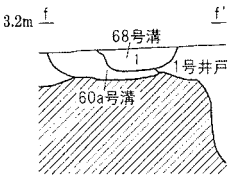


溝59
1層　オリーブ灰シルト(2.5GY5/1)。

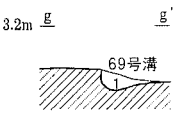
溝63
1層　灰色粘性シルト(7.5Y4/1)。オリーブ黄色シルトブロックを混入。根の攪乱によるものか。5mm以下の炭化物多量含む。
2層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y6/2)。1層ブロック混入。

溝67
1層　灰オリーブ粘性シルト(7.5Y5/2)。灰色シルトブロック混入。

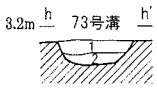




溝68
1層　灰色粘土。0.5～1cmの炭化物多量含む。遺物多い。
2層　灰オリーブシルト(7.5Y6/2)。



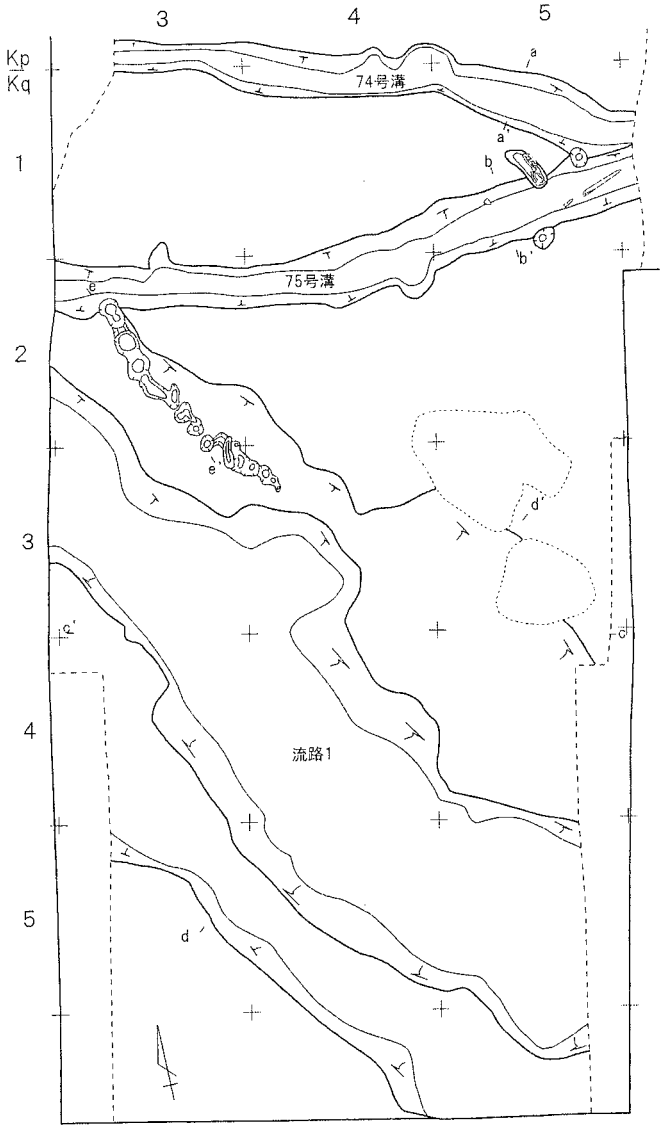
溝69
1層　灰色粘性シルト(N6/1)。5mm以下の炭化物含む。

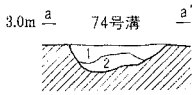


溝73
1層　灰オリーブ粘性シルト(5Y5/2)。灰色シルトブロック含む。1cmの炭化物含む。
2層　灰オリーブ粘性砂(5Y6/2)。

土層断面図　0　(1/40)　2m
平面図　0　(1/80)　4m

第28図　2区の古代遺構 (2)

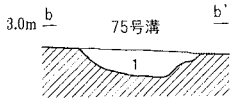




溝74

1層　オリーブ黒色シルト(5Y3/2)。1mm 程の炭化物を少量含む。

2層　オリーブ黒色シルト(7.5Y3/2)。1～2mm の炭化物をごく微量に、5～10mm の地山灰オリーブシルトブロックを多く含む。



溝75

1層　オリーブ黒色粘土(5Y3/1)。3～5mm の炭化物を少量含む。

流路1

1層　オリーブ黒色粘質土(7.5Y2/2)。未分解の植物遺体を多く含む。

2層　オリーブ黒色粘質土(10Y3/2)。未分解の植物遺体を少量含む。

3層　灰オリーブ砂(7.5Y4/2)。

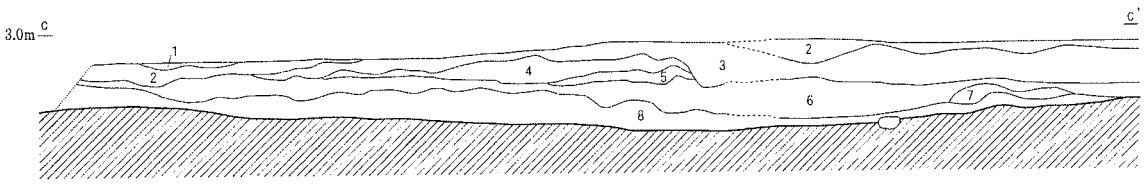
4層　灰色細砂(5Y5/1)。6層と厚さ1～3mm で互層となる。

5層　暗オリーブ灰色細砂(2.5GY3/1)。細砂と6層の 1mm 以下の互層。

6層　オリーブ黒色シルト(7.5Y3/2)。細砂を斑状に入り、1～2mm の炭化物を微量に含む。未分解質の植物遺体を少量含む。

7層　暗オリーブ砂(5Y4/3)。

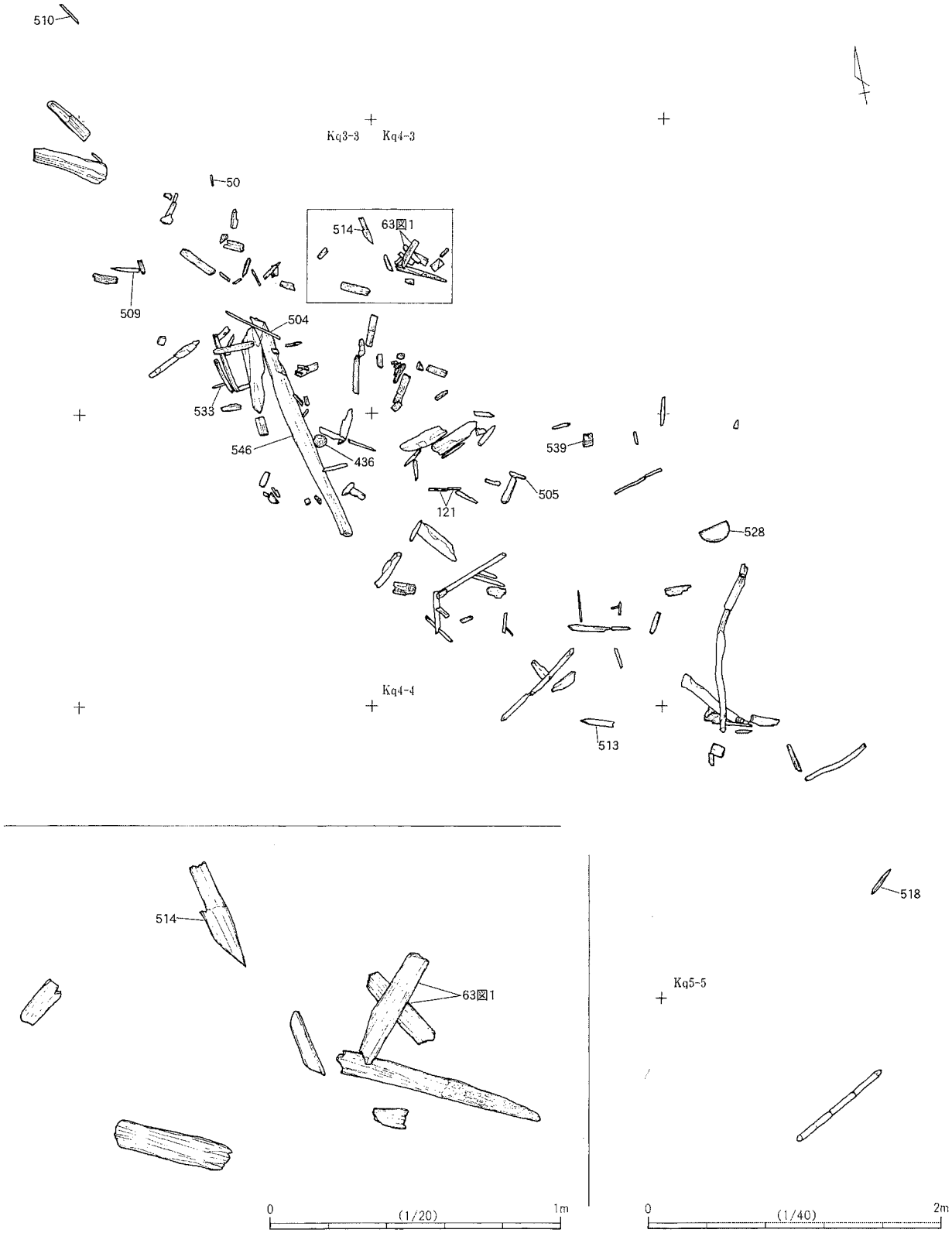
8層　オリーブ黒色粘質シルト(7.5Y2/2)。1～3mm の炭化物を少量含み、未分解質の植物遺体を少量含む。木製品を多く含む。



土層断面図　0　(1/40)　2m

平面図・エレベーション図　0　(1/80)　4m

第29図　2区の古代遺構（3）


510
Kq3-3
Kq4-3
50
514
63図1
509
504
533
546
436
539
505
121
528
Kq4-4
513
514
63図1
0
(1/20)
1m
518
Kq5-5
0
(1/40)
2m

第30図　1号流路

表１　遺構（掘立柱建物・周溝式建物）一覧

1号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
3.8×2.4	2×2	9.12

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-30° -E 柱根の有無	主な重複遺構
3	Kf5-5	37	32	41	円	無	>1号溝
4	Kf5-5	23	19	50	楕円	無	<2号溝、3号溝
5	Kf4-4	30	23	39	楕円	無	
7	Kf4-5	34	33	31	円	無	
8	Kg4-1	34	(26)	53	円	無	
12	Kg4-1	24	(20)	28	円	無	
14	Kg4-1	25	22	19	円	無	
16	Kg5-2	30	27	37	円	無	

2号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
5.6×2.0	2×1	11.2

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-21° -E 柱根の有無	主な重複遺構
23	Kg4-2	39	29	50	楕円	無	>6号周溝式建物、5・10・11号溝
26	Kg3-2	(25)	20	49	楕円	無	
40	Kg4-3 Kg4-4	(50)	40	54	不整	無	3・4号掘立柱建物、5号周溝式建物、4号土坑、10号溝
57	Kg3-5	(30)	(30)	45	円	無	
63	Kg4-5	50	38	51	不整	無	

3号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
4.6×3.4	2×2	15.64

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-6° -E 柱根の有無	主な重複遺構
29	Kg4-3	39	37	42	方	無	>6・10号溝
32	Kg4-3	37	36	26	方	無	<4号掘立柱建物
33	Kg3-3	45	(22)	29	方	無	2号掘立柱建物、5・6号周溝式建物、4号土坑、5・8・11・12号溝
43	Kg4-4 Kg5-4	50	45	38	方	無	
64	Kg4-5	40	38	47	円	無	
68	Kg5-5	47	38	46	長方	無	

4号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
4.4×3.4	2×2	14.96

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-25° -E 柱根の有無	主な重複遺構
28	Kg3-2	24	23	20	円	無	>3号掘立柱建物、6号溝
30	Kg4-3	(37)	33	33	長方	無	
32	Kg4-3	37	36	26	方	無	2・3号掘立柱建物、5・6号周溝式建物、4号土坑、8・10・11号溝
44	Kg4-4	39	25	37	不整	無	
58	Kg3-5	36	25	26	長方	無	
65	Kg4-5	30	27	46	円	無	

5号周溝式建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
2.6×1.5	1×1	3.9

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-26° -E 柱根の有無	主な重複遺構
34	Kg3-3	39	24	40	円	無	2～4号掘立柱建物、6号周溝式建物、4号土坑、8～10号溝
37	Kg4-3	50	30	51	長方	無	
55	Kg3-4	35	(32)	27	方	無	
59	Kg4-4	(28)	30	45	不整	無	

6号周溝式建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
2.8×2.8	1×1	7.84

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-20° -E 柱根の有無	主な重複遺構
38	Kg3-3	32	30	42	円	無	<2号掘立柱建物
42	Kg4-4	43	30	44	円	無	4号掘立柱建物、5号周溝式建物
56	Kg3-5	42	(23)	27	円	有	
67	Kg4-5	35	33	41	円	無	

7号掘立柱建物

( )は残存値

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
2.9×1.4	2×1	4.06

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-17° -E 柱根の有無	主な重複遺構
84	Kl4-4	55	48	85	方	有	<9・10号掘立柱建物
85	Kl4-4	41	50	76	方	有	
88	Kl4-5	47	(31)	69	円	無	8号掘立柱建物
89	Kl4-5 Kl5-5	67	60	63	楕円	無	
92	Km4-1 Km5-1	(70)	48	83	楕円	無	
95	Km5-1	79	47	70	楕円	無	

8号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
3.3×1.4	2×1	4.62

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-13° -E 柱根の有無	主な重複遺構
114	Kl4-4	45	(42)	59	円	有	>9号掘立柱建物
116	Kl3-4	52	45	71	方	有	7・10号掘立柱建物
117	Kl4-5	41	(36)	58	方	無	
120	Kl3-5	47	40	70	楕円	有	
123	Km4-1	65	45	84	楕円	有	
124	Km3-1	47	44	58	方	有	

9号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
2.9×2.8	2×2	8.12

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-14° -E 柱根の有無	主な重複遺構
87	Kl5-5	(50)	48	50	楕円	無	>7号掘立柱建物
89	Kl4-5 Kl5-5	67	60	63	楕円	無	<8号掘立柱建物 10号掘立柱建物
93	Km4-1	(53)	46	57	楕円	無	
97	Km5-1	(60)	52	46	楕円	無	
101	Km4-2	56	53	59	不整	無	
103	Km5-2	65	50	58	楕円	無	
118	Kl4-5 Kl5-5	61	55	71	不整	無	
122	Km4-1	(62)	53	55	不整	無	
126	Km4-2	50	50	45	方	無	

10号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
3.1×1.8	2×1	5.58

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-14° -E 柱根の有無	主な重複遺構
90	Km5-1	58	47	59	方	無	>7号掘立柱建物
91	Km4-1 Km5-1	48	48	57	方	無	8・9号掘立柱建物
99	Km5-1	64	50	63	不整	無	
100	Km4-1 Km5-1	53	50	60	不整	無	
108	Km5-2	(47)	(43)	53	不整	無	
111	Km4-2 Km5-2	65	60	53	円	無	

12号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)	間数	面積 (㎡)
4.9×2.2	2×1	10.78

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-10° -E 柱根の有無	主な重複遺構
133	Km4-5 Kn4-1	84	77	55	方	無	>8号土坑 <7号土坑、32～35・37～39・42号溝
135	Kn3-1	82	62	52	長方	無	
137	Kn4-2	57	56	63	方	無	
139	Kn3-2	85	78	43	方	無	
141	Kn4-3	74	66	53	長方	無	
147	Kn3-3	65	55	50	不整	無	

13号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
4.7×4.0		2×2	18.8

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-73° -W 柱根の有無	主な重複遺構
164	Kn3-4 Kn3-5	65	42	26	長方	無	>10号土坑、45・50号溝 <14号掘立柱建物 15・16号掘立柱建物、2号木棺墓、49・51号溝
168	Kn5-4 Kn5-5	56	46	24	円	無	
170	Kn4-4 Kn4-5	46	(39)	31	円	無	
182	Kn5-5 Ko5-1	58	46	29	楕円	無	
184	Kn3-5 Ko3-1	62	53	26	不整	無	
187	Kn4-5 Ko4-1	(35)	32	20	円	無	
198	Ko5-1 Ko5-2	70	53	33	楕円	無	
202	Ko4-2	45	45	33	方	無	
301	Ko3-1	(42)	(35)	(19)	不明	無	

14号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
5.7×4.6		3×1	26.22

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-66° -W 柱根の有無	主な重複遺構
165	Kn3-4	(40)	45	27	方	無	>13・15号掘立柱建物、2号木棺墓、45・50号溝 16号掘立柱建物、49・51号溝
171	Kn4-4 Kn4-5	41	40	27	円	無	
174	Kn5-5 Ln1-5	49	49	30	方	有	
176	Kn5-5	43	37	27	方	無	
207	Ko3-2	53	52	26	不整	無	
211	Ko4-2	60	57	37	円	無	
214	Ko5-2	53	40	32	長方	有	

15号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
2.9×1.6		2×1	4.64

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-19° -E 柱根の有無	主な重複遺構
192	Ko5-1	58	33	34	楕円	無	>49～51号溝 <14・16・17号掘立柱建物 13号掘立柱建物
195	Ko4-1	56	43	29	楕円	無	
198	Ko4-2 Ko5-2	70	53	33	楕円	無	
201	Ko4-1 Ko5-1	67	40	28	楕円	無	
215	Ko5-2	48	(46)	27	円	無	
217	Ko4-2	50	40	24	円	無	

16号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
3.7×3.6		2×2	13.32

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-74° -W 柱根の有無	主な重複遺構
199	Ko5-2	38	40	30	方	無	>15号掘立柱建物、49、54号溝 13・14・17号掘立柱建物、52・53号溝
202	Ko4-2	45	45	33	方	無	
206	Ko3-1 Ko3-2	43	37	23	楕円	無	
219	Ko4-2 Ko4-3	56	36	33	不整	無	
221	Ko3-2 Ko3-3	72	53	29	不整	無	
226	Ko5-3	78	55	27	不整	無	
230	Ko4-3	48	44	18	方	無	
237	Ko3-3	58	46	30	不整	無	
303	Ko5-2 Ko5-3	90	67	30	楕円	無	

17号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
3.6×3.6		2×2	12.96

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-11° -E 柱根の有無	主な重複遺構
219	Ko4-2 Ko4-3	56	36	33	不整	無	>15号掘立柱建物、53・56号溝 <18号掘立柱建物 16号掘立柱建物、52・54・57号溝
221	Ko3-2 Ko3-3	72	53	29	不整	無	
226	Ko5-3	78	55	27	不整	無	
229	Ko4-3	54	52	33	不整	無	
231	Ko3-3 Ko3-4	64	54	34	楕円	無	
235	Ko5-4	55	66	28	方	無	
240	Ko4-4	47	40	35	方	無	
242	Ko3-4	63	56	20	不整	無	
303	Ko5-2 Ko5-3	90	67	30	楕円	無	

18号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
5.6×2.0		2×1	11.2

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-21° -E 柱根の有無	主な重複遺構
225	Ko5-3 Ko5-4	73	71	31	方	有	>18号掘立柱建物、55・56・60a号溝 60b・62号溝
245	Ko5-5	71	60	43	方	無	
256	Kp5-1	92	76	38	方	無	

19号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
5.5×4.8		3×2	26.4

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-1° -W 柱根の有無	主な重複遺構
257	Kp4-1 Kp4-2	42	39	40	方	無	>60a・60b・66～68号溝、1号井戸、SX1 1号竪穴建物、20号掘立柱建物、14号土坑、59・61・63～65・70号溝
263	Kp3-2	74	58	37	楕円	無	
264	Kp4-2 Kp5-2	39	39	48	方	無	
267	Kp5-3	37	36	34	方	無	
276	Kp5-4	40	39	28	方	無	
280	Kp4-4	49	43	43	不整	無	
286	Kp3-5	57	50	37	方	無	

20号掘立柱建物

桁行×梁間 (m)		間数	面積 (㎡)
1.8×1.8		1×1	3.24

ピット	グリッド	規模 (cm) 長軸	短軸	深さ	平面形	主軸方位 N-1° -W 柱根の有無	主な重複遺構
269	Kp4-3	22	20	41	円	無	>64・65溝 <59・63号溝 19号掘立柱建物、67・70号溝
272	Kp3-4	63	33	33	円	無	
278	Kp4-4	25	22	32	円	無	
281	Kp3-4	30	25	45	不整	無	

表２　遺構（竪穴建物・木棺墓・井戸・不明遺構・流路）一覧

（ ）は残存値

遺構名	グリッド	規模（cm）			主軸方位	時期	主な出土遺物	主な重複・新旧関係	備考	挿図	写真
		長軸	短軸	深さ							
1号 竪穴建物	Kp3-2/3-3/3-4	306	(164)	18	N-1°-E	古代	黒色土器杯	>14号土坑、SX1	61号溝と一体	19	5
1号 木棺墓	Kn4-3/4-4/5-3/5-4	220	182	40	N-13°-E	古墳後期	土師器甕・壺・高杯・杯、黒色土器鉢・杯	<12号掘立柱建物、44・47号溝 >48号溝	表3「9号土坑」に同じ	13・17	1・2・6
2号 木棺墓	Kn3-4/3-5/4-4/4-5	(150)	105	32	N-60°-E	古墳前期	土師器甕・壺・鉢・高杯・器台	<14号掘立柱建物 >45号溝	表3「11号土坑」に同じ	13	2・4
1号 井戸	Kp5-2/4-3/5-3	170	150	84		古墳後期	土師器甕、壺・鉢・杯、黒色土器杯・高杯	<24号溝、68号溝 >60a号溝、60b号溝、62号溝		15・16	2・5
SX 1	Kp3-1/3-2/3-3/3-4/4-2/4-3/4-4	(470)	(280)	39		古墳前期	土師器甕	<1号竪穴建物、土坑14、9、60a号溝	不明遺構	19	
1号 流路	Kq3-2/3-3/3-4/4-2/4-3/4-4/4-5/5-3/5-4/5-5/Kr3-1/4-1/5-1	(860)	258	48	N-27°-E	古代	土師器甕、須恵器杯・木製品			29・30	2・8
2号 流路	Kf3-2/3-3/3-4/4-2/4-3/4-4/5-3/5-4	(530)	42	27	N-65°-W	古代	土師器甕、須恵器壺・椀・杯・皿	>1号溝		10	

表３　遺構（土坑）一覧

（ ）は残存値

遺構名	グリッド	規模（cm）			主軸方位	時期	主な出土遺物	主な重複・新旧関係	備考	挿図	写真
		長軸	短軸	深さ							
1号 土坑	Kf4-2/5-1/5-2	210	(170)	32		古代	土師器椀、須恵器壺、黒色土器皿			10・12	3
2号 土坑	Kg5-1/5-2	282	(210)	43		古代	土師器甕・鍋・椀・杯、須恵器杯				
3号 土坑	Kg5-2/5-3	(70)	50	13		古代	須恵器杯				
4号 土坑	Kg3-4/3-5	112	60	17	N-46°-E	古代	土師器甕、須恵器杯	>10号溝		3	
5号 土坑	Kg5-5/Kh5-1	118	42	14		古代		>13・16号溝		11	
6号 土坑	Kh5-3	(80)	(25)	18		古代					
7号 土坑	Kn4-1/4-2	143	142	15		古代	須恵器杯	>12号掘立柱建物(P137)		27	
8号 土坑	Kn4-1/4-2/5-1/5-2	112	105	22		古代	須恵器杯				2
9号 土坑									表2の「1号木棺墓」に同じ	13・17	1・2・6
10号 土坑	Kn5-4/5-5	220	50	29	N-21°-E	古墳前期		<47号溝		13	4
11号 土坑									表2の「2号木棺墓」に同じ		2・4
12号 土坑	Ko4-5	(100)	70	13		古代				28	
13号 土坑	Kp5-2/5-3	160	(70)	19		古墳前期	土師器甕	<1号井戸 >62号溝		14	
14号 土坑	Kp3-2/3-3	133	68	9	N-64°-W	古墳前期		<1号竪穴建物、61号溝		19	5
15号 土坑	Kp5-2	(190)	(190)	17		古代	土師器甕、須恵器杯、簡状土製品			28	
16号 土坑	Lp1-4	(72)	(15)	24		古墳後期		>17号土坑、62号溝		15・16	
17号 土坑	Kp5-4/Lp1-4	(120)	(60)	15	N-18°-E	古墳前期	土師器甕、黒色土器杯	<16号土坑		19	
18号 土坑	Kp5-4/5-5	128	(170)	12	N-4°-E	古墳後期	土師器甕・壺、黒色土器杯	<19号掘立柱建物、68号溝		15・16	
19号 土坑	Kh3-1	60	60	10	N-57°-E	古代		>16号溝		11	

表4　遺構（溝）一覧

（ ）は残存値

遺構名	グリッド	規模（cm）			主軸方位	時期	主な出土遺物	主な重複・新旧関係	挿図	写真
		長さ	幅	深さ						
1 号溝	Kf4-3/4-4/4-5/5-3/5-4	(530)	67	16	N-23° -E	古代		<2号溝、2号流路	10	
2 号溝	Kf3-5/4-5/5-5/Kg4-1/5-1	(420)	79	25	N-59° -W	古代	土師器甕・鍋・椀、須恵器甕・杯、黒色土器椀・皿	>1号溝	10・12	1
3 号溝	Kg3-1/3-2/4-2	(250)	51	33	N-68° -W	古代	土師器甕・須恵器杯・黒色土器椀	>1号掘立柱建物、4号溝		3
4 号溝	Kg4-2/5-2/5-3	275	47	20	N-59° -W	古代		<3号溝 >6・7号溝	10	
5 号溝	Kg4-2/5-2	(440)	44	9	N-67° -W	古代	須恵器杯	<2号掘立柱建物		
6 号溝	Kg3-2/3-3/4-2/4-3/5-3/5-4	(440)	38	29	N-65° -W	古代	土師器甕・椀、須恵器甕・杯	<3・4号掘立柱建物、7号溝	9	
7 号溝	Kg5-3/5-4	(150)	36	14	N-19° -W	古代	土師器甕、須恵器杯	<3・4号掘立柱建物 >6号溝		
8 号溝	Kg4-4	132	35	22	N-57° -W	古代			10	
9 号溝	Kg3-4	(70)	37	12	N-68° -W	古代				
10 号溝	Kg4-5/Kh4-1	280	32	16	N-67° -W	古代		<3・4号掘立柱建物	10・11	
11 号溝	Kg3-5/4-5	(120)	59	17	N-78° -W	古代	土師器甕、須恵器杯	<2号掘立柱建物、12号溝	11	
12 号溝	Kg3-5	(130)	54	28	N-61° -W	古代	土師器椀	>11・13号溝	10・11	
13 号溝	Kg3-5/4-5/5-5/Kh3-1/4-1/5-1	(520)	36	27	N-76° -W	古代	土師器鍋・椀、須恵器杯	<12号溝 >14号溝		
14 号溝	Kg3-5/4-5/Kh3-1/4-1	(240)	(40)	20	N-67° -W	古代	土師器甕、須恵器杯	<13号溝		
15 号溝	Kh3-1/4-1	(150)	71	11	N-80° -E	古代				
16 号溝	Kh3-1/4-1/5-1	(450)	51	15	N-84° -W	古代	土師器鍋、須恵器杯	<5・19号土坑		
17 号溝	Kh5-1/5-2/5-3	(320)	(50)	15	N-6° -E	古代	土師器甕、須恵器杯		11	
18 号溝	Kh4-1/4-2	120	21	13	N-5° -E	古代				
19 号溝	Kh3-2	(170)	30	11	N-66° -W	古代				
20 号溝	Kh3-2	(120)	28	14	N-68° -W	古代	須恵器杯			
21 号溝	Kh3-2/4-2/5-2/5-3	(450)	70	13	N-72° -W	古代	須恵器杯			
22 号溝	Kh4-3/5-3	(140)	50	20	N-71° -E	古代	土師器甕、須恵器杯			
23 号溝	Km3-2/3-3/4-2/4-3/4-4	(440)	20	8	N-1° -W	古代			27	
24 号溝	Km4-2/4-3	304	83	8	N-9° -E	古代				
25 号溝	Km3-4/4-4	(250)	88	13	N-72° -W	古代				
26 号溝	Km5-3/5-4	(200)	28	8	N-59° -W	古代				
27 号溝	Km4-4/5-4	274	26	8	N-57° -W	古代				
28 号溝	Km4-4/5-4/5-5	(230)	37	6	N-67° -W	古代				
29 号溝	Km4-5/5-5	(370)	39	8	N-62° -W	古代	須恵器甕	>30号溝		
30 号溝	Km4-5/5-5	(210)	24	7	N-75° -W	古代		<29号溝		
31 号溝	Km3-5/4-5/5-5	(580)	58	13	N-67° -W	古代	須恵器杯			
32 号溝	Km3-1/4-1/5-1	(560)	37	10	N-83° -W	古代		>12号掘立柱建物		
33 号溝	Kn3-1/4-1	(290)	31	12	N-69° -W	古代		>12号掘立柱建物		
34 号溝	Kn3-1/4-1/5-1	(570)	49	6	N-67° -W	古代	土師器壺、須恵器杯			
35 号溝	Kn3-2/4-2	(570)	45	12	N-67° -W	古代	土師器椀	>12号掘立柱建物		
36 号溝	Kn4-1	(116)	31	15	N-11° -E	古代		<7号土坑、32・33号溝		
37 号溝	Kn3-2/4-2/5-2	(580)	46	8	N-71° -W	古代	須恵器甕・杯	>12号掘立柱建物、38号溝		
38 号溝	Kn3-2/4-2/5-2/3-3/4-3/5-3	(580)	38	9	N-70° -W	古代		<37号溝		
39 号溝	Kn3-3/4-3/5-3	(570)	42	12	N-67° -W	古代	黒色土器椀	>12号掘立柱建物、40号溝		
40 号溝	Kn5-3	(180)	33	8	N-74° -W	古代		<39号溝		
41 号溝	Kn5-2/5-3	(260)	30	23	N-23° -E	古代		<35～39号溝		
42 号溝	Kn3-3/4-3	237	20	10	N-65° -W	古代		>12号掘立柱建物		
43 号溝	Kn3-3/4-3/5-3	(580)	54	9	N-71° -W	古代	土師器甕・椀、須恵器杯	>1号木棺墓、48号溝		
44 号溝	Kn5-3/5-4	132	41	10	N-81° -W	古代		>1号木棺墓		
45 号溝		(330)	(120)	15	0	古墳前期		<2号木棺墓	13	

遺構名	グリッド	規模（cm）			主軸方位	時期	主な出土遺物	主な重複・新旧関係	挿図	写真
		長さ	幅	深さ						
46 号溝	Kn3-4/4-4	(240)	37	8	N-76° -W	古代		>48号溝	27	
47 号溝	Kn5-4	(180)	51	15	N-76° -W	古代		>1号木棺墓、10号土坑		
48 号溝	Kn4-4/4-5/5-5	(230)	124	15	N-1° -E	古墳前期		<12号掘立柱建物、1号木棺墓、46号溝	13	
49 号溝	Ko4-1/4-2	(320)	88	13	N-80° -E	古墳	黒色土器壺	<13号掘立柱建物		
50 号溝	Kn5-5/Ko5-1/Ln3-5	(220)	(100)	19	N-54° -E	古墳後期	黒色土器杯	<13・15号掘立柱建物		
51 号溝	Ko4-1/5-1	(80)	26	8	N-78° -E	不明			28	
52 号溝	Ko4-3	133	52	8	0	古墳後期				
53 号溝	Ko3-3	(80)	66	15	N-21° -E	不明		<17号掘立柱建物		
54 号溝	Ko3-3	(110)	53	8	N-80° -E	古墳後期		<17号掘立柱建物		
55 号溝	Ko5-5	(110)	(90)	15	N-32° -W	古墳後期		<18号掘立柱建物	15・16	
56 号溝	Ko4-4/4-5/5-5	(220)	(110)	19	N-30° -W	古墳後期	土師器甕・黒色土器杯	<17・18号掘立柱建物		
57 号溝	Ko3-5/4-4/4-5	(240)	95	15	N-40° -E	古墳後期		<17号掘立柱建物		
58 号溝	Ko3-5/4-5/Kp3-1/3-2/4-1	(310)	95	12	N-36° -E	不明	土師器甕		28	
59 号溝	Kp3-1/4-1/4-2/4-3/4-4	(590)	22	13	N-6° -E	古代		<63号溝 >60a・60b号溝、SX1		
60a 号溝	Kp4-1/4-2/4-3/5-1/5-2/5-3	(540)	(180)	23	N-15° -E	古墳後期	土師器甕・杯、黒色土器鉢・杯	<1号井戸、15号土坑、24・36・59号溝 >60b号溝	15・16	4・5
60b 号溝	Kp5-1/5-2/5-3/5-4	(300)	(80)	27	N-11° -E	古墳後期	土師器甕、黒色土器杯	<1号井戸、15号土坑、24・36・59・60a号溝		
61 号溝	Kp3-2/3-3/3-4	380	30	28	N-1° -E	古墳後期		>14号土坑	19	5
62 号溝	Kp5-1/5-2/5-3/5-4/Lp1-1/1-3/1-4	540	60	42	N-2° -W	古墳前期		<1号井戸、13・16・17号土坑、60a・60b号溝	14	
63 号溝	Kp4-3/4-4	161	48	13	N-11° -W	古代	土師器壺・甕	>20号掘立柱建物、59・67号溝	28	
64 号溝	Kp3-3/3-4	(120)	48	7	N-63° -E	古墳後期	土師器甕	<20号掘立柱建物、61号溝 >65号溝	15・16	
65 号溝	Kp3-3/3-4/3-5	(390)	79	10	N-13° -E	古墳後期	土師器甕、黒色土器杯	<20号掘立柱建物、64・69号溝 >67号溝		
66 号溝	Kp3-5	(50)	43	10	N-68° -W	不明		<19号掘立柱建物		
67 号溝	Kp3-4/3-5/4-3/4-4/4-5/5-3/5-4/5-5	(260)	85	13	N-14° -E	古墳後期	土師器甕	<63・65号溝	14・16	
68 号溝	Kp5-3/5-4/5-5/Lp1-5	(530)	46	7	N-11° -W	古代	土師器甕	<19号掘立柱建物> 1号井戸、18号土坑、60a号溝	28	
69 号溝	Kp3-5/4-5/5-5	331	46	12	N-78° -W	古代	須恵器杯	>65号溝		
70 号溝	Kp4-4	(70)	21	7	N-52° -W	古代		<63号溝 >59号溝		
71 号溝	Kp3-4	(110)	72	6	N-6° -W	不明			15	
72 号溝	Kp5-5	(100)	47	7	N-7° -W	古墳後期		<18号土坑		
73 号溝	Kp4-1	(40)	37	13	N-68° -W	古代			28	
74 号溝	Kp3-5/4-5/5-5/Kq3-1/4-1/5-1/Lq1-1	(550)	63	9	N-75° -W	古代	土師器甕	>75号溝	29	
75 号溝	Kq4-1/5-1/3-2/4-2/Lq1-1	(620)	67	15	N-83° -E	古代	土師器装飾器台、須恵器杯、黒色土器杯	<74号溝		

第Ⅳ章　遺　　物

空毛遺跡から出土した遺物は，古墳時代前・後期，古代に属する。当地域の古墳時代以降の遺跡としては遺構出土資料が多く，遺構の帰属時期を明らかにする上で良好な資料が得られた。はじめに器種分類を提示し，分類に基づいて調査区ごとに遺構出土遺物，遺構外出土遺物の順で概要を記す。詳細は，遺物観察表を参照されたい。

1　器種分類

分類は，器種ごとに器形による区別をＡＢＣＤ，細部の形状による区別を１２３４とし，これらを組み合わせて表記した。ただし，有台杯と長頸瓶は法量，古代の土師器甕は山三賀Ⅱ遺跡の分類（坂井 1989）に準じて成形方法も加味している。なお，古墳時代前期の遺物は，出土数が少ないため分類はしていない。

（1）古墳時代後期（第 31 図）

ａ土師器　器種は，壺，甕，杯，高杯がある。

壺　Ａ類無段口縁壺，Ｂ類有段口縁壺，Ｃ類短頸壺の３類に分類した。胴部は，いずれもミガキ調整する。

甕　Ａ～Ｄの４類に分類した。口径 20 ㎝前後で胴張り形をＡ類，胴部筒状となるものをＢ類とし，それぞれ口縁部形状で丸縁口縁の１類，摘み上げ口縁の２類に細分した。Ｃ・Ｄ類は，口径 15 ㎝前後の小形品で，Ａ類と同器形をＣ類、鉢形をＤ類とした。調整は，いずれも口縁部ヨコナデ，胴部ハケメまたはナデである。

杯　この時期の無台の供膳器種は，杯または椀とされるが，ここでは杯に統一しＡ～Ｅの５類に分類した。丸底で外傾口縁をＡ類，外反口縁をＢ類，摘み上げ状口縁をＤ類、内湾口縁をＥ類とし，平底で椀形をＣ類とした。ミガキ調整を基本とし，ハケメのみのものは稀である。Ｄ類は，須恵器模倣杯と推測している。

ｂ黒色土器　内面黒色処理されるものを黒色土器とした。器種は，杯，高杯，鉢，直口壺，瑤がある。直口壺と瑤は，須恵器模倣器種であろう。

杯　Ａ～Ｆ類に分類した。分類は，破片が多いため基本的に口縁部の形状によった。口縁部と胴部の境で屈曲するもので外傾口縁をＡ類，外反口縁をＢ類，外反口縁で口縁部と胴部の境が強調され稜をもつものをＣ類，口縁部が直線気味に立ち上がるものをＤ類，須恵器模倣杯をＥ類，土師器Ｅ類の内面黒色処理されたものをＦ類とした。Ｅ類は口縁部の形状で２類に細分した。調整は，ミガキが基本だが，Ｂ・Ｃ類は胴部ハケメが定量ある。

（2）古代（第 32 図）

ａ須恵器　器種は，無台杯，有台杯，折縁杯，高杯，横瓶，長頸瓶，短頸壺，鉢，甕がある。

無台杯　丸底をＡ類，平底をＢ類，椀形をＣ類とし，それぞれ内湾・外傾口縁１類，外反口縁２類に細分した。

有台杯　口径 12 ㎝前後，器高指数（器高/口径×100）35 以下の有蓋浅身をＡ類，口径 15 ㎝前後で器高指数 40 以上の有蓋深身をＢ類，口径 11 ㎝前後で器高指数 40 以上の無蓋深身をＣ類とし，口縁部の形状差で細分した。

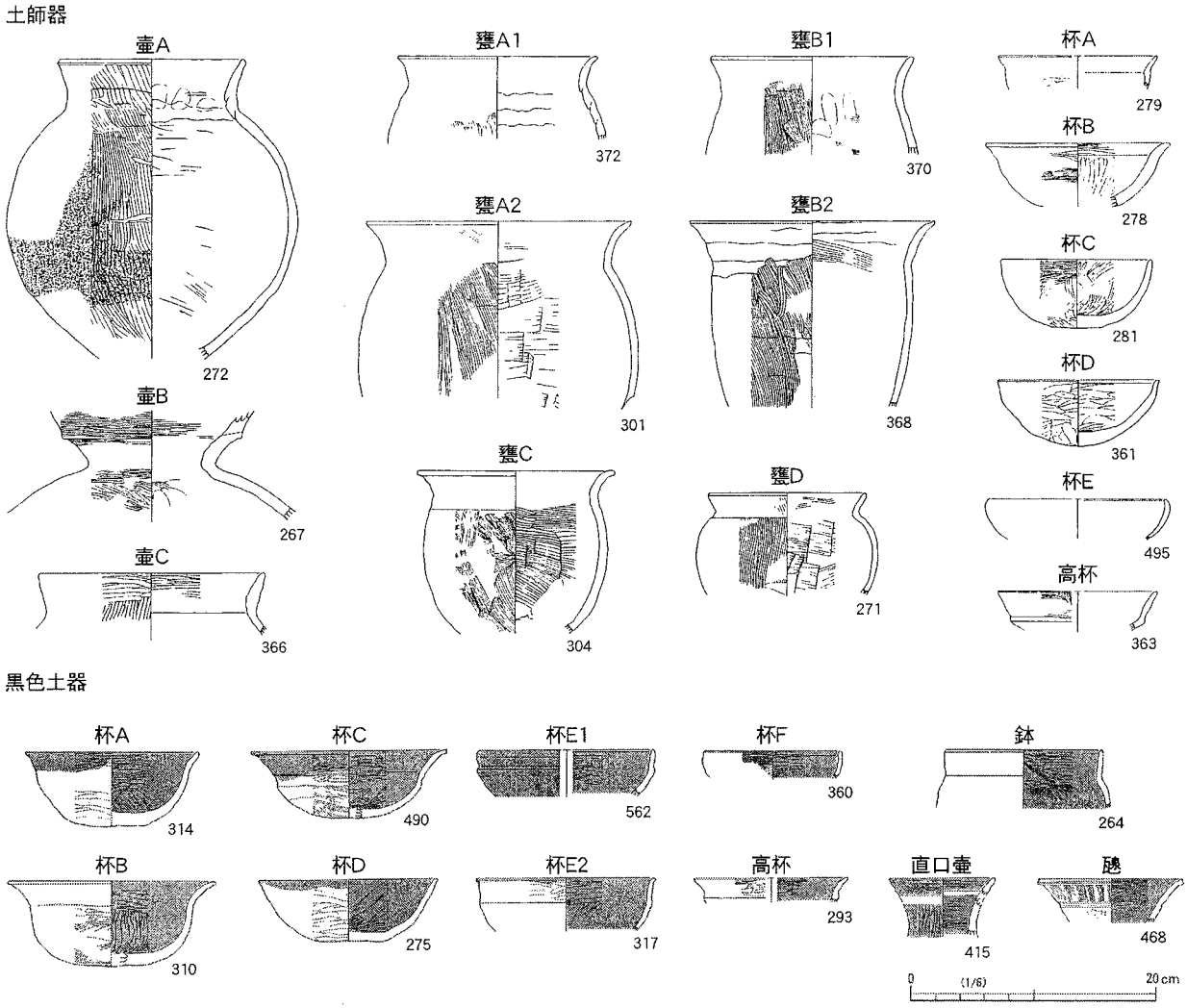
折縁杯　胴部の形状で，杯形をＡ類，椀形をＢ類，皿形をＣ類，盤形をＤ類とした。

長頸瓶　口径値で分類し、口径 10 ㎝以上をＡ類，口径５㎝前後をＢ類とした。

ｂ土師器　器種は，椀，皿，甕，鍋，筒状土製品がある。

椀　器高指数 30 未満をＡ類，器高指数 30 以上をＢ類とし，内湾・外傾口縁を１類，外反口縁を２類に細分した。

甕　長胴甕をＡ類，小形甕をＢ類とし，ロクロ・タタキ成形を１類，輪積成形でハケメ・ケズリ調整を２類，



第31図　器種分類図1 古墳時代後期

丸底で口縁部ロクロ成形，胴部タテハケメ調整を３類とした。３類は，いわゆる西古志型甕（坂井 1990）である。

ｃ黒色土器　椀・皿がある。椀は，内面黒色処理を基本とし，土師器椀同様器高指数でＡ・Ｂ類に，口縁部の形状で１・２類に分類した。皿は，内外面黒色処理され，入念なミガキ調整がなされる。

２　１区出土の遺物（第 33～44 図）

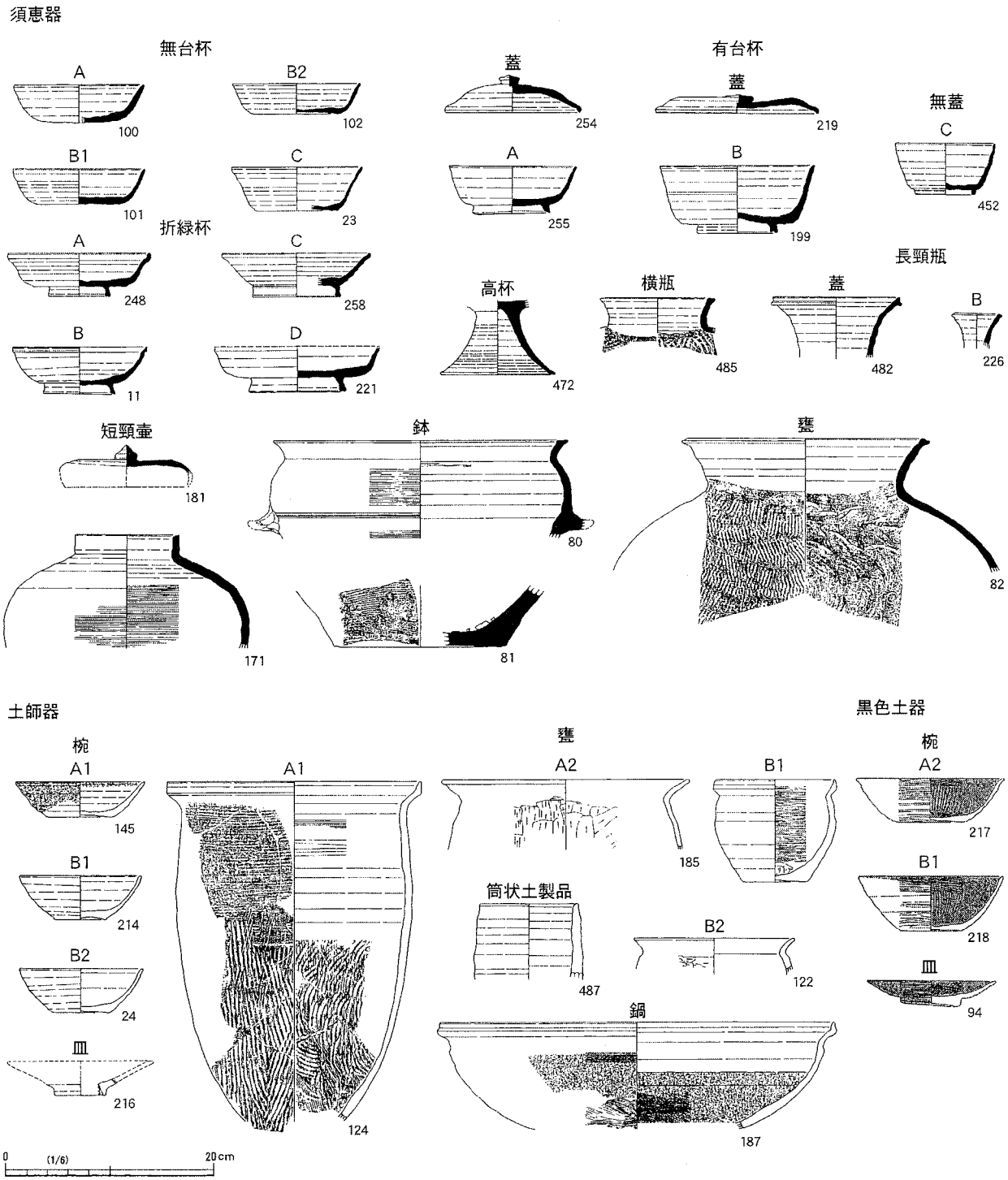
１号掘立柱建物　図示した須恵器無台杯は，佐渡小泊窯群産で，七社編年（笹澤 2011）の５～６段階である。

２号掘立柱建物　須恵器杯類は，すべて小泊窯群産で七社５～６段階である。土師器椀は，Ａ１類２点，Ｂ１類１点で，坂ノ沢Ｃ編年（渡邊 2001）４期の 10 号土坑資料に対比できる。土師器甕７は，厚手の作りである。

３号溝（２号掘立柱建物雨落ち溝）　須恵器折縁杯Ｂ類１点，小泊窯群産無台杯４点(12～15)，黒色土器椀 1 点，土師器甕Ａ１類２点がある。折縁杯は，道婦窯（小林 2004）に，無台杯は，七社６段階に比定される。

２号溝　須恵器杯類は，すべて小泊窯群産で七社６段階である。土師器椀・黒色土器椀は，すべてＢ類でＢ２類が多い。坂ノ沢Ｃ４・５期の 10 号土坑または１号竪穴資料に比定される。土師器甕 38，鍋 39 はいずれも厚手で，38 は口縁部断面形がＳ字状となる。

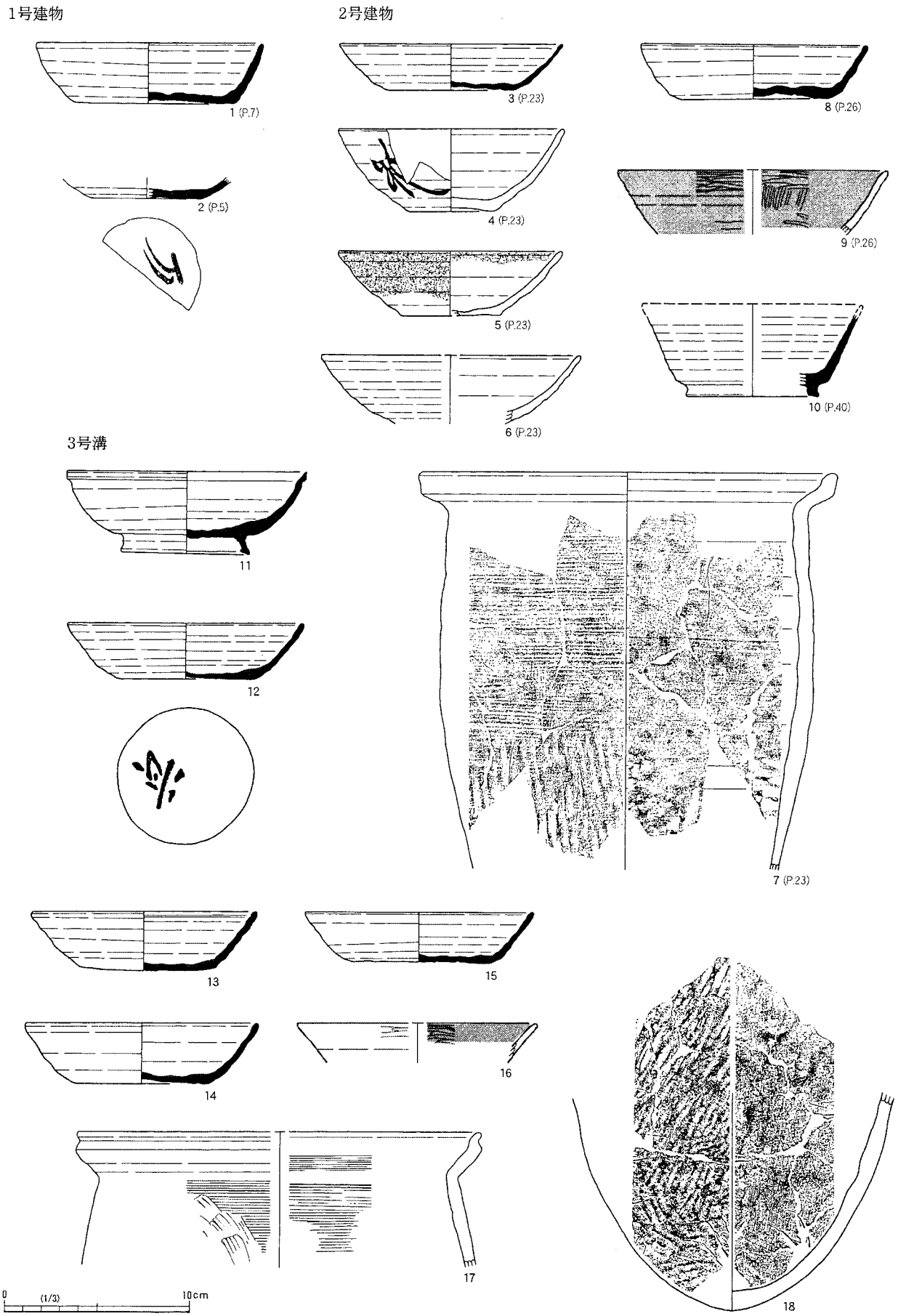
４号掘立柱建物　41 は，在地窯産で馬上３号窯（戸根 1986）～狼沢２号窯（中川・土井・川上 1973）に比定される。



第32図　器種分類図2 古代

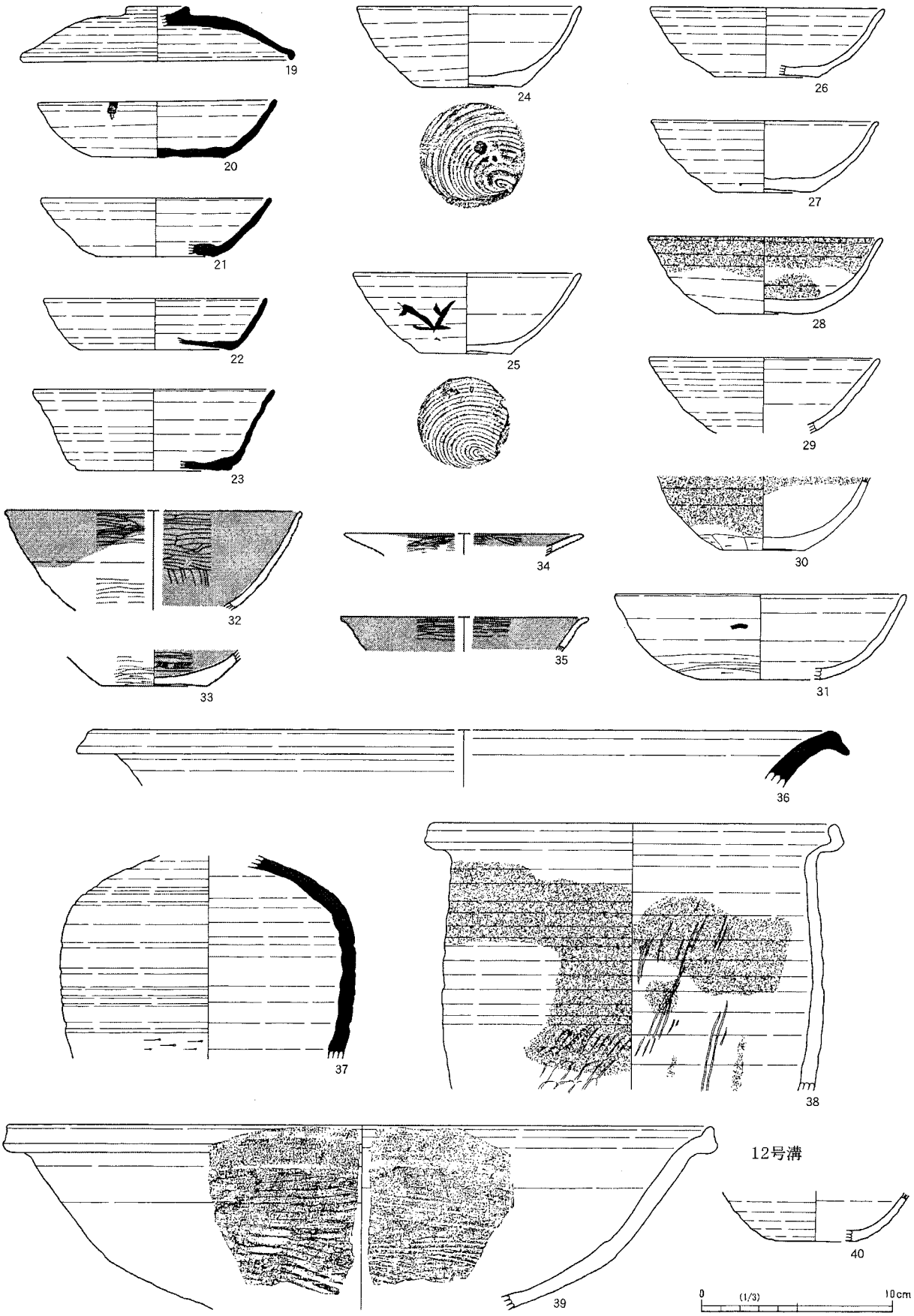
5号溝（4号掘立柱建物周溝）　43は，在地窯産で馬上3号窯～狼沢2号窯に比定される。椀形を呈し，底部の切り離しがロクロ左回転のヘラキリによるもので，小泊窯群の製品に類似する。

13 号溝（3号掘立柱建物周溝）　小泊窯群産須恵器杯類7点(48･50～55)，在地窯産須恵器杯類3点，土師器椀1点，鍋1点がある。小泊窯群産は，七社5段階に比定される。56 は，43 同様小泊窯群製品に類似する。49は，糸切底の有台杯で，阿賀北地方では少ない。58の鍋は，厚手である。

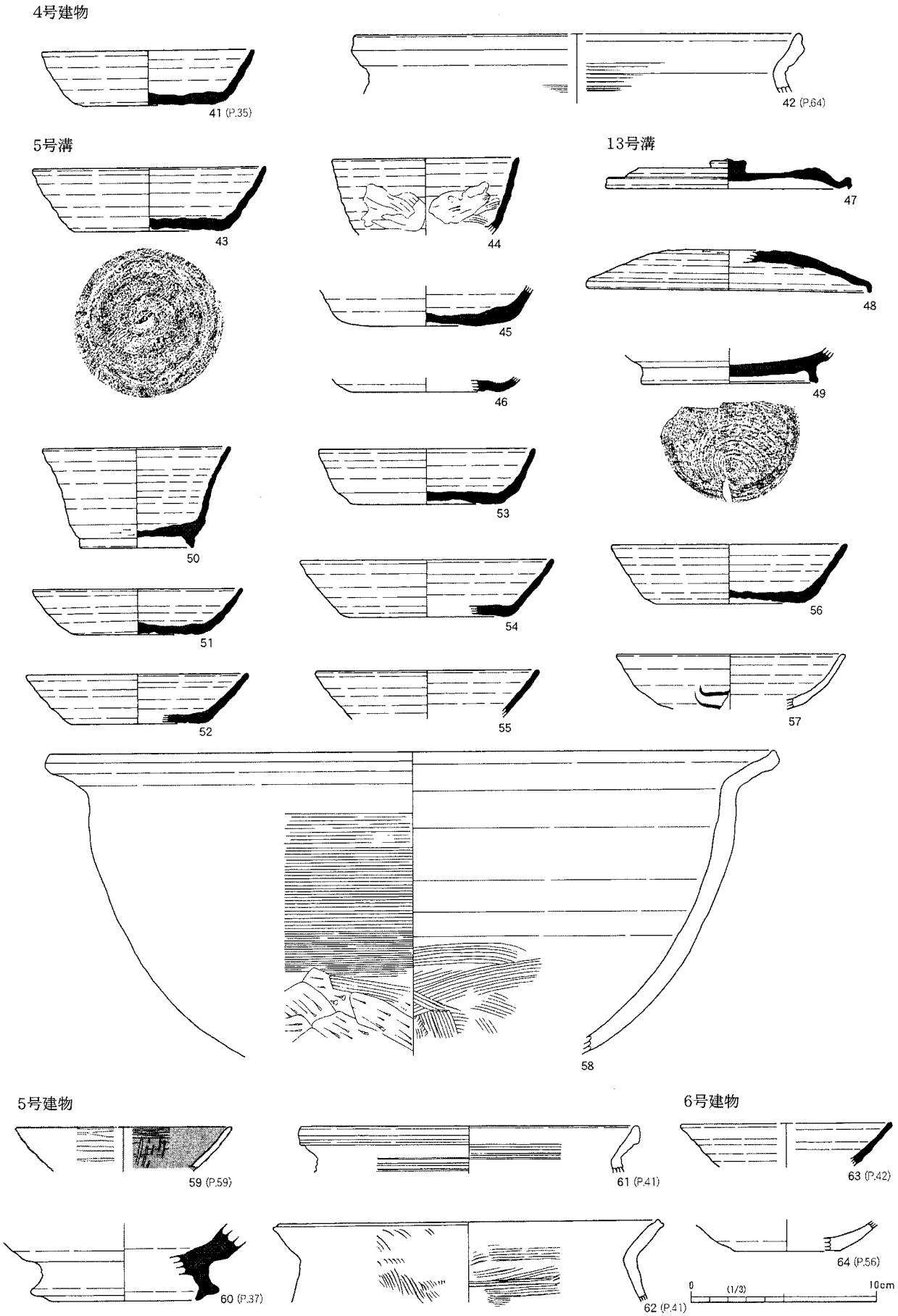


第33図　1区1・2号建物及び関連遺構出土遺物

2号溝



第34図　1区2号建物関連遺構出土遺物



第35図　1区3・4・5・6号建物及び関連遺構出土遺物

５号周溝式建物　ハケメ調整される土師器須恵器甕Ａ２類 62 が時期的に注目される。

６号周溝式建物　63･64 は，小片で遺構に伴わない可能性がある。63 は，七社６段階頃に比定される。

６・７号溝（５・６号周溝式建物周溝）　在地窯産須恵器杯４点，小泊窯群産須恵器杯類５点，土師器椀１点，土師器甕Ａ１類４点，Ｂ１類１点，須恵器鉢２点，須恵器甕１点がある。65～68 は高山寺窯，69～73 は，七社２・３段階に比定できる。75～77 の土師器甕Ａ類は，いずれも薄手で口縁部は弱く摘み上げられる。80 の取手の付く須恵器鉢は，貝屋窯（川上 1982）などに類例があるが出土例は少ない。

14 号溝（５・６号周溝式建物周溝）　84･86・87 は，６・７号溝資料より新しく 13 号溝に伴うものであろう。84 は，金属器を意識したものと考えられ道婦窯に比定できようか。86 は，七社５段階に比定できよう。

１号土坑　供膳具に須恵器が伴わず，土師器椀Ｂ２類主体の組成である。坂ノ沢Ｃ５期に比定できようか。94 は，内外面黒色処理されるベタ高台の皿で，県内では阿賀北地方に主体的に分布する特徴的な器種である。

２号土坑　在地窯産須恵器杯類６点(97・98・100～103)，小泊窯群産須恵器杯類 10 点(96･99･104～111)，土師器椀Ｂ類４点，長頸瓶Ｂ類１点，土師器甕Ａ１類２点(118･119)，Ａ３類１点，Ｂ１類１点，Ｂ２類２点(122・123)，鍋１点がある。須恵器供膳具の在地窯産と小泊窯群産の比率は，６・７号溝の組成に類似する。時期もおおむね一緒だが，小泊窯群産の 109～111 は明らかに新しく，破片資料であることから混入であろう。土師器椀 112，113 は，器高指数 36 を超える深身椀で，上記の須恵器供膳具との共伴に違和感があるが，寺道上遺跡（渡邊･山田･田中 2001）で古手の浅身土師器椀に同様の深身椀（報告書図版 17－78・79）が伴うので，同時期の所産と捉えた。なお，117 の西古志型甕の出土は市内初例で，隣接地では山三賀Ⅱ遺跡に２点ある。

４号土坑　124 は，在地窯産で高山寺窯に比定される。125・126 は，土師器甕Ａ1 類で，薄手で口縁部をシャープに摘み上げまたは面取りする。

17 号溝　128･129 は，在地窯産で，口径 12 ㎝以下の小形品である。道婦窯に比定される。

21 号溝　135 は，小泊窯群産で有台杯Ｃ２類としたが，金属器模倣品の可能性が高い。

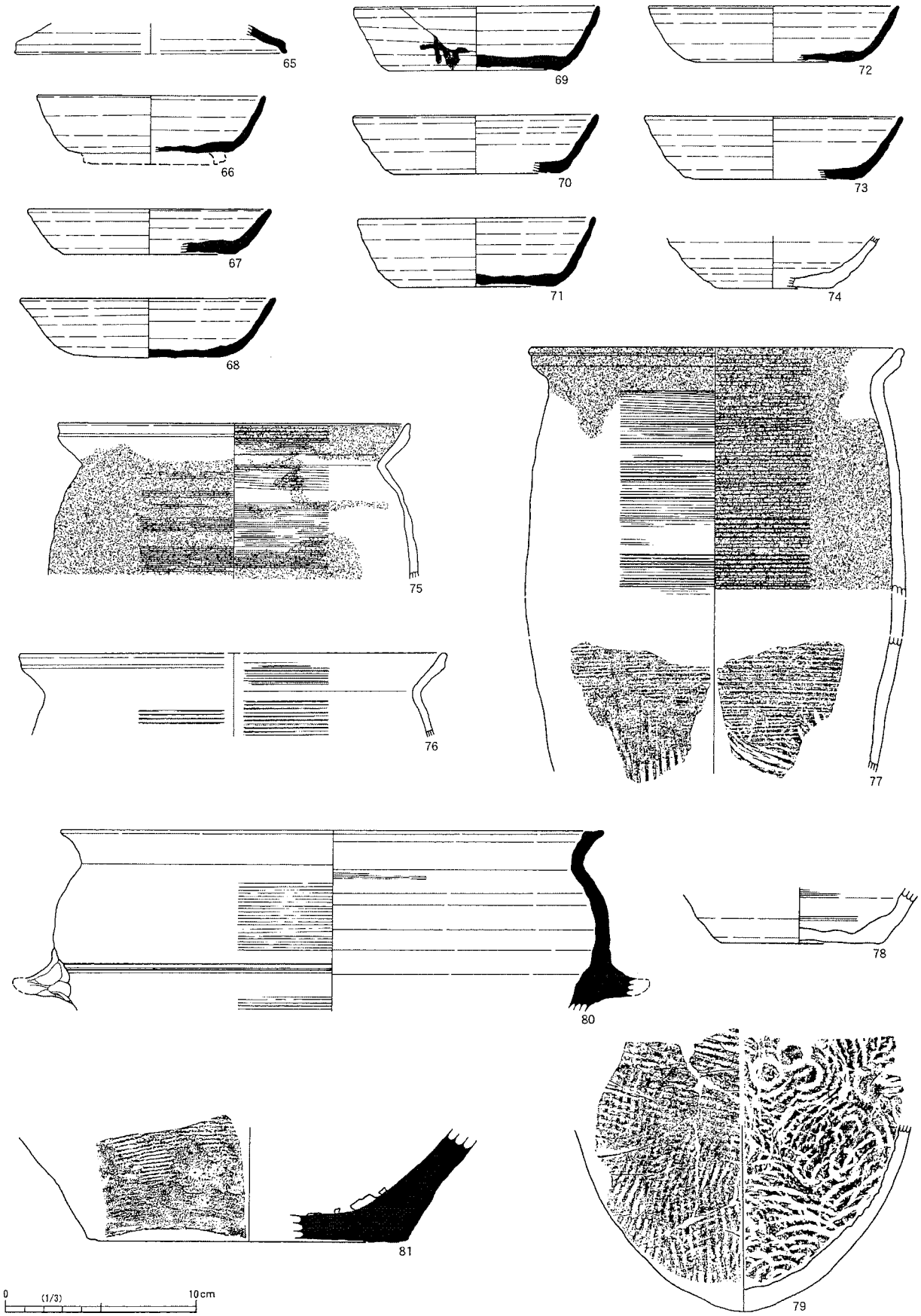
ピット出土遺物　１つのピットから複数個体遺物が出土した遺構は，P11，P22 がある。P11 は，七社５段階の小泊窯群産無台杯２点，P22 からは坂ノ沢Ｃ４期の土師器椀２点，黒色土器椀１点が出土している。P22 は２号掘立柱建物柱穴 P23 と重複するが，遺物の特徴に差はない。

２号流路上層　遺物量は多い。在地産須恵器杯類５点，小泊窯群産須恵器無台杯４点，土師器椀５点，皿１点，黒色土器椀１点，土師器甕Ａ１類２点，Ｂ類１点，須恵器短頸壺１点，甕１点を図示した。151～153 は高山寺窯～馬上３号窯，154・155 は狼沢２号窯～道婦窯，156～159 は七社６段階に比定される。土師器椀はＡ２類とＢ１類があり，法量・器形から坂ノ沢Ｃ４期内に収まる。土師器甕Ａ類は厚手，Ｂ類は口縁部の摘み上げが強調され，170 の断面形はＳ字状となる。また，この時期の須恵器大甕 172 の存在は注目される。

２号流路下層　在地窯産須恵器杯類(175～177)と小泊窯群産須恵器杯類(173･174･178～180)の比率が６・７号溝，２号土坑に近似し，土師器甕Ａ２類があるなど，上層資料より古相を示す。須恵器杯類は，178･180 が七社５段階，それ以外がおおむね高山寺窯～馬上３号窯，七社４・５段階に比定できよう。

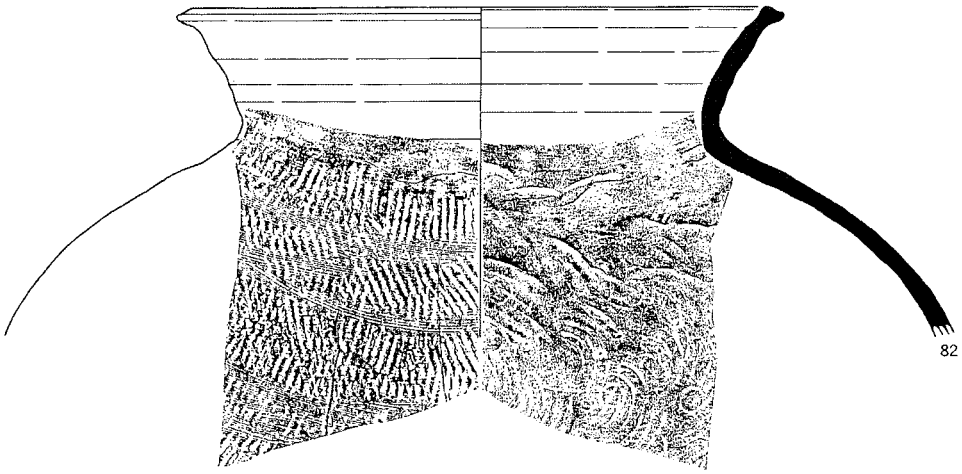
遺構外　大半が包含層からの出土である。遺構出土遺物に見られないものに，皿状を呈する小泊窯群産無台杯 210・211，折縁杯Ｄ類 221 がある。210・211 は外傾度が強く新しい様相を示すが，厚手あることから七社４段階を下ることはないであろう。また，墨書土器が幾つかあるが，204 が「目」と読めるならば，「少目御館米五斗」の木簡を出土した蔵ノ坪遺跡（飯坂ほか 2002）との関連が考えられようか。

6・7号溝

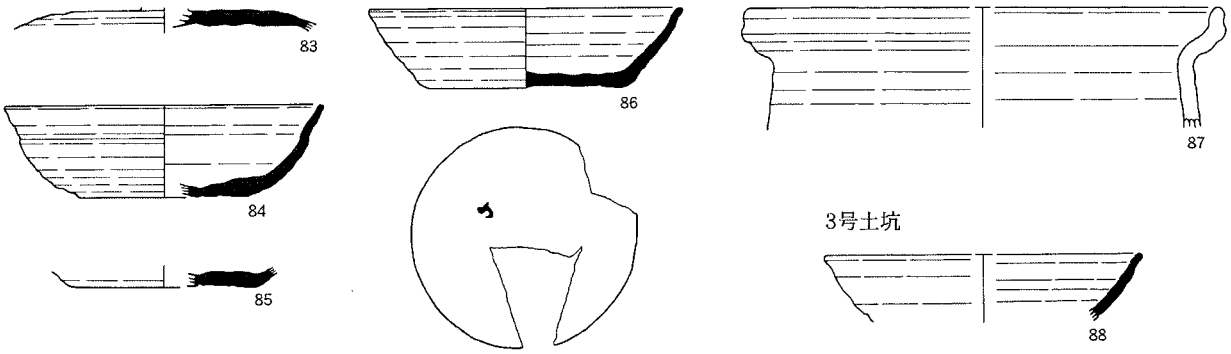


第36図　1区5・6号建物関連遺構出土遺物

6・7号溝

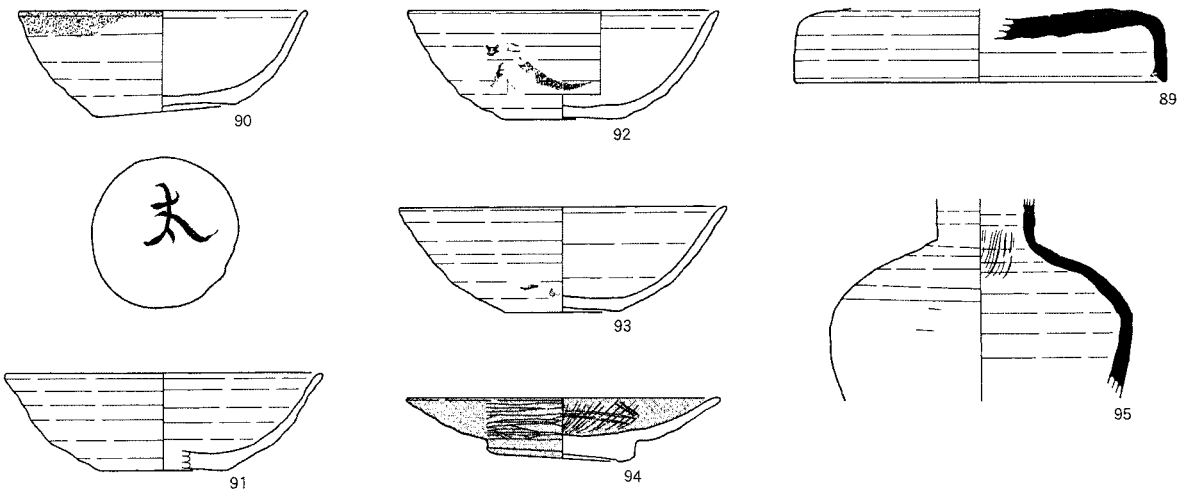


14号溝

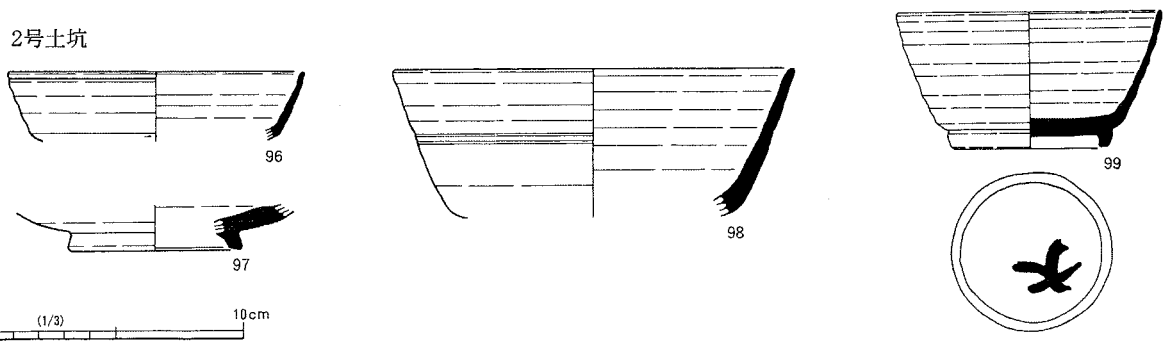


3号土坑

1号土坑

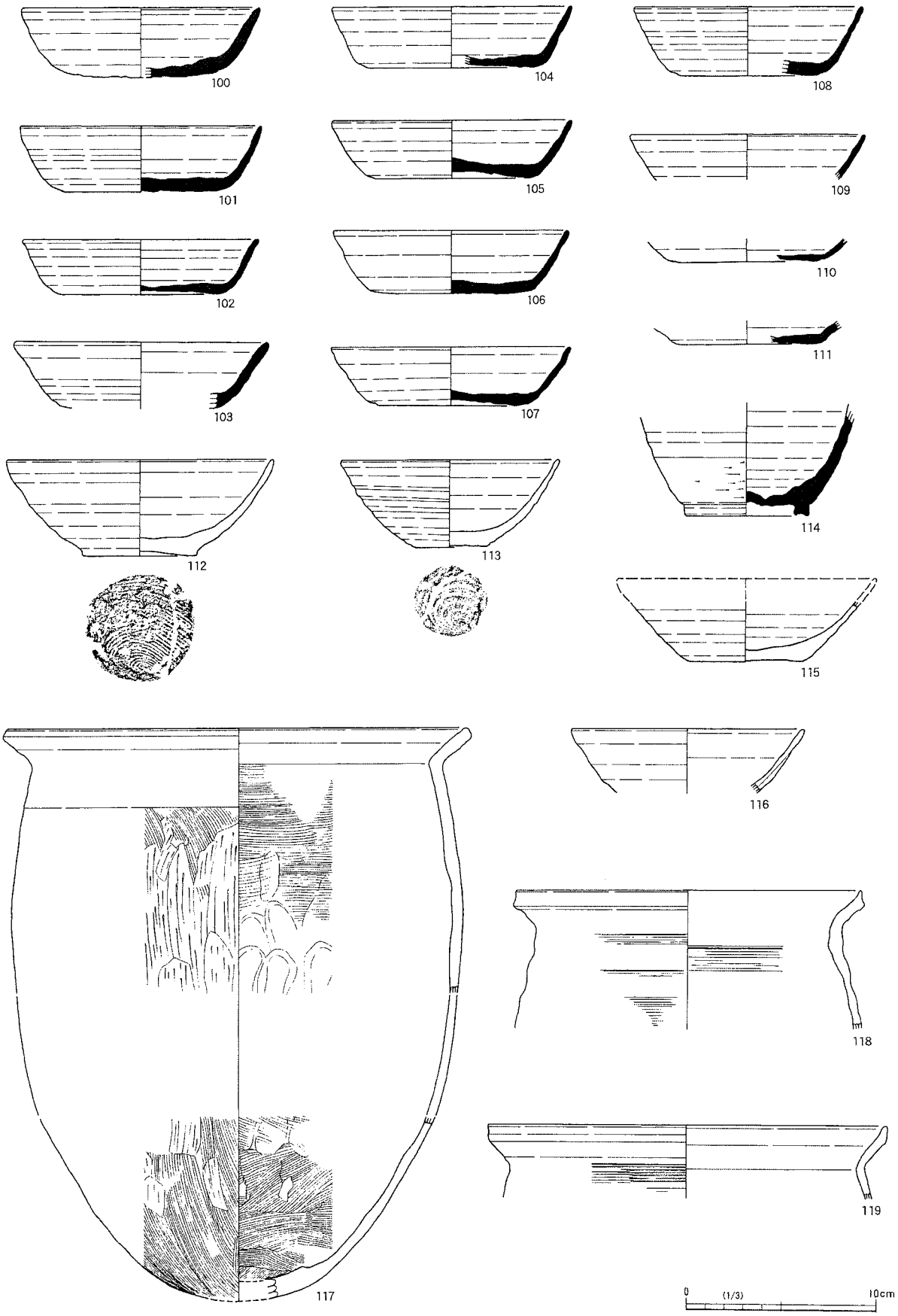


2号土坑



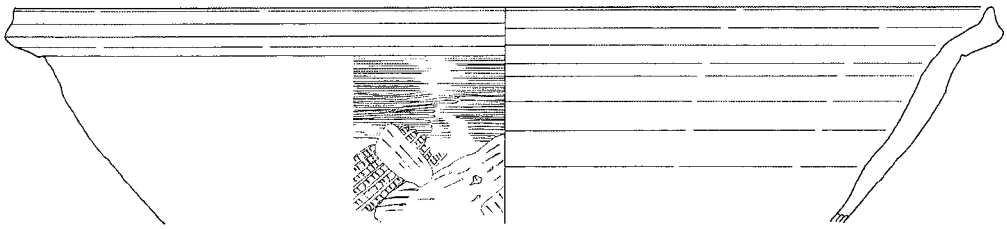
第37図　1区5・6号建物関連遺構及び土坑出土遺物

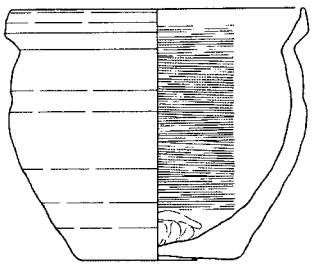
2号土坑

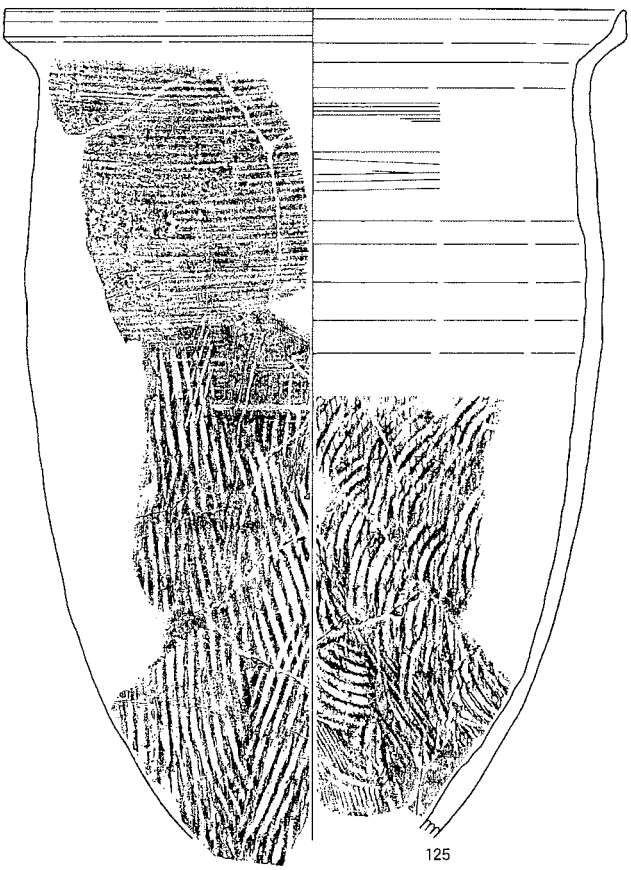


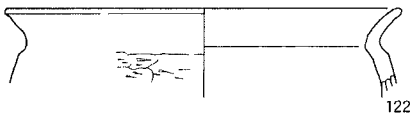
第38図　1区土坑出土遺物

2号土坑

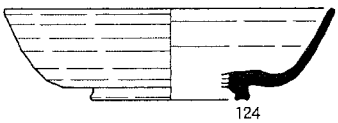


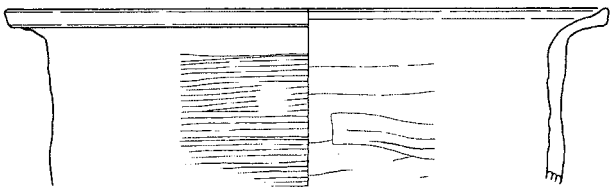


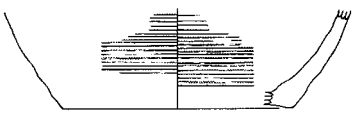




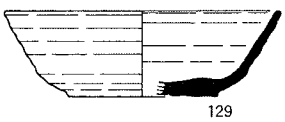
4号土坑

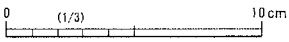




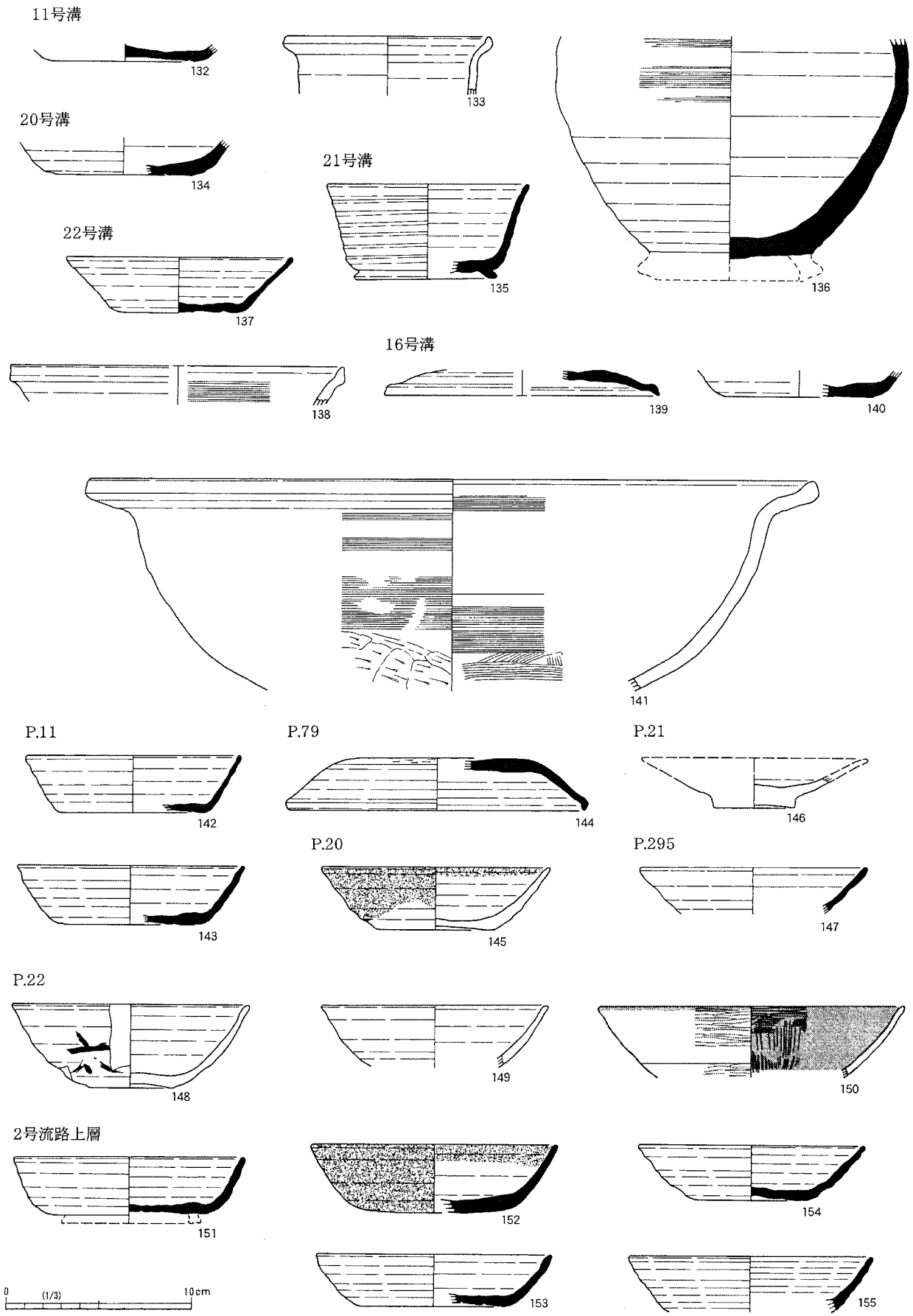


17号溝



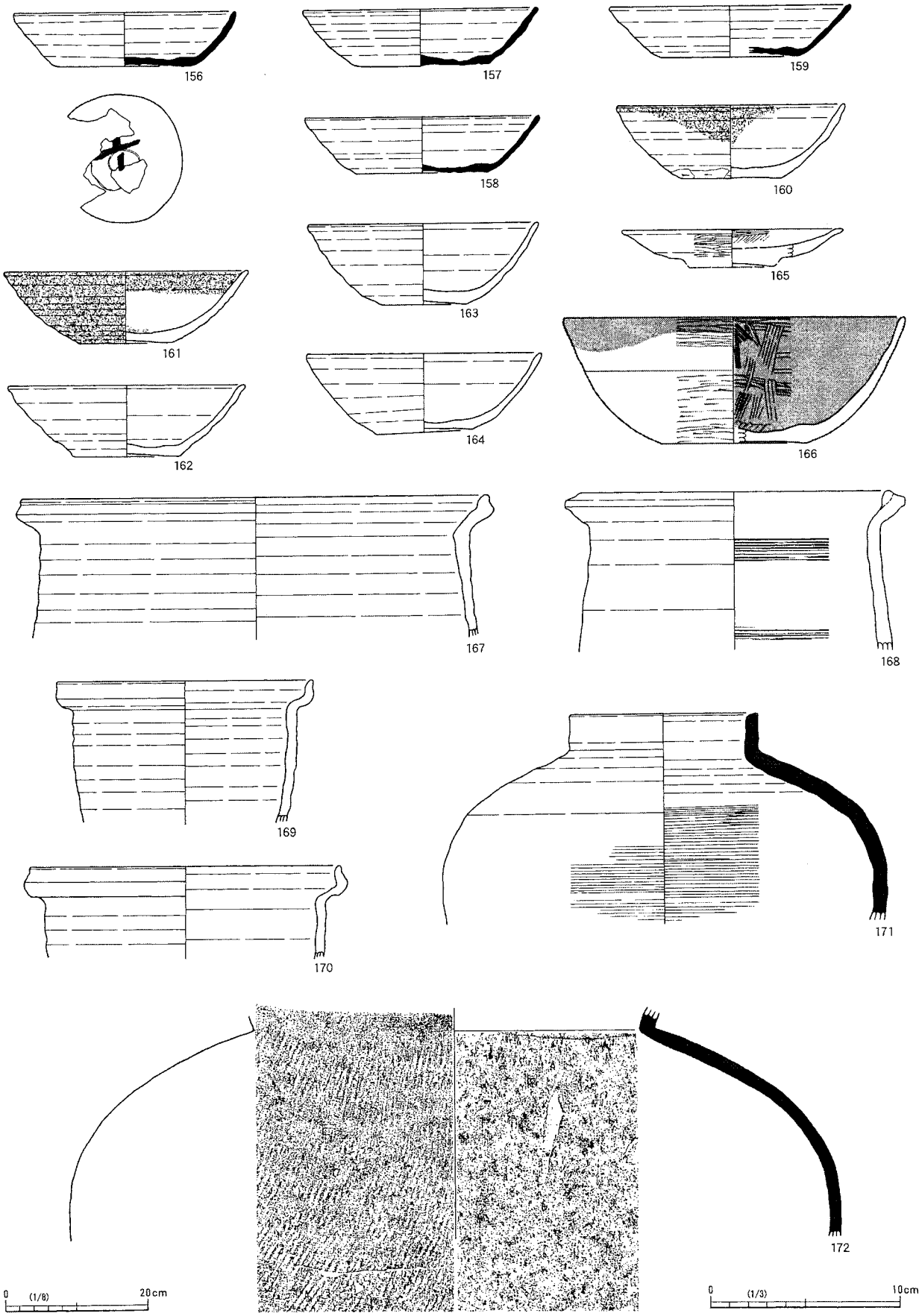


第39図　1区土坑, 溝出土遺物



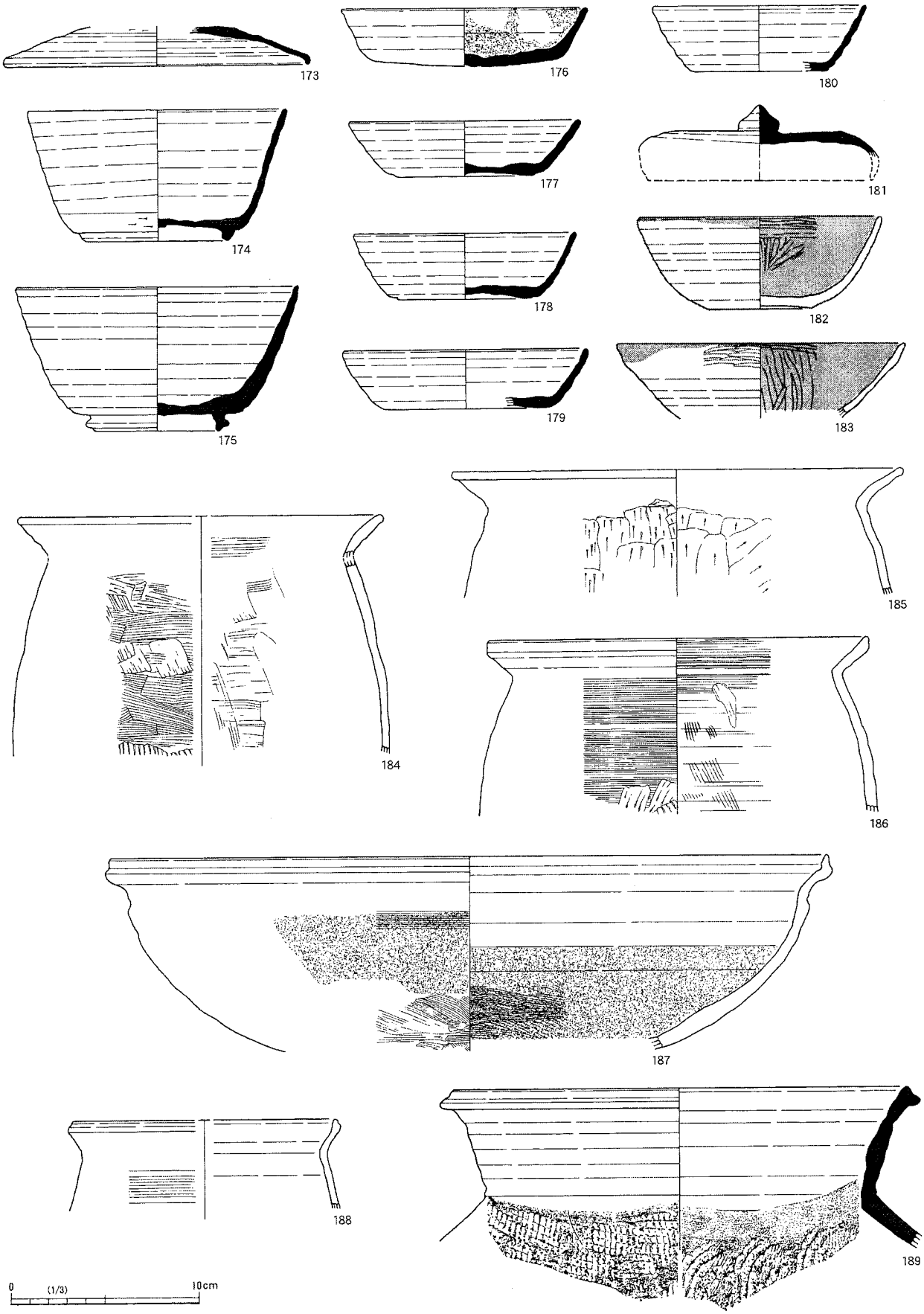
第40図　1区溝，ピット，流路出土遺物

2号流路上層



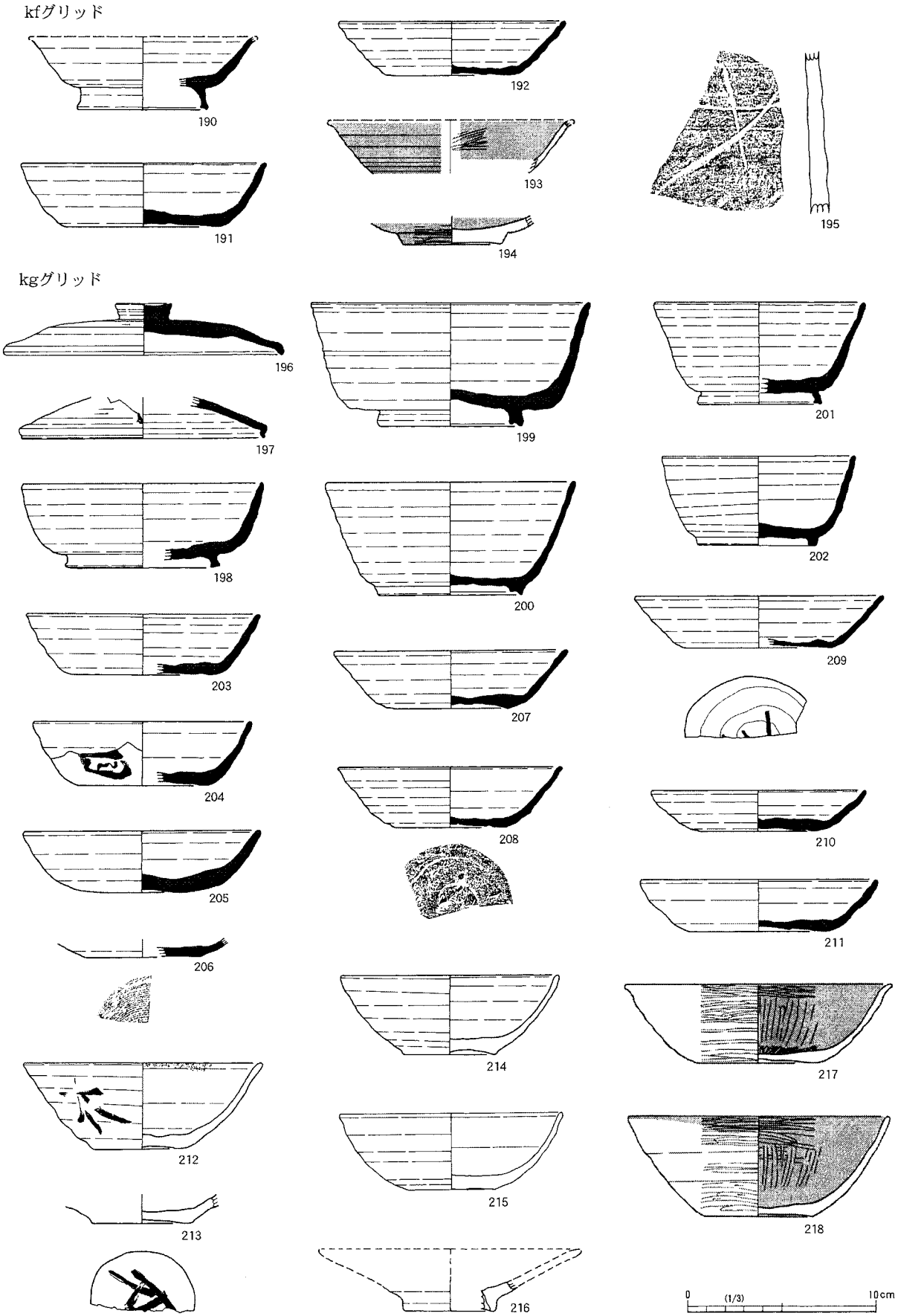
第41図　1区流路出土遺物(1)

2号流路下層

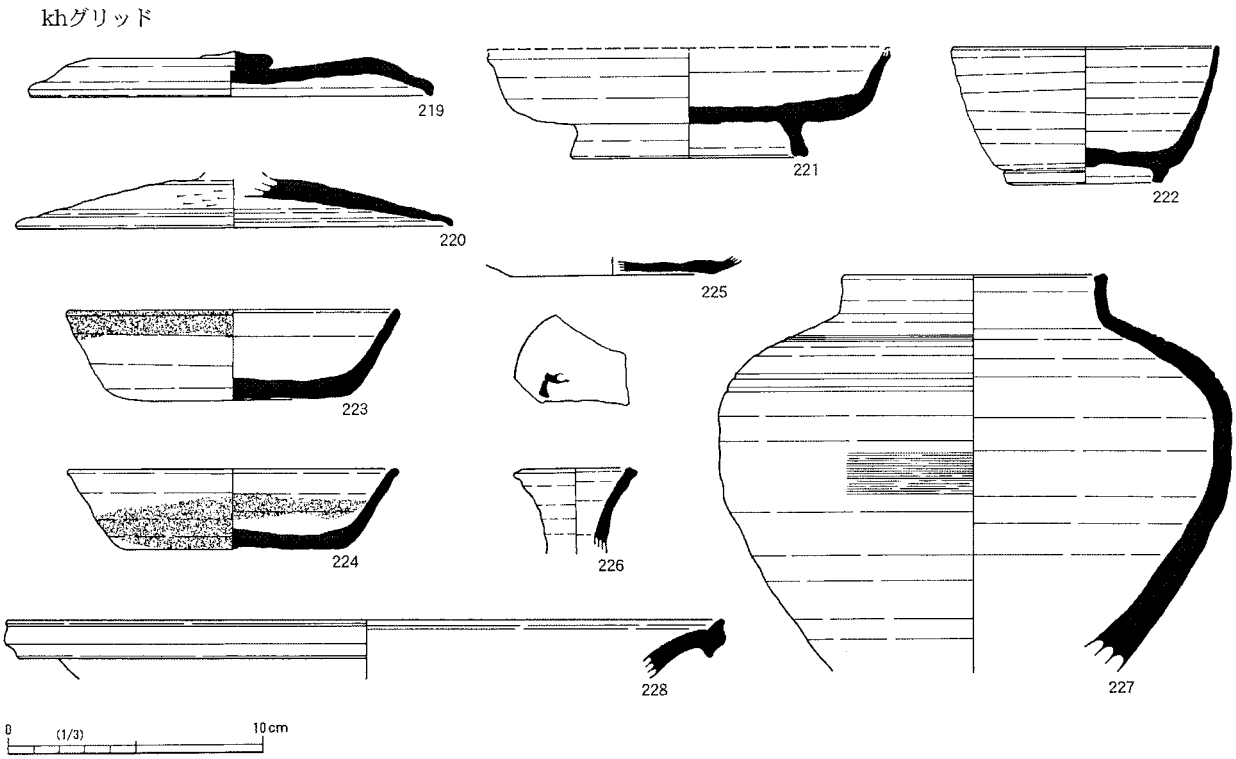


第42図　1区流路出土遺物(2)

kfグリッド



第43図　1区包含層出土遺物(1)



第44図　1区包含層出土遺物(2)

3　2区出土の遺物（第45～58図）

1号竪穴建物　古墳時代後期の土器が多いが，C14炭素年代測定の結果と遺物の出土状況を踏まえれば，遺構は古代以降と捉えられる。229は細片であり，遺物での詳細な時期比定はできない。

7号掘立柱建物検出面　遺構検出面上の包含層から一括出土したもので，出土位置から本遺構に伴うものと判断した。ただし，9・10号掘立柱建物と重複しており，一部は混入の可能性がある。供膳具は，在地窯産須恵器主体である。233・234は高山寺窯，235は七社3段階に比定できよう。236・237は9・10号建物に伴うか。

8号掘立柱建物検出面　遺構検出面上の包含層から出土したものであるが，一括性に欠ける。243の土師器甕は，薄手で摘み上げがシャープであり，底部ヘラキリの242とともに遺跡内の同器種の中では古相を示す。

9号掘立柱建物検出面　7・8号掘立柱建物と重複し，柱穴の新旧関係から当建物が新しいが，遺物の特徴に大きな差はない。馬上3号窯に比定される須恵器折縁杯248と，小泊窯群産須恵器無台杯249が新しい特徴を示す。

10号掘立柱建物検出面　7・9号掘立柱建物と重複し，柱穴の新旧関係等から当建物が一番新しい。在地産窯須恵器255は高山寺窯～馬上3号窯に，小泊窯群産256が七社2～3段階，257が同4段階に位置付けられる。

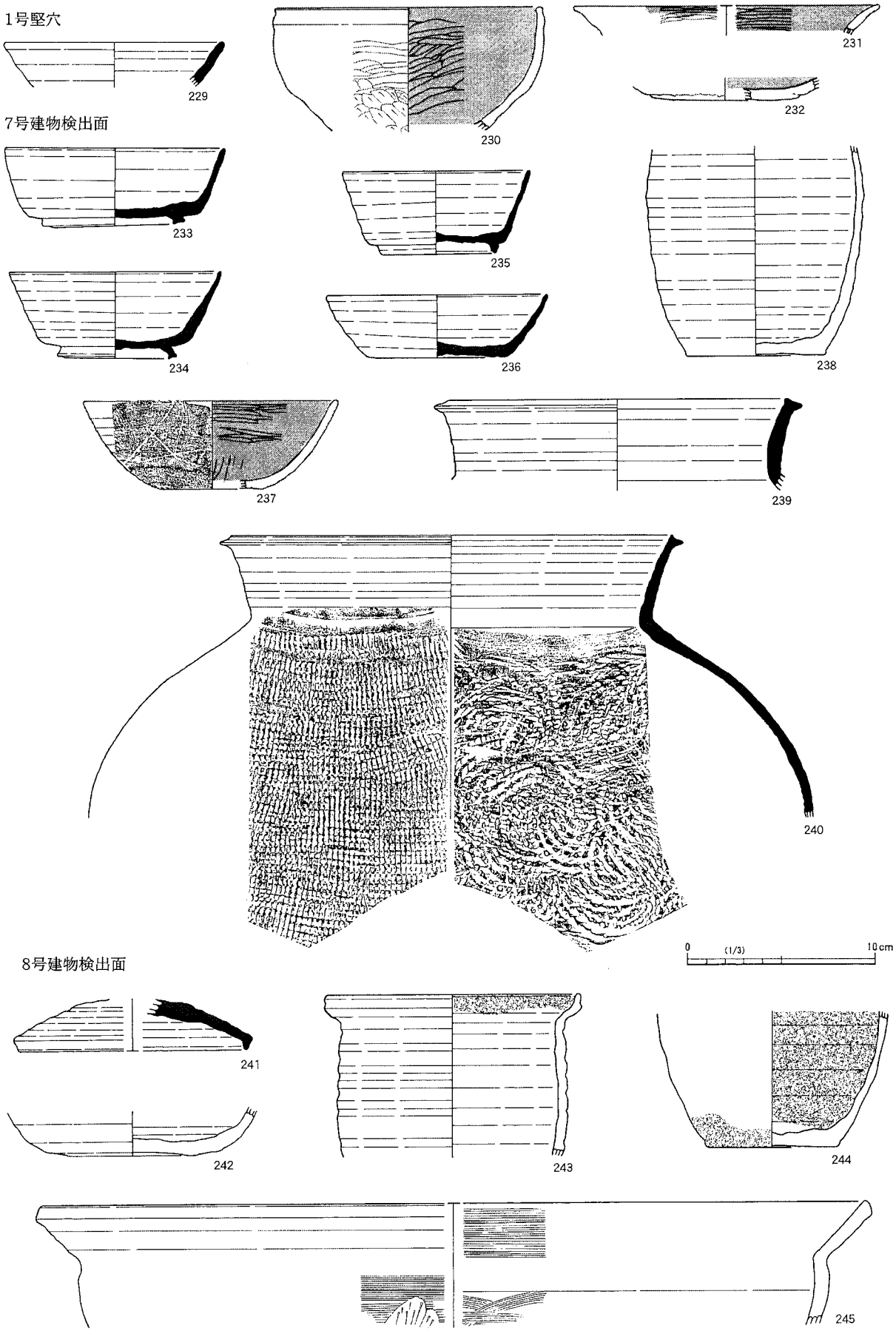
12号掘立柱建物　柱穴P137から破片がまとまって出土した。258は柱痕出土で，馬上3号窯以降である。

13号掘立柱建物　柱穴から七社3～4段階の小泊窯群産須恵器無台杯，土師器甕B1類が出土した。

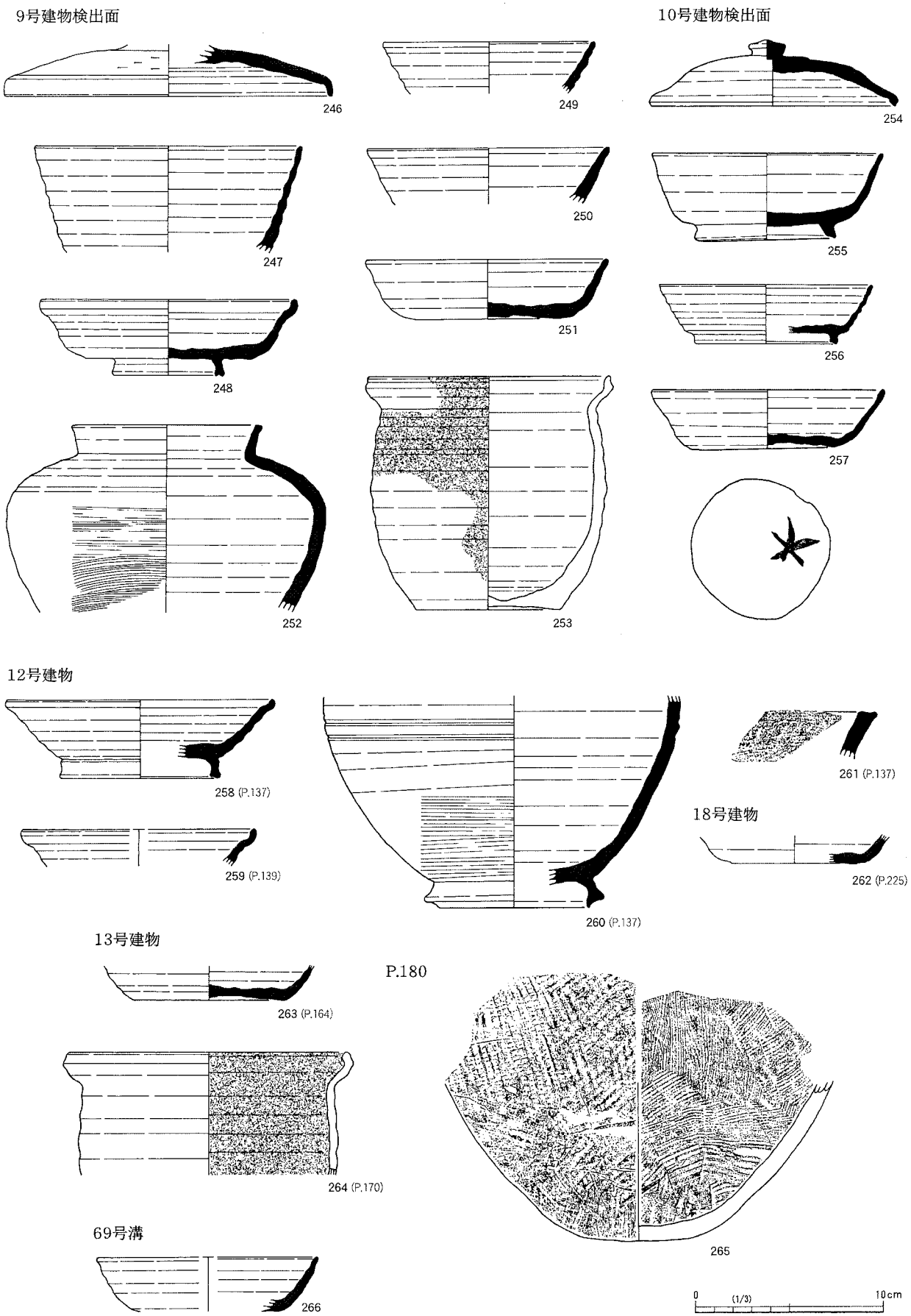
18号掘立柱建物　柱穴から七社6段階頃の小泊窯群産須恵器無台杯片が出土している。

69号溝　本遺構は，19号掘立柱建物の雨落ち溝で，須恵器無台杯小片のみ出土している。時期不明。

20号掘立柱建物　建物中央付近の検出面直上で，古墳時代後期の土師器壺B類267・268，黒色土器杯269，土師器甕270が出土している。壺B類は古相を示すが，平底の黒色土器杯269は新しい。

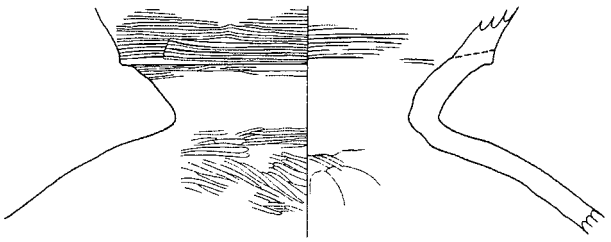


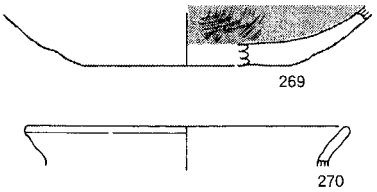
第45図　2区1号竪穴, 7・8号建物関連出土遺物

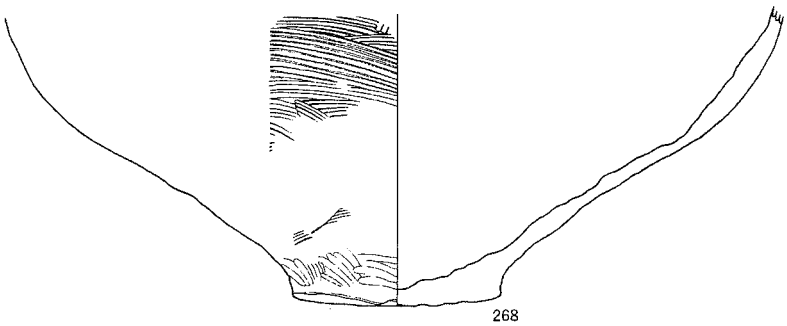


第46図　2区9・10・12・13・18・19号建物及び関連遺構,ピット出土遺物

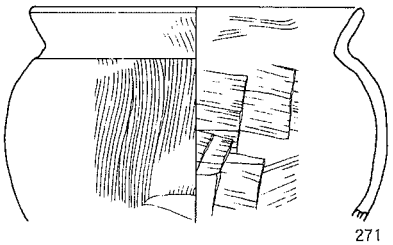
20号建物検出面



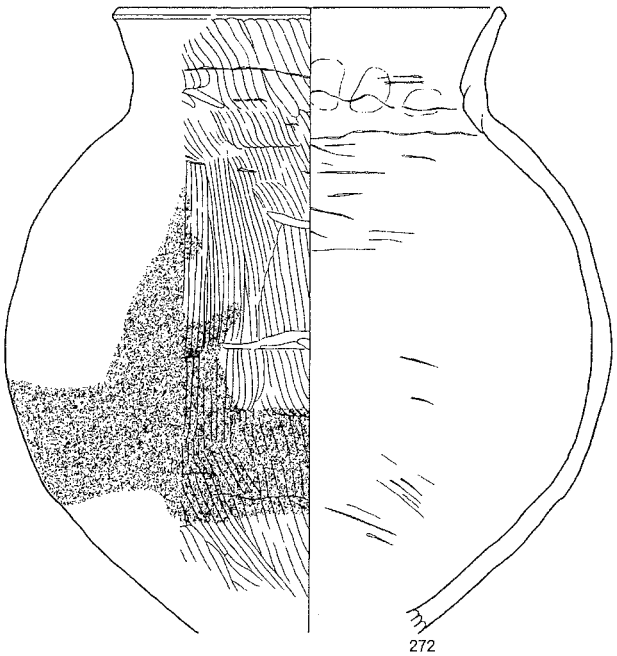




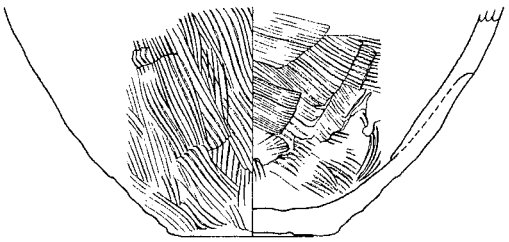
63号溝

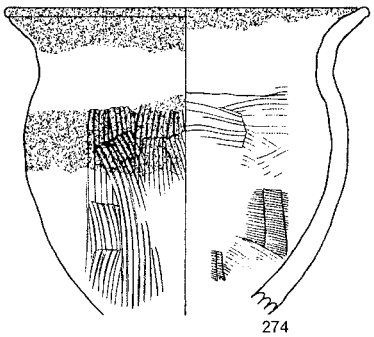


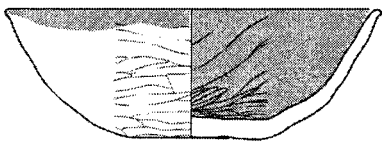
63号溝



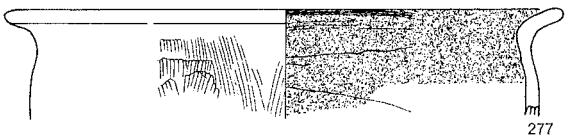
65号溝

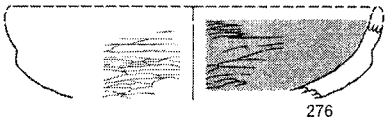






67号溝





0 (1/3) 10cm

第47図　2区20号建物検出面及び4号周溝状遺構出土遺物

4号周溝状遺構（63・65・67号溝）　土師器壺A類272，黒色土器杯D類275，甕C類274などが出土した。平底の黒色土器275があり，土師器杯がない点は20号掘立柱建物と共通する。

1号井戸　本遺構は，当初層序の断面観察から，60a・b号溝に切られると判断した。しかし，遺物は，60a・b号溝より新しい特徴を持つものが多い。そこで，再度重複部分の断面を遺構の配置状況と照らし合わせて検討したところ，遺構と遺物の齟齬は，60a・b号溝と古代の68号溝とを取り違えた結果であったことが判明した。

遺物量は多く，図示したもので古墳時代後期の土師器杯類4点，黒色土器杯類11点，高杯3点，壺2点，甕7点，古墳時代前期の遺物5点(296・297・307～309)がある。前期の遺物は，重複する13号土坑，62号溝に伴うものであろう。後期の遺物は，黒色土器杯類が主体で，このうちA類(285・289・290)よりB・C類(282～284・286・287)が多く，口縁部も282・283のように伸長したものがあり，新しい特徴を示す。

60a・b号溝　本遺構は，1号井戸と重複する。土師器や黒色土器杯類の組成は1号井戸との差は無いが，黒色土器A類(312・314・316)，B類(310・311・313・315)ともに、口縁部が1号井戸資料のように伸長せず，より古相を示している。須恵器模倣杯317は，法量・器形が田辺編年MT15型式（田辺1981）の杯蓋に似る。なお，60a号溝下層からコハク製棗玉(554)が1点出土しており，注目される。

7号土坑　本遺構は，12号掘立柱建物を切る。須恵器無台杯325・326は，ともに在地窯産で，高山寺窯～馬上3号窯に位置付けられる。

15号土坑　須恵器杯類は，332を除きすべて小泊窯群産である。330・331は，七社5段階に比定できる。土師器甕337は，口縁端部がやや内傾気味に肥厚する。338の土製品は，阿賀北地方に多い特徴的な器種である。

18号土坑　黒色土器杯342は，扁平平底でB類では新しく位置付けられる。

1号木棺墓　古墳時代後期の遺物が多量出土した。土師器杯361は，木棺の裏込め土中からの出土であり，木棺設置時の儀礼に用いられた供献土器であろう。ほかはすべて棺蓋崩落土中からの出土であり，古墳時代前期の378～381を除き，多くは，葬送儀礼で用いられて木棺上に置かれた土器群であろう。ただし，後世の削平などにより，遺物の遺存率は低い。また，黒色土器杯A類(348・349・351・353～356)主体である点は，1号井戸に先行する要素と見てよいであろう。なお，本資料は，供膳具がほぼ黒色土器杯類で占められ，長胴化の傾向が見られる甕B類(368？・370・375)が伴うなど，古墳時代後期の土器組成の特徴を明瞭に示すが，墓坑内出土土器が須恵器模倣と推測される土師器杯であるのは興味深い。

2号木棺墓（1号周溝墓主体部）　古墳時代前期の遺物が多量出土した。遺物は，すべて棺蓋崩落土中からの出土である。壺，高杯，器台，精製鉢，鉢，甕がある。甕は，川村分類（川村1993）B類(394・395)，C類(391～393, 397)がある。甕B類の口縁有段部が不明瞭で，C類の大半が口縁部の面取り幅が広くシャープであること，器台があまり小型化せず389のような有段精製鉢があることから，川村編年3段階（川村2000），漆町編年7群（田嶋1986）に比定できよう。なお，検出面上から管玉が1点(552)出土している。

畝状小溝群　29・31・34・35・37・39・43号溝から出土した遺物を図示した。須恵器杯類は，高山寺窯～馬上窯，七社3～4段階の資料が多い。土師器椀は，412・413が坂ノ沢C4・5期に比定できる。溝群がすべての遺構を切っていることから，土師器椀の時期が遺構の時期を示すとしてよい。

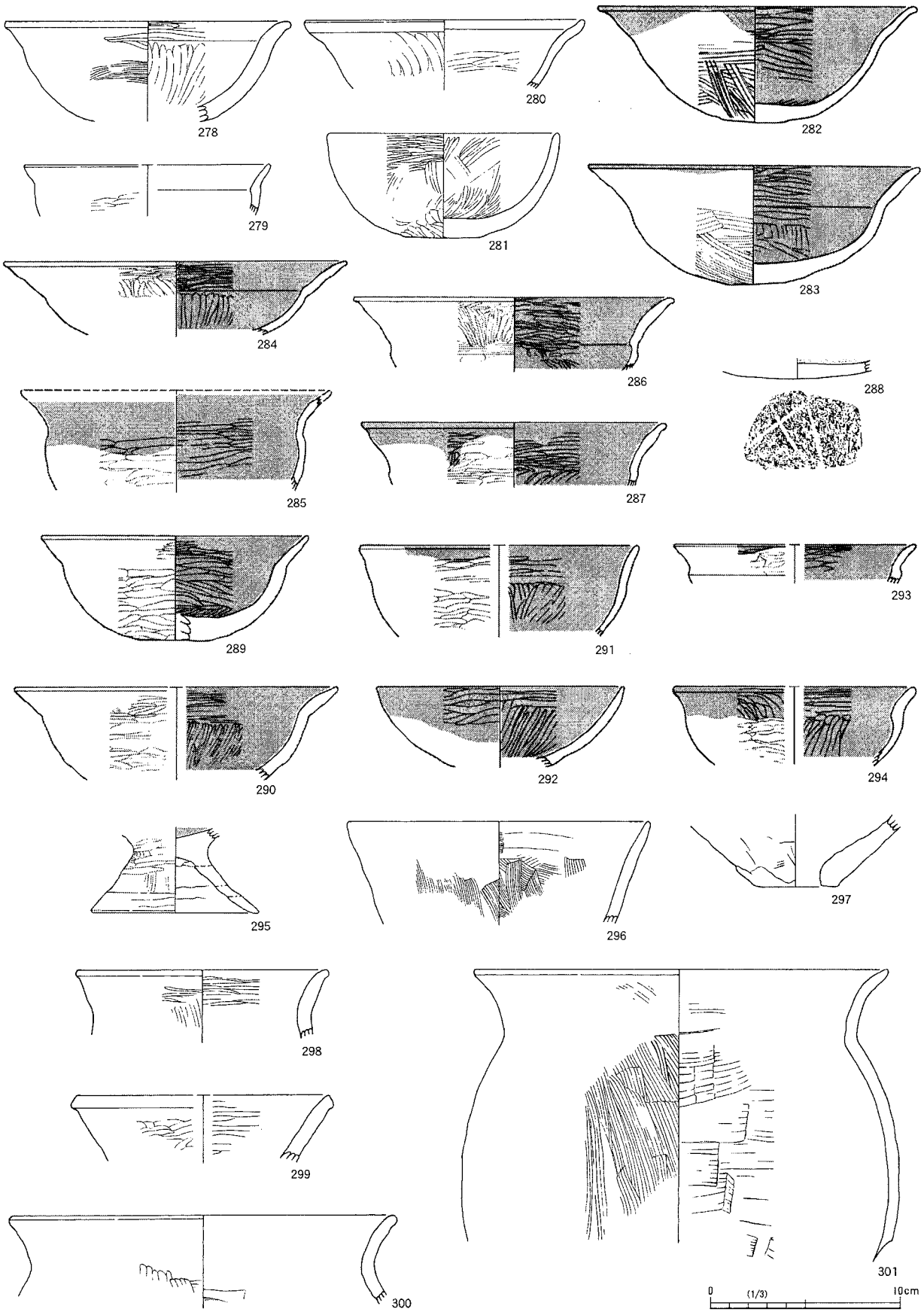
68号溝　土師器甕は，A1類422がタタキ成形後カキメ・ハケメ調整され，B1類421の底部がヘラキリであるなど，調査区の古代の土師器甕類では古相を示す。

74号溝　古墳時代前期の甕2点を図示したが，遺構の検出状況から本遺構に伴うものではない。

SX1　古墳時代前期の土器を2点図示した。431の付加状口縁の甕は，川村編年2段階以前であろう。

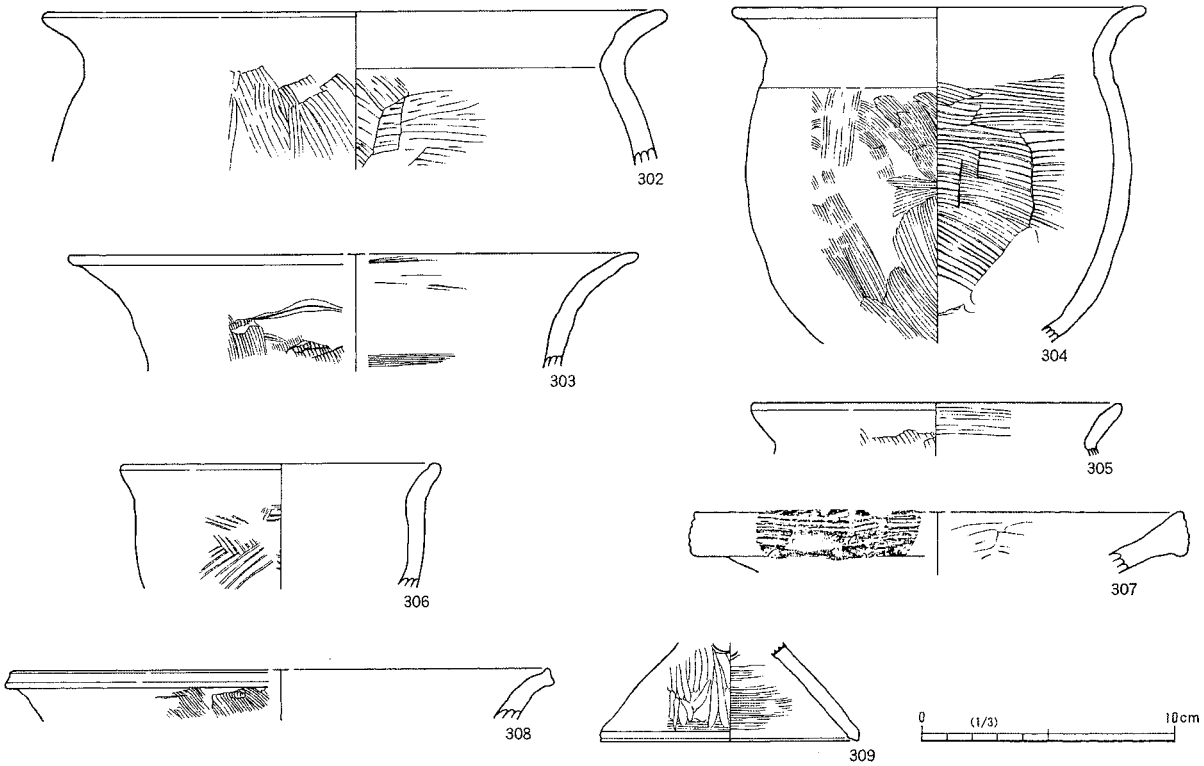
P175　429は，古墳時代前期の天王山系土器の甕片である。

1号井戸

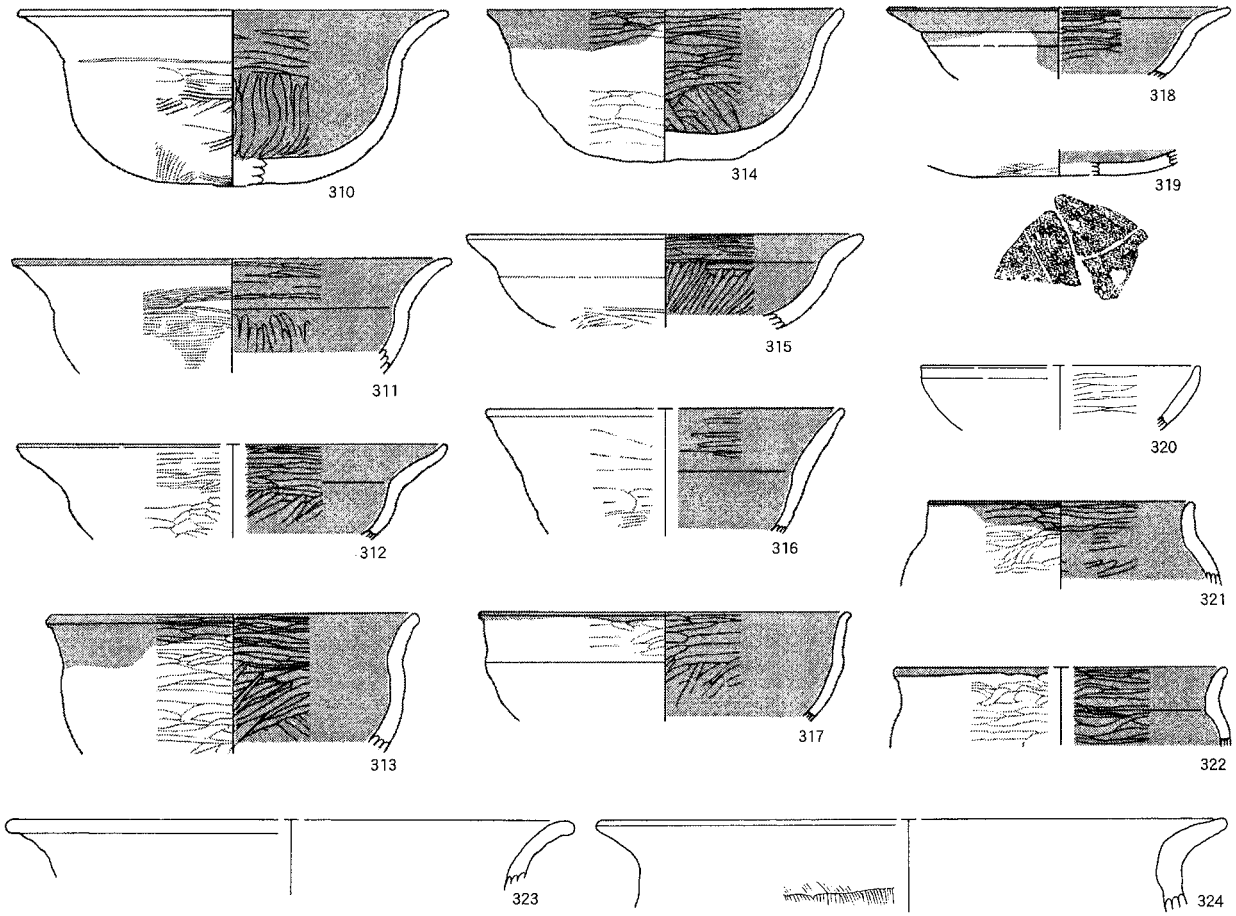


第48図　2区1号井戸出土遺物

1号井戸

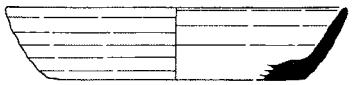


60a・60b溝



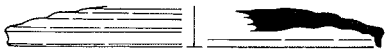
第49図　2区1号井戸, 60a･b号溝出土遺物

7号土坑

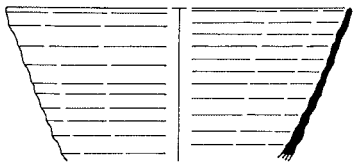

325

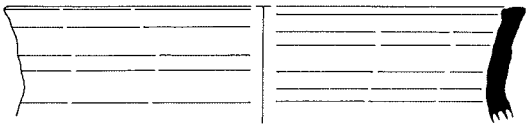
326

10号土坑

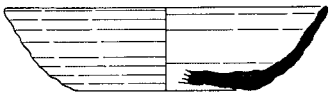

327

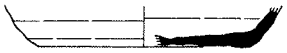
8号土坑

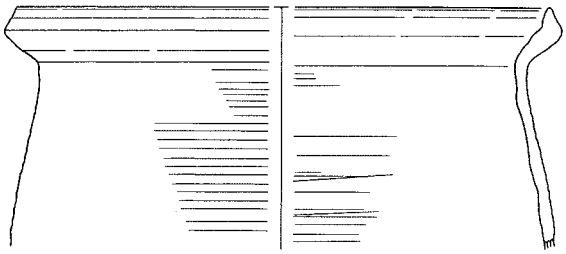

328


329

15号土坑

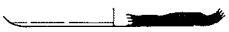

330

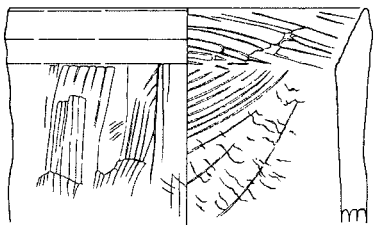

333


337

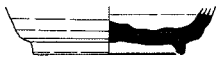
331

334

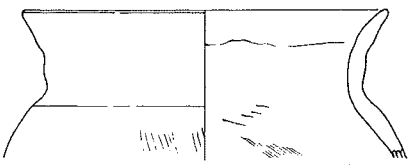

335

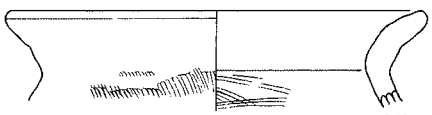

338

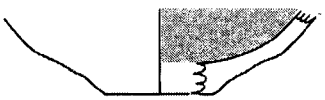
332


336

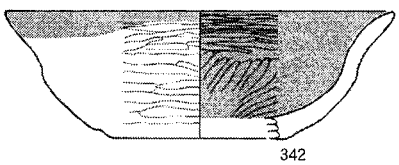
17号土坑

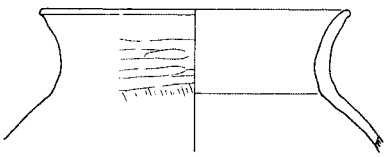

339

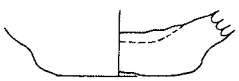

340


341

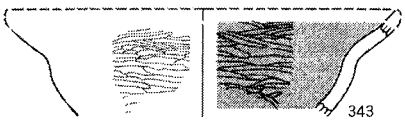
18号土坑

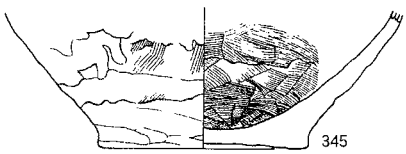

342

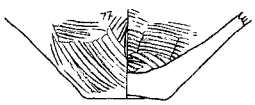

344


346

13号土坑

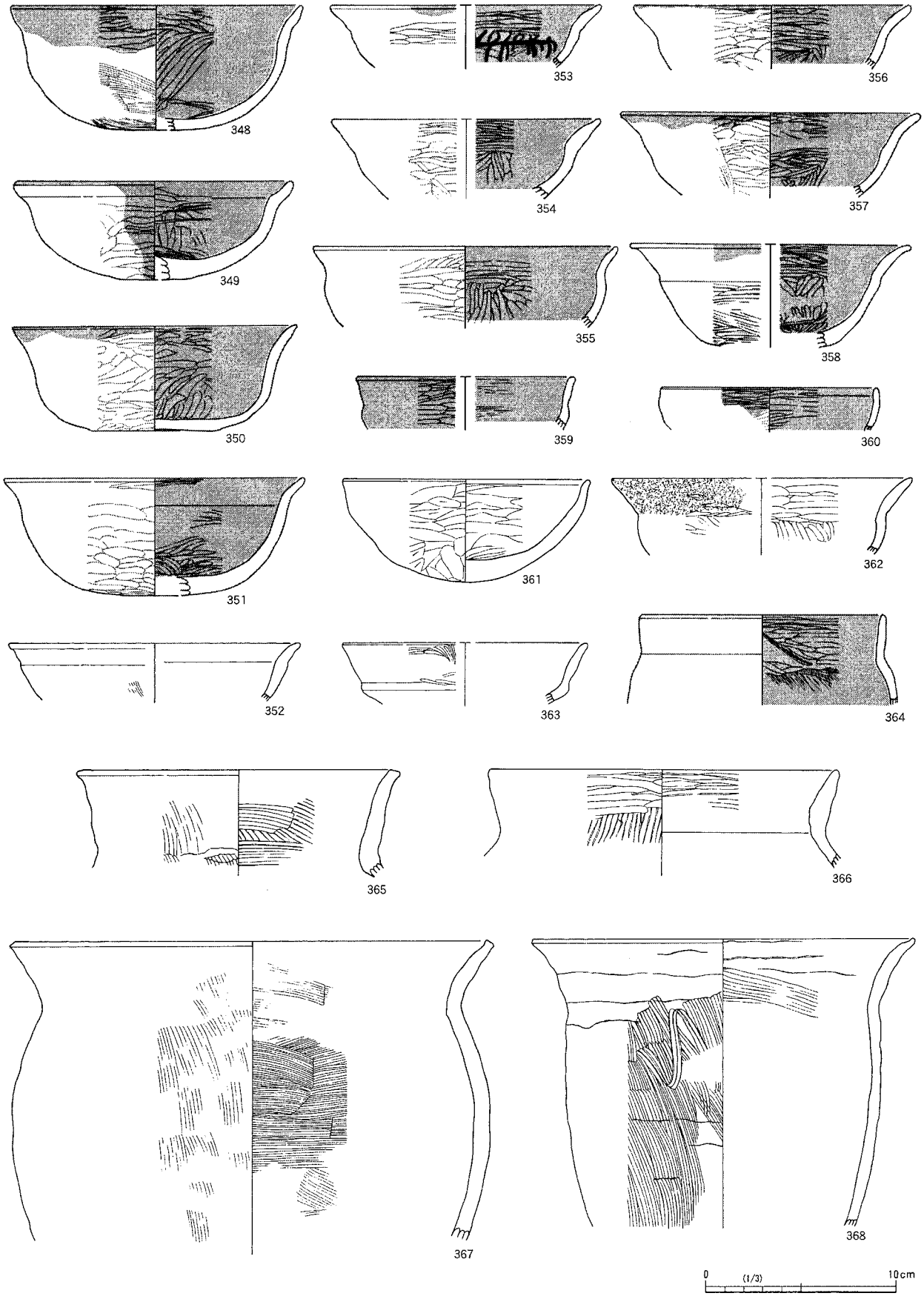

343


345


347

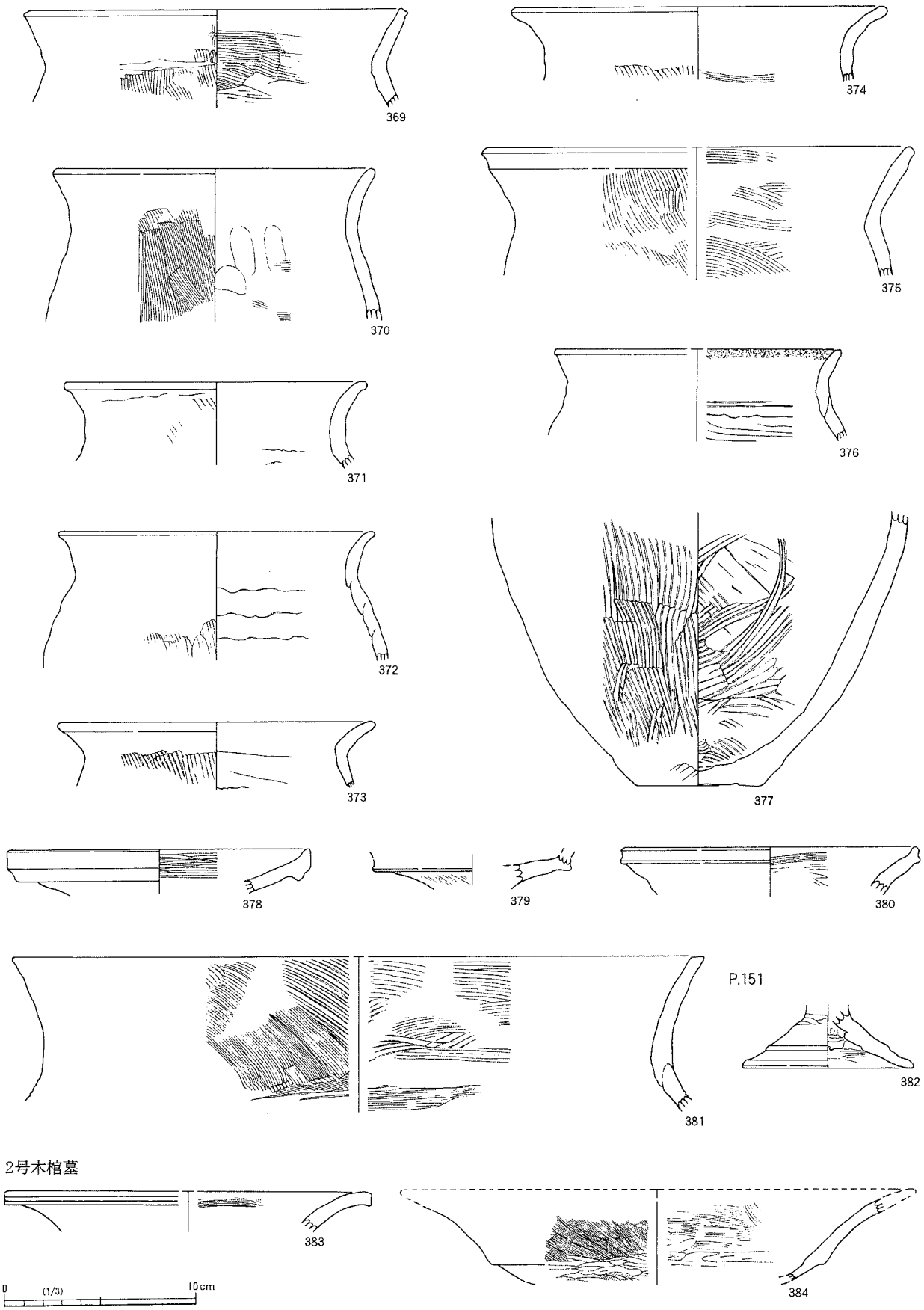
第50図　2区土坑出土遺物

1号木棺墓

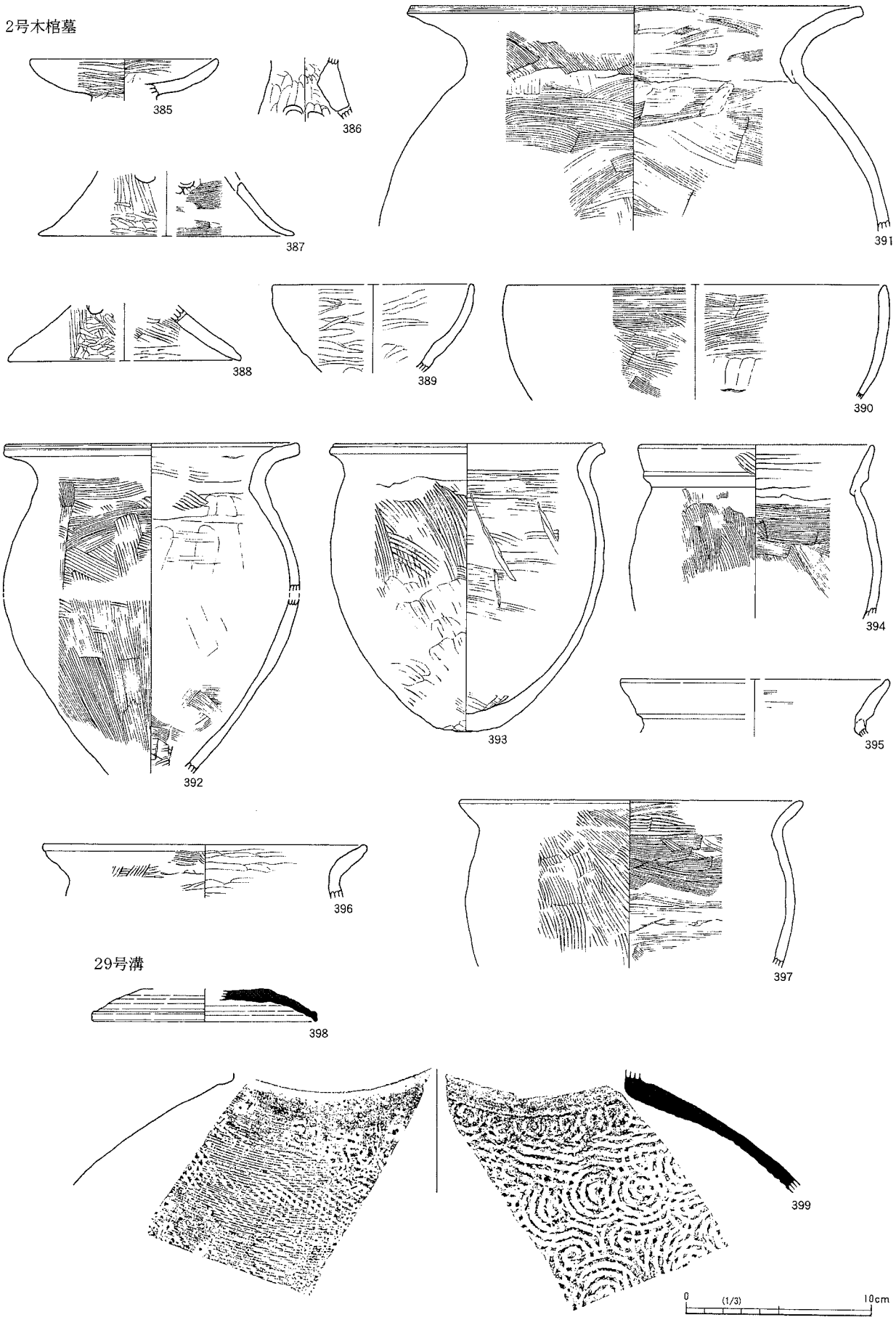


第51図　2区1号木棺墓出土遺物

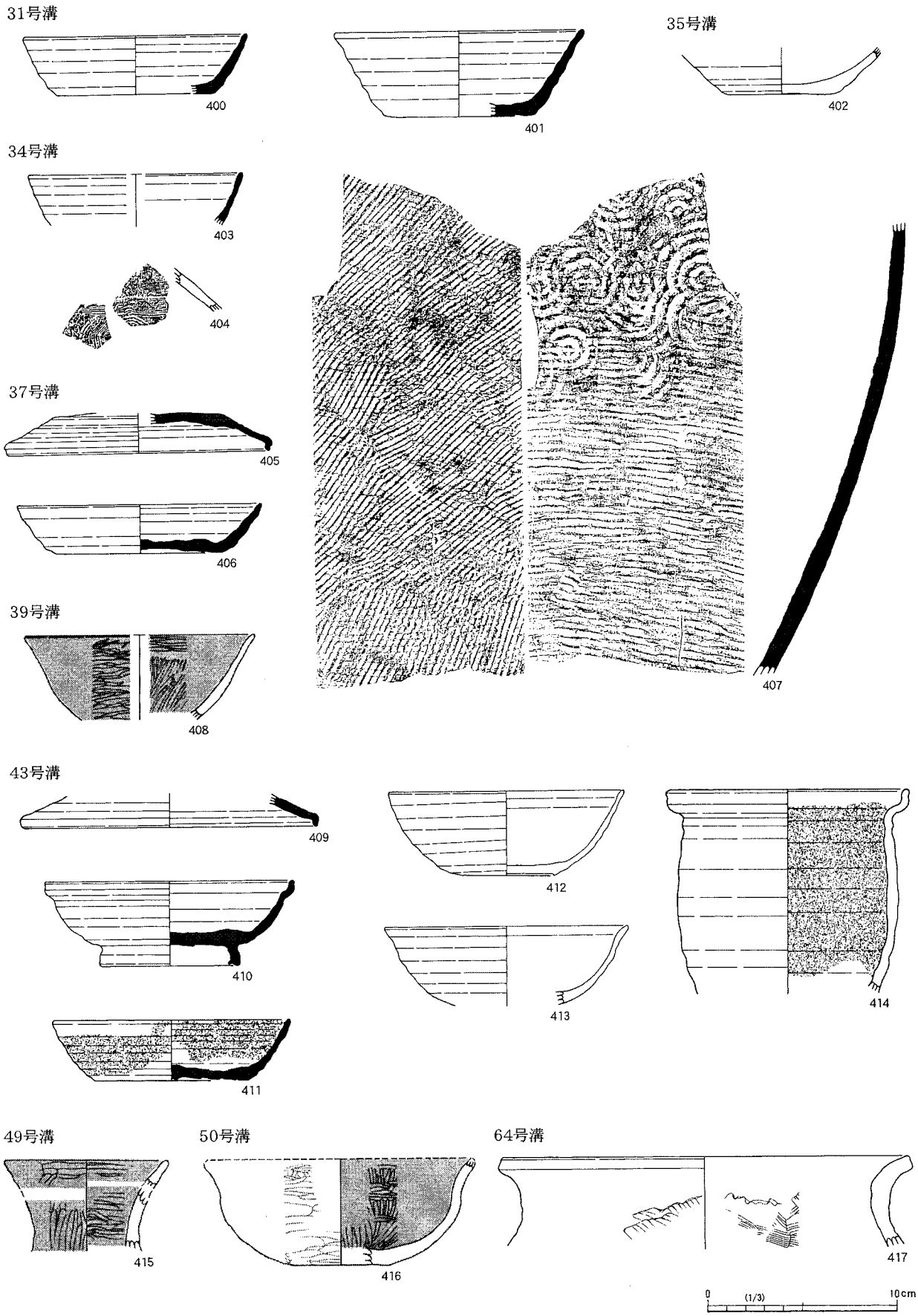
1号木棺墓



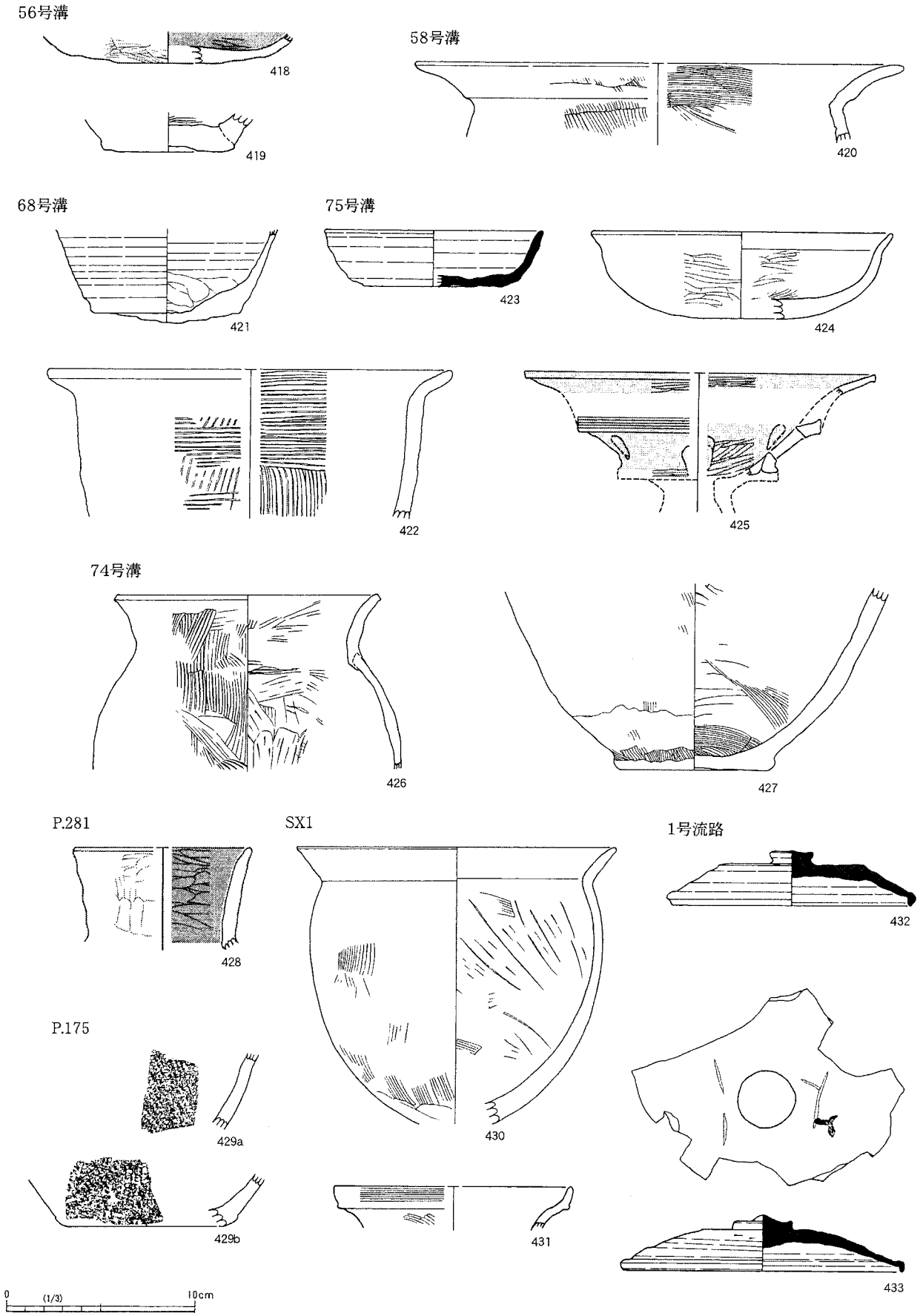
第52図　2区1号木棺墓及び関連遺構, 2号木棺墓出土遺物



第53図　2区2号木棺墓, 畝状小溝出土遺物

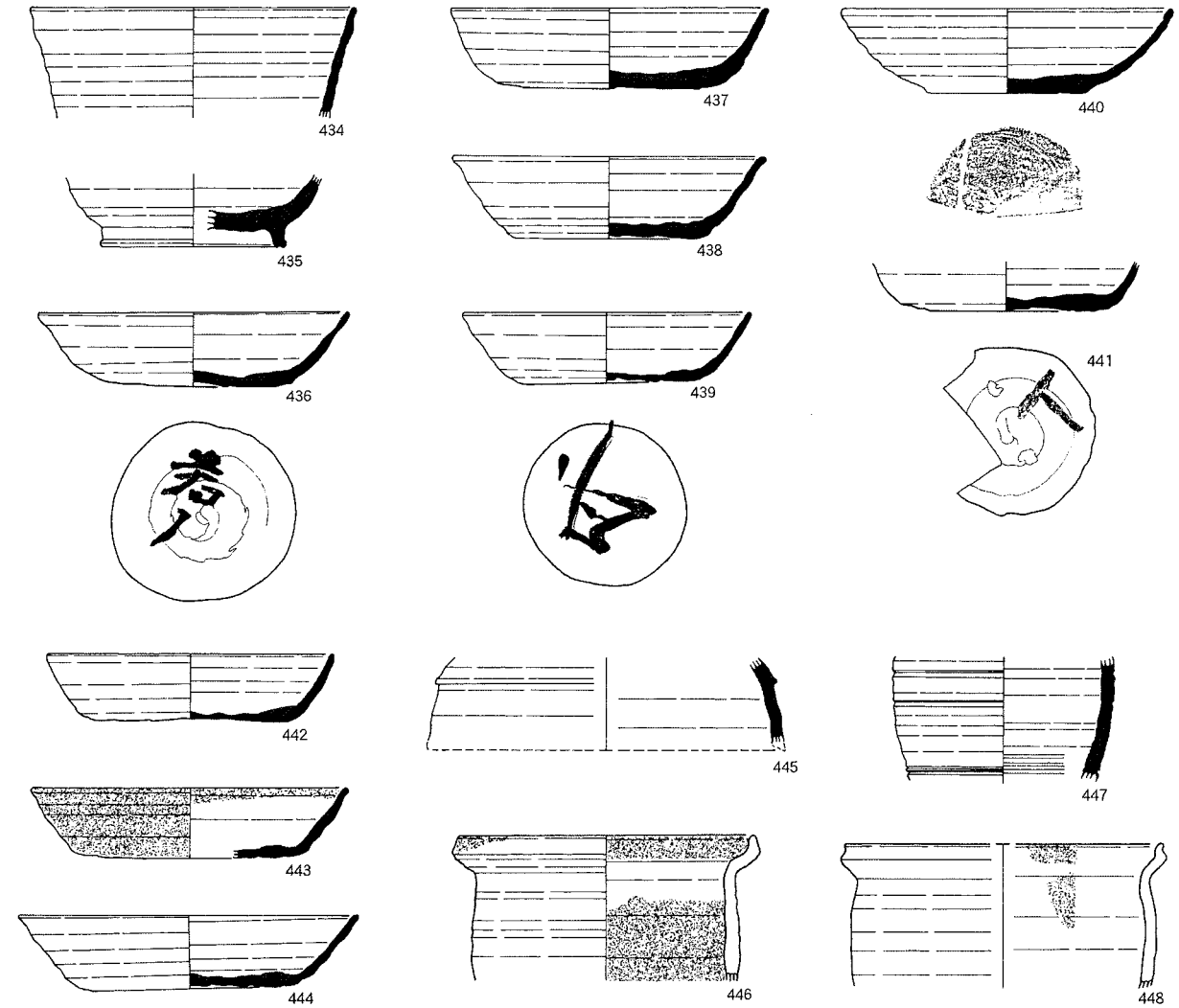


第54図　2区畝状小溝, 溝出土遺物

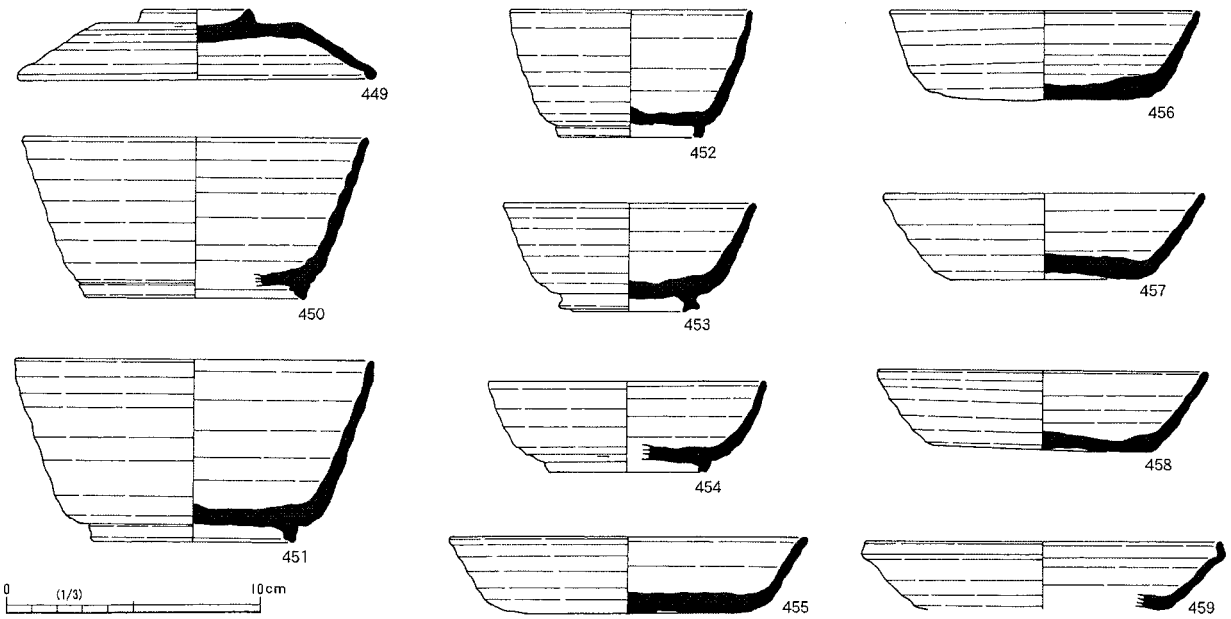


第55図　2区溝, ピット, SX, 流路出土遺物

1号流路



kmグリッド



第56図　2区流路，包含層出土遺物

1号流路　2号流路に比べ土器の出土量は少ない。一方，墨書土器は多く，木製祭祀具とともに水辺の祭祀で使用されたものであろう。墨書土器の時期は，七社5～6段階である。

遺構外　包含層からまとまって出土したものや，特徴的な遺物について記す。Km グリッド 23 号溝周辺から，依存率の高い須恵器杯類が多く出土している。七社編年5～6段階の 449･450 以外は，高山寺窯～馬上3号窯，七社3～4段階に比定され時期的にもまとまっている。468 の黒色土器は，須恵器瑤を模倣したと考えられる。474 は，会津大戸窯跡群（石田 1993）からの搬入品で，頸部にリング状の凸帯が付く長頸瓶の底部であろう。ほかに大戸窯群産の製品は，県内では牛道遺跡（土橋 1999）で出土している。475 は，口縁部に棒状浮紋を張付けた古墳時代前期の壺片で，いわゆる東海系の有段口縁壺であろう。486 は古墳時代後期の須恵器甕片である。493 の直口壺は，瓢壺の可能性があろうか。須器模倣杯 503 は，古手の須恵器杯蓋の特徴が認められる。

4　木製品・石製品・土製品

a 木製品　斎串(504～521)，箸状木製品(522～525)，盤(527～529)，火鑽棒(531･533)，浮子(532)，曲げ物底板(535・536)，自在鉤(537)，桧扇(538)，下駄(541)，柱(542～551)，用途不明品(526･530･534･539･540)がある。537 と 538 の用途は，形状と厚さなどが曽根遺跡例（家田ほか 1982）に類似することから判断した。531 は，浮子の可能性もある。斎串は，大半が1号流路から出土しており，上端付近両側に数箇所切り込みをいれたもの(505～508)や上･下部を片側のみ削ったもの(510～512)，箸状のもの(516～518･521)などがある。箸状の斎串は，下部のケズリが多面体とならないことを基準に，箸状木製品から分別した。540 は，角柱状の木製品で，木材を裁断する際に出た破材と考えられ，長辺にアタリと思われる刻線が2条見られる。柱材は，先端を鉛筆ケズリ状に尖らせたもの(543･544･550)と平坦なもの(542･545)，斜めに裁断したもの(549･551)などがある。544 は，下端付近に臍穴があり，転用の可能性がある。樹種は，543，545，550，551 が広葉樹，544 がスギである。

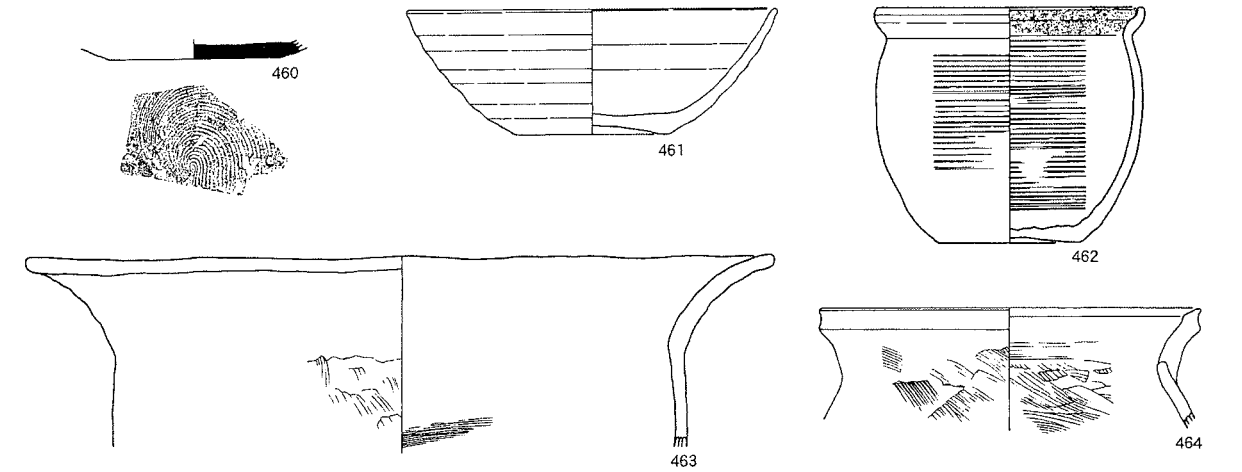
b 石製品　管玉(552･553)，コハク棗玉(554)がある。管玉は古墳時代前期のものである。コハク棗玉は，約半分が欠損しているが，長さ 10.7 ㎜，直径 9.1 ㎜とややずんぐりした形状である。県内のコハク玉出土遺跡は，空毛遺跡以外では古墳に限られる。出土地は頸城地方に偏り，上越市水科 11 号墳で棗玉2点（金子ほか 1975），同高志1号墳で勾玉1点（木島 2002），同菅原古墳群で丸玉？（中川･岡本 1961）が出土している。全国的な集成をもとにコハク棗玉を検討した斎藤あや氏の研究（斎藤 2008）によれば，コハク棗玉は古墳時代中期以降大型化することが指摘されているが，空毛遺跡のものは，計測値上古墳時代前期～後期初頭（田辺編年 MT15・TK10 型式）の値に収まり，これまでの県内での出土状況も踏まえれば 60a･b 号溝出土土器に近い時期のものとしてよいであろう。

c 土製品　羽口(555)，土垂(558～561)，須恵器甕加工円盤(556･557)がある。羽口の出土は，集落内での鍛冶の存在を推測させるものとして注目される。土垂は，細形で長さ5㎝，直径1㎝前後の小形品のみである。細形の土垂と 532 のような浮子は，セットで刺網に使用されたとの見解（小池･藤塚 1993）がある。土垂に大形品がないことから，遺跡周辺で刺網漁に使用されたのであろう。

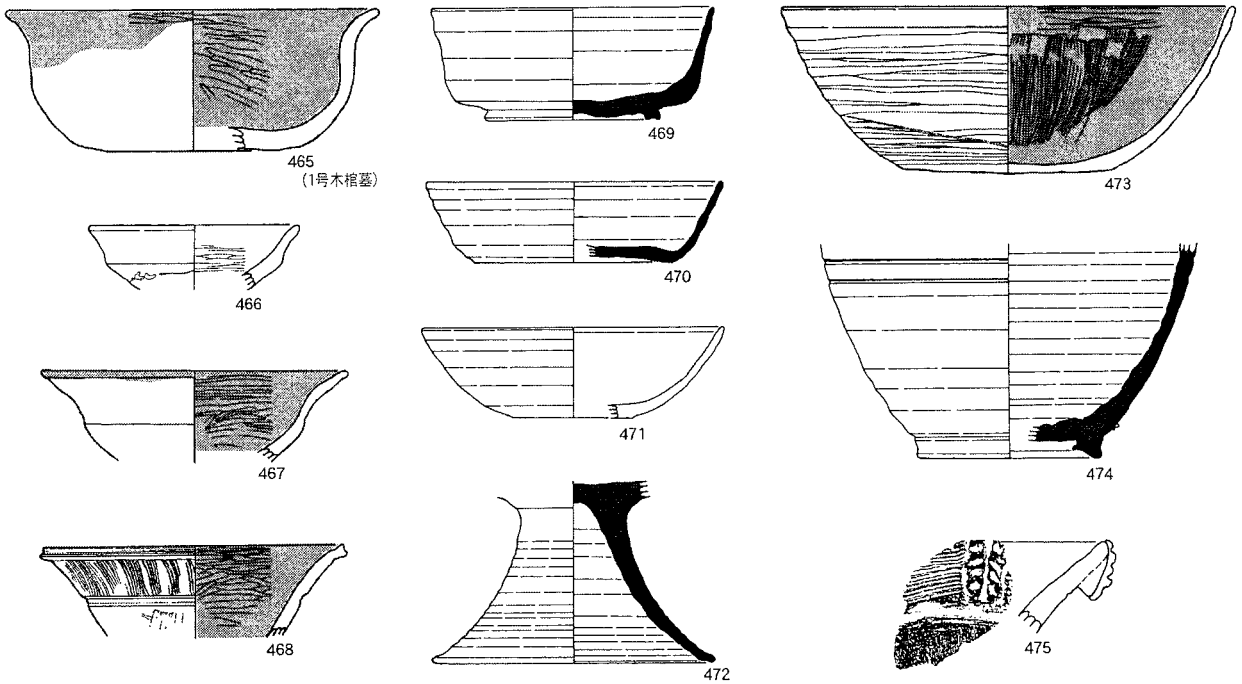
5　その他の遺物

立会い調査等出土遺物で，特徴的なものについて記述する。566，571 の須恵器は，8世紀前葉に位置付けられ，遺跡内の古代の須恵器では最も古い。墨書土器 573，574 も同時期の可能性がある。575 は，須恵器瑤口縁部片で，口径値や口縁端部の作りなどから田辺編年 TK47 型式以前であろう。576 は，透かし付の土師器高台付盤または鍋の台部片である。577 は，頸部にリング状の凸帯が付く在地窯産須恵器長頸瓶の頸部片である。

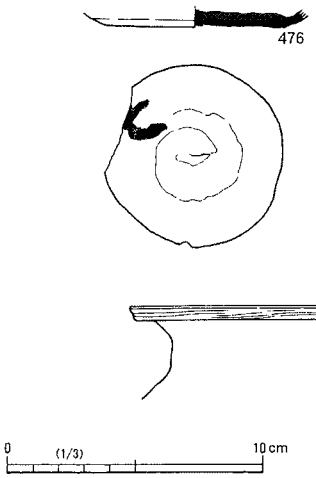
kmグリッド



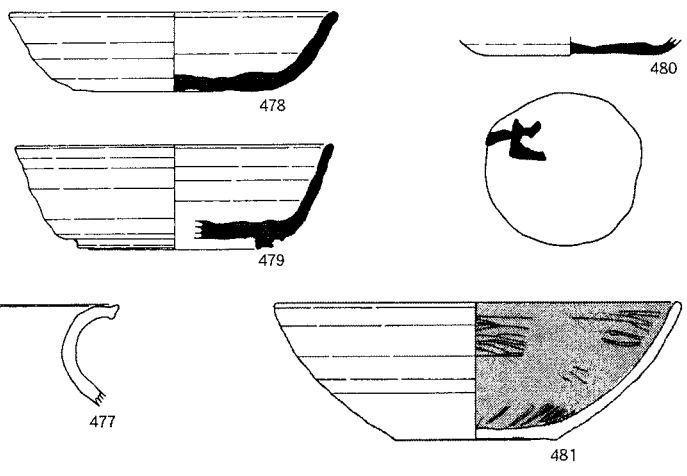
knグリッド



koグリッド



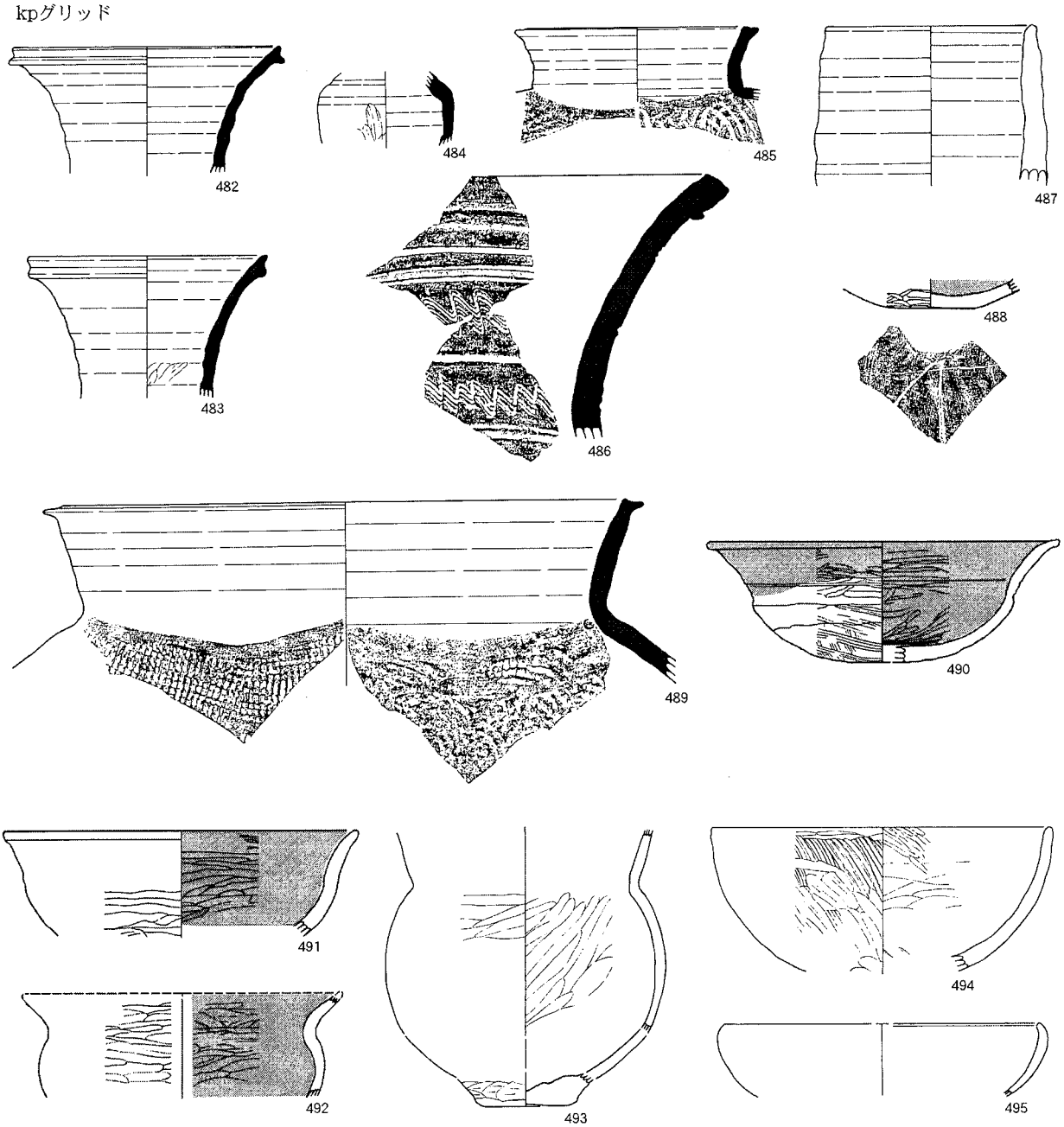
kpグリッド



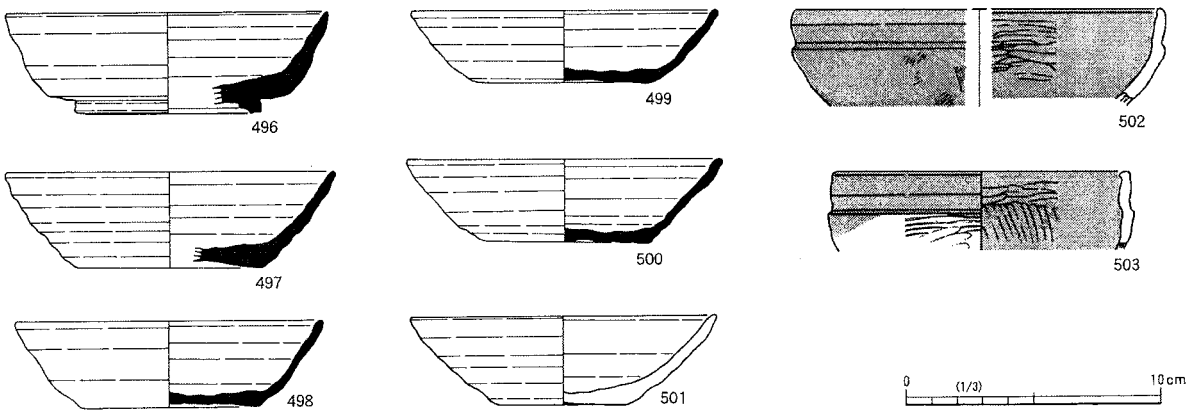
0 (1/3) 10cm

第57図　2区包含層出土遺物(1)

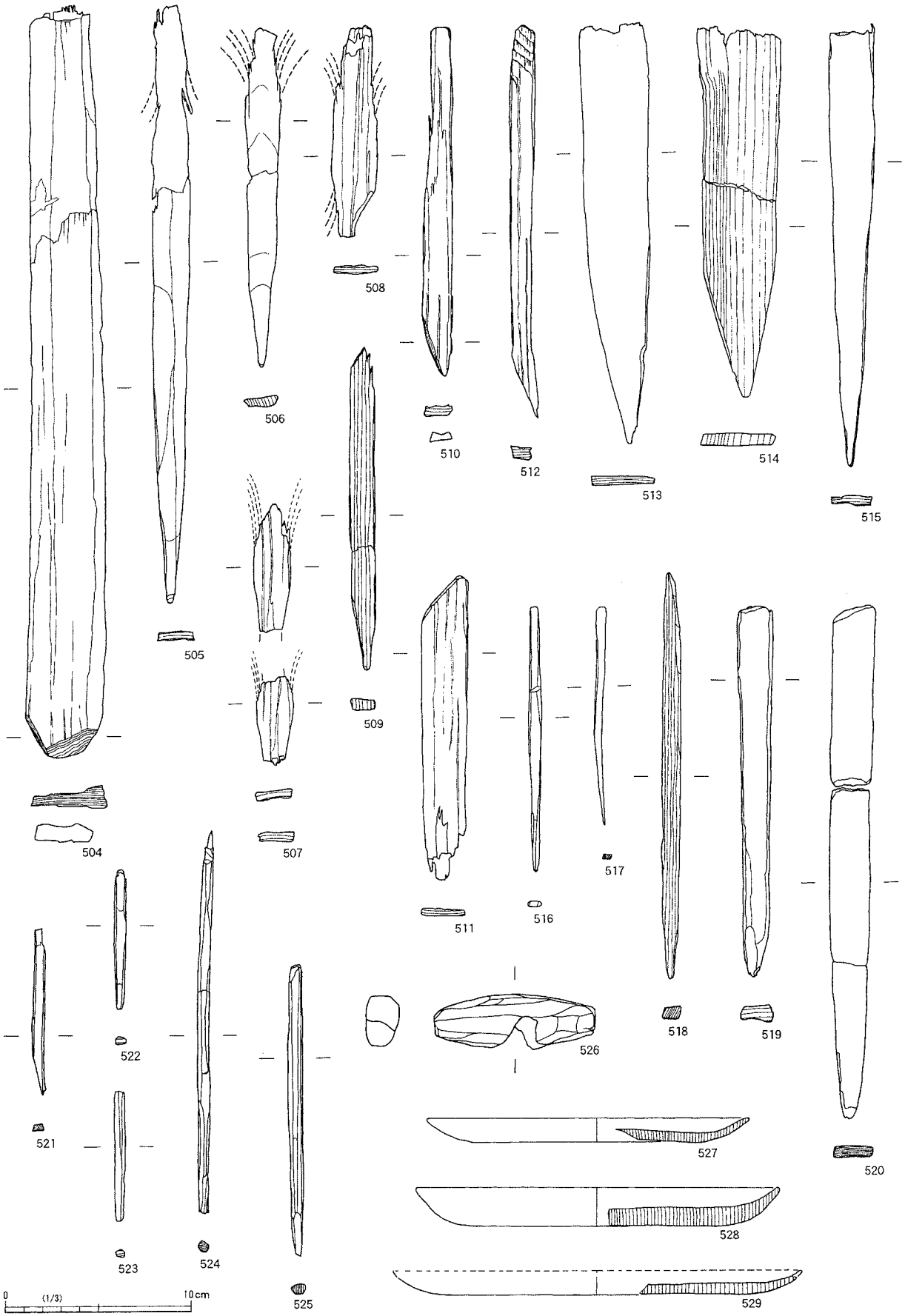
kpグリッド



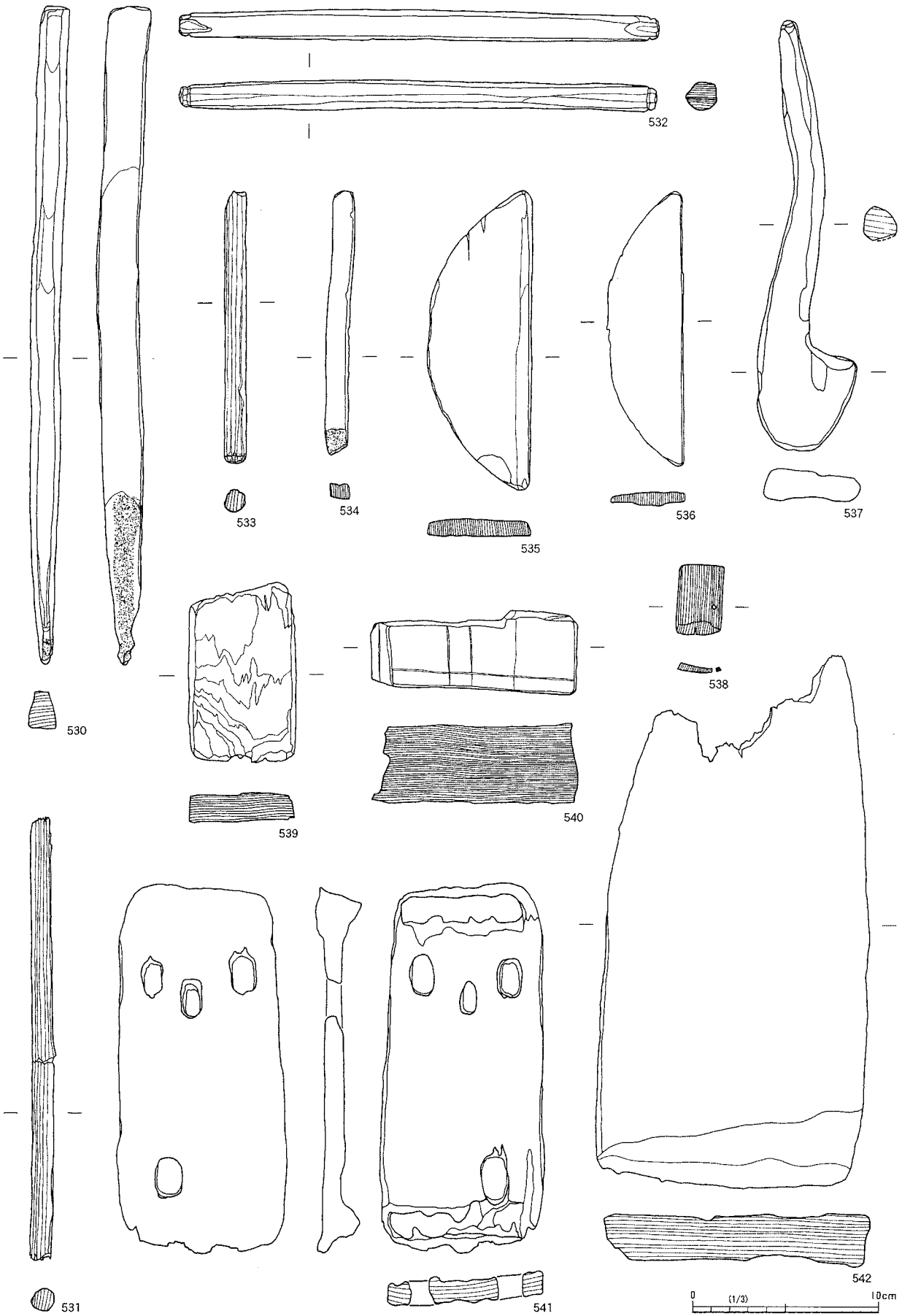
kqグリッド



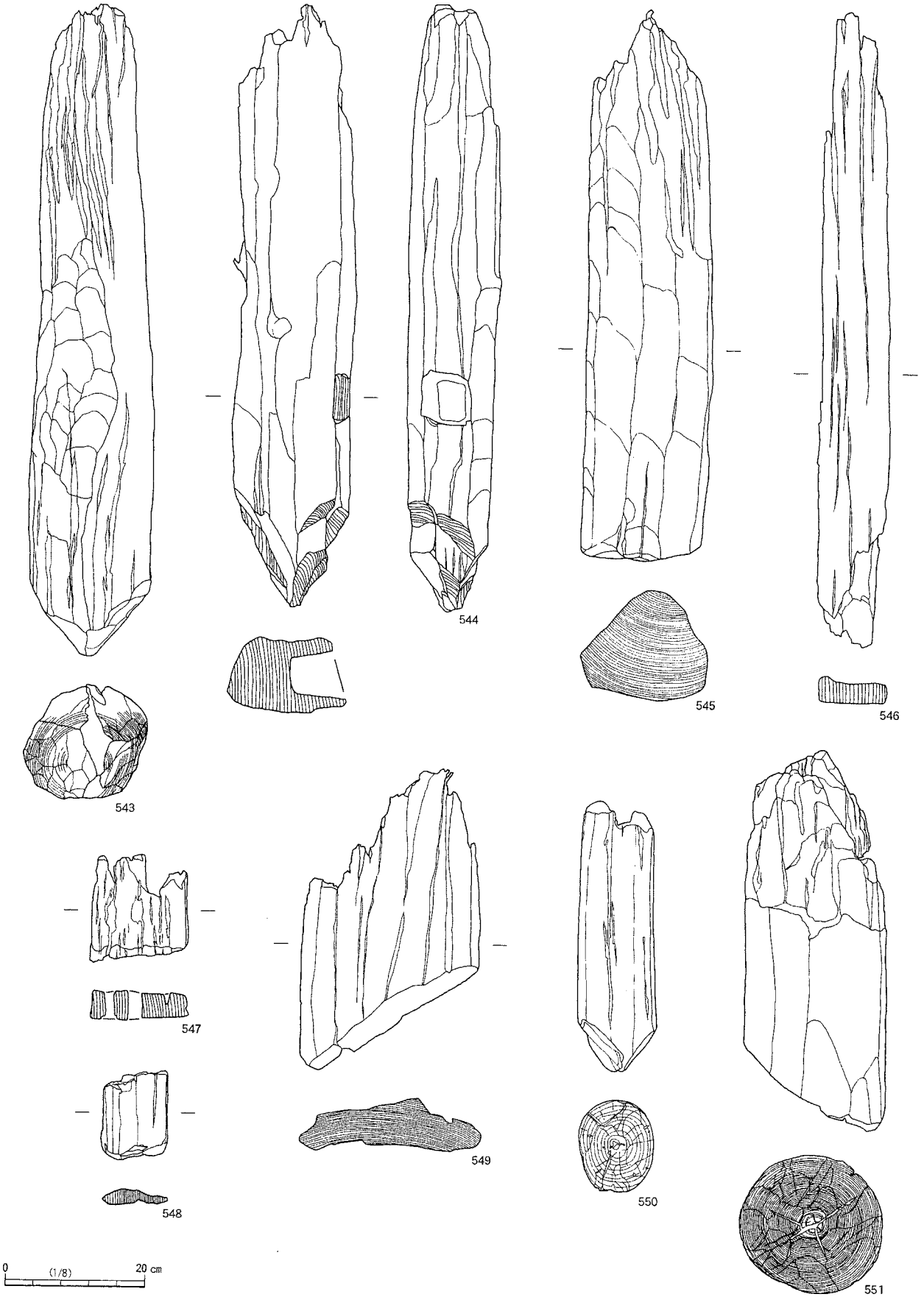
第58図　2区包含層出土遺物(2)


504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
0
(1/3)
10cm

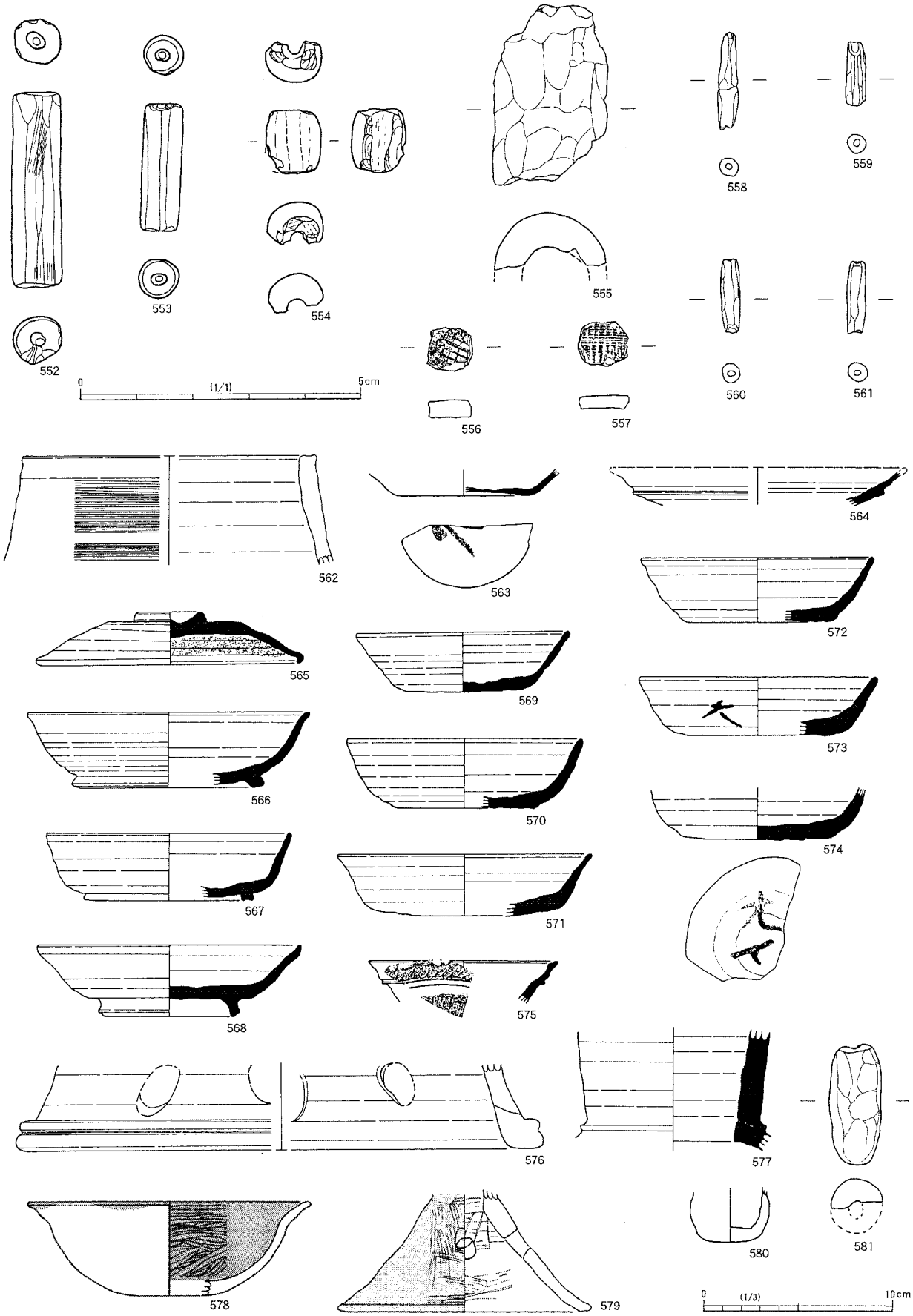
第59図　木製品



第60図　木製品，柱



第61図　柱



第62図　玉類, 土製品, 表土, 立会調査出土遺物

表5 遺物観察表（1） ※胎土の略称：長＝長石，石＝石英，花＝花崗岩，白＝白色粒，褐＝褐色粒，赤＝赤色粒，雲＝雲母，骨＝海綿骨針，粘＝粘土粒，角＝角閃石，流＝流紋岩，水＝水晶

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値（cm） 口径	器高	底径（摘径）	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
1	P7	kf3－5	1	須恵器	無台杯B1	12.0	3.3	8.6	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,水	5段階	1号掘立柱建物。口縁・内・腰擦れ。	33	9
2	P5	kf3－4		須恵器	無台杯B		1.0	6.0	1/2	ロクロ,ヘラキリ	C	N8/0 灰白	小泊,1mm以下の白多	5~6段階	墨書「万」。1号掘立柱建物。擦れ著しい		15
3	P23	kg4－2	2	須恵器	無台杯B1	12.0	2.5	6.6	1/4	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石	6段階新	2号掘立柱建物。口縁・内・腰擦れ		
4	P23	kg4－2	1	土師器	無台椀B1	12.2	4.5	4.6	1/3	ロクロ右,糸切り		7.5YR7/2 明褐灰	1mm以下の赤多,雲,長,石	坂C 10土	2号掘立柱建物。墨書「木カ」，口縁炭化物？		9
5	P23	kg4－2	1	土師器	無台椀A1	12.2	3.5	5.4	1/6	ロクロ右,糸切り		5YR6/3 にぶい橙	1mm以下の赤,雲	坂C 10土	2号掘立柱建物。外煤,内炭化物？		
6	P23	kg4－2	1	土師器	無台椀A1	14.0	3.7		1/12	ロクロ		7.5YR7/3 にぶい橙	1mm以下の長,石,雲	坂C 10土	2号掘立柱建物。内面黒斑		
7	P23	kg4－2	2	土師器	甕A1	22.2	21.5		1/6	ロクロ→下半タタキ→上半カキメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多	古代	2号掘立柱建物。外煤,内炭化物？		9
8	P26	kg3－2	1	須恵器	無台杯B1	12.0	3.0	7.9	完存	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,骨	5段階	2号掘立柱建物。内外面擦れ著しい		9
9	P26	kg3－2		黒色土器	無台椀A2	14.4	3.5		1/10	ロクロ→ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	1mm以下の長,石	古代	2号掘立柱建物		
10	P40	kg4－4	2	須恵器	有台杯C		4.3	7.0	1/8	ロクロ		N5/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,骨,赤,石	2～3段階？	2号掘立柱建物		
11	3溝	kg3－2		須恵器	折縁杯B	12.9	4.5	6.8	5/6	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	阿賀北,2mm以下の長多	道婦	内・高台擦れ		9
12	3溝	kg3－2	2	須恵器	無台杯B1	12.6	3.1	7.0	3/4	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,2mm以下の白多	6段階新	墨書「宍」。口縁・内・腰擦れ		9
13	3溝	kg4－2		須恵器	無台杯B1	12.0	3.2	7.2	3/4	ロクロ右,ヘラキリ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,石	6段階新	口縁・内・腰擦れ		9
14	3溝	kg3－5	1	須恵器	無台杯B1	12.4	3.3	7.0	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	6段階新	口縁・内・腰擦れ		
15	3溝	kg4－2		須恵器	無台杯B1	12.4	2.8	7.2	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	6段階新	擦れ著しい		9
16	3溝	kg4－2	1	黒色土器	無台椀	13.0	2.1		1/12	ロクロ→ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	微小な砂粒少	古代			
17	3溝	kg3－2	2	土師器	甕A1	21.6	7.2		1/12	ロクロ→上半カキメ→外面ヘラケズリ		10YR7/3 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多	古代			
18	3溝	kg4－2		土師器	甕A1		13.5	尖底	1/3	タタキ→内面ハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石雲多	古代	外煤,内ヨゴレなし		9
19	2溝 14溝	kf3－5 kh4－1	1	須恵器	有台杯B蓋	14.0	2.9	3.2	1/2	ロクロ,ヘラキリ	A？	N6/0 灰	小泊,1mm以下の白多,骨,石	6段階新	転用硯,内面墨痕，擦れ	34	
20	2溝	kf4－5	1	須恵器	無台杯B1	12.5	3.1	6.9	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,石,粘	6段階新	墨痕。口縁・内・腰擦れ		9
21	2溝	kf4－5	2	須恵器	無台杯B1	12.0	3.1	6.2	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	小泊,1mm以下の白多	6段階新	口縁・内・腰擦れ		
22	2溝	kf4－5		須恵器	無台杯B1	11.6	2.7	8.0	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石	6段階古	口縁・内・腰擦れ		
23	2溝 P10	kg4－1	1	須恵器	無台杯C2	12.6	4.3	7.8	1/4	ロクロ,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石	6段階新	口縁・内・腰擦れ		
24	2溝	kg4－1		土師器	無台椀B2	11.8	4.3	5.6	4/5	ロクロ右,糸切り		7.5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の雲多	坂C 10土	擦れ著しい		9
25	2溝	kf4－5		土師器	無台椀B1	12.1	4.3	4.8	完存	ロクロ右,糸切り		7.5YR7/6橙	1mm以下の長,石,雲多	坂C 10土	墨書「太」,口縁擦れ		9
26	2溝	kf4－5		土師器	無台椀B2	12.2	3.7	5.4	1/3	ロクロ,糸切り		10YR7/3 にぶい黄橙	1mm以下の赤,雲多	坂C 10土	擦れ著しい		9
27	2溝	kg4－1	1	土師器	無台椀B2	11.8	3.8	4.8	1/6	ロクロ右,糸切り		10YR8/3 浅黄橙	1mm以下の長,石,赤多	坂C 10土	使用痕不明瞭		
28	2溝	kf4－5		土師器	無台椀B2	12.2	4.1	5.2	略完存	ロクロ右,糸切り		5YR6/4 にぶい橙	1mm以下の長,石，褐,雲多	坂C 10土	外煤,内アク状付着物		9
29	2溝	kg4－1	1	土師器	無台椀B1	12.0	4.0		1/6	ロクロ		10YR8/3 浅黄橙	精良,砂粒わずか	坂C 10土	口縁・腰擦れ		
30	2溝	kf4－5	1	土師器	無台椀B		3.8	4.4	1/4	ロクロ,糸切り→腰部手持ちヘラケズリ		10YR8/2 灰白	2mm以下の長,石,水多,雲	古代	外煤,内アク状付着物		15
31	2溝	kf4－5	1	土師器	無台椀A1	15.2	4.6	6.4	1/4	ロクロ→腰部ロクロケズリ→ロクロミガキ		10YR8/3 浅黄橙	1mm以下の雲多,長,赤	坂C 10土	精製椀，口縁擦れ		
32	2溝	kf4－5	1	黒色土器	無台椀B1	14.8	5.2		1/8	ロクロ→ヘラミガキ		2.5Y7/3 浅黄	精良,砂粒わずか	古代			
33	2溝	kf4－5	2	黒色土器	無台椀		1.5	5.6	1/6	ロクロ→ロクロケズリ→ロクロミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙	精良,1mm以下の長,石,雲	古代			
34	2溝	kf4－1	1	黒色土器	皿	12.6	1.1		1/8	ロクロ→ヘラミガキ		7.5YR7/2 灰黄	精良,砂粒わずか	古代			
35	2溝	kg4－1	1	黒色土器	皿	13.0	1.8		1/12	ロクロ→ヘラミガキ		10YR7/1 灰白	精良,石,長,雲	古代	内外面黒色処理		
36	2溝 2流	kg4－1 kf5－4	2 1	須恵器	甕	39.0	2.9		1/8	ロクロ		N7/0 灰白	阿賀北,5mm以下の長・石多	古代			
37	2溝 2流	kf3－5 kf4－4	1	須恵器	長頸瓶A		10.7		1/6	ロクロ→下半ロクロケズリ		N6/0 灰白	小泊,1mm以下の白多	古代	頸部内面絞り痕		
38	2溝	kg4－1	1	土師器	甕A1	21.6	14.0		1/6	ロクロ→タタキ		10YR7/3 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多	古代	外煤,内ヨゴレ		9
39	2溝	kf4－5	2	土師器	鍋	37.0	9.7		1/6	ロクロ→タタキ		5YR7/4 にぶい橙	3mm以下の長,石,雲多	古代	P23・24,2号流路と接合		
40	12溝	kg3－5	1	土師器	無台椀		2.5	4.2	1/6	ロクロ,糸切り		2.5YR7/6 橙	1mm以下の長,白多,赤	古代			

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
41	P35	kg5−3	1	須恵器	無台杯B1	11.4	3.0	7.0	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B4/1 暗青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	4号掘立柱建物。P40,10号溝と接合	35	
42	P64	kg4−5		土師器	甕A1	24.0	3.2		1/12	ロクロ→カキメ		7.5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の長,石多	古代	4号掘立柱建物		
43	5溝	kg4−2		須恵器	無台杯B1	12.4	3.4	8.0	1/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	5PB4/1 暗青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	小泊類似。擦れ著しい		
44	5溝	kg4−2		須恵器	有台杯C2	10.0	4.1		1/3	ロクロ	C	10BG5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石	4段階	制作時の補修痕有		
45	5溝	kg4−2		須恵器	無台杯B		1.9	9.0	1/8	ロクロ右,ヘラキリ		N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺?	内・腰擦れ		
46	5溝	kg4−2	1	須恵器	無台杯B		0.7	7.6	1/6	ロクロ		10YR7/1 灰白	小泊,1mm以下の白多,角?	6段階			
47	13溝	kh5−1		須恵器	有台杯A蓋	13.0	1.6	2.0	1/4	ロクロ右,ヘラキリ	A?	5B7/1 明青灰	阿賀北,1mm以下の長多	馬上3号	天井部板目		15
48	13溝	kh5−1		須恵器	有台杯B蓋	15.2	2.2		1/4	ロクロ左→天井部ロクロケズリ		5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	4段階?	口縁・内・腰擦れ		
49	13溝	kg3−5	1	須恵器	有台杯B		1.6	9.4	1/2	ロクロ右, 糸切り		5PB5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	大貫3号?	東海系。内擦れ著しい		
50	13溝	kh5−1		須恵器	有台杯C2	10.0	5.4	6.0	1/3	ロクロ左, ヘラキリ→腰部ロクロケズリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,水	4段階?	金属器模倣?		
51	13溝	kh3−1	2	須恵器	無台杯B1	11.2	2.4	7.0	5/6	ロクロ左,ヘラキリ	C	10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,骨	5段階	使用痕不明瞭		9
52	13溝	kh3−1	2	須恵器	無台杯B1	11.8	2.7	7.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	5段階	擦れ著しい		
53	13溝	kh3−1		須恵器	無台杯B1	11.6	3.0	8.0	2/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	10BG5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石	5段階	使用痕不明瞭		9
54	13溝	kh3−1	2	須恵器	無台杯B1	13.6	3.1	8.4	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	7.5Y6/1 灰	小泊,1mm以下の白多	4~5段階	内擦れ		
55	13溝	kh3−1	3	須恵器	無台杯B1	12.0	2.6		1/6	ロクロ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,石	6段階新			
56	13溝	kh5−1		須恵器	無台杯B1	12.6	3.2	8.0	1/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	小泊類似。底煤		
57	13溝	kg4−5		土師器	無台椀A1	12.2	3.0		1/4	ロクロ		5YR7/6 橙	1mm以下の長,赤,石多	古代	墨書「万ヵ」,内一部煤		15
58	13溝	kg3−5	2	土師器	鍋	39.2	16.4		1/6	ロクロ→カキメ→外ヘラケズリ,内ハケメ		10YR8/3 浅黄橙	3mm以下の長,石多,褐,雲	古代	溝14・15と接合		10
59	P59	kg4−4		黒色土器	無台椀A2	11.6	2.4		1/10	ロクロ→ヘラミガキ		10YR7/3 にぶい黄橙	精良,雲多	古代	5号掘立柱建物。内擦れ著しい		
60	P37	kg4−3		須恵器	短頸壺		3.2	9.4	1/3	ロクロ		5B5/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	古代	5号掘立柱建物。		
61	P41	kg4−3		土師器	甕A1	18.2	2.5		1/6	ロクロ→カキメ		10YR6/3 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多	古代	5号掘立柱建物。		
62	P41	kg4−3		土師器	甕A2	20.6	4.3		1/6	外:ナナメハケメ,内:ヨコハケメ		10YR8/2 灰白	1mm以下の長,石,褐多	古代	5号掘立柱建物。		10
63	P42	kg4−4	1	須恵器	無台杯B1	11.2	2.3		1/12	ロクロ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	6段階?	6号掘立柱建物。		
64	P56	kg3−5		土師器	無台椀		1.4	5.6	1/6	ロクロ		10YR7/2 にぶい黄橙	精良,雲少	古代	6号掘立柱建物。底擦れ著しい		
65	6溝	kg4−3	1	須恵器	有台杯A蓋	14.0	1.6		1/12	ロクロ		5B5/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石,雲多	古代		36	
66	6溝	kg5−4	1	須恵器	有台杯A1	11.8	3.0		3/4	ロクロ右,ヘラキリ	A?	5B4/1 暗青灰	阿賀北,3mm以下の長,石雲多	高山寺	口縁・内・高台擦れ		10
67	6溝	kg4−3		須恵器	無台杯B2	12.6	2.4	8.6	1/4	ロクロ,ヘラキリ	C	10YR8/2 灰白	阿賀北,1mm以下の長,石多	高山寺			
68	6溝 2流	kg3−2 kf5−4	2	須恵器	無台杯A2	13.2	3.1	7.5	2/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	10BG6/1 青灰	阿賀北,精良,1mm以下の長多	高山寺	口縁・内・腰擦れ		10
69	6溝	kg4−3		須恵器	無台杯B1	12.8	3.4	9.0	3/4	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,2mm以下の白多	2段階	墨書「卅」,口縁・内・腰擦れ,底板目?		10
70	7溝	kg5−3	1	須恵器	無台杯B1	12.8	3.1	8.4	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,石	3段階	擦れ著しい		
71	7溝	kg5−3	1	須恵器	無台杯B1	12.4	3.6	8.0	1/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,骨	2~3段階	擦れ著しい		
72	6溝	kg4−3		須恵器	無台杯B2	13.0	3.0	8.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	5YR6/2灰オリーブ	小泊,1mm以下の白多,石,褐	2~3段階			
73	6溝	kg5−3		須恵器	無台杯B1	13.4	3.3	8.4	1/6	ロクロ,ヘラキリ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,石	3段階?	口縁・腰擦れ		
74	6溝	kg3−3	1	土師器	無台椀		2.6	5.6	1/4	ロクロ右,糸切り		10YR6/2 灰黄	1mm以下の長,石多	古代			
75	6溝	kg4−2		土師器	甕A1	18.4	8.0		1/6	ロクロ→カキメ		5YR7/3 にぶい橙	1mm以下の長,石多,褐,雲	古代	外煤,内炭化物付着		
76	7溝	kg5−3	1	土師器	甕A1	22.4	4.3		1/8	ロクロ→カキメ		10YR7/2 にぶい黄橙	1mm以下の長,石多	古代	内一部炭化物付着		
77	7溝	kg5−3	1	土師器	甕A1	19.4	13.1		1/4	ロクロ→下半タタキ→上半カキメ		7.5YR8/4 浅黄橙	2mm以下の長,石,褐	古代	外煤,内炭化物付着		10
78	6溝	kg5−3	1	土師器	甕B1		2.5	8.2	1/2	ロクロ→カキメ,ヘラキリ?		5YR7/4 にぶい橙	3mm以下の長,石,褐多	古代			
79	6溝 2流	kg4−3 kf4−4	2	土師器	甕A1		9.6	2.0	1/3	ロクロ→タタキ		10YR6/2 灰黄褐	2mm以下の長,石,赤,雲多	古代	外煤,内炭化物付着		10
80	6溝	kg5−3	1	須恵器	取手付鉢	28.4	9.5		1/6	ロクロ→カキメ		5Y8/1 灰白	精良,流?	古代	内炭化物付着		10
81	7溝	kg5−3	1	須恵器	鉢or甕		5.4	16.8	1/4	ロクロ→タタキ		5B4/1 暗青灰	精良,砂粒わずか	古代			

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
82	6溝	kg4－3		須恵器	甕	20.6	12.8		1/6	口縁ロクロ,胴タタキ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	古代		37	
83	14溝	kh4－1	1	須恵器	有台杯A蓋		0.7		1/6	ロクロ,ヘラキリ		N5/0 灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	古代			
84	14溝	kg4－5	1	須恵器	無台杯	12.2	3.6	6.4	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	阿賀北,精良,1mm以下の長,石	道婦？	金属器模倣？,擦れ著しい		
85	14溝	kg4－5	1	須恵器	無台杯B		0.6	7.4	1/6	ロクロ,ヘラキリ		5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白,石	4段階？			
86	14溝	kg4－5	1	須恵器	無台杯B2	12.2	3.1	7.6	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,骨,石	5段階	墨書判読不可。擦れ著しい		10
87	14溝	kg4－5	1	土師器	甕A1	18.4	4.7		1/12	ロクロ		10YR7/3 にぶい黄橙	1mm以下の長,石多,雲	古代			
88	3土 6溝	kg5－2 kg4－3		須恵器	無台杯B2	12.2	2.6		1/8	ロクロ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白	6段階			
89	3土	kg5－2		須恵器	短頸壺蓋	14.4	2.9		1/6	ロクロ		N6/0 灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	古代			
90	1土	kf5－2		土師器	無台椀B2	11.2	4.2	5.4	2/3	ロクロ右, 糸切り		5YR6/6橙	1mm以下の長,石,雲多	坂C 10土	墨書「太」,外煤		10
91	1土	kf5－2		土師器	無台椀B2	12.4	3.8	5.0	1/3	ロクロ右, 糸切り		10YR7/4 にぶい黄橙	1mm以下の長,石,赤,雲多	坂C 10土	擦れ著しい		
92	1土	kf5－2		土師器	無台椀B2	12.2	4.3	4.6	1/2	ロクロ右, 糸切り		7.5YR7/3 にぶい橙	1mm以下の長,石,多	坂C 10土	墨書判読不可。擦れ著しい		10
93	1土	kf5－2		土師器	無台椀B2	12.8	4.1	4.4	1/3	ロクロ右, 糸切り		5YR7/6橙	砂粒わずか,雲多	坂C 10土	墨書痕。使用痕不明瞭		10
94	1土	kf5－2	3	黒色土器	皿	12.2	2.5	5.7	略完存	ロクロ,糸切り→ロクロケズリ→ヘラミガキ		5Y2/1 黒	精良,2mm以下の長,石	古代	内外面黒色処理,擦れ明瞭		11
95	1土	kf5－2		須恵器	長頸瓶B		7.8		5/6	ロクロ→胴下半ロクロケズリ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	古代	頸部内面絞り痕		
96	2土	kg5－2	1	須恵器	有台杯A1	11.4	2.7		1/6	ロクロ→腰部ロクロケズリ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,白	3段階以前	6号溝,2号流路と接合		
97	2土	kg5－2	4	須恵器	折縁杯？		1.5	6.6	1/6	ロクロ		2.5Y8/1 灰白	阿賀北,精良,2mm以下の長,石	高山寺~馬上3号			
98	2土 P36	kg5－1 kg5－3	1	須恵器	有台杯B2	15.6	5.8		1/5	ロクロ→沈線2条		5B6/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	高山寺	金属器模倣		
99	2土	kg5－2	4	須恵器	有台杯C1	10.2	5.3	5.8	1/2	ロクロ左, ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	小泊,1mm以下の白多	3~4段階	墨書「大」。口縁部・高台擦れ		10
100	2土	kg5－2	4	須恵器	無台杯A2	12.4	3.7	8.2	1/6	ロクロ右,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺？	口縁・内・腰擦れ	38	
101	2土	kg5－2	6	須恵器	無台杯B1	12.6	3.5	7.8	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	2.5Y8/2 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺	内火襷痕。口縁・内・腰擦れ		
102	2土	kg5－2	1	須恵器	無台杯B2	12.2	2.9	8.0	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺~馬上3号			
103	2土	kg5－1	1	須恵器	無台杯B2	13.2	3.5		1/6	ロクロ	C	2.5Y8/2 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号？	口縁擦れ		
104	2土	kg5－2	1	須恵器	無台杯B1	12.6	3.2	8.8	1/5	ロクロ,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,水	3段階	底墨痕？		
105	2土	kg4－1	1	須恵器	無台杯B1	12.6	3.1	8.0	1/2	ロクロ左, ヘラキリ	C	N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多	3段階	口縁・内・腰擦れ		10
106	2土	kg5－1	1	須恵器	無台杯B1	12.4	3.4	8.7	1/3	ロクロ左, ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	3段階	使用痕不明瞭, 底板擦痕		
107	2土	kg5－2		須恵器	無台杯B2	12.6	3.1	7.4	略完存	ロクロ左, ヘラキリ	C	2.5GY7/1明オリーブ灰	小泊,1mm以下の白多,水	4段階	擦れ著しい		11
108	2土	kg5－2	1	須恵器	無台杯C	11.8	3.6	7.4	1/3	ロクロ左, ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,水	3~4段階	口縁擦れ著しい		
109	2土	kg5－1	1	須恵器	無台杯B1	12.2	2.4		1/6	ロクロ	C	10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白,黒多	5段階以降			
110	2土	kg5－2	4	須恵器	無台杯B		1.1	7.0	1/6	ロクロ, ヘラキリ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白,石多	5段階以降			
111	2土	kg5－2	4	須恵器	無台杯B		0.9	7.6	1/4	ロクロ, ヘラキリ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白,水,骨	5段階以降			
112	2土	kg5－2	4	土師器	無台椀B1	14.0	5.1	5.6	1/3	ロクロ右,糸切り	C	5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の長,石,赤多	寺道上SK3	口縁・内・腰擦れ		
113	2土	kg5－2	4	土師器	無台椀B1	11.6	4.6	3.9	略完存	ロクロ右,糸切り	C	10YR8/2 灰白	精良,砂粒わずか	寺道上SK3	口縁・内・腰擦れ		11
114	2土 2溝	kg5－2 kf4－5	4	須恵器	長頸瓶B		5.2	6.4	1/2	ロクロ左→底部ロクロケズリ, ヘラキリ		N6/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,石	古代			
115	2土	kg5－1		土師器	無台椀A？		3.1	6.0	2/3	ロクロ右,糸切り		5YR7/6橙	1mm以下の長,雲,石多	寺道上SK3	内面・腰擦れ		
116	2土	kg5－2	4	土師器	無台椀B1？	12.2	3.4		1/6	ロクロ		10YR8/2 灰白	1mm以下の長,雲,石多	寺道上SK3	口縁・腰擦れ		
117	2土	kg5－2	1	土師器	甕A3	24.4	14.4		1/3	口縁部ロクロ,胴部ハケメ→外面ヘラケズリ		7.5YR7/4 にぶい橙	1mm以下の長,石,赤,角多,骨	古代	西古志型甕・搬入。3・4・6・11・14号溝,2号流路,P22と接合		
118	2土	kg5－2		土師器	甕A1	18.2	7.2		1/3	ロクロ→カキメ		7.5YR8/2 灰白	1mm以下の長,石多,赤	古代	外煤,内一部コゲ		10
119	2土 2流	kg5－2 kf3－5	1 1	土師器	甕A1	21.0	3.8		1/5	ロクロ→カキメ		7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石多,雲	古代			
120	2土	kg5－1	1	土師器	鍋	38.4	8.5		1/6	ロクロ→カキメ→タタキ→外面ヘラケズリ		5YR7/4 にぶい橙	3mm以下の長,石多,雲	古代	外煤,内炭化物。4・11号溝と接合	39	
121	2土 P22	kg5－2	6 1	土師器	甕B1	11.4	9.9	6.0	1/2	ロクロ→カキメ,糸切り？		5YR6/3 にぶい橙	2mm以下の長,石多,雲	古代	外煤,内口縁炭化物		
122	2土 2溝	kg5－1 kf3－5	1	土師器	甕B2	15.4	2.9		1/6	口縁部ヨコナデ,胴外面ヘラケズリ		7.5YR7/3 にぶい橙	3mm以下の長,石多,雲	古代			

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
123	2土 P35	kg5－1 kg5－3	1	土師器	甕B2		2.6	6.4	1/2	ハケメ		5YR4/2 灰褐	1mm以下の白,角多	古代	搬入？外煤,内炭化物	39	
124	4土	kg3－4	1	須恵器	有台杯A1	12.8	3.6	6.0	1/6	ロクロ	A？	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺	口縁・内・高台擦れ		
125	4土	kg3－4	1	土師器	甕A1	24.4	32.5		1/4	ロクロ→タタキ→カキメ		10YR8/2 灰白	3mm以下の長,石多,褐,流？	古代	外煤,内炭化物		11
126	4土 14溝	kg3－4 kh3－1	1	土師器	甕A1	23.6	6.9		1/6	ロクロ→外カキメ,内ハケメナデ		2.5YR6/4 にぶい橙	3mm以下の長,石多,骨	古代			
127	4土	kg3－5	1	土師器	甕B1		3.8	9.0	1/6	ロクロ→カキメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,流？	古代			
128	17溝	kh5－1		須恵器	無台杯B2	12.0	3.0	7.0	1/7	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	阿賀北,1mm以下の長,石	道婦	底ヘラ記号		
129	17溝	kh5－3		須恵器	無台杯C1	11.8	3.4	5.8	1/4	ロクロ,ヘラキリ		N6/0 灰	阿賀北,1mm以下の長,石多	道婦	擦れ著しい		
130	17溝	kh5－1		須恵器	無台杯B1	12.4	3.2		1/6	ロクロ		5BG7/1 明青灰	阿賀北,4mm以下の長,石多	馬上3号～狼沢2号	瓦質,黒斑		
131	17溝	kh5－1	1	土師器	甕B1	14.4	4.4		1/6	ロクロ→カキメ		10YR8/2 灰白	2mm以下の長,石多い,赤,雲	古代			
132	11溝	kg4－5	1	須恵器	無台杯B		0.6	9.0	1/4	ロクロ,ヘラキリ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,骨	3～4段階			
133	11溝	kg4－5	1	土師器	甕B1	11.0	3.1		1/6	ロクロ		2.5YR6/4 にぶい橙	1mm以下の長,水多	古代	外煤,内炭化物		
134	20溝	kh3－2		須恵器	無台杯B		1.4	7.6	1/6	ロクロ,ヘラキリ		5BG5/1 青灰	小泊,1mm以下の白	4段階？			
135	21溝	kh4－2		須恵器	無台杯C2	10.8	5.2	7.5	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白	3段階？	金属器模倣？,口縁・内・高台擦れ		11
136	21溝	kh5－2		須恵器	短頸壺？		11.6		1/3	ロクロ→カキメ		2.5YR5/1 赤灰	阿賀北,1mm以下の長,石多,赤	古代	高台割り揃え？		
137	22溝	kh4－3		須恵器	無台杯B1	12.0	3.0	6.6	2/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,赤	6段階新	口縁・内・腰擦れ		
138	22溝	kh4－3	1	土師器	甕A1	17.8	2.0		1/12	ロクロ→カキメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多,雲	古代			
139	16溝	kh5－1		須恵器	有台杯B蓋	14.4	1.4		1/8	ロクロ	A？	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺？	使用痕不明瞭		
140	16溝	kh4－1		須恵器	無台杯B		1.4	8.0	1/10	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	古代			
141 P60	16溝	kh4－1 kg4－5	1	土師器	鍋	39.0	11.4		1/6	ロクロ→カキメ→胴下半ヘラケズリ		10YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石多,雲,赤	古代	外煤,内若干炭化物		
142	P11	kg3－1	1	須恵器	無台杯B1	11.4	3.1	7.6	1/4	ロクロ,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	5段階	口縁・内・腰擦れ		
143	P11	kg3－1	1	須恵器	無台杯B2	12.0	3.2	7.6	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石,骨	5段階	擦れ著しい		
144	P79	kh4－2		須恵器	有台杯B蓋	16.0	2.9		1/3	ロクロ右→天井部ロクロケズリ	A？	5B5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多,赤	貝屋～高山寺？	口縁擦れ	40	
145	P20	kg3－2	1	土師器	無台椀A2	12.4	3.4	6.0	1/6	ロクロ右,糸切り		10YR6/3 にぶい黄橙	精良,1mm以下の長,石,雲多	坂C 9土	外煤,口縁内炭化物		
146	P21	kg4－2		土師器	皿		1.6	4.4	1/3	ロクロ,糸切り		5YR8/1 淡橙	精良,1mm以下の長,石,雲	古代	使用痕不明瞭		
147	P295	kh4－1	1	須恵器	無台杯B1	12.0	2.5		1/6	ロクロ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,骨	6段階新			
148	P22	kg4－2	1	土師器	無台椀B2	12.6	4.5	4.4	1/3	ロクロ右,糸切り		10YR7/2 にぶい黄橙	精良,1mm以下の長,石,雲,赤	坂C 10土	墨書「太」。擦れ著しい		
149	P22	kg4－2	1	土師器	無台椀A2	12.2	3.3		1/6	ロクロ	C	10YR8/2 灰白	精良,1mm以下の長,石,雲	坂C 10土			
150	P22	kg4－2		黒色土器	無台椀A2？	16.4	3.8		1/6	ロクロ→ヘラミガキ		10YR5/3 にぶい黄褐	精良,1mm以下の長,石,雲	古代	使用痕著しい		
151	2流	kg3－1	1	須恵器	有台杯A1	12.2	3.2		5/6	ロクロ右,ヘラキリ	A	5B5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長多、石	高山寺～馬上3号	高台剥落		11
152	2流	kf5－4	1	須恵器	無台杯A1	13.2	3.7	7.4	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	10BG6/1 緑灰	阿賀北,3mm以下の長多,石	高山寺？	口縁・内・腰擦れ。内外煤		15
153	2流	kf4－4	1	須恵器	無台杯B2	12.6	2.8	7.6	1/6	ロクロ→ヘラミガキ	C	5B6/1 青灰	阿賀北,1mm以下の長,石	馬上3号？	口縁・内・腰擦れ		
154	2流	kf5－4	1	須恵器	無台杯B1	12.0	3.0	5.8	1/2	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B4/1 暗青灰	阿賀北,1mm以下の長,石多	狼沢2号～道婦	小泊類似。擦れ著しい		11
155	2流	kf4－2	1	須恵器	無台杯B1	13.0	3.0		1/6	ロクロ		5B6/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多石	馬上3号～狼沢2号	小泊類似		
156	2流	kf4－2	1	須恵器	無台杯B1	11.6	2.8	7.0	5/6	ロクロ左, ヘラキリ	C	5BG7/1 明青灰	小泊,1mm以下の白多	6段階古	墨書「七カ」,口縁・内・腰擦れ		11
157	2流	kf5－3	1	須恵器	無台杯B1	12.4	3.0	7.4	1/3	ロクロ左, ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	小泊,1mm以下の白多,水,骨	6段階新	使用痕不明瞭		
158	2流	kf4－3	1	須恵器	無台杯B1	12.4	3.0	7.0	1/3	ロクロ左, ヘラキリ	C	10Y7/1 灰白	小泊,1mm以下の白多,骨	6段階新	使用痕不明瞭		
159	2流	kf4－4	1	須恵器	無台杯B1	12.6	2.7	7.2	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多,骨	6段階新？	口縁・内・腰擦れ		
160	2流	kf5－3	1	土師器	無台椀B1	12.0	3.9	4.4	1/2	ロクロ右,糸切り→腰ヘラケズリ		5YR6/2 褐灰	3mm以下の長,石多,流？	坂C 10土	外煤,内炭化物	41	
161	2流	kf5－3	1	土師器	無台椀A2	12.8	3.8	4.8	1/3	ロクロ右,糸切り		5YR7/4 にぶい橙	精良,1mm以下の長,石多	坂C 10土	内炭化物,擦れ著しい		15
162	2流	kf3－2	1	土師器	無台椀A2	12.4	3.8	5.4	1/3	ロクロ右,糸切り		5YR7/6 橙	精良,1mm以下の長,石,雲多	坂C 10土	口縁・内・腰擦れ		11
163	2流	kf3－4	1	土師器	無台椀B2	12.2	4.3	4.4	1/3	ロクロ右,糸切り		10YR7/3 にぶい黄橙	精良,砂粒わずか,雲多	坂C 10土	使用痕不明瞭		

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
164	2流	kf4－3	1	土師器	無台椀B1	12.5	4.3	5.1	2/3	ロクロ右,糸切り		7.5YR7/4 にぶい橙	精良,1mm以下の長,石,雲多	坂C 10土	口縁面:炭化物	41	
165	2流	kf5－3	1	土師器	皿	11.6	1.5		1/6	ロクロ→ヘラミガキ		5YR6/6 赤橙	精良,1mm以下の長,石,雲,骨	古代			
166	2流	kf4－2	1	黒色土器	無台椀B1	17.8	6.7	7.6	1/2	ロクロ→ロクロケズリ→ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	精良,1mm以下の長,石多,褐	古代	擦れ明瞭		11
167	2流	kf5－4	1	土師器	甕A1	24.6	7.3		1/6	ロクロ		10YR7/3 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多,赤	古代	外煤,内炭化物？		
168	2流	kf5－4	1	土師器	甕A1	16.2	8.4		1/6	ロクロ→カキメ		7.5YR8/4 浅黄橙	3mm以下の長,石多	古代	外煤なし		
169	2流	kf4－3	1	土師器	甕B1	13.4	7.5		1/2	ロクロ		5YR7/4 にぶい橙	3mm以下の長,石多,褐,雲	古代			
170	2流	kf3－4	1	土師器	甕B1	16.2	4.8		1/6	ロクロ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多	古代			
171	2流	kf4－4	1	須恵器	短頸壺	9.8	11.0		1/6	ロクロ→カキメ		N6/0 灰	阿賀北,精良,砂粒わずか	古代	無蓋		
172	2流	kf4－2	1	須恵器	甕		23.4		1/6	タタキ		N6/0 灰	阿賀北、2mm以下の長,石花多	古代			
173	2流 16溝	kf4－4 kh4－1	2	須恵器	有台杯B蓋	16.0	2.1		1/3	ロクロ左→天井部ロクロケズリ		10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	4段階古		42	
174	2流	kf4－4	2	須恵器	有台杯B1	13.6	7.0	7.4	1/2	ロクロ左→腰ロクロケズリ	B	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	4段階古	口縁・内・高台擦れ		11
175	2流	kf4－4	2	須恵器	有台杯B1	14.8	7.6	7.2	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C？	10BG6/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	貝屋~高山寺	底墨痕,転用硯？		
176	2流	kf3－2	2	須恵器	無台杯A1	13.0	3.1	7.0	1/3	ロクロ右,ヘラキリ		5YR7/4 にぶい橙	阿賀北,2mm以下の長	貝屋~高山寺	内面炭化物帯状に付着。灯明皿に転用？		
177	2流	kf5－4	2	須恵器	無台杯B1	12.2	3.0	7.2	1/2	ロクロ左, ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	小泊類似,擦れ著しい		
178	2流	kf4－4	2	須恵器	無台杯B1	11.8	3.5	7.0	1/4	ロクロ左, ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石,骨	5段階	内底墨痕,パレット？		
179	2流	kf5－3	2	須恵器	無台杯B1	13.0	3.2	8.8	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	5GY6/1 オリーブ灰	小泊,1mm以下の白多,水,骨	4段階新？	口縁・内・腰擦れ		
180	2流	kf5－4	2	須恵器	無台杯C1	11.2	3.5	7.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白	5段階	擦れ著しい		
181	2流	kf3－3	2	須恵器	短頸壺蓋		2.8	2.1	1/2	ロクロ,ヘラキリ		10Y7/1 灰白	阿賀北,1mm以下の長,石	古代	摘み粘土異なる		
182	2流	kf5－3	2	黒色土器	無台椀B1	12.8	4.9	5.4	1/3	ロクロ,糸切り→ロクロケズリ→ヘラミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙	精良,砂粒わずか	古代	内擦れ明瞭		
183	2流	kf3－3	2	黒色土器	無台椀A1	15.2	4.0		1/6	ロクロ→ヘラミガキ		7.5YR7/3 にぶい橙	精良,砂粒わずか	古代	内擦れ明瞭		
184	2流	kf5－4	2	土師器	甕A2	19.0	(12.7)		1/8	口縁ヨコナデ, 胴ヨコ・タテハケメ		10YR6/3 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多,雲	古代	口縁部と胴部は接合しない。外煤		
185	2流	kf3－3	2	土師器	甕A2	23.8	6.7		1/6	口縁ヨコナデ, 胴タテヘラケズリ		10YR7/4 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多,雲,赤	古代	外煤		11
186	2流 2溝	kf3－4 kf3－5	2	土師器	甕A1	20.0	9.3		1/6	ロクロ→カキメ→胴下半ヘラケズリ		10YR8/2 灰白	3mm以下の長,石多,褐	古代	外煤,内炭化物		
187	2流	kf4－4	2	土師器	鍋	38.0	10.3		1/7	ロクロ→胴上半カキメ,下半ハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多	古代	外煤,内炭化物		11
188	2流	kf4－3	2	土師器	甕B1	13.8	4.8		1/10	ロクロ→カキメ		5YR6/6 にぶい橙	2mm以下の長,石多	古代			
189	2流	kf5－4	2	須恵器	甕	24.0	8.0		1/6	口縁ロクロ,胴タタキ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多	古代			
190		kf	Ⅱb	須恵器	折縁杯C		3.7	6.8	1/6	ロクロ,ヘラキリ		5B5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石,花多	馬上3号~狼沢2号	擦れ著しい,足高高台	43	
191		kf4－5	Ⅱb	須恵器	無台杯B2	12.8	3.4	8.0	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	2.5Y8/1 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺？			
192		kf5－3	Ⅲb	須恵器	無台杯B1	12.0	2.9	7.4	1/6	ロクロ右,ヘラキリ	C	10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白	6段階新	口縁・内・腰擦れ		
193		kf3－5	Ⅱb	黒色土器	皿		2.6		小片	ロクロ→ヘラミガキ		N2/0 黒	1mm以下の白,石,骨	古代	内外面黒色処理		
194		kf4－5	Ⅲb	黒色土器	皿		1.1	5.0	3/4	ロクロ→ロクロケズリ→ヘラミガキ		N2/0 黒	1mm以下の長,石,角	古代	内外面黒色処理		
195		kf5－4	Ⅱb	土師器	甕A1				小片	ロクロ		10YR8/2 灰白	2mm以下の長,石,流？多,雲	古代	「×」ヘラ記号		
196		kg3－3	Ⅲb	須恵器	有台杯A蓋	14.5	2.8	2.8	1/3	ロクロ右→天井部ロクロケズリ	A	5B6/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	貝屋~高山寺	内擦れ		11
197		kg3－2	Ⅲb	須恵器	有台杯A蓋	12.6	2.2		1/6	ロクロ右→天井部ロクロケズリ		5B7/1 明青灰	精良,1mm以下の長,石	馬上3号？	搬入？。東海系。墨痕		
198		kg5－4	Ⅲb	須恵器	有台杯A1	12.6	4.5	8.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ		2.5Y7/2 灰黄	阿賀北,2mm以下の長,石多,赤	貝屋~高山寺	口縁・内・高台擦れ		
199		kg5－5	Ⅲb	須恵器	有台杯B2	14.8	6.6	7.6	1/4	ロクロ右,ヘラキリ,沈線一条		5B5/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺	口縁・内・高台擦れ		11
200		kg4－2	Ⅲb	須恵器	有台杯B1	13.2	6.0	7.6	1/2	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,水,褐	5段階	使用痕不明瞭		
201		kg5－4	Ⅲb	須恵器	有台杯C1	11.0	5.5	6.4	1/2	ロクロ右,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	阿賀北、精良,5mm以下の長,石	高山寺	口縁・内・高台擦れ		
202		kg4－2	Ⅲb	須恵器	有台杯C1	10.0	4.7	6.1	3/4	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,長？	3段階	口縁・内・高台擦れ		
203		kg4－3	Ⅲb	須恵器	無台杯B1	12.2	3.3	7.8	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	阿賀北,精良,1mm以下の長多	高山寺~馬上3号	小泊類似,口縁・内・腰擦れ		
204		kg3－4	Ⅲb	須恵器	無台杯B1	11.4	3.4	6.8	1/6	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺~馬上3号	墨書「目」。擦れ著しい		12

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
205		kg5－5	Ⅱb	須恵器	無台杯A1	12.4	3.3	8.4	1/3	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長多	高山寺~馬上3号	土師器の胎土に類似。底刃物痕？	43	
206		kg4－1	Ⅱb	須恵器	無台杯C？		0.8	5.8	1/6	ロクロ右,糸切り		5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,石,骨,褐		内面擦れ		
207		kg5－2	Ⅲb	須恵器	無台杯C	12.4	3.1	6.0	1/6	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B4/1 暗青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	狼沢2号~道婦	小泊類似。擦れ著しい		
208		kg5－2	Ⅲb	須恵器	無台杯C	11.8	3.2	6.0	1/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	狼沢2号~道婦	小泊類似。口縁・内・腰擦れ		
209		kg4－2	Ⅲb	須恵器	無台杯B2	13.0	2.8	7.8	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	5段階？	墨書判読不可。口縁・内・腰擦れ		15
210		kg5－2	Ⅲb	須恵器	無台杯B1	11.2	2.2	6.0	1/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,骨	4段階	口縁・内・腰擦れ。底板目痕		
211		kg5－2	Ⅲb	須恵器	無台杯B1	12.4	2.8	7.6	1/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多	4段階	口縁・内面・腰擦れ。		
212		kg3－1	Ⅲb	土師器	無台椀B2	12.6	4.6	4.7	2/3	ロクロ右,糸切り		5YR7/3 にぶい橙	精良,1mm以下の長,石,雲,赤多	坂C 1竪?	墨書「太」。内炭化物,口縁・内・腰擦れ		12
213		kg4－2	Ⅲb	土師器	無台椀		0.9	5.0	1/3	ロクロ,糸切り		10YR8/1 灰白	精良,砂粒わずか,雲	古代	底「万」墨書		15
214		kg4－2	Ⅲb	土師器	無台椀B1	11.6	4.3	4.8	3/4	ロクロ右,糸切り	C	7.5YR8/6 浅黄橙	1mm以下の長,石,赤多,雲	坂C 10土	底ひび割れ痕。使用痕不明瞭		
215		kg3－1	Ⅱb	土師器	無台椀B2	12.0	4.1	4.6	3/4	ロクロ右,糸切り		10YR8/2 灰白	2mm以下の長,石,褐多,雲	坂C 10土			
216		kg	Ⅱb	土師器	皿		1.3	4.6	1/3	ロクロ,糸切り？		5YR8/3 淡橙	精良,砂粒わずか	古代			
217		kg4－2	Ⅲb	黒色土器	無台椀A2	14.0	4.2	6.4	1/4	ロクロ→ロクロケズリ→ロクロミガキ		10YR7/3 にぶい黄橙	1mm以下の長,石,赤,雲多	古代	底火襷痕。擦れ著しい		
218		kg4－2	Ⅱb	黒色土器	無台椀B1	13.8	5.3	5.7	3/4	ロクロ→ロクロケズリ→ミガキ		10YR7/2 にぶい黄橙	精良,雲多	古代	口縁・内面・腰擦れ。		12
219		kh5－1	Ⅲb	須恵器	有台杯B蓋	15.6	1.8	2.8	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	A	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	貝屋~高山寺		44	11
220		kh5－1	Ⅲb	須恵器	有台杯B蓋	17.0	2.0		1/3	ロクロ左→ロクロケズリ	B	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,褐,石	2~3段階	高盤蓋の可能性有		15
221		kh5－3	Ⅲb	須恵器	折縁杯D		3.8	9.0	1/4	ロクロ右,ヘラキリ		N6/0 灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	2~3段階	口縁・内・腰擦れ。		12
222		kh3－1	Ⅲb	須恵器	有台杯C	10.4	5.5	6.0	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	3~4段階	底墨痕,パレット？		12
223		kh4－1	Ⅲb	須恵器	無台杯B2	12.8	3.6	9.1	1/2	ロクロ右,ヘラキリ		2.5Y8/1 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	高山寺	瓦質。口縁外帯状に煤		12
224		kh4－1	Ⅲb	須恵器	無台杯B2	12.8	3.2	8.2	1/3	ロクロ右,ヘラキリ		2.5Y7/1 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺	瓦質。擦れ著しい。外煤,内炭化物		
225		kh3－1	カクラン	須恵器	無台杯B		0.5	8.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白,石多	5~6段階	底墨書判読不可		
226		kh4－3	Ⅲb	須恵器	長頸瓶B	2.8	3.3		1/6	ロクロ		N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	古代			
227		kh5－2	Ⅲb	須恵器	短頸壺	10.2	15.6		1/6	ロクロ→カキメ。沈線2条一組2段		5PB5/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石,赤多	古代	オリーブ灰釉厚く掛る		
228		kh5－2	Ⅲb	須恵器	甕	28.0	2.3		1/6	ロクロ		5B5/1 青灰	精良,1mm以下の白多	古代	小泊？		
229	1竪	kp3－3	1	須恵器	無台杯	11.6	2.4		1/6	ロクロ	C	N8/0 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	古代		45	
230	1竪	kp3－3	1	黒色土器	椀or台付鉢？	14.2	6.6		1/6	ヘラミガキ→外ヘラケズリ		10YR6/3 にぶい黄橙	非常に精良,長,石,雲	古墳後期	金属器模倣？		
231	1竪	kp3－3	1	黒色土器	杯	16.2	1.6		1/10	ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	非常に精良,砂粒わずか	古墳後期			
232	1竪	kp3－2	1	黒色土器	杯		0.7	7.6	1/6	ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	1mm以下の長,石,水多,骨,雲	古墳後期			
233	7建関	kl5－5	Ⅲa	須恵器	有台杯A1	11.6	4.3	7.3	5/6	ロクロ右,ヘラキリ	B	2.5Y7/2 灰黄	微小な石,雲	高山寺	酸化炎焼成気味。254とセットか。底ヘラ記号		
234	7建関	kl5－5	Ⅲa	須恵器	有台杯C1	11.2	4.6	6.2	5/6	ロクロ右,ヘラキリ	C	N6/0 灰	阿賀北,4mm以下の長,石多	高山寺	口縁・内・腰擦れ		12
235	7建関	kl4－4 kl5－5	Ⅲa	須恵器	有台杯C1	10.0	4.5	6.0	5/6	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	3段階	擦れ著しい		12
236	7建関	kl5－4 km4－1	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	11.8	3.4	7.4	5/6	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	阿賀北,4mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	小泊類似。口縁・内・腰擦れ。底ヘラ記号		12
237	7建関	kl4－4 kl5－4	Ⅲa	黒色土器	無台椀B2	13.4	4.7	5.4	1/3	ロクロ→ロクロケズリ,ミガキ→ミガキ		10YR7/4 にぶい黄橙	精良,微小な長,石,水,骨,角,雲	古代	内擦れ		
238	7建関	kl4－5 kl5－5	Ⅲa	土師器	甕B1		11.1	7.4	3/4	ロクロ右,糸切り		10YR7/2 にぶい黄橙	5mm以下の長,石,雲多	古代	外煤,内部分的に炭化物		
239	7建関	kl5－5	Ⅰ	須恵器	甕	18.0	4.2		1/6	ロクロ		N6/0 灰	小泊,1mm以下の白多,赤	古代			
240	7建関	kl5－5	Ⅲa	須恵器	甕	32.0	20.3		1/4	口縁ロクロ,胴タタキ		N6/0 灰	小泊,1mm以下の白多	古代			12
241	8建関	kl3－4	Ⅲa	須恵器	有台杯A蓋	12.0	2.8		1/8	ロクロ,ヘラキリ	B	N8/0 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	古代	内擦れ・煤		
242	8建関	km3－1	Ⅲa	土師器	甕B1		2.5	6.6	1/3	ロクロ,ヘラキリ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,雲多	古代	外煤		
243	8建関	km3－1 km4－1	Ⅲa	土師器	甕B1	13.6	8.7		1/3	ロクロ		7.5YR7/2 明褐灰	3mm以下の長,石,雲多	古代	外煤,内口縁帯状に炭化物。244と同一？		
244	8建関	km3－1 km4－1	Ⅲa	土師器	甕B1		7.2	7.0	2/3	ロクロ右,糸切り		7.5YR7/2 明褐灰	2mm以下の長,石多	古代	外煤,内炭化物。243と同一？		
245	8建関	km3－1	Ⅰ	土師器	鍋	44.0	6.6		1/8	ロクロ→カキメ→外ヘラケズリ,内ハケメ		7.5YR8/4 浅黄橙	2mm以下の長,石,雲多	古代	外煤		

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
246	9建関	km4－1 km4－3	Ⅲa	須恵器	有台杯B蓋	17.4	2.8		1/2	ロクロ左→天井部ロクロケズリ	B	N6/0 灰	小泊,1mm以下の白多,骨	2段階			
247	9建関	kl4－4 kl4－5	Ⅲa	須恵器	有台杯B1	14.0	5.7		1/3	ロクロ		N5/0 灰	小泊,1mm以下の白多,石	3段階	口縁擦れ		
248	9建関	km3－1 km4－1	Ⅲa	須恵器	折縁杯A	13.4	4.1	5.8	1/2	ロクロ右,ヘラキリ	C	N5/0 灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号	口縁・内・高台擦れ		
249	9建関	km4－1 km4－2	Ⅲa	須恵器	無台杯B？	11.2	2.8		1/6	ロクロ	C	10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	4段階？			
250	9建関	km4－1	Ⅲa	須恵器	無台杯	12.8	3.0		1/6	ロクロ	C	10YR8/3 浅黄橙	阿賀北,5mm以下の長,石多	高山寺？			
251	9建関	km4－1 km4－2	Ⅲa	須恵器	無台杯B2	12.8	3.2	7.4	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	10Y7/1 灰白	阿賀北,4mm以下の長,石多,水	高山寺	口縁・内・腰擦れ		
252	9建関	km4－1	Ⅲa	須恵器	短頸壺	10.0	10.0		1/4	ロクロ→カキメ		5PB6/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	古代	無蓋		
253	9建関	km4－1 kl4－5	Ⅲa	土師器	甕B1	13.0	12.4	7.8	2/3	ロクロ右,糸切り		10YR7/2 にぶい黄橙	4mm以下の長,石,雲多	古代	外煤,内炭化物なし		12
254	10建関	km5－1 km5－2	Ⅲa	須恵器	有台杯A蓋	12.8	3.6	2.0	5/6	ロクロ右,ヘラキリ	B	2.5Y7/2 灰黄	1mm以下の長,角,流？,骨？	高山寺	酸化炎焼成気味。233とセットか		12
255	10建関	km5－1	Ⅲa	須恵器	有台杯A2	12.2	4.7	7.3	5/6	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	阿賀北,4mm以下の長,石多	馬上3号	口縁・内・高台擦れ		12
256	10建関	km5－2 km5－4	Ⅲa	須恵器	有台杯A1	11.2	3.2	7.4	1/4	ロクロ,ヘラキリ		7.5Y4/1 灰	小泊,1mm以下の白,赤多	2~3段階	器厚薄手	46	12
257	10建関	km5－1 km4－5	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	12.2	3.2	6.9	5/6	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	小泊,4mm以下の白多	4段階	墨書「大」。口縁・内・腰擦れ		12
258	P137	kn4－2	柱痕	須恵器	折縁杯C	14.0	4.2	8.4	1/6	ロクロ,ヘラキリ		2.5Y5/1 黄灰	阿賀北,2mm以下の長,石多,褐	馬上3号？	12号掘立柱建物。擦れ著しい		12
259	P139	kn3－2	1	須恵器	折縁杯A？	12.2	2.0		1/10	ロクロ		N5/0 灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	12号掘立柱建物		
260	P137	kn4－2		須恵器	短頸壺		11.3	9.6		ロクロ→カキメ。沈線2条		N6/0 灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	古代	12号掘立柱建物		12
261	P137	kn4－2	1	須恵器	横瓶？				小片	ロクロ		N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石,赤多	古代	12号掘立柱建物		
262	P225	ko5－3		須恵器	無台杯B		1.4	6.6	1/6	ロクロ,ヘラキリ		N7/0 灰白	小泊,1mm以下の白多	6段階？	18号掘立柱建物		
263	P164	kn3－4		須恵器	無台杯B		1.8	8.0	1/4	ロクロ左,ヘラキリ		5BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多,水,褐	3~4段階	13号掘立柱建物。擦れ著しい		
264	P170	kn4－5		土師器	甕B1	14.8	6.5		1/6	ロクロ		7.5YR7/3 にぶい橙	2mm以下の長,石多	古代	13号掘立柱建物。外煤,内炭化物		
265	P180	kn3－5	1	土師器	甕A1		8.5	6.2	1/3	タタキ→内ハケメ		10YR7/3 にぶい黄橙	4mm以下の長,石,水多	古代			
266	69溝	kp4－5	1	須恵器	無台杯B2	11.6	2.9		1/10	ロクロ		10BG6/1 青灰	小泊,1mm以下の白多	4~5段階	19号掘立柱建物雨落ち溝。口縁・内・腰擦れ		
267	20建関	kp4－4	地山直上	土師器	壺B		8.3		1/6	口縁ハケメ,胴外ヘラミガキ・内ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多,雲	古墳後期	268と同一		14
268	20建関	kp4－4	地山直上	土師器	壺B		11.3	8.2	2/3	外ヘラミガキ・内ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多,雲	古墳後期	267と同一		14
269	20建関	kp4－4	地山直上	黒色土器	杯		2.0	8.0		ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	精良,2mm以下の褐,雲	古墳後期	内痘痕状		
270	20建関	kp4－4	地山直上	土師器	甕C？	12.4	1.5		1/6	ヨコナデ		10YR6/2 灰黄褐	1mm以下の長,石,水多,雲	古墳後期			
271	63溝 67溝	kp4－4 kp5－4	1	土師器	甕D	12.8	8.3		1/3	口縁ヨコナデ,胴外ハケメ,内ハケメナデ		10YR6/2 灰黄褐	1mm以下の長,石,水,雲多	古墳後期	外煤,内炭化物		14
272	63溝	kp4－4	1	土師器	壺A	14.8	24.6		1/4	外ハケメ,内ハケメナデ		10YR8/1 灰白	2mm以下の長,石多,雲	古墳後期	外煤	47	14
273	65溝	kp3－4	1	土師器	甕		9.0	6.6	1/3	ハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	4mm以下の長,石,水多,雲	古墳後期	ハケメ内外で工具異なる。外煤		
274	65溝	kp4－4	1	土師器	甕C	14.0	12.0		1/6	ハケメ		7.5YR7/3 にぶい橙	2mm以下の長,石,水多	古墳後期	外煤,内口縁帯状に炭化物		
275	65溝	kp3－4	1	黒色土器	杯D	14.6	4.1	5.0	2/3	ヘラミガキ		7.5YR7/6 橙	2mm以下の長,石多,雲	古墳後期	45・60a溝,18土坑と接合。内擦れ著しい		14
276	65溝	kp3－4	1	黒色土器	杯B1		2.9		1/12	ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	精良,砂粒わずか,雲,骨	古墳後期	須恵器模倣杯		
277	67溝	kp5－4		土師器	甕	21.2	4.3		1/6	口縁ヨコナデ,胴外ハケメ,内ヘラナデ		5YR7/4 にぶい橙	2mm以下の長,石多,雲	古墳後期？	古代か。外煤,内炭化物帯状		
278	1井 60a溝	kp5－3 kp4－3	3 2	土師器	杯B	14.8	5.3		1/3	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		10YR7/2 にぶい黄橙	精良,微小な長,石,水,褐,雲	古墳後期			
279	1井	kp5－3	4 2	土師器	杯A	12.8	2.7		1/12	口縁ヨコナデ,外ヘラミガキ,内ナデ		5YR7/6 橙	精良,微小な長,石,水,褐,雲	古墳後期			
280	1井 60a溝	kp5－3	3	土師器	杯A	14.6	3.6		1/6	口縁ヨコナデ,ほかヘラミガキ		5YR8/4 淡橙	2mm以下の長,石,赤,多,	古墳後期			
281	1井 60b溝	kp5－2 kp5－3	2	土師器	杯C	12.0	5.6	4.0	1/4	外・内ヘラミガキ		10YR6/2 灰黄褐	微小な長,石,水,褐,雲	古墳後期			
282	1井 60b溝	kp5－2 kp5－3	3	黒色土器	杯B	16.6	6.1	3.3	1/2	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	1mm以下の長,石,褐,雲	古墳後期	内擦れ著しい	48	14
283	1井	kp5－2		黒色土器	杯B	17.4	6.3	2.8	3/4	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	微小な長,石,雲多	古墳後期	内擦れ著しい,痘痕状		14
284	1井	kp5－2		黒色土器	杯B	18.0	3.8			外・内ヘラミガキ		2.5Y7/2 灰黄	2mm以下の長,石,流？多,雲	古墳後期			
285	1井 60b溝	kp5－3 kp5－2	3 2	黒色土器	杯A		4.3		1/6	外・内ヘラミガキ		N6/0 灰	精良,微小な長,石,水,骨,角多	古墳後期	内擦れ著しい		
286	1井 60a溝	kp5－3	2 2	黒色土器	杯C	16.8	3.7		1/6	ヨコナデ→ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	精良,微小な長,雲,骨,多	古墳後期	内擦れ著しい		

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
287	1井	kp5−3	3	黒色土器	杯C	16.0	3.3		1/7	外・内ヘラミガキ		10YR5/2 灰黄褐	3mm以下の花,長,石多,雲,骨	古墳後期	内擦れ著しい		
288	1井	kp5−3	1	黒色土器	杯		0.4	6.4	1/4	外・内ヘラミガキ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,水,雲多	古墳後期	「×」ヘラ記号		
289	1井	kp5−3	3	黒色土器	杯A	13.8	5.5	4.0	1/4	外・内ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	精良,微小な長,石多,雲	古墳後期			
290	1井 60a溝	kp4−3 kp5−3	2 2	黒色土器	杯A	16.8	4.9		1/8	外・内ヘラミガキ		10YR6/2 灰黄褐	精良,2mm以下の長,石,骨多	古墳後期			
291	1井	kp5−3	3	黒色土器	杯E2？	14.8	4.8		1/10	外・内ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	精良,微小な長,石,雲	古墳後期	内擦れ著しい		
292	1井 60a溝	kp5−3 kp5−4	3 3	黒色土器	杯D	13.0	4.2		1/3	外・内ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	精良,微小な長,石	古墳後期			
293	1井	kp5−3	3	黒色土器	高杯	12.6	2.0		1/12	外・内ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	精良,微小な長,石,水,雲多	古墳後期			
294	1井	kp5−3	3	黒色土器	高杯	12.6	4.1		1/8	外・内ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	精良,1mm以下の長,石,水多	古墳後期	内擦れ著しい	48	
295	1井 60b溝	kp5−3 kp5−3	3 2	黒色土器	高杯		4.1	8.6	1/2	外ハケメ→ヘラミガキ,内ナデ		10YR8/3 浅黄橙	精良,砂粒わずか,雲	古墳後期			
296	1井	kp5−3	3	土師器	鉢	16.0	5.4		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		7.5YR8/3 浅黄橙	1mm以下の長,石,水,雲多	古墳前期			
297	1井	kp5−3	3	土師器	底部穿孔鉢		3.2	4.4	底部存	外ハケメ→ナデ,内ナデ		7.5YR7/4 にぶい橙	4mm以下の長,石,赤,雲多	古墳前期？			
298	1井	kp5−3	4	土師器	壺A	13.0	3.4		1/6	ヨコナデ→ヘラミガキ		2.5Y8/1 灰白	2mm以下の長,石,雲多	古墳後期			
299	1井	kp5−3	3	土師器	壺A	13.2	3.5		1/12	ヨコナデ→ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	精良,2mm以下の長,石,水	古墳後期			
300	1井	kp5−3	3	土師器	甕A1	20.0	4.2		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ハケメナデ		2.5Y8/2 灰白	2mm以下の長,石多い,雲	古墳後期			
301	1井 60b溝	kp5−3 kp5−3	3 1	土師器	甕A2	21.6	14.3		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ハケメナデ		7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石,雲多	古墳後期			14
302	1井	kp5−2	3	土師器	甕A1	24.2	5.9		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ハケメケズリ		10YR8/1 灰白	2mm以下の長,石多	古墳後期	60a・b溝,18土坑と接合		
303	1井	kp5−3	4	土師器	甕B2	22.4	4.5		1/8	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		7.5YR7/3 にぶい橙	3mm以下の長,石,褐,雲多	古墳後期	外煤,内炭化物		
304	1井 60a溝	kp5−2 kp5−3	2	土師器	甕C	16.0	13.3		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	微小な長,石,雲多	古墳後期	外煤,内ヨゴレなし		
305	1井 60b溝	kp5−2 kp5−3	1	土師器	甕？	14.4	2.0		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,雲	古墳後期			
306	1井	kp5−3	2	土師器	甕Dor鉢	12.4	4.9		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ナデ		10YR8/1 灰白	3mm以下の長,石多	古墳後期	外煤		
307	1井	kp5−3	1	土師器	壺	19.2	2.4		1/12	口縁ヨコナデ,内ヘラケズリ,口縁擬凹線文		7.5YR8/4 浅黄橙	3mm以下の長,石,流？,褐	古墳前期	東海系？		
308	1井	kp5−3	4	土師器	甕	21.2	2.0		1/8	口縁ハケメ→ヨコナデ		10YR8/2 灰白	3mm以下の長,石,雲,赤多	古墳前期			
309	1井 60a溝	kp5−3 kp4−3	4 2	土師器	器台or高杯		3.9	10.2	1/4	外ハケメ→ヘラミガキ,内ナデ,内ハケメ		10YR5/1 褐灰	4mm以下の長,石,水多	古墳前期			
310	60a溝 60b溝	kp5−3 kp5−4	1 1	黒色土器	杯B	16.8	7.0	6.0	1/2	口縁ヨコナデ,ハケメ→ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	1mm以下の長,石,花多	古墳後期	67・68溝と接合。内擦れ著しい		14
311	60a溝	kp4−3	1	黒色土器	杯B	17.2	4.5		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	1mm以下の長,石	古墳後期			
312	60a溝	kp5−3		黒色土器	杯A	16.8	3.7		1/8	口縁ヨコナデ,ほかヘラミガキ		10YR7/1 灰白	精良,微小な長,石,雲多	古墳後期			
313	60a溝	kp5−3		黒色土器	杯B	14.4	5.5		1/6	ヘラミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙	2mm以下の長,石,褐,骨多	古墳後期		49	
314	60b溝	kp5−2		黒色土器	杯A	14.0	6.1	6.1	2/3	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	1mm以下の長,石多,赤,雲	古墳後期	内擦れ著しい		14
315	60a溝	kp4−2	3	黒色土器	杯B	15.6	3.7		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		7.5YR8/4 浅黄橙	微小な長,石,雲	古墳後期			
316	60a溝	kp5−3		黒色土器	杯A	14.0	4.9		1/8	外ハケメ→ケズリ状ミガキ,内ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	微小な長,石,褐,雲	古墳後期			
317	60a溝	kp5−4	3	黒色土器	杯E2	14.6	4.3		1/6	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	微小な長,石,雲	古墳後期	須恵器模倣杯		
318	60a溝	kp5−5	1	黒色土器	杯Bor高杯	13.4	2.8		1/7	ヘラミガキ		10YR7/2 にぶい黄橙	微小な長,石,雲	古墳後期			
319	60a溝	kp5−3	2	黒色土器	杯		0.5	6.4	1/6	ヘラミガキ		7.5YR4/1 褐灰	微小な長,石,雲	古墳後期	底ヘラ記号		
320	60a溝	kp4−2	3	土師器	杯D？	10.8	2.6		1/12	ヘラミガキ		5YR8/4淡橙	3mm以下の長,石,褐多,雲	古墳後期			
321	60a溝 1井	kp5−3 kp5−2	1	黒色土器	鉢	10.2	3.3		1/4	ヘラミガキ		10YR6/2 灰褐	精良,砂粒わずか	古墳後期			
322	60a溝	kp4−1		黒色土器	鉢	12.8	3.1		1/8	ヘラミガキ		2.5Y8/3 淡黄	微小な長,石,雲	古墳後期			
323	60a溝	kp4−2	1	土師器	甕A?	22.0	2.3		1/8	ヨコナデ		10YR7/2 にぶい黄橙	1mm以下の長,石,水多,雲	古墳後期			
324	60b溝	kp5−2	2	土師器	甕A1?	24.6	3.4		1/12	ヨコナデ→ハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石,雲多	古墳後期			
325	7土	kn4−1	1	須恵器	無台杯B1	13.2	2.9		1/6	ロクロ,ヘラキリ		N7/0 灰白	阿賀北,5mm以下の長,石多	高山寺	口縁・内・腰擦れ		
326	7土	kn4−1	1	須恵器	無台杯B1	12.6	3.3	8.4	3/4	ロクロ右,ヘラキリ		5B6/1 青灰	阿賀北,5mm以下の長,石多	高山寺？	擦れ著しい	50	13
327	10土	kn5−4	1	須恵器	有台杯B蓋	14.4	1.6		1/8	ロクロ右→ロクロケズリ	A	N6/0 灰	阿賀北,精良,砂粒わずか	貝塚~高山寺	使用痕不明瞭		

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
328	8土	kn4−2	1	須恵器	有台杯B	13.4	6.0		1/8	ロクロ		N6/0 灰	小泊,微小な白多	4段階	器厚薄手		
329	8土	kn4−2	1	須恵器	甕or長胴壺	20.0	4.3		1/8	ロクロ		N5/0 灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	古代			
330	15土	kp5−2	2	須恵器	無台杯B1	12.4	3.3	6.6	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	5段階	擦れ著しい		
331	15土	kp5−2	1	須恵器	無台杯B2	12.2	3.8	7.7	2/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,微小な白,石多,骨	5段階	漆書？擦れ著しい		13
332	15土	kp5−2	1	須恵器	無台杯B2	11.4	2.4		1/8	ロクロ		5B6/1 青灰	阿賀北,微小な長石多	馬上3号以降			
333	15土	kp5−2	3	須恵器	無台杯B		1.6	8.2	1/4	ロクロ,ヘラキリ		10BG6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	5段階	内・腰擦れ		
334	15土	kp5−2	1	須恵器	無台杯B		1.4	6.2	1/6	ロクロ,ヘラキリ		5Y6/1 灰	小泊,微小な水,白多	5段階？	内・腰擦れ		
335	15土	kp5−2	1	須恵器	無台杯B		0.4	7.0	1/4	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階	墨書「賀ヵ」		15
336	15土	kp5−2	4	須恵器	有台杯C		1.9	5.8	1/2	ロクロ左,ヘラキリ		5PB5/1 赤灰	小泊,微小な白多,水,赤	4段階？	内・高台擦れ		
337	15土	kp5−2	1	土師器	甕A1	21.0	9.4		1/8	ロクロ→カキメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,水多,雲？	古代	外煤	50	
338	15土	kp5−2	4	土師器	筒状土製品	14.0	8.4		1/4	ロクロ→ハケメ		7.5YR7/4 にぶい橙	2mm以下の長,石,雲多	古代			
339	17土	kp5−4	2	土師器	甕A1	14.0	5.8		1/3	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ハケメケズリ		10YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石多,雲	古墳後期			
340	17土	kp5−4	1	土師器	甕	16.2	3.5		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多	古墳前期？			
341	17土	kp5−4		黒色土器	杯		3.0	4.2	1/3	ナデ？		10YR8/2 灰白	1mm以下の長,石多,雲	古墳後期			
342	18土	kp5−4		黒色土器	杯B	15.0	5.0	6.6	1/6	ヘラミガキ		10YR7/3 にぶい橙	2mm以下の長,水,雲多	古墳後期	内擦れ著しい		
343	18土	kp5−4	1	黒色土器	杯A		3.4		1/8	ヘラミガキ		10YR7/3 にぶい黄橙	精良,砂粒わずか,骨	古墳後期	内擦れ		
344	18土	kp5−4	1	土師器	壺A	12.0	5.1		1/3	ハケメ→ヘラミガキ		5YR8/3 淡橙	3mm以下の長,石多,雲,流？	古墳後期			
345	18土	kp5−4		土師器	甕		5.3	7.8	1/3	外ハケメ→ナデ,内ハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多,流？,雲	古墳後期	外煤		
346	18土	kp5−4	1	土師器	甕		1.8	6.2	2/3	ナデ？		2.5YR7/3 淡赤橙	3mm以下の長,石,粘多,雲	古墳後期			
347	13土	kp5−3	1	土師器	甕		3.2	3.0	1/4	ハケメ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多	古墳前期			
348	1墓	kn5−3	1	黒色土器	杯A	15.2	6.6	6.0	1/4	外ハケメ→ヘラミガキ,内ヘラミガキ		2.5Y8/3 淡黄	精良,微小な長,石,水,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
349	1墓	kn5−4	2	黒色土器	杯A	14.4	5.2	3.8	1/3	外ヘラミガキ,内ハケメ→ヘラミガキ		7.5YR8/4 浅黄橙	精良,微小な砂粒,赤,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
350	1墓	kn5−4	2	黒色土器	杯B	14.4	5.5	6.8	1/4	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	精良,微小な長,石,花,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
351	1墓	kn5−4	2	黒色土器	杯A	15.6	6.2	6.0	1/3	ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	3mm以下の長,石,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内稲藁痕有		
352	1墓	kn4−3	1	土師器	杯B	15.2	3.0		1/12	外ハケメ→ナデ,内ナデ		10YR8/1 灰白	1mm以下の長,石,褐多,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内		
353	1墓	kn4−4	2	黒色土器	杯A	14.2	3.3		1/8	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	2mm以下の長,石,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内,暗文有		
354	1墓	kn5−3	1	黒色土器	杯A	14.0	4.2		1/12	ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	精良,1mm以下の長,石,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
355	1墓	kn4−3	1	黒色土器	杯A	16.0	4.3		1/6	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	3mm以下の長,石,多,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
356	1墓	kn4−4	3	黒色土器	杯A	14.4	3.4		1/6	ヘラミガキ		2.5Y7/2 灰黄	精良,微小な長,石,水,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
357	1墓	kn4−4	1	黒色土器	杯B	15.6	4.4		1/6	ヘラミガキ		2.5Y7/2 灰黄	精良,微小な長,石,多,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
358	1墓	kn4−4	1	黒色土器	杯C	14.6	5.4		1/10	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		2.5Y7/3 浅黄	3mm以下の長,石,水多	古墳後期	木棺蓋崩落土内	51	
359	1墓	kn4−3	1	黒色土器	杯B1	11.4	2.8		1/10	ヘラミガキ		N2/0 黒	精良,砂粒わずか,長,骨？	古墳後期	木棺蓋崩落土内。須恵器模倣杯。		
360	1墓	kn4−4	1	黒色土器	杯F	11.2	2.2		1/6	ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	精良,砂粒わずか,骨	古墳後期	木棺蓋崩落土内		
361	1墓	kn4−3	9	土師器	杯D	13.0	5.4	7.4	略完存	ヘラミガキ		7.5YR7/4 にぶい橙	精良,微小な長,雲,赤,褐多	古墳後期	木棺裏込め土内。供献土器。須恵器模倣。		14
362	1墓	kn5−4	2	土師器	杯B	15.6	4.0		1/8	ヘラミガキ		7.5YR7/2 明褐灰	精良,微小な長,石,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。外煤,内炭化物		
363	1墓	kn4−4	1	土師器	高杯	12.8	3.2		1/6	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	微小な長,褐,赤多	古墳後期	木棺蓋崩落土内		
364	1墓	kn4−4	1	黒色土器	鉢	12.6	4.7		1/6	外ヘラミガキ,内ハケメ→ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石,流？,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。内擦れ著しい		
365	1墓	kn4−4	1	土師器	壺A	16.8	5.1		1/4	ハケメ→ヨコナデ		7.5YR7/3 にぶい橙	2mm以下の長,石,褐多	古墳後期	木棺蓋崩落土内		
366	1墓	kn4−3	3	土師器	壺C	18.2	4.6		1/3	ハケメ→ヘラミガキ		5YR7/2 明褐灰	2mm以下の長,石,褐,角多	古墳後期	木棺蓋崩落土内		14
367	1墓	kn4−3	2	土師器	甕A2	25.0	15.8		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		2.5Y7/2 灰黄	4mm以下の長,石多	古墳後期	7・8号土坑と接合。木棺蓋崩落土内,外煤		
368	1墓	kn4−5	1	土師器	甕B2or甑	20.0	15.2		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ。輪積痕明瞭		10YR7/3 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多	古墳後期	木棺蓋崩落土内,外煤		14

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
369	1墓	kn4−3	2	土師器	甕A2	19.4	4.8		1/4	口縁ヨコナデ。外ハケメ,内ハケメ→ヘラケズリ		N6/0 灰	精良,微小な長,石,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内	52	
370	1墓	kn4−4	1	土師器	甕B1	16.4	8.0		1/6	ハケメ		2.5YR6/4 にぶい橙	4mm以下の長,石,褐,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内,外煤		
371	1墓	kn4−3	1	土師器	甕A1	15.6	4.1		1/6	外ハケメ→ヨコナデ,内ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙	2mm以下の長,石多,雲	古墳後期	木棺蓋崩落土内,外煤		
372	1墓	kn4−2	1	土師器	甕A1	16.2	7.7		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ナデ		5YR7/6 橙	1mm以下の長,石,褐,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内,外煤。粘土紐痕明瞭		
373	1墓	kn5−3	1	土師器	甕A1	16.2	3.3		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラナデ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内,外煤		
374	1墓	kn5−4	1	土師器	甕B？	19.2	3.8		1/6	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		7.5YR8/2 灰白	2mm以下の長,石,雲多	古墳後期	木棺蓋崩落土内		
375	1墓	kn4−3	1	土師器	甕B1	22.0	6.7		1/8	ハケメ		10YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石,雲,褐多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。外煤		
376	1墓	kn4−4	1	土師器	甕C	14.8	4.5		1/10	口縁ヨコナデ。内ハケメ		10YR7/1 灰白	微小な長,石,水,褐多	古墳後期	木棺蓋崩落土内。外煤		
377	1墓	kn4−4		土師器	甕B？		14.2	6.6	1/3	外ハケメ,内ヘラケズリ→ハケメ		10YR7/3 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多	古墳後期	木棺蓋崩落土内？。外煤,内炭化物		
378	1墓	kn5−3	1	土師器	器台	15.6	2.4		1/4	ヨコナデ,内ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	精良,微小な長,石,水,雲	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
379	1墓	kn4−4	3	土師器	高杯		1.3		1/6	外ハケメ,内ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	3mm以下の長,石水多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
380	1墓	kn4−4	1	土師器	壺	15.2	2.5		1/6	ハケメ→ヨコナデ		10YR8/2 灰白	精良,1mm以下の長,石,雲	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
381	1墓	kn4−4	1	土師器	甕	36.2	7.5		1/12	ハケメ		7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石,褐多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
382	P151	kn5−3		黒色土器？	高杯		3.3	8.8	1/6	外ヘラミガキ,内ハケメ		7.5YR8/3 浅黄橙	微小な長,石多,雲	古墳後期			
383	2墓	kn4−5	1	土師器	壺	18.6	2.1		1/12	外ヨコナデ,内ハケメ		5YR8/3 淡橙	2mm以下の砂粒多,長,石少	古墳前期	搬入？。木棺蓋崩落土内		
384	2墓	kn4−5	1	土師器	高杯		3.7		1/10	ハケメ→ヘラミガキ		2.5Y7/2 灰黄	微小な長,石,雲,褐多	古墳前期	月影系。木棺蓋崩落土内		
385	2墓	kn3−5	2	土師器	器台	10.0	2.3		1/3	ヘラミガキ		2.5Y6/3 にぶい黄	精良,砂粒わずか	古墳前期	387と同一個体。木棺蓋崩落土内	53	
386	2墓	kn4−5	1	土師器	器台		2.9		1/3	外ヘラミガキ,内ナデ		10YR8/2 灰白	3mm以下の長,石雲多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
387	2墓	kn3−5	2	土師器	器台		3.5	13.6	1/8	外ヘラミガキ,内ハケメ		10YR5/2 灰黄褐	精良,5mm以下の長多	古墳前期	385と同一個体。木棺蓋崩落土内		
388	2墓	kn4−5	1	土師器	器台or高杯		3.0	12.4	1/8	外ヘラミガキ,内ハケメ→ヘラケズリ		10YR6/2 灰黄褐	2mm以下の長,石,水多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
389	2墓	kn3−5	2	土師器	鉢	10.8	4.8		1/10	ヘラミガキ		5YR8/4 淡橙	精良,微小な石,雲,褐	古墳前期	精製鉢。木棺蓋崩落土内		
390	2墓	kn4−5	1	土師器	鉢	20.4	6.2		1/12	外ハケメ,内ハケメ→ナデ		N2/0 黒	3mm以下の長,水,雲多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
391	2墓	kn4−5	1	土師器	甕	24.4	11.9		1/2	ハケメ→ハケメナデ		7.5YR7/4 にぶい橙	4mm以下の長,石,水,雲多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		13
392	2墓	kn4−5	1	土師器	甕	15.6	(22.9)		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ハケメ→ナデ		7.5YR8/4 浅黄橙	2mm以下の長,石,褐,雲多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		13
393	2墓	kn3−5	1	土師器	甕	14.4	15.6		1/3	口縁ヨコナデ,外ハケメ→ヘラケズリ,内ハケメ		2.5YR6/4 にぶい橙	2mm以下の長,石,水,褐,雲多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		13
394	2墓	kn3−5	2	土師器	甕	10.4	9.0		1/3	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		7.5YR6/2 灰褐	2mm以下の長,石,雲多	古墳前期	法仏・月影系。木棺蓋崩落土内		13
395	2墓 56溝	kn4−5 ko5−5	1	土師器	甕	14.4	2.9		1/8	口縁ヨコナデ		5YR7/4 にぶい橙	2mm以下の長,石,褐,雲多	古墳前期	法仏・月影系。木棺蓋崩落土内	54	
396	2墓	kn4−4	1	土師器	甕	17.4	2.8		1/6	外ハケメ,内ヘラミガキ		2.5YR3/1 暗赤灰	4mm以下の長,石,水多	古墳前期			
397	2墓	kn4−5	1	土師器	甕	18.4	9.0		1/5	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		7.5YR7/3 にぶい橙	3mm以下の長,石,雲多	古墳前期	木棺蓋崩落土内		
398	29溝	km5−5		須恵器	有台杯A蓋	12.0	1.7		1/6	ロクロ,ヘラキリ	A	N7/0 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	馬上3号以降	畝状小溝		
399	29溝	km5−5	2	須恵器	甕		6.0		1/6	タタキ→カキメ		N7/0 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	古代	畝状小溝		
400	31溝	km4−5		須恵器	無台杯B1	11.6	3.1	8.2	1/6	ロクロ,ヘラキリ		5B7/1 明青灰	小泊,微小な白多,骨	4段階？	畝状小溝	54	
401	31溝	km4−5		須恵器	無台杯C	13.2	4.5	8.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ	C	5B4/1 暗青灰	小泊,微小な白,骨多	4段階？	畝状小溝。擦れ著しい		
402	35溝	kn5−3		土師器	無台椀		2.1	5.6	1/3	ロクロ右,糸切り		7.5YR8/3 浅黄橙	精良,砂粒わずか	古代	畝状小溝。腰擦れ		
403	34溝	kn5−1		須恵器	無台杯B1	11.2	2.7		1/8	ロクロ		5B4/1 暗青灰	小泊,微小な白多	5段階？	畝状小溝。擦れ著しい		
404	34溝	kn5−1		土師器	壺				小片	ヘラミガキ→直線・波状文施文		7.5YR7/4 にぶい橙	砂粒わずか	古墳前期	東海系。搬入か。施文ハケメ使用		
405	37溝	kn4−2		須恵器	有台杯A蓋	13.8	2.2		1/3	ロクロ右,ヘラキリ	A	5B5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	高山寺	畝状小溝。擦れ著しい。内煤		
406	37・38溝	kn5−2		須恵器	無台杯B1	12.8	2.6		2/3	ロクロ左,ヘラキリ	C	7.5Y7/1 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多,角,骨	高山寺	畝状小溝。小泊類似。擦れ著しい		
407	37溝	kn3−2		須恵器	甕		23.8		破片	タタキ		N3/0 暗灰	小泊,微小な白多	古代	畝状小溝		

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
408	39溝	kn3－3		黒色土器	無台椀	12.0	4.5		1/8	ロクロ→ヘラミガキ		N5/0 黒	精良,微小な白多	古代	畝状小溝。内外面黒色処理。優品	54	
409	43溝	kn5－3	1	須恵器	有台杯B蓋	15.4	1.7		1/4	ロクロ	B	5B6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	4段階？	畝状小溝。内面擦れ		
410	43溝	kn4－2		須恵器	折縁杯B	13.0	4.5	7.2	1/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多,褐	馬上3号	畝状小溝。擦れ著しい		13
411	43溝	kn5－3	1	須恵器	無台杯B1	12.4	3.2	8.0	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,微小な白多,水,骨	3~4段階	畝状小溝。擦れ著しい。内・外煤		
412	43溝	kn4－3	1	土師器	無台椀B2	12.4	4.5	4.9	略完存	ロクロ右,糸切り		7.5YR8/4 浅黄橙	3mm以下の長,石,赤,水多	坂C 10土	畝状小溝		13
413	43溝	kn4－3	1	土師器	無台椀B2	12.8	4.1		1/4	ロクロ		5YR7/6 橙	3mm以下の長,石,水多	坂C1堅	畝状小溝		
414	43溝	kn5－3	1	土師器	甕B1	12.4	10.8		1/6	ロクロ		7.5YR6/2 灰褐	3mm以下の長,石,雲多	古代	畝状小溝。外煤,内炭化物		
415	49溝	ko4－1		黒色土器	直口壺	8.4	(4.8)		1/6	ヘラミガキ		10YR7/2 にぶい黄橙	精良,微小な長,石	古墳後期	内擦れ著しい		
416	50溝	ko5－1		黒色土器	杯A		5.6	5.0	1/6	ヘラミガキ		2.5Y7/2 灰黄	1mm以下の長,石,水多	古墳後期	内擦れ著しい		
417	64溝	kp3－4		土師器	甕	21.4	4.6		1/6	ヨコナデ→ハケメ		7.5YR8/2 灰白	3mm以下の長,石,褐多	古墳前期			
418	56溝 57溝	ko4－5	2	黒色土器	杯		1.4	5.4	2/3	外ハケメケズリ,内ヘラミガキ		2.5Y8/2 灰白	精良,微小な長,石多,雲	古墳後期		55	
419	56溝	ko5－5		土師器	甕		1.7	6.8	底部存	外ナデ,内ハケメ		10YR7/3 にぶい黄橙	4mm以下の長,石多,雲	古墳後期	外煤		
420	48溝	kn4－4	1	土師器	甕	25.6	4.0		1/12	口縁ハケメ→ヨコナデ,外ハケメ,内ハケメ,ハケメケズリ		2.5Y5/2 暗灰黄	2mm以下の長,石多,雲	古墳前期	1号周溝墓周溝。外煤		
421	68溝	kp5－4	1	土師器	甕B1		4.4	7.8	1/2	ロクロ右,ヘラキリ,内ナデ		10YR7/3 にぶい黄橙	精良,微小な長,石,雲,赤多	古代	外煤		15
422	68溝	kp5－4	1	土師器	甕A1	21.2	7.9		1/10	外タタキ→カキメ,内ハケメ→カキメ		10YR7/1 灰白	3mm以下の長,石,雲多	古代	外煤		
423	75溝	kq5－1		須恵器	無台杯B2	11.6	3.0	7.4	1/4	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	阿賀北,1mm以下の長多	馬上3号~狼沢2号	口縁・内・腰擦れ		
424	75溝 1流	kq4－2 kq3－2	1 8	黒色土器	杯A	15.8	4.6	7.2	1/3	ヘラミガキ		7.5YR5/3 にぶい褐	微小な長,褐,石,水多,雲	古墳後期			
425	75溝	kq5－1	1	土師器	装飾器台				1/6	ヘラミガキ,赤彩		10YR7/3 にぶい黄橙	1mm以下の長,石多,骨	古墳前期	復元実側		
426	74溝	kq5－1	1	土師器	甕	13.8	9.3		1/6	外ハケメ,内ハケメ→ヘラケズリ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石多,雲	古墳前期？			
427	74溝	kq5－1	1	土師器	甕？		9.5	7.8	1/3	外ハケメ,内ハケメナデ		10YR7/3 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,水,褐多	古墳前期？			
428	P281	kp3－4	1	黒色土器	直口壺	9.2	5.0		1/8	ヘラミガキ		10YR8/3 浅黄橙	1mm以下の長,石,水,骨	古墳後期	擦れ著しい		
429 a・b	P175	kn5－5		土師器	甕		2.5	9.0	1/6	外LR縄文,内ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石,雲多	古墳前期	天王山系。外煤		13
430	SX1 60a溝	kp4－2	1	土師器	甕	16.8	14.7		1/2	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラケズリ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石,水多,雲	古墳前期	外煤		13
431	SX1	kp4－2	1	土師器	甕	12.6	2.2		1/12	口縁ヨコナデ,外ハケメ		10YR5/1 褐灰	2mm以下の長,石多	古墳前期	外煤		
432	1流	kq3－2	8	須恵器	有台杯A蓋	12.4	2.9	2.3	1/3	ロクロ右→天井部ロクロケズリ	A	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	馬上3号			
433	1流	kq5－5	8	須恵器	有台杯B蓋	14.6	3.0	3.2	1/2	ロクロ左→天井部ロクロケズリ	B？	N8/0 灰白	小泊,微小な白多	3段階	墨書「人」,ヘラ書「人？」		13
434	1流	kq4－1	8	須恵器	有台杯B	13.2	4.6		1/6	ロクロ	C	N7/0 灰白	阿賀北,1mm以下の長,石多	高山寺？	使用痕不明瞭	56	
435	1流	kq5－3	8	須恵器	有台杯B		2.8	7.4	1/4	ロクロ,ヘラキリ		5GY5/1オリーブ灰	阿賀北,1mm以下の長,石多,雲	高山寺？	内・高台擦れ		13
436	1流	kq3－4	8	須恵器	無台杯B1	12.7	3.0	6.8	5/6	ロクロ左,ヘラキリ	C	2.5GY7/1明オリーブ灰	小泊,微小な白多	6段階古	墨書「若□」。擦れ著しい		13
437	1流	kq3－2	8	須恵器	無台杯B2	13.0	3.4	7.3	1/2	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石,水多	貝屋~高山寺			
438	1流	kq3－2	8	須恵器	無台杯B2	12.8	3.4	7.4	1/2	ロクロ右,ヘラキリ		N7/0 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	狼沢2号~道婦	擦れ著しい		
439	1流	kq5－3	8	須恵器	無台杯B1	11.8	3.0	6.7	3/4	ロクロ左,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階古	墨書「氏」。擦れ著しい		13
440	1流	kq3－4	3	須恵器	無台杯C	13.4	3.5	6.2	1/3	ロクロ右,糸切り		5Y7/1 灰白	阿賀北,微小な長,褐多,雲	狼沢2号~道婦	瓦質。擦れ著しい		
441	1流	kq3－3	8	須恵器	無台杯B		1.9	7.3	3/4	ロクロ左,ヘラキリ		5B5/1 青灰	小泊,微小な白多	3~4段階	墨書「人」。使用痕不明瞭		15
442	1流	kq5－5	8	須恵器	無台杯B1	11.6	2.8	8.1	5/6	ロクロ左,ヘラキリ		10BG6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	5段階	底墨書判読不可。口縁・内・腰擦れ		
443	1流	kq5－5	8	須恵器	無台杯B2	12.8	2.9	9.6	1/3	ロクロ,ヘラキリ		10YR5/2 灰黄褐	小泊,微小な白多	5段階	外,内タール？。灯明皿に転用？		
444	1流	kq3－4	8	須恵器	無台杯B1	13.8	3.2	9.0	2/3	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B5/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	歪み大きい。口縁・内・腰擦れ		
445	1流	kq4－3	3	須恵器	杯蓋				破片	ロクロ		5Y7/1 灰白	1mm以下の長,石多	MT15？	搬入？古墳時代須恵器		14
446	1流	kq5－5	8	土師器	甕B1	12.2	6.0		1/4	ロクロ		10YR7/3 にぶい黄橙	5mm以下の長,石,雲	古代	外煤,内炭化物		15
447	1流	kq3－2	8	須恵器	提瓶？		5.1		1/6	ロクロ,内カキメ？		N3/0 暗灰	精良,1mm以下の長,石	古墳？	搬入？。水瓶の可能性あり		

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
448	1流	kq3－4	8	土師器	甕B1	13.0	5.8		1/8	ロクロ		10YR6/2 褐灰	精良,1mm以下の砂粒	古代	外煤,内炭化物	56	
449		km4－4	Ⅲa	須恵器	有台杯B蓋	13.8	2.8	4.2	1/4	ロクロ右,ヘラキリ	B	5B6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階古	内擦れ・墨痕。転用硯？		
450		km4－3	Ⅲa	須恵器	有台杯B2	13.4	6.4	8.4	1/4	ロクロ左,ヘラキリ		5B6/1 青灰	小泊,微小な白,石多,骨？	5段階	擦れ著しい。底墨痕。パレット？		
451		km3－2	Ⅲa	須恵器	有台杯B1	14.0	7.2	7.8	1/3	ロクロ左,ヘラキリ		5B7/1 明青灰	小泊,微小な白多,石,骨	3~4段階	口縁・内・高台擦れ		
452		km4－3 kn5－3	Ⅲa	須恵器	有台杯C1	9.4	5.0	5.6	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,微小な白多,石	4段階	口縁・内・高台擦れ		
453		km4－3	カクラン	須恵器	有台杯C2	9.8	4.3	5.2	1/2	ロクロ右,ヘラキリ	C	N3/0 暗灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	高山寺~馬上3号	使用痕不明瞭		13
454		km3－3	Ⅲa	須恵器	有台杯A1	10.8	3.6	6.2	1/6	ロクロ,ヘラキリ→腰ロクロケズリ		5B6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	3段階	口縁・内・高台擦れ		
455		km4－2	Ⅲa	須恵器	無台杯B2	14.0	3.0	8.6	2/3	ロクロ右,ヘラキリ		N8/0 灰白	阿賀北,3mm以下の長,石多	貝屋~高山寺	口縁・内・腰擦れ		
456		km3－4	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	12.0	3.5	7.4	1/2	ロクロ,ヘラキリ	C	N7/0 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石多	高山寺	底「×」ヘラ記号。擦れ著しい		
457		km3－3	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	12.4	3.4	7.2	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B7/1 明青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	馬上3号？	小泊類似。擦れ著しい		
458		km4－4	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	12.8	3.2	8.6	1/2	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,微小な白多	3段階	口縁・内・腰擦れ		
459		km4－4	Ⅲa	須恵器	折縁杯A	13.8	2.6		1/4	ロクロ,ヘラキリ		N6/0 灰	阿賀北,非常に精良。微小な長	馬上3号			
460		km3－5 km4－5	Ⅲa	須恵器	無台杯C？		0.4	6.6	1/2	ロクロ右,糸切り		5B6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	古代	内・腰擦れ	57	
461		km3－2	Ⅲa	土師器	無台椀B1	14.4	6.0	5.0	1/2	ロクロ右,糸切り		5YR7/4 にぶい橙	精良,砂粒わずか	坂C 13土			
462		km3－3	Ⅲb	土師器	甕B1	10.4	9.3	5.8	1/3	ロクロ右→カキメ,糸切り		10YR7/3 にぶい黄橙	2mm以下の長,石,雲多	古代	外煤,内口縁炭化物		
463		km4－1	Ⅱ	土師器	甕A2or 甕B2	29.4	7.4		1/6	口縁ナデ,外ハケメナデ,内ハケメ		5YR5/3 にぶい赤褐	1mm以下の長,水,雲多	古墳後期	二次焼成受け一部還元化		
464		km3－1	Ⅲa	土師器	甕	14.8	5.4		1/2	口縁ヨコナデ,ほかハケメ		7.5YR7/2 明褐灰	3mm以下の長,石多,雲	古墳前期	受け口状口縁。近江系？		
465	1墓	kn4－5	2	黒色土器	杯B	14.8	5.5	6.0	1/3	ヘラミガキ		10YR7/3 にぶい黄橙	1mm以下の長,石,雲多,赤	古墳後期	擦れ著しい		
466		kn4－4	カクラン	土師器	高杯	10.0	2.5		1/6	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	精良,砂粒わずか	古墳後期			
467		kn5－2	Ⅲa	黒色土器	高杯	11.8	3.5		1/6	ヘラミガキ		10YR8/1 灰白	精良,微小な褐,長,雲	古墳後期			
468		kn4－4	Ⅲa	黒色土器	瓶	11.6	3.5		1/6	口縁端部面取り。外沈線区画上にハケメによる垂下文。内ヘラミガキ		10YR8/2 灰白	非常に精良。微小な長,褐,骨	古墳後期	須恵器瓶模倣。精製品		14
469		kn3－1	Ⅲa	須恵器	有台杯A1	11.0	4.4	6.8	1/3	ロクロ右,ヘラキリ		N6/0 灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	馬上3号	使用痕不明瞭		
470		kn5－1	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	11.6	3.2	7.8	1/4	ロクロ,ヘラキリ		N6/0 灰	小泊,微小な白多	5段階	使用痕不明瞭		
471		kn4－4	Ⅱ	土師器	無台椀A1	11.8	4.8	3.6	1/4	ロクロ,糸切り		7.5YR8/4 浅黄橙	2mm以下の長,石多	坂C 13~10土			
472		kn4－1	Ⅲa	須恵器	高杯		6.5	10.8	1/3	ロクロ左		N6/0 灰	小泊,微小な白多,骨？	2~3段階			
473		kn4－3	Ⅱ	黒色土器	無台椀B1	17.6	6.6	6.2	1/3	ロクロ→外ロクロケズリ→ヘラミガキ,内ハケメ		10YR8/3 浅黄橙	非常に精良。砂粒わずか	古代	内擦れ		
474		kn4－2	Ⅲa	須恵器	長頸瓶A		8.5	7.0	1/4	ロクロ,ヘラキリ		N8/0 灰白	精良, 微小な長,水	古代	搬入。大戸窯産		13
475		kn4－5	Ⅱ	土師器	壺				小片	口縁直線文→刻み棒状浮文。		7.5YR8/1 灰白	精良,2mm以下の長,石多,雲	古墳前期	東海系		
476		ko5－2	カクラン	須恵器	無台杯B		0.5	7.0	5/6	ロクロ右,ヘラキリ		10BG6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階	墨書「七」。擦れ著しい		15
477		ko4－5	Ⅰ	土師器	甕	16.6	3.6		1/6	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ナデ		7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石,雲多	古墳前期			
478		kp3－3	Ⅲa	須恵器	無台杯B2	12.8	3.1	7.8	1/4	ロクロ右,ヘラキリ	C	7.5Y8/1 灰白	3mm以下の長,石多	馬上3号	擦れ著しい		
479		kp5－1	Ⅱ	須恵器	有台杯A2	12.4	4.1	7.6	1/3	ロクロ,ヘラキリ	A？	N6/0 灰	3mm以下の長多	高山寺	搬入？。擦れ著しい		
480		kp5－4	Ⅰ	須恵器	無台杯B		0.6	6.6	底部存	ロクロ左,ヘラキリ		5B5/1 青灰	小泊,微小な白多,赤,骨	6段階	墨書「七」。擦れ著しい		15
481		kp4－5	Ⅲa	黒色土器	無台椀B1	16.0	5.4	6.2	1/3	ロクロ→ヘラミガキ		10YR7/3 にぶい黄橙	非常に精良,砂粒わずか,骨	古代	精製品。内擦れ		
482		kp5－5	Ⅲa	須恵器	長頸瓶A	12.0	5.8		1/6	ロクロ		N5/0 灰	小泊,微小な白多	古代		58	
483		kp4－5	Ⅲa	須恵器	長頸瓶A	10.8	6.5		1/2	ロクロ		2.5Y5/1 黄灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	古代	頸部内しぼり痕		
484		kp5－2	カクラン	須恵器	長頸瓶B		3.2		1/6	ロクロ→外ヘラナデ		N5/0 灰	小泊,微小な白多,水,骨	古代			
485		kp5－5	Ⅲa	須恵器	横瓶	11.2	2.9			口縁ロクロ, 胴タタキ		N7/0 灰白	小泊,微小な白多	古代			
486		kp3－5 kq3－1	Ⅱ Ⅲa	須恵器	甕		12.0		破片	ロクロ→沈線による3段区画内に波状文2段施文		N2/0 黒	砂質。1mm以下の長,石多	古墳後期	搬入？		14

No.	遺構	グリッド調査地	層位	種別	器種	計測値(cm) 口径	器高	底径(摘径)	遺存度	成形・調整	重焼き	色調	胎土	時期	備考	挿図	写真図版
487		kp5－4	Ⅲa	土師器	筒状土製品	9.2	7.3		1/6	ロクロ		10YR6/2 灰黄褐	5mm以下の長,石,雲多	古代			
488		kp5－2	Ⅱ	黒色土器	無台杯		0.9	4.0	1/3	ロクロ→ヘラミガキ		2.5Y7/2 灰黄	精良,微小な水,雲	古墳後期	ヘラ記号「×」		
489		kp5－4	Ⅰ	須恵器	甕	27.0	7.4		1/6	口縁ロクロ,胴タタキ		N4/0 灰	小泊,微小な白多	古代			
490		kp3－2	Ⅲa	黒色土器	杯C	15.8	5.5	6.6	1/3	外ハケメ→ヘラミガキ,内ヘラミガキ		7.5YR8/3 浅黄橙	非常に精良,微小な長,雲	古墳後期	擦れ著しい		14
491		kp4－4	Ⅲa	黒色土器	杯B	16.0	4.8		1/6	口縁ヨコナデ,ほかヘラミガキ		2.5Y7/2 にぶい黄橙	非常に精良,石,長,雲,骨,褐	古墳後期	内擦れ		
492		kp4－2	Ⅲa	黒色土器	杯A		4.4		1/8	ヘラミガキ		2.5Y8/1 灰白	1mm以下の長,石,水多,雲	古墳後期	擦れ著しい		
493		kp5－5	Ⅲa	土師器	壺			4.6	1/4	外ナデ？,底部ヘラケズリ,内ナデ		10YR8/2 灰白	3mm以下の長,石,水多	古墳前期	甑壺？		
494		kp5－5	Ⅲa	土師器	鉢or椀	15.4	6.6		1/3	外ハケメ→ヘラミガキ,内ヘラミガキ,ナデ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石,水多	古墳前期			
495		kp3－2	カクラン	土師器	杯E	14.4	3.3		1/12	調整不明		10YR6/6 赤橙	砂粒わずか,骨	古墳後期		58	
496		kq3－2	Ⅲb	須恵器	有台杯A1	12.4	4.1	7.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ		N6/0 灰	5mm以下の長,石多	馬上3号	口縁・内・高台擦れ		
497		kq3－2	Ⅲb	須恵器	無台杯C	12.8	3.8	7.2	1/4	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	2mm以下の長,石多	馬上3号~狼沢2号	内擦れ, 一部煤		
498		kq5－2	Ⅲb	須恵器	無台杯C	12.0	3.4	6.8	1/3	ロクロ,ヘラキリ		5B6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階古	擦れ著しい		
499		kq5－2	Ⅲa	須恵器	無台杯B1	12.0	2.9	6.6	1/2	ロクロ右,ヘラキリ		5BG6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階古	擦れ著しい		
500		kq5－2	Ⅲb	須恵器	無台杯C	12.4	3.4	6.8	3/4	ロクロ左,ヘラキリ		10BG6/1 青灰	小泊,微小な白多,骨	6段階新	使用痕不明瞭。側面墨書？		
501		kq3－1	Ⅲb	土師器	無台椀A2	12.0	3.5	5.0	1/6	ロクロ右,糸切り		10YR8/3 浅黄橙	3mm以下の長,石,雲多	坂C9~13土			
502		kq3－1	Ⅲa	黒色土器	杯E1	14.4	3.8		1/12	口縁ヨコナデ,外ハケメ,内ヘラミガキ		5Y2/1黒	1mm以下の長,雲,	古墳後期	須恵器模倣杯		
503		kq2－1	排	黒色土器	杯E1	11.4	3.1		1/6	口縁ヨコナデ,ほかヘラミガキ		7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石水多,雲	古墳後期	須恵器模倣杯		14
562			表	土師器	筒状土製品	15.4	5.6		1/10	ロクロ→外カキメ		10YR7/2 にぶい黄橙	3mm以下の長,石,雲多	古代			
563		kg	排	須恵器	無台杯B		1.2	6.8	1/3	ロクロ,ヘラキリ		10BG6/1 青灰	小泊,微小な白,水多,骨？	6段階	底墨書判読不可		
564		kg	Ⅲb	須恵器	高盤？		1.6		1/10	ロクロ		5BG5/1 青灰	小泊,微小な白多,角？	古代			
565		立会い	Ⅳ	須恵器	有台杯B蓋	13.6	2.8	3.3	1/2	ロクロ,ヘラキリ		5BG6/1 青灰	小泊,微小な白多	5段階	転用硯。内面擦れ,墨痕		
566		立会い	表	須恵器	有台杯A2	14.8	4.0	10.0	1/6	ロクロ,ヘラキリ	A？	10BG6/1 青灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	志村山以前	東海系？。口縁・内・高台擦れ		
567		立会い	表	須恵器	有台杯A1	12.8	3.6	8.6	1/3	ロクロ,ヘラキリ		5Y7/1 灰白	阿賀北,2mm以下の長,石水多	高山寺	口縁・内・高台擦れ		
568		立会い	表	須恵器	折縁杯A	13.8	3.8	7.4	1/2	ロクロ右,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	高山寺	口縁・内・高台擦れ		
569		立会い	Ⅱ	須恵器	無台杯C	11.2	3.2	6.4	1/4	ロクロ左,ヘラキリ	C	5B6/1 青灰	小泊,微小な白多	6段階古	口縁・内・腰擦れ		
570		立会い		須恵器	無台杯B2	12.4	3.7	7.2	1/3	ロクロ,ヘラキリ	C	2.5GY7/1明オリーブ灰	阿賀北,3mm以下の長,石多	馬上3号	口縁・内・腰擦れ		
571		立会い	表	須恵器	無台杯A2	13.4	3.3	9.0	1/4	ロクロ,ヘラキリ	C	5BG6/1 青灰	阿賀北,1mm以下の長,石多	下小中山	口縁・内・腰擦れ	62	
572		立会い	遺構	須恵器	無台杯B1	12.2	3.4	7.4	1/4	ロクロ,ヘラキリ	C	10BG6/1 青灰	小泊,微小な白多	馬上3号	口縁・内・腰擦れ		
573		立会い		須恵器	無台杯B1	12.4	3.1	7.8	1/4	ロクロ,ヘラキリ	C	2.5GY6/1 オリーブ灰	阿賀北,2mm以下の長,石多	下小中山？	墨書「大」。口縁・内・腰擦れ		
574		立会い	表	須恵器	無台杯B		2.6	7.6	1/3	ロクロ右,ヘラキリ		5GY6/1 オリーブ灰	阿賀北,2mm以下の長,石,水多	志村山以前？	墨書「大人？」		
575		立会い	Ⅲ	須恵器	瓶	10.0	2.3		1/6	ロクロ,波状文11条以上2段		N7/0 灰白	非常に精良,砂粒わずか	TK47？	搬入		16
576		立会い		土師器	盤？		4.5	27.0	1/12	ロクロ		7.5YR8/3 浅黄橙	2mm以下の長,石多	古代	円形の透穴あり		
577		立会い		須恵器	長頸瓶A		5.6		1/3	ロクロ		N6/0 灰	阿賀北3,mm以下の長,石多	古代	頸部リング状凸帯		
578		立会い	Ⅲ	黒色土器	杯B	14.8	5.0	3.4	1/3	口縁ヨコナデ,内ヘラミガキ		5YR7/6 橙	2mm以下の長,石水多,雲,赤	古墳後期			
579		立会い	Ⅲ	立会い	器台		13.2	6.2	1/3	外ヘラミガキ,内ヘラケズリ。赤彩		7.5YR7/4 にぶい橙	2mm以下の長,石水多	古墳前期			
580		立会い	Ⅲ	立会い	てづくね		2.6	2.4	1/3	ナデ		10YR7/1 灰白	精良。2mm以下の長,石多	古墳後期？			

表6 遺物観察表(2) ※胎土の略称:長=長石,石=石英,花=花崗岩,白=白色粒,褐=褐色粒,赤=赤色粒,炭=炭化粒,雲=雲母,骨=海綿骨針

No.	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm/g) 長さ	幅	厚さ	重量	遺存度	成形・調整	色調	材質・胎土	時期	備考	挿図	写真図版
552	SK11	kn4－5	検出面	石製品	管玉	3.5	3.1	6.9	5.5	完存	タテ方向の研磨痕	黒色	滑石	古墳前期	片面穿孔？	62	16
553		km3－4	カクラン	石製品	管玉	12.3	0.7	0.7	1.9	完存	頂部研磨前の押圧剥離痕	緑色	緑色凝灰岩	古墳前期	片面穿孔？		16

No.	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値 (cm/g) 長さ	幅	厚さ	重量	遺存度	成形・調整	色調	材質・胎土	時期	備考	挿図	写真図版
554	60a溝	Kp4−2	3	石製品	棗玉	10.7	9.1		0.4	1/2	頂部穿孔時の剥離痕。平坦根面研磨痕	褐色	コハク	古墳後期	両面穿孔	62	16
555		km3−2	Ⅲb	土製品	羽口	9.3	6.0	1.8		1/3	ナデ	N6/0灰	3mm以下の長,石,水多,角,赤	古代	表面砂,窯滓付着		
556		Kp4−1	カクラン	土製品	円盤状土製品	2.2	2.3	0.9	7.7	完存	側剥離調整	N7/0灰白	小泊,微小な白多	古代	須恵器甕片転用		
557		Kp4−1	Ⅱ	土製品	円盤状土製品	2.3	2.7	0.8	7.3	完存	側剥離調整	5PB4/1暗青灰	小泊,微小な白多	古代	須恵器甕片転用		
558	37・38溝	kn5−2	1	土製品	土垂	5.1	1.0	1.0	3.7	略完存	ナデ	2.5Y8/1灰白	精良,砂粒僅か,赤	古代			
559		kg4−3	Ⅲb	土製品	土垂	3.4	1.0	1.0	3.2	2/3	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙	精良,砂粒僅か	古代			
560		kg3−2	Ⅲb	土製品	土垂	3.9	1.0	1.0	3.3	略完存	ナデ	2.5Y7/2灰黄	精良,砂粒僅か	古代			
561		kg4−4	Ⅲb	土製品	土垂	3.8	1.0	1.0	4.0	略完存	ナデ	10YR7/2にぶい黄橙	精良,砂粒僅か	古代			
581		立会い	Ⅲ	土製品	土垂	6.4	2.2			1/2	ナデ	7.5YR7/4にぶい橙	精良,砂粒僅か	古代			

表7 遺物観察表 (3)

No.	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値 (cm) 長さ(口径)	幅(高さ)	厚さ(底径)	遺存度	木取り	材質	加工	備考	挿図	写真図版
504	1流		下層	木製品	斎串	40.2	4.1	1.2	上部欠損	板目	スギ?	側面丁寧なケズリ。先端V字状ケズリ		59	16
505	1流		下層	木製品	斎串	32.3	2.0	0.6	上部欠損	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端V字状ケズリ	上部両側面に上下方より切り込み		
506	1流	kq3-4	下層	木製品	斎串	18.3	1.9	0.5	略完存	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。頂部・先端V字状ケズリ	上部両側面に上方より切り込み		
507	1流	kq4-4	下層	木製品	斎串				部分的に残存	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。	2か所上部両側面に上下方より切り込み		
508	1流	kq3-4	下層	木製品	斎串	11.4	2.4	0.4	部分的に残存	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。	両側面に上下方より切り込み		
509	1流	kq	下層	木製品	斎串	17.3	1.3	0.7	完存	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。頂部斜め,先端V字状ケズリ	頂部右側面に上方より切り込み		16
510	1流		下層	木製品	斎串	18.8	1.6	0.5	完存	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端斜めケズリ	左側面に上方より切り込み		
511	1流	kq5-5	下層	木製品	斎串	16.4	2.4	0.4	下部欠損	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。頂部斜めケズリ			
512	1流	kq3-4	下層	木製品	斎串	21.2	1.2	0.6	完存	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端斜めケズリ	先端切り込み?		16
513	1流		下層	木製品	斎串	22.7	3.6	0.5	上部欠損	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端V字状ケズリ			
514	1流	kq3-3	下層	木製品	斎串	20.0	3.9	0.7	上部欠損	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端V字状ケズリ			
515	1流	kq3-4	下層	木製品	斎串	23.4	2.3	0.5	上部欠損	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端V字状ケズリ			16
516	1流	kq5-4	下層	木製品	斎串	14.3	0.7	0.4	完存	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端鉛筆削り状ケズリ			
517	1流	kq3-4	下層	木製品	斎串	11.8	0.4	0.3	完存	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端斜めケズリ			
518	1流	kq	下層	木製品	斎串	21.9	1.0	0.7	完存	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。頂部斜め,先端V字状ケズリ			
519	P88	kl5-5	柱痕	木製品	斎串?	19.9	1.8	0.9	完存	板目	スギ?	先端V字状ケズリ?	7号掘立柱建物。建て替え時の祭祀具?		16
520	1流	kq4-4	下層	木製品	斎串	(27.7)	2.2	0.6	上部欠損	板目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端V字状ケズリ			
521	1流	kq3-4	上層	木製品	斎串	8.7	0.7	0.4	上部欠損	柾目	スギ?	全体に丁寧なケズリ。先端斜めケズリ			
522	1流	kq5-4	上層	木製品	箸状木製品	7.5	0.6	0.5	上部欠損	板目	スギ?	多面体ケズリ。先端鉛筆削り状ケズリ			
523	1流	kq3-3	下層	木製品	箸状木製品	7.1	5.5	0.4	部分的に残存	板目	スギ?	多面体ケズリ			
524	1流	kq5-5	下層	木製品	箸状木製品	20.5	0.6	0.6	部分的に残存	柾目	スギ?	多面体ケズリ			
525	1流	kq5-5	下層	木製品	箸状木製品	15.7	0.8	0.6	上部欠損	柾目	スギ?	多面体ケズリ。先端鉛筆削り状ケズリ			
526	P43	kg4-4	柱痕	木製品	浮子or栓?	8.8	2.8	1.8	一部欠損	?	広葉樹	全体に丁寧な多角形状ケズリ	3号掘立柱建物		
527	1流	kq3-2	上層	木製品	盤	17.4	1.3	12.8	1/8	柾目	スギ?	ロクロ挽			

No.	遺構	グリッド	層位	種別	器種	計測値（cm） 長さ（口径）	幅（高さ）	厚さ（底径）	遺存度	木取り	材質	加工	備考	挿図	写真図版
528	1流	kq5-4	下層	木製品	盤	19.6	2.1	15.2	1/2	柾目	スギ？	ロクロ挽		59	
529	1流	kq5-3	上層	木製品	盤		0.9	18.0	1/10	柾目	スギ？	ロクロ挽			
530	1流	kq5-3	上層	木製品	棒状木製品	35.5	1.5	2.0	略完存	柾目	スギ？	多面体ケズリ	先端コゲ。転用か	60	16
531	1流		下層	木製品	浮子？	23.9	1.2	1.2	上下欠損	柾目	スギ？	多面体ケズリ			
532	1流	kq3-3	上層	木製品	浮子	25.9	1.6	1.7	完存	柾目	スギ？	多面体ケズリ。両端鉛筆削り状ケズリ	両端抉り		
533	1流		下層	木製品	火鑽棒	14.7	1.1	1.2	上部欠損	柾目	スギ？	多面体ケズリ。両端鉛筆削り状ケズリ	先端コゲ		
534	P59	kg4-4	掘方	木製品	斎串？	14.3	1.0	0.8	完存	柾目	スギ？	頂部山形状ケズリ,先端斜めケズリ	5号掘立柱建物。先端コゲ,地鎮具？		16
535	1流	kq3-4	下層	木製品	曲物底板	16.2	5.7	0.9	1/3	柾目	スギ？	外周ケズリによる面取り			
536	1流	kq5-5	下層	木製品	曲物底板	14.8	4.0	0.7	1/3	柾目	スギ？	外周ケズリによる面取り			
537	P280	kp4-4	柱痕	木製品	自在鉤？	23.2	5.3	1.8	完存	板目	スギ？	縦方向のケズリ	19号掘立柱建物		
538	1流	kq3-4	下層	木製品	桧扇？	3.7	2.9	0.3	破片	柾目	ヒノキ？	丁寧なケズリ。下端斜めケズリ。	直径2mm程の穿孔有		
539	1流		下層	木製品	板（未製品？）	9.7	5.6	1.7	部分的に残存	柾目	スギ？	加工痕不明瞭			
540	1流		下層	木製品	端材	10.0	4.0	4.2	破片	柾目	スギ？	切断痕	切断時のあたり刻線2条有		
541	P280	kp4-4	柱痕	木製品	下駄	20.0	8.8	1.1	略完存	板目	スギ？	加工痕不明瞭。穿孔4ヶ所	19号掘立柱建物。礎板に転用		16
542	P209	ko3-2		木製品	板状柱	28.6	14.2	2.7	完存	柾目	スギ？	加工痕不明瞭			
543	P123	km4-1		木製品	柱	94.3	17.2	16.2	完存	芯持丸木	ケヤキ	縦方向のケズリ,下端V字状ケズリ	8号掘立柱建物	61	16
544	P84	kl5-4		木製品	柱	86.2	16.6	10.3	完存	角材	スギ	縦方向のケズリ,下端V字状ケズリ	7号掘立柱建物。臍穴有。転用か		
545	P85	kl5-4		木製品	柱	78.6	18.3	16.2	完存	芯去ミカン割り	クリ	縦方向のケズリ,先端平滑	7号掘立柱建物		
546	1流		下層	木製品	板	90.2	9.8	6.0	両端欠損	板目	マツ属	加工痕不明瞭	建築部材か		
547	P113	kl4-4		木製品	板状柱	15.3	13.5	4.3	略完存	柾目	スギ？	加工痕不明瞭	臍穴有		
548	P100	km5-1		木製品	板状柱	12.3	9.6	2.2	完存	柾目	スギ？	下面ケズリ	10号掘立柱建物		
549	P290	kq5-1		木製品	板状柱	48.8	29.3	6.8	完存	板目	スギ？	下面ケズリ			
550	P140	kn4-3		木製品	柱	38.4	12.1	13.0	略完存	芯持丸木	コナラ属クヌギ節	下端V字状ケズリ		61	16
551	P120	kl3-5		木製品	柱	53.0	21.6	19.6	完存	芯持丸木	ケヤキ	縦方向のケズリ,下端斜めケズリ	8号掘立柱建物		

表8 遺物観察表（4）

No.	遺構名	グリッド	層位	種別	器種	計測値(cm) 長さ	幅	厚さ	遺存度	木取り	材質	加工	備考	挿図	写真
582	1号流路	kq4-3	下層	木製品	木簡	35.1	3.3	0.7	上・下端欠損（折り？）	板目	スギ？	下部側面にV字状のケズリ	呪符木簡。1号流路砂層から墨書面を下にして出土	63	63
583	1号流路	kq3-3	下層	木製品	木簡	21.0	4.0	0.6	上・下端欠損（折り？）	板目	スギ？	全体に丁寧なケズリ	判読不可。1号流路砂層から出土。上・下端切り折りか	63	63

第Ⅴ章　文字資料

1　空毛遺跡出土の木簡について

1号，2号ともにいわゆる呪符木簡である。

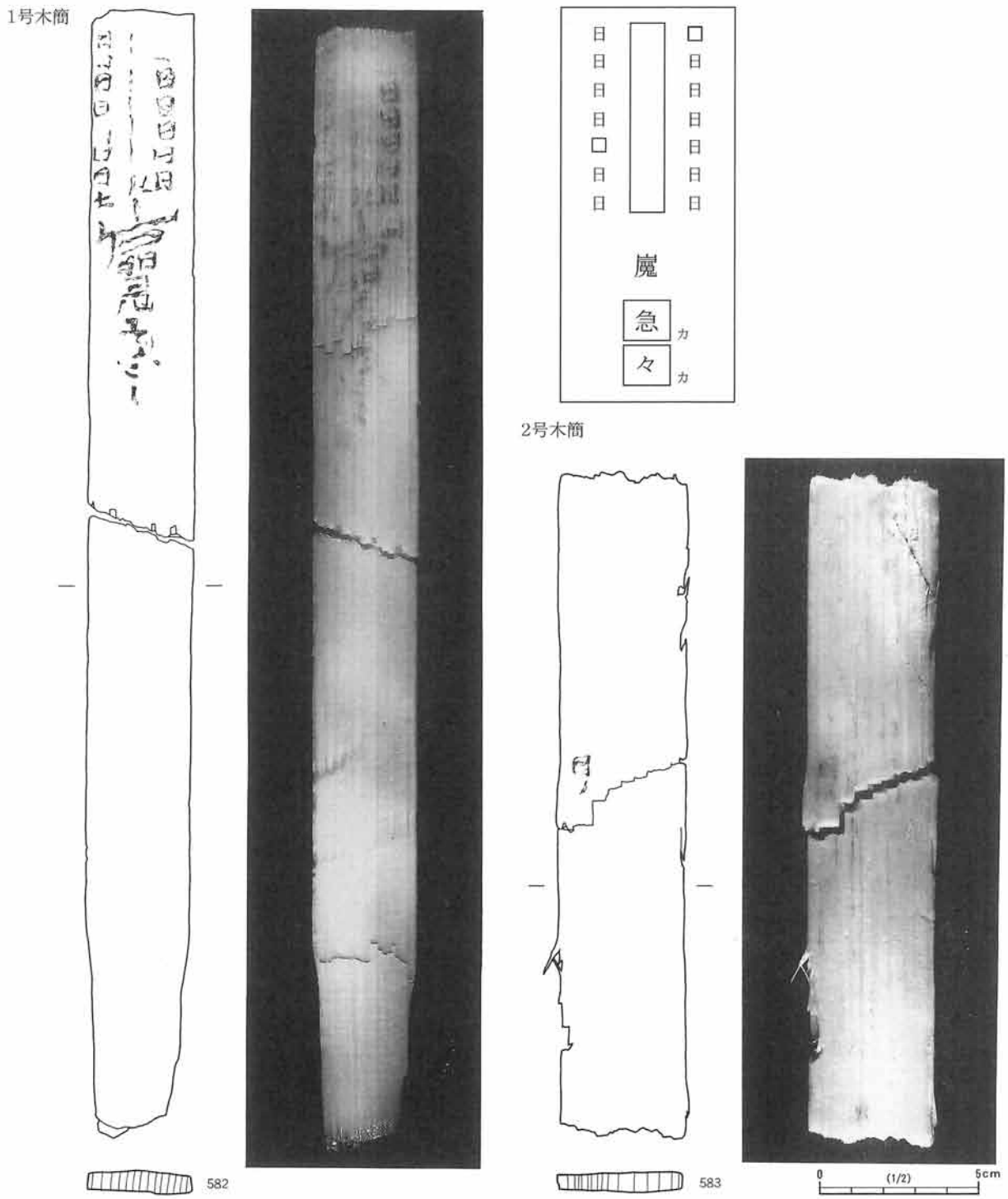
1号木簡では，比較的残りの良い符籙部分を詳細に観察すると，やや墨痕部分が盛り上がっている。これは屋外で風雨にさらされていた場合に特徴的な痕跡である。さらに，下部に向かって若干尖らせるような加工が施されているようで，先端部分は不明であるが，何かに挿すことを意識しているようにも思える。以上の観察から，屋外の例えば地面などに挿してしばらくの間（さほど長期ではなく）放置していたのではないかという推測ができる。また，中ほどに刀子などを用いて一旦切り込みを入れた後に一気に切り折っているようであるが，この部分に特別な意味を込めた文言が記されていたことも考えられよう。一般に木簡，特に文書木簡等の廃棄に当たっては，単に力任せにへし折ったりせず，重要な文言の部分で刀子などを用いて丁寧に切り折ることがあるが，本木簡についても同様の手順を踏んでいる可能性が指摘できる。ただし，呪符木簡でこのような廃棄方法をとるものは珍しい。以上の観察による推測が成り立つとすれば，古代における呪符木簡の使用方法を考える上で貴重な事例となるかもしれない。符籙以外の部分は風化が著しく判読は困難であるが，通常であれば「急々如律令」などの文言が記されていたのではないかと考えられる。

2号木簡については，墨痕が不鮮明であり，記載内容を読み取ることは極めて困難である。かろうじて1号木簡に似た符籙のような痕跡が見えることからこれも呪符と判断した。当木簡も上端，下端，中央部を切り折った痕跡があり，1号木簡と同様呪符木簡の使用方法を考える事例となるであろう。また，当遺跡から出土する斎串状の木製品の中にも，刀子などで切り込みを入れた上で細かく切り折ったものがあるが，その理由や呪符との関連は不明である。

2　空毛遺跡出土の墨書土器について

本遺跡から出土した墨書土器は，概ね一文字のみを有する土器であり，その意味する内容も不明なものがほとんどである。「七」「大」「太」「万」など県内に限らず他の遺跡においてもしばしば見られる文字もあるが，全体的な傾向を示すには至らない。

「宍」については，本来の意味するところの獣肉と解するか，宍人部あるいは宍人朝臣（宍人臣）・宍人連（宍人造）のようなウジナと関係するものか決め難い。前者であるとすれば，食器の用途として獣肉を盛るためのものであることを明示的に記すことになるのであろうが，このような供膳の用途を示す墨書は県内でもあまり例がない。後者であれば，宍人氏をウジナとする人物が，長期的にであるか短期的にであるかは不明だが，この地域に存在した可能性を示すものともなろう。これまで越後国には宍人氏の存在は確認されていない。ただし同じ北陸道でも越前国には越前国坂井郡擬主帳になる者（宍人臣＜名欠＞）や丹生軍団百長になる者（宍人黒麻呂），祥瑞を献じて叙位される者（宍人臣国持）などがおり，在地で一定の地位を築いていることがうかがえる。宍人氏の勢力が当該遺跡の所在する越後国北部地域に認められるとすれば，越前国との関係が注目されるところとなる。また，六世紀以降，北陸をはじめ東国地方における阿倍氏の勢力拡張に関連して，宍人部は阿倍氏と同族と称し，阿倍氏の配下にあったと考えられる一族であることから，このような様相が越後国にも及んでいたことを推測させる資料にもなりうるであろう。



第63図　1・2号木簡

「若□」については，二文字目が左に払う一画だけで適当な漢字をあてることができないが，あるいは「人」などの文字の一画目だけを記したのかもしれない。文字を途中で止めた意味はわからないが，識字との関連が想定できるかもしれない。「若」は人名によく見られる用字である。

筆跡に多くの手があるようであり，多人数が墨書にかかわったものかとも思われる。比較的手慣れた筆遣いのものから稚拙なものまでが混在しているが，特定の文字や記載位置との関連性は見出せない。　（浅井勝利）

第Ⅵ章　自然科学分析

1　放射性炭素年代測定結果（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

1　測定対象試料

空毛遺跡は，新潟県新発田市飯島字空毛 1410 番地ほかに所在する。旧加治川によって形成されたと考えられる扇状地の末端に立地し，現在遺跡の北側には太田川が流れている。測定対象試料は，建物の柱材から採取された木片や木棺墓出土炭化物など合計 10 点（No. 11：IAAA-102317～No. 20：IAAA-102326）である（表９）。

2　測定の意義

柱材の年代値を建物の造営時期を推測する手掛かりとする。１・２号木棺墓は新潟県内では稀な古墳時代の木棺墓とされ，時期比定の参考とする。

3　化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い，根・土等の付着物を取り除く。

（2）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後，超純水で中性になるまで希釈し，乾燥させる。AAA 処理における酸処理では，通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い，0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」，1M 未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（3）試料を燃焼させ，二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し，グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め，それをホイールにはめ込み，測定装置に装着する。

4　測定方法

3MV タンデム加速器（NEC Pelletron 9SDH-2）をベースとした ^{14}C-AMS 専用装置を使用し，^{14}C の計数，^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$），^{14}C 濃度（$^{14}C/^{12}C$）の測定を行う。測定では，米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5　算出方法

（1）$\delta^{13}C$ は，試料炭素の ^{13}C 濃度（$^{13}C/^{12}C$）を測定し，基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表 9）。AMS 装置による測定値を用い，表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C 年代（Libby Age：yrBP）は，過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され，1950 年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には，Libby の半減期（5568 年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C 年代は $\delta^{13}C$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表９に，補正していない値を参考値として表 10 に示した。^{14}C 年代と誤差は，下１桁を丸めて 10 年単位で表示される。また，^{14}C 年代の誤差（±1σ）は，試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が 68.2%であることを意味する。

（3）pMC (percent Modern Carbon)は，標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMC が小さい（^{14}C が少ない）ほど古い年代を示し，pMC が 100 以上（^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上）の場合 Modern とする。この値も $\delta^{13}C$ によって補正する必要があるため，補正した値を表９に，補正していない値を参考値として表 10 に示した。

（4）暦年較正年代とは，年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ，過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し，実年代に近づけた値である。暦年較正年代は，^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり，１標準偏差（$1\sigma=68.2\%$）あるいは２標準偏差（$2\sigma=95.4\%$）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代，横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は，$\delta^{13}C$ 補正を行い，下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお，較正曲線および較正プログラムは，データの蓄積によって更新される。また，プログラムの種類によっても結果が異なるため，年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは，暦年較正年代の計算に，IntCal09 データベース（Reimer et al. 2009）を用い，OxCalv4.1 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については，特定のデータベース，プログラムに依存する点を考慮し，プログラムに入力する値とともに参考値として表 10 に示した。暦年較正年代は，^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

６　測定結果

建物の柱材より採取された木片の ^{14}C 年代は，８号掘立柱建物（P120）の No. 11 が 1360±30yrBP，７号掘立柱建物（P85）の No. 12 が 1310±30yrBP，７号掘立柱建物(P84)の No. 13 が 1490±30yrBP，８号掘立柱建物(P123)の No. 14 が 1280±30yrBP，P140 の No. 15 が 1230±30yrBP，P142 の No. 16 が 1210±30yrBP，１号竪穴建物の No. 19 が 1310±30yrBP である。８号掘立柱建物の No. 11 と No. 14 の値はおおよそ近く，７号掘立柱建物の No. 12 と No. 13 の間には年代差が認められる。暦年較正年代（1σ）は，No. 11 が 649～674cal AD の範囲，No. 12 が 661～765cal AD の間に３つの範囲，No. 13 が 551～601cal AD の範囲，No. 14 が 684～770cal AD の間に２つの範囲，No. 15 が 720～865cal AD の間に３つの範囲，No. 16 が 775～870cal AD の範囲，No. 19 が 664～765cal AD の間に３つの範囲で示される。

１号木棺墓出土試料の ^{14}C 年代は，９層出土の木片 No. 17 が 1580±30yrBP，２層出土の炭化物 No. 18 が 1600±30yrBP である。No. 17 と No. 18 の値は誤差（$\pm1\sigma$）の範囲で重なり，近い年代を示す。暦年較正年代（1σ）は，No. 17 が 434～534cal AD，No. 18 が 420～532cal AD の間に各々複数の範囲で示される。１号木棺墓は古墳時代後期の木棺墓と推測され，No. 17 は土坑底直上で出土した木棺側板片の可能性のある木から採取された。測定結果は古墳時代後期とする調査所見に矛盾しない。

２号木棺墓出土木片 No. 20 の ^{14}C 年代は 1330±30yrBP である。暦年較正年代（1σ）は 655～761cal AD の間に２つの範囲で示される。２号木棺墓は古墳時代前期の木棺墓と推測されているが，測定試料は出土層位不明で，さらにこの遺構は古代以降の遺構との重複も多い。測定結果は調査所見よりも新しい値となった。

試料の炭素含有率はすべて 50%を超え，化学処理，測定上の問題は認められない。

参考文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111-1150

表9　放射性炭素年代測定分析表（1）

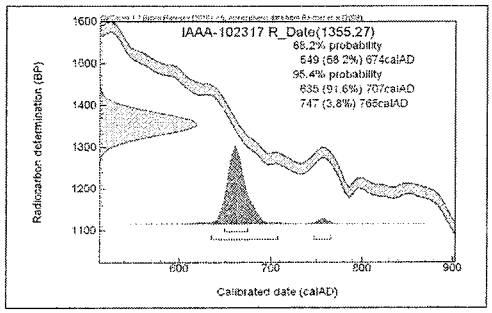
測定番号	試料名	採取場所／掲載No.	試料形態	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-102317	No.11	8号掘立(P120)／551	木片	AaA	**-27.64±0.52**	**1,360±30**	**84.47 ± 0.29**
IAAA-102318	No.12	7号掘立(P85)／545	木片	AaA	**-26.69±0.42**	**1,310±30**	**84.92 ± 0.29**
IAAA-102319	No.13	7号掘立(P84)／544	木片	AAA	**-26.11±0.54**	**1,490±30**	**83.03 ± 0.28**
IAAA-102320	No.14	8号掘立(P123)／543	木片	AAA	**-28.95±0.41**	**1,280±30**	**85.30 ± 0.29**
IAAA-102321	No.15	P140／550	木片	AAA	**-23.75±0.45**	**1,230±30**	**85.84 ± 0.28**
IAAA-102322	No.16	P142／－	木片	AAA	**-29.67±0.48**	**1,210±30**	**85.98 ± 0.30**
IAAA-102323	No.17	1号木棺墓 9 層／－	木片	AaA	**-31.00±0.61**	**1,580±30**	**82.17 ± 0.27**
IAAA-102324	No.18	1号木棺墓 2層／－	炭化物	AaA	**-25.31±0.64**	**1,600±30**	**81.94 ± 0.29**
IAAA-102325	No.19	1号竪穴／－	木片	AaA	**-28.56±0.58**	**1,310±30**	**84.97 ± 0.29**
IAAA-102326	No.20	2号木棺墓／－	木片	AAA	**-29.26±0.68**	**1,330±30**	**84.75 ± 0.30**

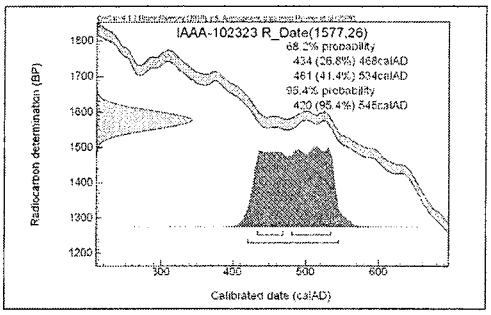
[#4003]

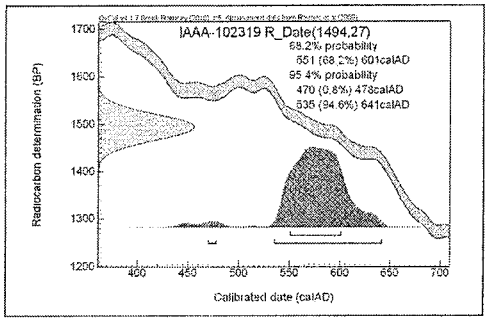
表10　放射性炭素年代測定分析表（2）

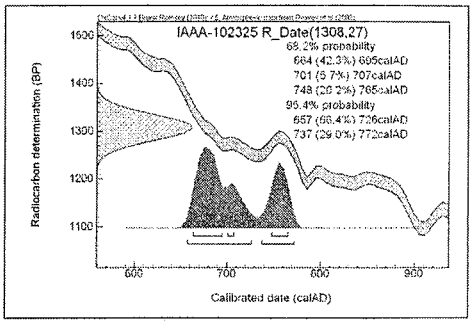
測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-102317	1,400 ± 30	84.02 ± 0.27	1,355 ± 27	649calAD - 674calAD (68.2%)	635calAD - 707calAD (91.6%) 747calAD - 765calAD (3.8%)
IAAA-102318	1,340 ± 30	84.63 ± 0.28	1,312 ± 27	661calAD - 694calAD (45.2%) 702calAD - 707calAD (4.3%) 748calAD - 765calAD (18.7%)	656calAD - 725calAD (68.3%) 738calAD - 772calAD (27.1%)
IAAA-102319	1,510 ± 30	82.84 ± 0.27	1,494 ± 27	551calAD - 601calAD (68.2%)	470calAD - 478calAD (0.8%) 535calAD - 641calAD (94.6%)
IAAA-102320	1,340 ± 30	84.61 ± 0.28	1,277 ± 27	684calAD - 722calAD (38.3%) 741calAD - 770calAD (29.9%)	665calAD - 779calAD (95.4%)
IAAA-102321	1,210 ± 30	86.06 ± 0.27	1,226 ± 26	720calAD - 742calAD (13.7%) 770calAD - 828calAD (39.0%) 839calAD - 865calAD (15.6%)	692calAD - 749calAD (25.2%) 763calAD - 883calAD (70.2%)
IAAA-102322	1,290 ± 30	85.16 ± 0.28	1,213 ± 27	775calAD - 870calAD (68.2%)	709calAD - 747calAD (11.3%) 766calAD - 890calAD (84.1%)
IAAA-102323	1,680 ± 30	81.16 ± 0.25	1,577 ± 26	434calAD - 468calAD (26.8%) 481calAD - 534calAD (41.4%)	420calAD - 545calAD (95.4%)
IAAA-102324	1,610 ± 30	81.89 ± 0.27	1,600 ± 28	420calAD - 441calAD (19.6%) 455calAD - 460calAD (3.6%) 484calAD - 532calAD (45.0%)	406calAD - 540calAD (95.4%)
IAAA-102325	1,370 ± 30	84.35 ± 0.27	1,308 ± 27	664calAD - 695calAD (42.3%) 701calAD - 707calAD (5.7%) 748calAD - 765calAD (20.2%)	657calAD - 726calAD (66.4%) 737calAD - 772calAD (29.0%)
IAAA-102326	1,400 ± 30	84.01 ± 0.27	1,329 ± 28	655calAD - 690calAD (60.1%) 752calAD - 761calAD (8.1%)	649calAD - 720calAD (78.0%) 742calAD - 770calAD (17.4%)

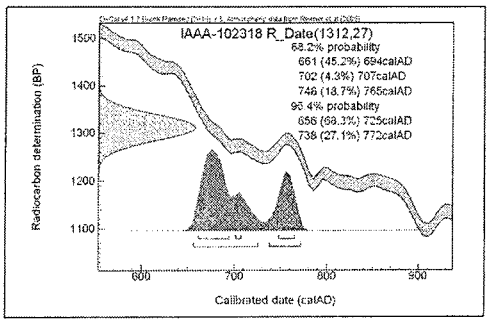
[参考値]

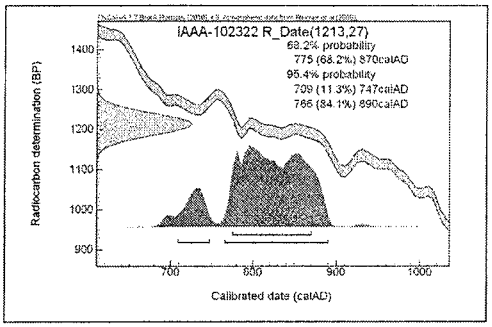


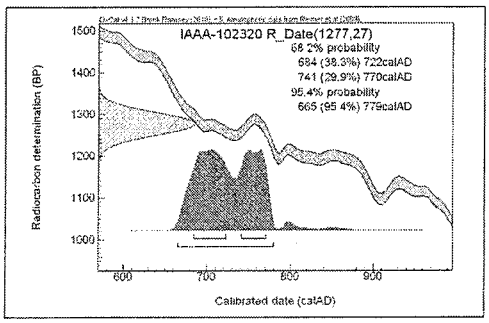


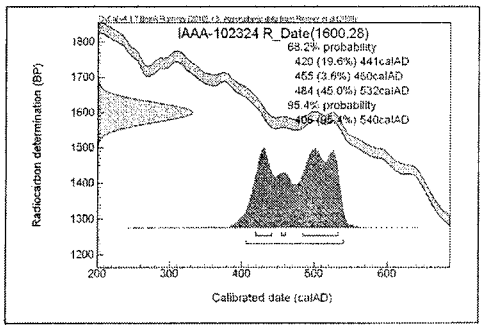


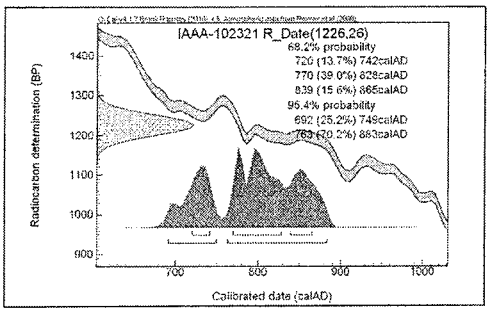


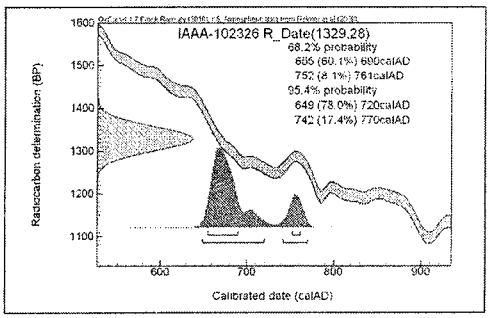












第64図　放射性炭素年代測定グラフ

2　空毛遺跡出土木材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1　はじめに

空毛遺跡は新発田市飯島字空毛に所在し，越後平野北部に位置する，古墳時代と奈良～平安時代の集落遺跡である。空毛遺跡では，古墳時代の竪穴建物跡や奈良～平安時代の掘立柱建物跡などが検出され，柱根や板材が出土した。ここではこれらの木材の樹種同定を行った。

2　試料と方法

試料は，Kn4-3 P140，P84（７号掘立），P123（８号掘立），P120（８号掘立），P85（７号掘立），１号流路，１号竪穴，１号木棺墓，２号木棺墓，Kn4-3 P142 から出土した木材各１点の計 10 点である。各試料について，切片採取前に木取りの確認を行った。各遺構の時期については，２号木棺墓が古墳時代前期，１号木棺墓が古墳時代後期，それ以外の遺構は古代と考えられている。

木製品の樹種同定は，横断面（木口），接線断面（板目），放射断面（柾目）の３断面について，カミソリで薄い切片を切り出し，ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ，光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。なお作製したプレパラートは，パレオ・ラボに保管されている。

3　結果

同定の結果，針葉樹ではマツ属複維管束亜属とスギの２分類群，広葉樹ではクリとコナラ属クヌギ節（以下クヌギ節と呼ぶ），ケヤキ，モクレン属，樹種不明の散孔材の５分類群の計７分類群が産出した。ケヤキが最も多く３点で，マツ属複維管束亜属が２点，スギとクリ，クヌギ節，モクレン属，散孔材が各１点産出した。同定結果を表７に，一覧を表８に示す。

表７　空毛遺跡出土木製品の樹種同定結果

時期	古墳時代前期	古墳時代後期	古代		
樹種　器種	板材	板材	板材	柱根	合計
マツ属複維管束亜属			2		2
スギ				1	1
クリ				1	1
コナラ属クヌギ節	1				1
ケヤキ				3	3
モクレン属				1	1
散孔材		1			1
合計	1	1	2	6	10

次に，同定された材の特徴を記載し，各樹種の光学顕微鏡写真を示す。

(1)マツ属複維管束亜属　*Pinus* subgen. *Diploxylon*　マツ科　第65図　1a-1c(No.6)

仮道管と放射仮道管，放射組織，垂直および水平樹脂道同で構成される針葉樹である。晩材部は厚く，早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で，高さ１～５列となる。分野壁孔は窓状で，放射仮道管の水平壁は内面に向かって鋸歯状に肥厚する。

マツ属複維管束亜属には，アカマツとクロマツがある。どちらも温帯から暖帯にかけて分布し，クロマツは海の近くに，アカマツは内陸地に生育する。材質は類似し，重硬で切削等の加工は容易である。

(2)スギ　*Cryptomeria japonica*（L.f.）D.Don　スギ科　第65図　2a-2c(No.2)

仮道管と放射組織，樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く，早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で，高さ２～６列となる。分野壁孔は大型のスギ型で，１分野に普通２個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で，天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で切削などの加工が容易な材である。

(3)クリ　*Castanea crenata* Siebold. et Zucc.　ブナ科　第65図　3a-3c(No.5)

年輪の始めに大型の道管が１～２列並び，晩材部では径を徐々に減じた道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。放射組織は同性で単列となる。

クリは北海道の石狩，日高以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で耐朽性が高い。

(4)コナラ属クヌギ節　*Quercus* sect. *Aegilops*　ブナ科　第65図　4a-4c(No.9)

年輪の始めに大型の道管が１列並び，晩材部では径を急に減じた壁が厚くて丸い道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で，単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり，温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で切削などの加工はやや困難である。

(5)ケヤキ　*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino　ニレ科　第65･66図　6a-6c(No.10)

年輪の始めに大型の道管が１～３列並び，晩材部では急に径を減じた道管が多数複合し，接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し，小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端１～２列が方形となる異性で，１～６列となる。放射組織の上下端には，菱形の結晶がみられる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが，切削などの加工はそれほど困難でない。

(6)モクレン属　*Magnoria*　モクレン科　第66図　7a-7c(No.1)

小型の道管が単独ないし２～３個複合してやや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し，道管相互壁孔は対列～階段状となる。放射組織は上下端１列が直立する異性で，１～２列となる。

モクレン属にはホオノキ，コブシなどがある。代表的なホオノキは，山間の肥沃なところに散生する落葉高木の広葉樹で，材は軽軟で硬くなく，切削その他の加工は極めて容易である。

(7)散孔材　Diffuse-porous wood　第66図　8a-8c(No.8)

小型の道管が単独ないし２～３個複合して散在するのは確認できたが，材の保存状態が悪くて年輪界は不明瞭であった。道管は単穿孔を有する。放射組織は１～３列となる。

4　考察

時期別にみると，古墳時代前期の板材はクヌギ節であった。また古墳時代後期の板材は樹種不明の散孔材であった。古代の板材はマツ属複維管束亜属であった。古代の柱根は，ケヤキが３点，スギとクリ，モクレン属が各１点であった。

器種別にみてみると，板材ではマツ属複維管束亜属とクヌギ節，散孔材がみられた。マツ属複維管束亜属は重硬であるが加工が容易な樹種で，クヌギ節は重硬で強靭，割裂性が良い樹種である。古墳時代前期のクヌギ節の板材の木取りは柾目で，古代のマツ属複維管束亜属の板材は木取りが板目であった。一般的に，柾目材は年輪と直交して加工するため，割り難くて歩留まり（製材効率）が悪いが，材の強度は高い木取りである。また板目材は年輪に沿って加工するため，割り易くて歩留まり（製材効率）が良いが，材の強度は低い木取りである。古墳時代前期とそれ以降で，板材の強度や木材の加工方法で異なる選択が行われていた可能性がある。また古代の柱根では，スギとクリ，ケヤキ，モクレン属が産出した。スギは木理通直の素直な材で，軽軟で加工性の良い樹種である。またモクレン属も軽軟で加工性が良い。クリとケヤキは重硬で強靭な樹種で，クリは特

に水湿などへの耐朽性が高く，割裂性が良い。木取りでは，スギが角材でクリが芯去みかん割り，ケヤキとモクレン属が芯持丸木であった。スギは加工性が良いため角材に削り出して柱材として利用し，クリも割裂性が良いため大径木のものを割ってみかん割り状にして柱材として利用していたと考えられる。ケヤキとモクレン属は柱材に適した太さの樹木を伐採して利用していた可能性が考えられる。

周辺地域の同時期の樹種同定例としては，新発田市内に所在する荒神裏Ｂ遺跡で奈良・平安時代の柱根の樹種同定が行われ，クリが３点，スギとコナラ節，ケンポナシ属が各２点産出している（吉川純子，2006）。また空毛遺跡とは離れるが，上越市の一之口遺跡東地区の古墳時代後期の竪穴住居跡で出土した建築部材では，SI04からクリが４点，SI113からクリが３点，SI16からヤナギ属とブナ属，カエデ属が各１点，樹種不明の散孔材が２点産出している（パリノ・サーヴェイ株式会社，1994）。空毛遺跡と同じ新発田市内に所在する青田遺跡で行われた縄文時代晩期以降の花粉分析によると，弥生時代以降にスギ林が拡大したことが示唆されている（吉川昌信，2004）。しかし空毛遺跡では，スギの木材利用は顕著には確認できなかった。また，上に挙げたような新潟県下の同時期の遺跡でも，スギが建築材として顕著に利用された形跡は確認できなかった。新潟県下の古墳時代および古代の住居跡の建築材では，スギ材だけでなく用途に適した様々な広葉樹が用材選択されていたと考えられる。

引用文献

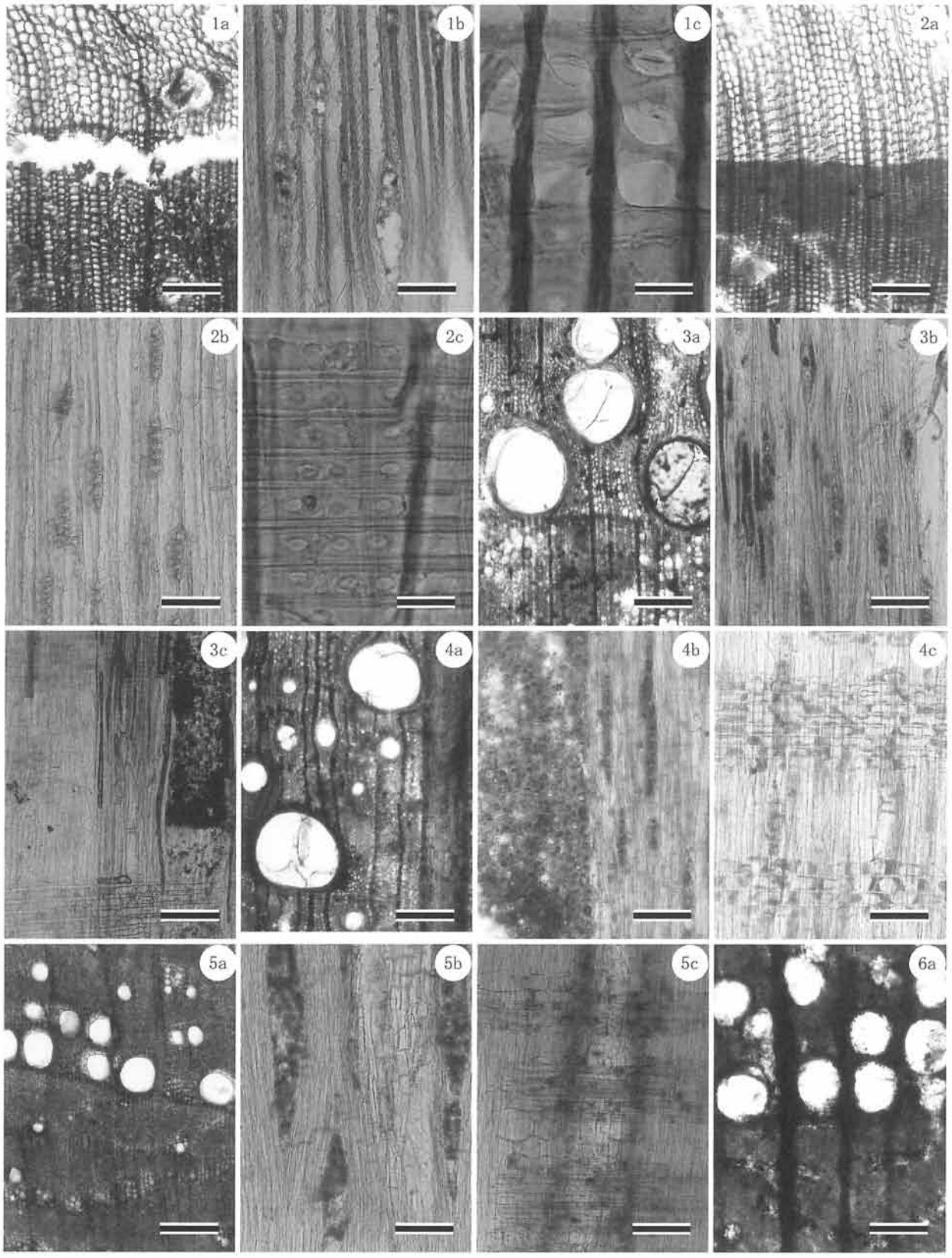
パリノ・サーヴェイ株式会社（1994）一之口遺跡東地区から出土した木質遺物および種実遺体の同定．新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編「上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ　一之口遺跡東地区　本文編」：147-167，新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団．

吉川純子（2006）加工材の樹種．新発田市教育委員会編「荒神裏Ｂ遺跡発掘調査報告書」：161-163，図版30，新発田市教育委員会．

吉川昌信（2004）青田遺跡における縄文時代晩期以降の花粉化石群．新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編「青田遺跡　関連諸科学・写真図版編」：35-42，新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団．

表８　空毛遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

試料No.	遺構名	器種	樹種	木取り	時代	掲載No.
1	Kn4-3　P140	柱根	モクレン属	芯持丸木	古代	550
2	P84（7号掘立）	柱根	スギ	角材	古代	544
3	P123（8号掘立）	柱根	ケヤキ	芯持丸木	古代	543
4	P120（8号掘立）	柱根	ケヤキ	芯持丸木	古代	551
5	P85（7号掘立）	柱根	クリ	芯去みかん割り	古代	545
6	1号流路	板材	マツ属複維管束亜属	板目	古代	546
7	1号竪穴	板材	マツ属複維管束亜属	板目	古代	—
8	1号木棺墓	板材	散孔材	板目	古墳後期	—
9	2号木棺墓	板材	コナラ属クヌギ節	柾目	古墳前期	—
10	Kn4-3　P142	柱根	ケヤキ	芯持丸木	古代	—

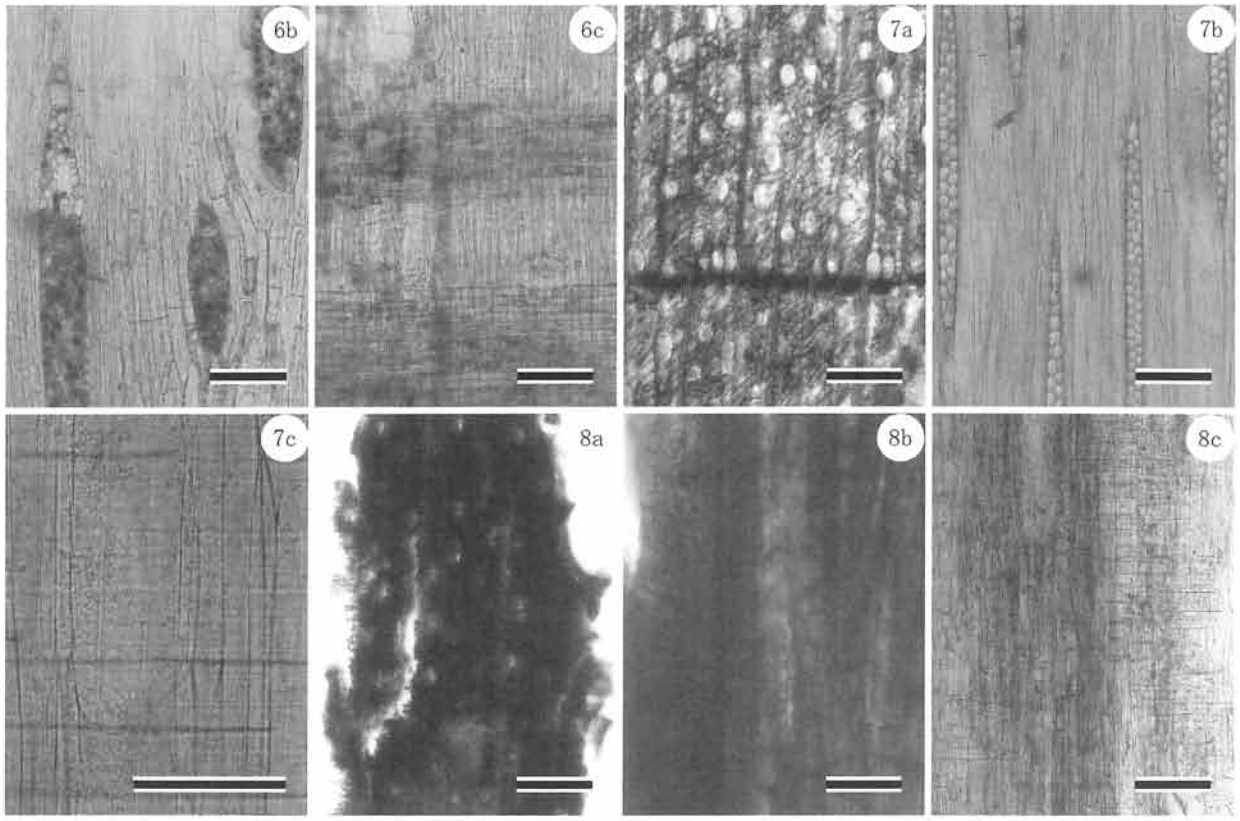


第65図　出土木製品の光学顕微鏡写真(1)

1a-1c. マツ属複維管束亜属(No. 6)　2a-2c. スギ(No. 2)　3a-3c. クリ(No. 5)　4a-4c. コナラ属クヌギ節(No. 9)

5a-5c. ケヤキ(No. 4)　6a. ケヤキ(No. 10)

a:横断面(スケール=250μm)　b:接線断面(スケール=100μm)　c:放射断面(スケール=1·2:25μm・3·5:100μm)



第66図　出土木製品の光学顕微鏡写真(2)

6b-6c. ケヤキ(No. 10)　7a-7c. モクレン属(No. 1)　8a-8c. 散孔材(No. 8)

a:横断面(スケール=250μm)　b:接線断面(スケール=100μm)　c:放射断面(スケール 100μm)

3　須恵器胎土分析（X線回折試験及び化学分析試験）鑑定報告

(株) 第四紀地質研究所　井上　巖

1　実験条件

1－1　試料

分析に供した試料は表 13 に示すとおりである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し，乾燥したのちに，メノウ乳鉢にて粉砕し，粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し，表面を洗浄し，乾燥後，試料表面をコーテングしないで，直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し，分析した。

1－2　X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物および造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製 JDX－8020X線回折装置を用い，次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage:－40kV, Current:－30mA, ステップ角度：0.02°，計数時間：0.5秒。

1－3　化学分析

元素分析は日本電子製 5300LV 型電子顕微鏡に 2001 型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし，実験条件は加速電圧－15kV，分析法：スプリント法，分析倍率－200 倍，分析有効時間－100 秒，分析指定元素 10 元素で行った。

2　X線回折試験結果の取扱い

実験結果は表 13 に示すとおりである。

表 13 にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり，「タイプ分類」の項には各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物および造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

2－1　組成分類

1）　Mont－Mica－Hb 三角ダイヤグラム

第 67 図に示すように三角ダイヤグラムを１～13 に分割し，位置分類を各胎土について行い，各胎土の位置を数字で表した。Mont, Mica, Hb の三成分の含まれない胎土は記載不能として 14 にいれ，別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)，雲母類(Mica)，角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（%）で表示する。モンモリロナイトは Mont/Mont+Mica+Hb*100 でパーセントとして求め，同様に Mica, Hb も計算し，三角ダイヤグラムに記載する。三角ダイヤグラム内の１～４は Mont, Mica, Hb の３成分を含み，各辺は２成分，各頂点は１成分よりなっていることを表している。位置分類についての基本原則は第１図に示す通りである。

2）　Mont－Ch, Mica－Hb 菱形ダイヤグラム

第 67 図に示すように菱形ダイヤグラムを１～19 に区分し，位置分類を数字で記載した。記載不能は 20 として別に検討した。モンモリロナイト(Mont)，雲母類(Mica)，角閃石(Hb)，緑泥石(Ch) の内，a）３成分以上含まれない，b）Mont, Ch の２成分が含まれない，c）Mica, Hb の２成分が含まれない，の３例がある。

菱形ダイヤグラムは Mont-Ch, Mica-Hb の組合せを表示するものである。Mont-Ch, Mica-Hb のそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので，例えば，Mont/Mont+Ch*100 と計算し，　Mica, Hb, Ch も各々同様に計算し，記載する。菱形ダイヤグラム内にある１～７は Mont, Mica, Hb, Ch の４成分を含み，各辺は Mont, Mica, Hb, Ch

のうち３成分，各頂点は２成分を含んでいることを示す。位置分類についての基本原則は第 67 図に示すとおりである。

３）化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として，ノーマル法（10 元素全体で 100%になる）で計算し，化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてＳｉＯ２－Ａｌ２Ｏ３図，Ｆｅ２Ｏ３－ＴｉＯ２図，Ｋ２Ｏ－ＣａＯ図の各図を作成した。これらの図をもとに，土器類を元素の面から分類した。

３　Ｘ線回折試験結果

３－１　タイプ分類（表 13）

第１表のタイプ分類の項に示したとおり，土器と原土はＡ・Ｂの２タイプが検出された。

Ａタイプ：Hb１成分を含み，Mont, Mica, Ch の３成分に欠ける。

Ｂタイプ： Mont, Mica, Hb, Ch の４成分にかける。高～中温領域で焼成されているため鉱物が分解してガラスに変質している。

空毛遺跡から出土した須恵器は高温で焼成されているため，空毛－５を除いては総てＢタイプである。

３－２　石英（Ｑｔ）－斜長石（Ｐｌ）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質，土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で，ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり，言い換えれば，各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第 68 図①に示すよ新発田市周辺の古窯跡の分類で，Ｑｔの強度が小の領域から大の領域にかけて５グループに分類された。空毛遺跡より出土した須恵器はQt－１，Qt－３に集中し－３タイプに分類される。

Qt－１：Ｑｔが 700～1700，Ｐｌが 40～85 の領域に分布する。

Qt－３：Ｑｔが 740～2300，Ｐｌが 50～280 の領域に分布する。

なお，Ｓ－３は焼成が甘く，高温で焼成されればQt－１の領域に入る可能性がある。

４　化学分析結果

表 14 に化学分析の結果を記載した。分析結果に基づいて新発田市周辺の古窯跡の分類と対比させるために記載し，図を作成した。

４－１　ＳｉＯ２－Ａｌ２Ｏ３の相関について（第 68 図②）

第 68 図に示すようにⅠ～Ⅳの４タイプとその他に分類した。

Ⅰタイプ：ＳｉＯ２が 57～66%，Ａｌ２Ｏ３が 22～30%の領域に分布する。

Ⅱタイプ：ＳｉＯ２が 62～68%，Ａｌ２Ｏ３が 17～23%の領域に分布する。

Ⅲタイプ：ＳｉＯ２が 66～74%，Ａｌ２Ｏ３が 17～24%の領域に分布する。

Ⅳタイプ：ＳｉＯ２が 56～63%，Ａｌ２Ｏ３が 17～24%の領域に分布する。

ただし，Ⅳタイプに分類されるＳ－１１はⅡタイプの領域に近く，Ⅱタイプに属するものと推察される。

４－２　Ｆｅ２Ｏ３－ＴｉＯ２の相関について（第 68 図③）

第 68 図に示すようにＦｅ２Ｏ３の領域によって３グループに分類された。

Ｆｅ２Ｏ３－１：Ｆｅ２Ｏ３が２－５～８－５%，ＴｉＯ２が 0.6～1.8%の領域に分布する。

Ｆｅ２Ｏ３－２：Ｆｅ２Ｏ３が 4.8～10%，ＴｉＯ２が０－４～１－３%の領域に分布する。

Ｆｅ２Ｏ３－３：Ｆｅ２Ｏ３が 7～12%，ＴｉＯ２が 0.8～1.8%の領域に分布する。

４－３　Ｋ２Ｏ－ＣａＯの相関について（第68図④）

第68図に示すようにＫ２Ｏの値によって２グループに分類した。

Ｋ２Ｏ－１―Ｋ２Ｏが１－２～3.7%，ＣａＯが０－１～0.8%の領域に分布する。

Ｋ２Ｏ－２―Ｋ２Ｏが2.0～5－３%，ＣａＯが０～0.7%の領域に分布する。

新発田市周辺の古窯跡の分類の第 68 図④を細分するとＫ２Ｏの値が小さい領域に貝屋窯跡，中間領域には元山窯跡，大きい領域にはホーロク沢窯跡・堤上窯跡と大まかに領域が分かれる。中間領域の中には真木山丘陵と笹神丘陵の土器が共存し，類似性が高いように見受けられる。

5　まとめ

Ｘ線回折試験と蛍光Ｘ線分析の分析結果に基づいて分類した結果が表 11 である。「タイプ」項の Qt, Si, Fe の数字はそれぞれ第68図①～③での所属領域を示す。この結果と表13で示した胎土のタイプ分類の結果を踏まえて，所属領域を同じくするものを同一の組成として分類した。

1）　今回分析した須恵器の土器胎土はＡ・Ｂの２タイプに分類され，そのほとんどはＢタイプである。Ｂタイプは高温で焼成されているために鉱物が分解してガラスに変質したものである。

2）　第68図①に示すように，今回分析した須恵器はＱｔの強度が小さい領域から大きい領域にかけてＱｔ－１からＱｔ－３の３グループに分類される。

3）　Ｑｔ－１とＱｔ－３の関係は第５図右側の焼成温度と関連する。Ｑｔ－１は高温で焼成されＱｔ－３は中温で焼成されており，焼成環境が異なる。胎土の関連からすると中温で焼成されたものはさらに温度を上げるとＰl（斜長石）がガラス化して分析強度が低くなりＱｔ－１の領域に入ってくる。このことからすると胎土に調整した土は同じと考えられる。Ｑｔ－２とＱｔ－３も同様の関係にあると考えられる。

4）　表15に示したように，土器胎土のＸ線回折試験と化学分析の結果に基づいて第68図①～④を作成し，各相関により分類したもので組成分類をおこなった。分類の結果，空毛遺跡より出土した須恵器は６タイプに分類された。

5）　組成分類のタイプに対して１点のみというものは３例あり，総体的に見れば異質ともいえる。他の地域からもたらされたと考えられるものはＳ－４の会津若松の大戸窯跡である。Ｓ－３は，五頭山麓系－１の焼成不良で，焼成が甘いために分類が異なったものと推察される。

6）　「Ｑｔ－１，Ｉタイプ, Fe203」は五頭山麓系－１の笹神丘陵系，「Ｑｔ－１，Ⅱタイプ, Fe203」は新津系，「Ｑｔ－１，Ⅲタイプ, Fe203」は五頭山麓系－４の真木山丘陵系，「Ｑｔ－２，Ⅲタイプ, Fe203」は五頭山麓系－２の元山窯跡系である。

参考文献：井上巌（2010）中部・北陸地方の古窯跡データ集

表13　胎土性状およびタイプ分類表

試料	タイプ	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物													備　考	
No	分類	Mo-Mi-Hb	Mo-Ch, Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mull	K-fels	Hal	Kaol	Au	掲載No.	器種名
S-1	B	14	20						920	47	402	75					207	無台杯
S-2	B	14	20						1315	57	122	79					263	無台杯
S-3	B	14	20						1285	146	85						459	折縁杯
S-4	B	14	20						792	81	131	109					474	長頸壺
S-5	A	5	20			96			1158	56	637	100					486	甕
S-6	B	14	20						1656	58	259	74					—	無台杯
S-7	B	14	20						1348	59	274	82					56	無台杯
S-8	B	14	20						778	69	579	110					—	無台杯
S-9	B	14	20						746	57	619	80					154	無台杯
S-10	B	14	20						2308	65	193	75					100	無台杯
S-11	B	14	20						1538	57	244	62					—	無台杯

Mont:モンモリロナイト　Mica:雲母類　Hb：角閃石 Ch:緑泥石(Ch:Fe　一次反射、Ch:Mg　二次反射)　Qt：石英 Pl:斜長石
Crist:クリストバライト Mullite:ムライト　K-fels:カリ長石　Halloy:ハロイサイト Kaol:カオリナイト　Pyrite:黄鉄鉱 Au:普通輝石 Py:紫蘇輝石

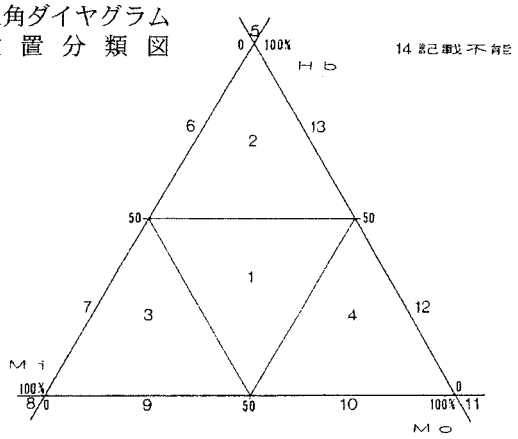
表14　胎土分析化学分類表

試料No.	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total
S-1	0.55	0.00	24.40	61.96	3.12	0.18	1.02	0.00	8.54	0.23	100.00
S-2	0.20	0.00	22.27	66.80	3.25	0.12	1.01	0.50	5.72	0.14	100.01
S-3	0.63	0.00	26.18	65.28	2.49	0.22	0.74	0.65	3.81	0.00	100.00
S-4	1.43	0.74	20.65	68.76	3.85	0.37	0.59	0.08	3.35	0.18	100.00
S-5	0.33	0.00	20.28	64.81	2.44	0.35	1.32	0.12	10.26	0.10	100.01
S-6	1.24	0.00	20.68	66.44	3.29	0.09	0.89	0.35	7.03	0.00	100.01
S-7	0.33	0.00	24.76	60.44	3.66	0.28	1.30	0.00	9.24	0.00	100.01
S-8	0.20	0.00	22.81	65.02	4.21	0.01	0.87	0.30	6.50	0.08	100.00
S-9	0.22	0.00	19.29	65.72	2.88	0.13	0.65	0.54	10.13	0.45	100.01
S-10	0.14	0.22	19.56	72.09	2.93	0.34	0.77	0.36	3.27	0.33	100.01
S-11	0.63	0.00	20.85	62.34	3.50	0.41	1.18	0.62	10.47	0.00	100.00

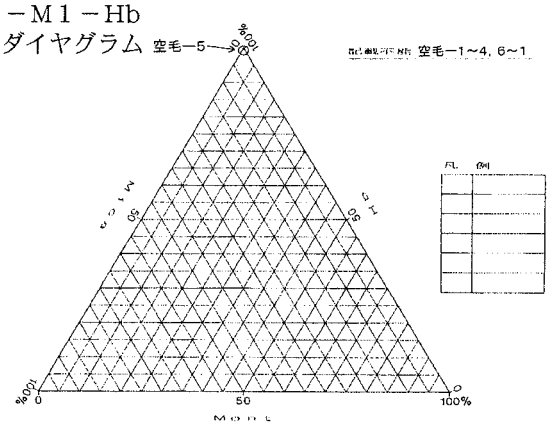
表15　胎土分析組成分類表

試料	タイプ				備　考				産地推定結果
No.	胎土	Fe	Si	Qt	遺跡名	器種名	時期	肉眼観察所見(市教委)	
Qt－1・Ⅰタイプ・Fe2O3									
S-1	B	3	Ⅰ	1	空毛－1	無台杯	9世紀中頃	阿賀北	五頭山麓系－1　笹神丘陵系
S-7	B	3	Ⅰ	1	空毛－7	無台杯	9世紀第2四半期頃	小泊(カメ畑3号窯併行)	五頭山麓系－1　笹神丘陵系
S-8	B	1	Ⅰ	1	空毛－8	無台杯	9世紀第2四半期頃	阿賀北か小泊	五頭山麓系－1　笹神丘陵系
Qt－1・Ⅱタイプ・Fe2O3									
S-5	A	3	Ⅱ	1	空毛－5	甕	古墳時代後期	—	分析値は新津系に類似
S-11	B	3	Ⅱ	1	空毛－11	無台杯	9世紀第2四半期	阿賀北か新津	新津系？
S-9	B	4	Ⅱ	1	空毛－9	無台杯	9世紀中葉	阿賀北	新津系？
Qt－1・Ⅲタイプ・Fe2O3									
S-4	B	1	Ⅲ	1	空毛－4	長頸壺	9世紀前半頃	会津大戸か阿賀北	会津・大戸
Qt－1・Ⅲタイプ・Fe2O3									
S-2	B	1	Ⅲ	1	空毛－2	無台杯	9世紀中頃	小泊か阿賀北	五頭山麓系－4　真木山丘陵系
S-6	B	1	Ⅲ	1	空毛－6	無台杯	9世紀前半	阿賀北か新津	五頭山麓系－4　真木山丘陵系
Qt－2・Ⅲタイプ・Fe2O3									
S-10	B	1	Ⅲ	2	空毛－10	無台杯	9世紀前半	阿賀北	五頭山麓系－2　元山
Qt－3・Ⅰタイプ・Fe2O3									
S-3	B	1	Ⅰ	3	空毛－3	折縁杯	9世紀前半～中頃	阿賀北	五頭山麓系－1　焼成不良

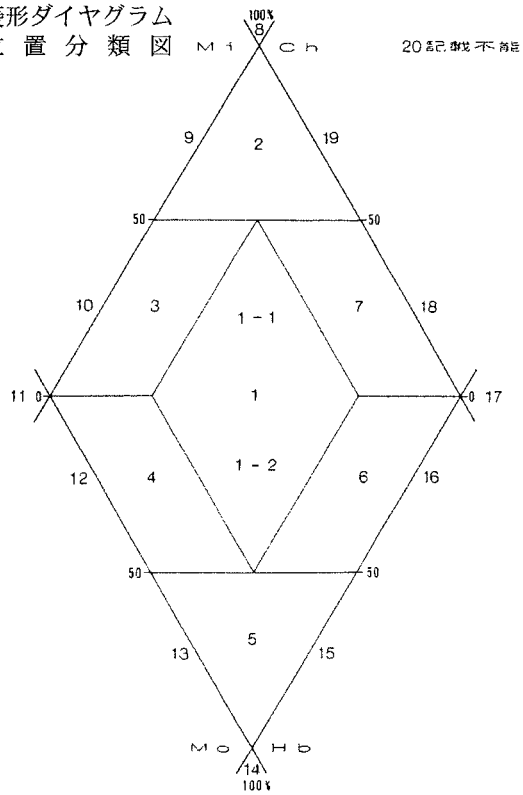
三角ダイヤグラム
位置分類図



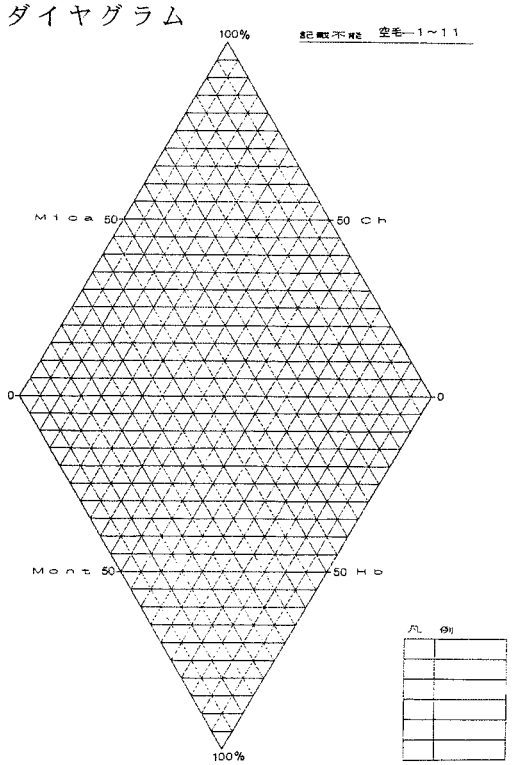
Mo－M1－Hb
三角ダイヤグラム



菱形ダイヤグラム
位置分類図

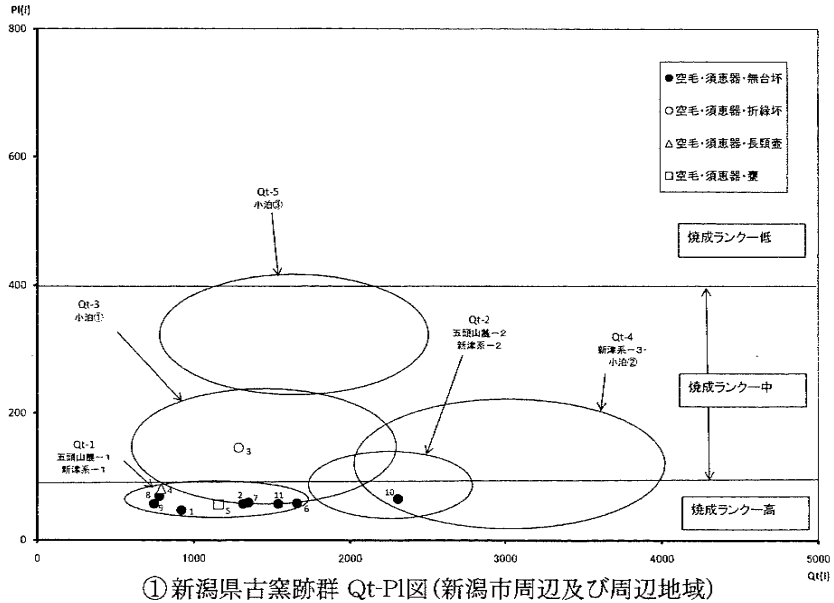


Mo－Ch, M1－Hb
菱形ダイヤグラム

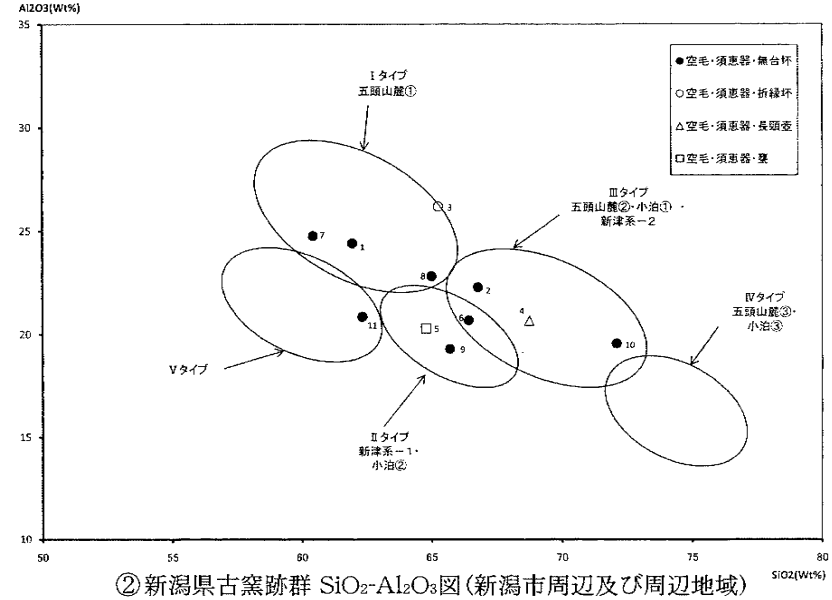


第67図　須恵器胎土分析関連グラフ(1)

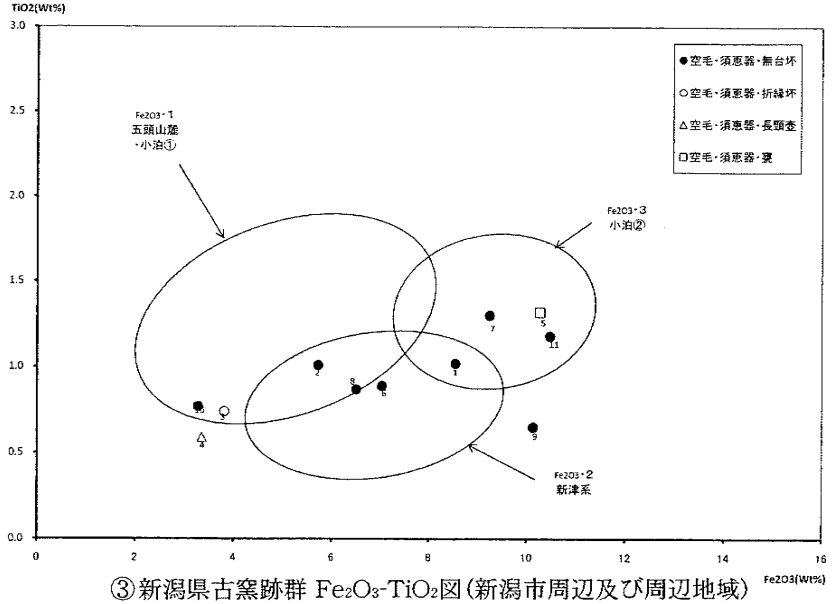
第68図　須恵器胎土分析関連グラフ(2)



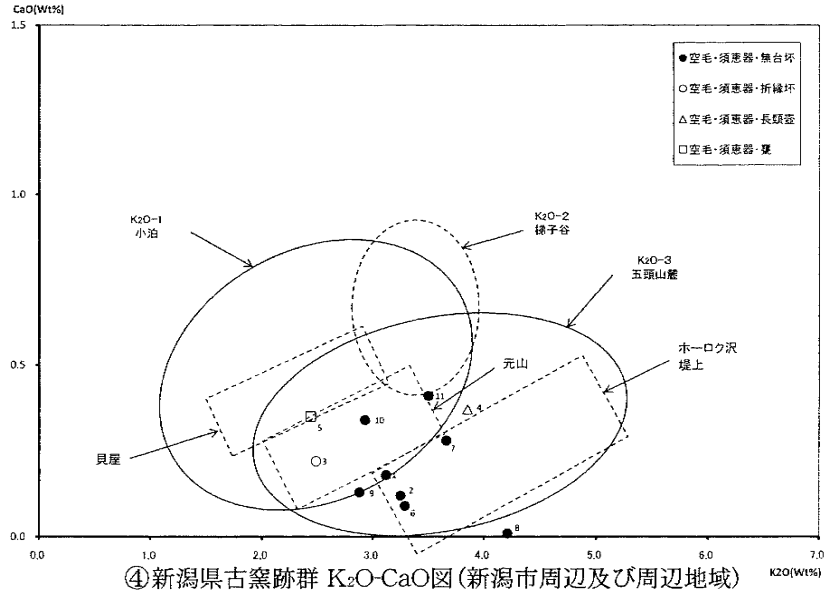
①新潟県古窯跡群 Qt-Pl図(新潟市周辺及び周辺地域)



②新潟県古窯跡群 SiO_2-Al_2O_3図(新潟市周辺及び周辺地域)



③新潟県古窯跡群 Fe_2O_3-TiO_2図(新潟市周辺及び周辺地域)



④新潟県古窯跡群 K_2O-CaO図(新潟市周辺及び周辺地域)

4　空毛遺跡出土琥珀資料の化学分析

(財) 元興寺文化財研究所　　植田　直見

1．はじめに

空毛遺跡から出土した資料は最大長 10.7mm，最大径 9.1mmの棗玉で，古墳時代後期の溝から出土した。資料は表面に細かい亀裂が確認できたが内部は比較的劣化が進行していない状態の良いものであると観察できた。この棗玉が琥珀製であるかどうかの確認を全反射フーリエ変換赤外分光分析（以下 ATR-FT-IR）により行った。琥珀製であることがわかれば琥珀の産出地から採取した地質学的標準資料（標準琥珀）の分析結果と比較することによって産地推定を行うことが可能となる。

2．分析試料

今回，分析に用いた試料は本体から分離した破片の中で出来るだけ健全な部分を選び使用した。分析はFT-IRと熱分析（TG・DTA）を行なった。

3．分析方法および条件

分析は全反射フーリエ変換赤外分光光度計（SENSIR TECHNOLOGIES 製 TravelIR)）と熱分析（TG・DTA ）装置（㈱島津製作所製 DTG-60）を使用した。ATR-FT-IR による分析では，試料に赤外線を照射することにより得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し，化合物の種類を同定することができる。主に有機物の構造を解析する手段として用いられることが多く，琥珀を形成する樹脂の種類すなわち植物の種類によって分子構造が異なると考えられるため，産地によってスペクトルに差が生じ，それを利用して産地推定に応用されてきた[1) 2) 3)]。また，TG・DTA は試料に熱を加え，得られる質量変化から蒸発・気化温度，また熱分解などの化学変化を知ることができる熱重量測定（TG）と，試料の融解などの状態の変化や化学反応の温度を知ることができる示差熱分析（DTA）があり，これらから試料の熱に対する挙動を調べることができる。熱分析は最近導入した分析方法で ATR-FT-IR による分析結果と併用することによりさらに精度の高い分析が行なえる。

測定はATR-FT-IRは試料をそのまま測定部に置き検出器にTGSを用い，分解能4cm^{-1}で測定した。また，TG・DTA分析は試料の砕片（約 1 mg）をアルミニウムセルに入れ，200ml/分の流量の窒素ガスを流しながら10℃/分で昇温させ，その時の重量変化と熱量変化を測定した。

4．結果および考察

ATR-FT-IR 分析は有機化合物の分子構造を反映するため，劣化により分子構造が変化し，本来のスペクトルとはピークの位置や強度が異なることがある。特に劣化が激しいと，全体的に吸収はブロードとなり特徴的な吸収が消失し，新たに異なった位置にピークが表れることもある。そのため琥珀であるかどうかの判断および産地推定は，できるだけ健全な部分を選んで分析を行うことが必要である。結果によっては産地を断定できない場合も生じる。

まず ATR-FT-IR スペクトルの 3500 および 1710 cm^{-1}付近の吸収強度が高くなっていることから，分析試料はやや酸化が進んでいることが確認できた。しかし，3500～2800，1710，1500～800 cm^{-1} 付近の吸収位置および強度より琥珀であることが確認できた（第 69 図①)。次に，指紋領域と呼ばれる有機化化合物を同定する際の

目安となる1800～800cm^{-1}付近のスペクトルの吸収位置および強度と，産地の判明している標準琥珀から得られたスペクトルと比較し，産地推定を試みた（第69図②）。その結果，今回分析した試料は久慈市産およびいわき市産の琥珀の特徴を有していることがわかった。1250～1050cm^{-1}付近の吸収位置と強度および1250～850 cm^{-1}付近の吸収位置および強度のいずれも久慈市，いわき市産に比較的近い結果が得られた。

さらに，熱分析の結果では，分析した試料のTG曲線（第69図③）は，標準琥珀に比べると低温度での減少率が高かった。これは劣化により琥珀が低分子化を起こしているためであると考えられる。また，DTA曲線では400～450℃の曲線のピークの位置（第69図④）が，久慈市およびいわき市産に比較的近いことがわかった。なお，久慈市といわき市産琥珀はその生成年代や由来する植物が同じであるためATR-FT-IRスペクトルやDTA曲線がほぼ同じとなりこれらの分析方法では区別が難しい。

今回分析した琥珀の産出地はATR-FT-IR分析およびDTA分析ともに久慈市・いわき市の可能性が高い結果が得られた。しかし，どちらも完全に標準琥珀と一致せず，劣化の影響を受けていることもわかった。出土琥珀は劣化状態が様々でそれによってATR-FT-IR分析では吸収位置や強度が変化する。また，熱分析でもDTA曲線に変化が認められる。そのため，劣化が進行したものは産地推定が困難になる場合が多い。今回の資料は観察結果からは比較的健全な状態であると思われた。しかし，分析結果では幾分劣化の影響を受けており久慈市，いわき市の可能性は高いが断定するまでにはいたらなかった。

琥珀の産地は国内でも，少量産出地も含めると10ヶ所以上もある。また国外でも各地で産出する。そのなかで，国内の主産地の標準琥珀のATR-FT-IRおよびDTA分析はすでに報告されている。複数の分析結果を合わせることで産地推定の可能性は広がるが，現時点では劣化による影響を排除するまでには至っていない。現在，今回実施した分析方法以外の劣化の影響を受けない分析法の検討を進めている。新たな分析法が確立すればこれまで産地推定が困難であった様々な状態の琥珀の産地推定が可能になると考える。

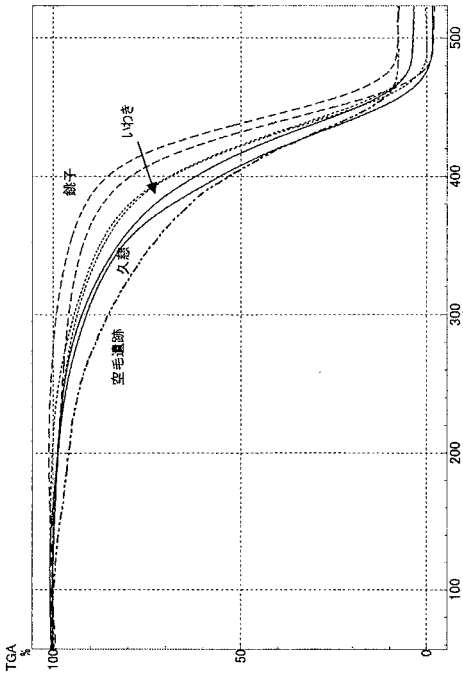
参考文献

室賀照子，赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析，考古学と自然科学，第9号，59，(1976)

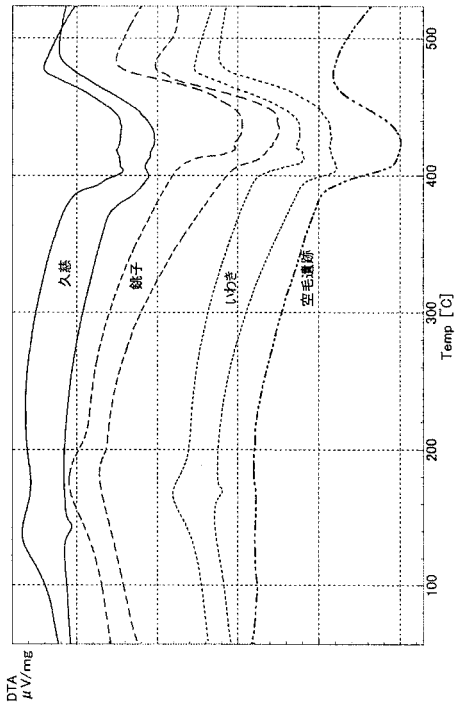
植田直見，銚子産琥珀の赤外分光分析，こはく，第4号，15（2002）

植田直見，いわき地方産琥珀の科学分析，こはく，第5号，13（2004）

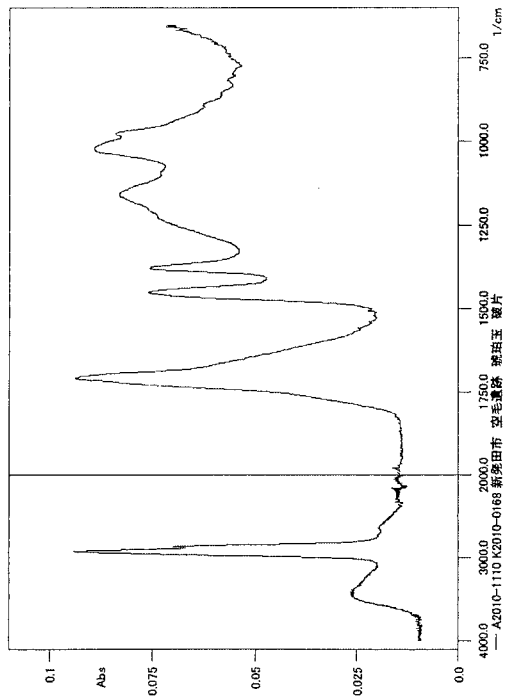
植田直見，室賀照子，古代大和を中心とした有機質玉類の流通について，研究紀要，由良大和古代文化研究協会，第12集41（2007）



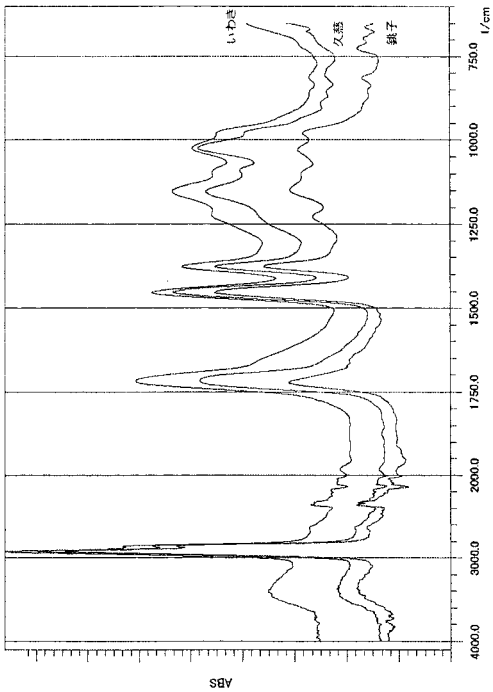
③琥珀のTG分析



④琥珀のDTA分析



①空毛遺跡出土琥珀の赤外吸収スペクトル



②日本の主産地から産出した標準琥珀の赤外吸収スペクトル

第69図　琥珀資料化学分析グラフ

第Ⅶ章　ま　と　め

ここでは，はじめに出土遺物の時期的な位置付けをして各時期の遺構の特徴・構成を提示し，最後に空毛遺跡の集落構造について考察し，まとめとする。

1　古墳時代の土器の位置付け

古墳時代前期（第52･53図）　一括出土した資料は，２号木棺墓出土土器のみである。器種は，倒卵形で明瞭な口縁帯をもつ川村分類甕Ｃ類(393)が多く，ほかに有段部が不明瞭な甕Ｂ類(394･395)や月影系の高杯(384)，小形器台(385･386･387)，有段鉢(389)がある。所謂畿内系二重口縁壺はないが，弥生時代終末期以来の器種(384･389･394・395)の残存と甕の特徴から，新潟市緒立遺跡２号住居（金子ほか 1983）や同正尺Ｃ遺跡 SZ439（土橋ほか 2006），上越市中島廻り遺跡 SX13（川村･笹沢 2002）資料に比定でき，川村編年３段階に該当しよう。

古墳時代後期（第70図）　一括出土した資料は，１号木棺墓棺蓋崩落土内出土土器，１号井戸３層出土土器がある。両者は，供膳具が黒色土器主体で，甕が大･小２器種に器種分化する点で共通するが，黒色土器杯の口縁部伸長度が異なり，１号井戸資料に長いものが多い。次に，周辺遺跡の一括出土資料と比較し，時期比定を試みる。

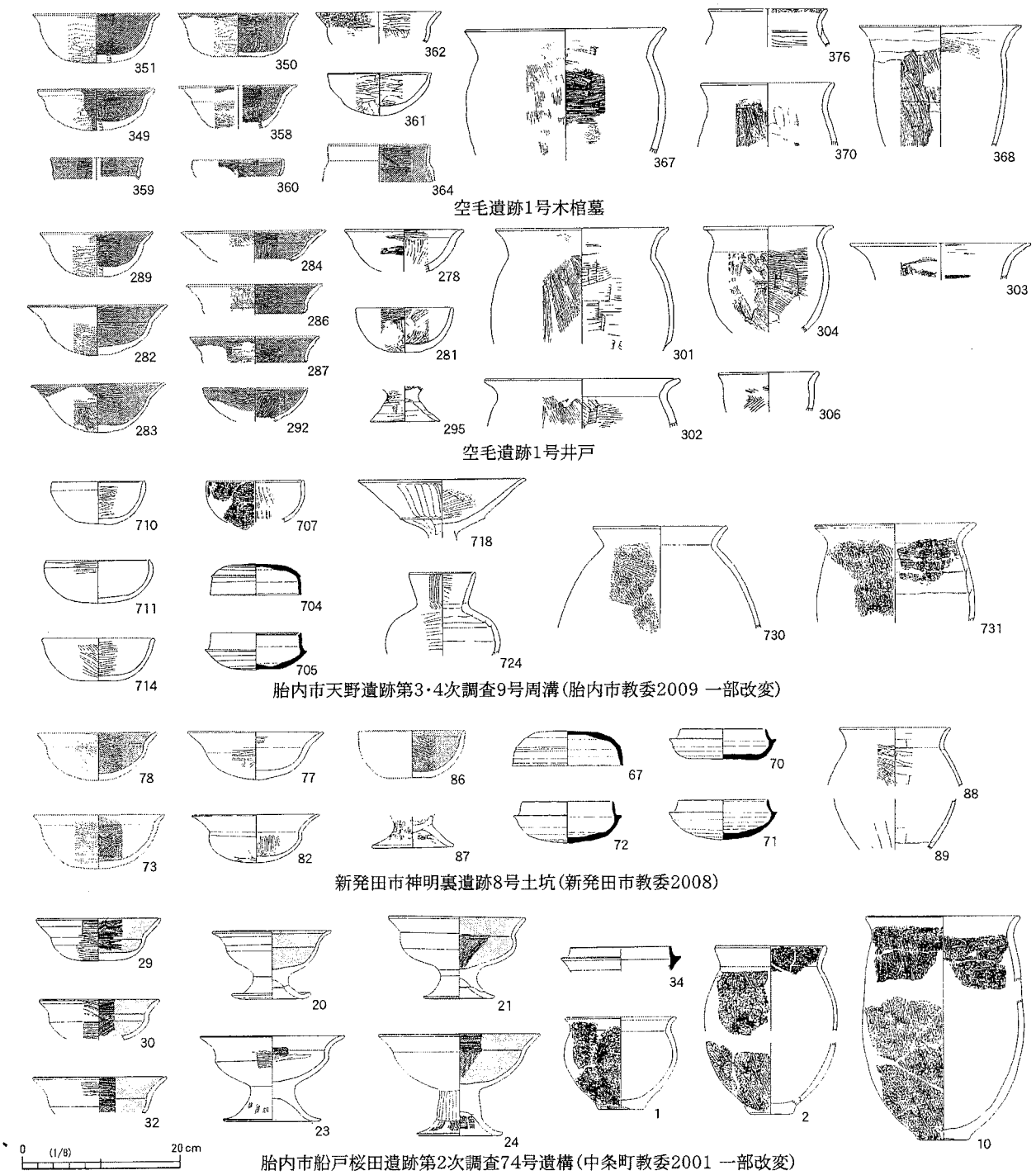
胎内市天野遺跡第３・４次調査（水澤ほか 2009）９号周溝資料は，口縁部が外側へ屈曲しない土師器杯(707･710･711･714)，高杯(718)，柑(724)，鉢で供膳具が構成される。甕は，胴張形のみである。共伴する須恵器杯は，田辺編年 TK23 型式頃であろう。新発田市神明裏遺跡（鶴巻ほか 2008）８号土坑資料は，土師器･黒色土器杯，須恵器杯，高杯，甕がある。杯は，口縁部が外側に強く屈曲外反して伸長するもの(77･82)が半数以上占める。高杯は，短脚である。須恵器は，田辺編年 MT15～TK10 型式が共伴している。胎内市船戸桜田遺跡第２次調査（水澤･吉村 2001）74 号遺構（土坑）は，高杯２点を除き，供膳具が黒色土器で占められる。杯は，胴部が扁平で，口縁部が屈曲外反し伸長する。高杯は，短脚である。甕は，胴張り２個体，筒状４個体で，口縁部が短くあまり外反しないものが多い。供伴する須恵器杯は，破片で特徴をつかみづらいが，田辺編年 TK43 型式以降であろう。

以上の３遺跡と空毛遺跡の資料を比較すれば，天野遺跡例は，甕を除き器種組成，遺物の特徴とも１号木棺墓･１号井戸資料と一致せず，供膳具の器種組成から本遺跡に先行する時期に位置付けられる。神明裏遺跡例は，杯に土師器が占める割合が高いが，器形の特徴から１号井戸資料とおおむね同時期とできよう。船戸桜田遺跡例は，供膳具がほぼ黒色土器で占められ，胴部が扁平な杯と脚部柱実の高杯(24)があり，甕が筒状器形主体であることなどは，後期でも新しい特徴をもつ。よって，１号井戸資料は，神明裏遺跡８号土坑資料に並行し，口縁部が１号井戸資料ほど伸長しない１号木棺墓資料は，天野遺跡例と神明裏遺跡例の間に位置付けられる。時期は，比較資料の須恵器の共伴関係から１号木棺墓資料を田辺編年 MT15 型式，１号井戸資料を TK10 型式並行とでき，６世紀前半となろう。これは，TK47 型式の須恵器が供伴した十日町市馬場上遺跡（菅沼･阿部 2003）49 号住居資料が１号木棺墓資料より古相を呈することと矛盾せず，１号木棺墓のＡMS 法による年代測定値とも整合する。

2　古墳時代の木棺墓について

この時期の古墳以外の墓制は不明点が多く，葬送方法を考える上で貴重な情報が得られた。以下，２基の木棺墓の構築方法、遺物出土状況などについて検討する。

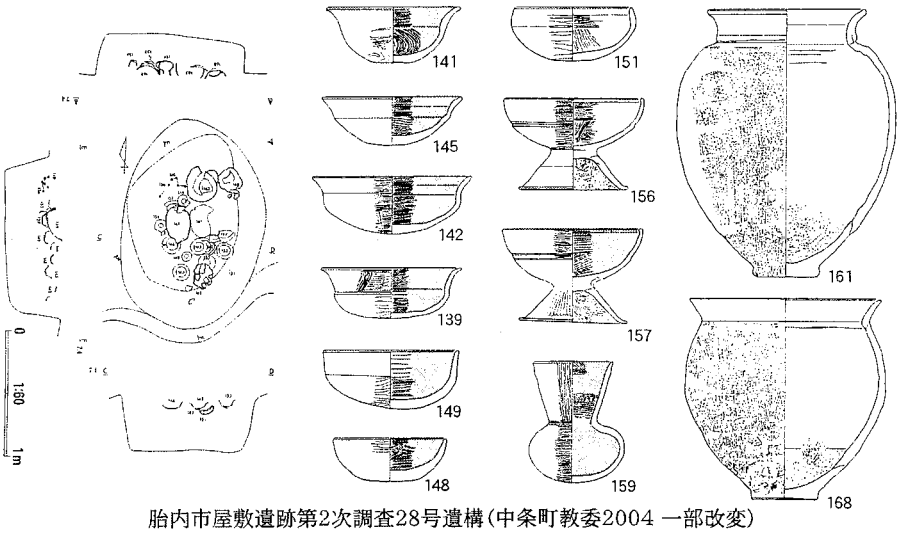
２号木棺墓　48･49 号溝が本遺構を囲むように巡ることから，古墳時代前期の周溝墓埋葬主体部と認定した。



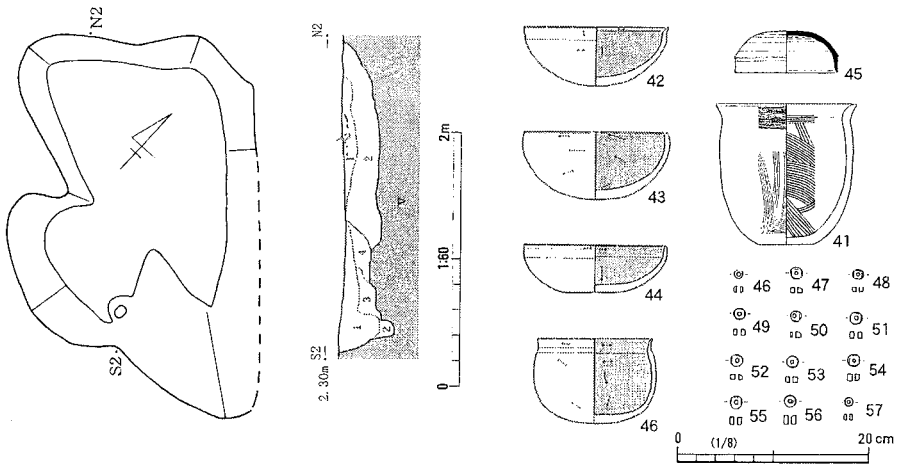
第70図　空毛遺跡の古墳時代後期の土器と対比資料

周溝は，カクランのため明確な平面形は不明である。墓坑は，長軸 1.5m，短軸 1.05m，深さ 0.3m の隅丸長方形である。木棺は，裏込め土の範囲から長軸 0.9m，短軸 0.4～0.5m と推定でき，組み合わせ式箱形木棺と考えられる。墓坑底面の小口痕跡がないことから，福永分類（福永 1985）Ⅱ型であろう。土器は，1 層のみから出土し，棺蓋または封土上に置かれた供献土器と推定される。被葬者は，木棺の大きさから屈葬であっても未成年者（藤井 2006）の可能性が高い。県内の古墳時代の周溝墓で主体部が明確なのは，聖籠町二本松東山遺跡 2 号方形周溝墓（伊藤・手島 1993）がある。主体部は，長軸 3.7m，短軸 2.3m，深さ 0.3m で，平面形がいびつな長方形を呈す

る。断面形は逆台形状で，埋土はほぼ水平に堆積している。また，幼児用土器棺と推測される鉢を被せた底部を欠く天王山系？の甕が主体部南隅に埋設されており，追葬と見られる。現状では，空毛遺跡例が古墳時代の周溝墓主体部に木棺を採用した確実な例となる。



胎内市屋敷遺跡第2次調査28号遺構(中条町教委2004 一部改変)



新潟市笹山前遺跡150号土坑(新潟市教委1997 一部改変)

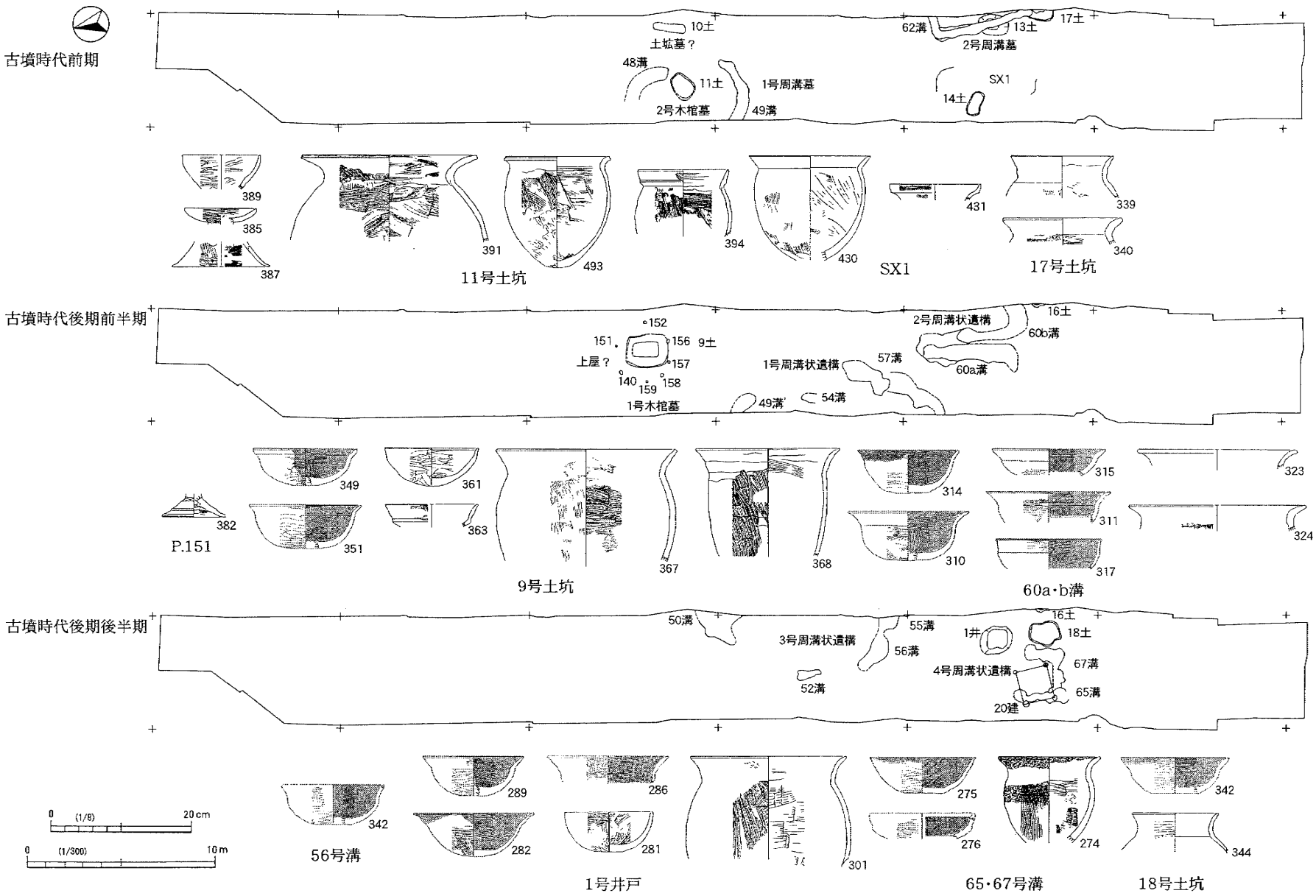
第71図　新潟県内の古墳時代後期の木棺墓と考えられる事例

1号木棺墓　古墳時代後期の木棺墓である。墓坑は，平面形が隅丸方形，断面形が逆台形状である。規模は，長軸 2.2 m，短軸 1.8m，深さ 0.4 mである。底面は，木棺を安定させるため地山土を充填していた。木棺は，裏込め土の範囲と自重による底面の沈降痕跡から，長軸 1.4m，短軸 0.8m程の組み合わせ式箱形木棺であったと推定され，福永分類Ⅱ型であろう。棺内に副葬品は無かったが，裏込土内から棺設置時の供献土器 1 点(361)と棺蓋崩落土内から埋葬時の供献土器と推測される土器が多く出土した。報告では不明な点が多いが，同時期で木棺墓の棺蓋または封土上に土器が供献されたと推測できる事例は，胎内市屋敷遺跡第 2 次調査（水澤 2004）28 号遺構（土坑）や新潟市笹山前遺跡（廣野 1997）150 号土坑（第 71 図）がある。供献土器は，杯類と甕類で構成され、葬送時の飲食に供された土器群の可能性がある。これらの事例は，当地域の葬送儀礼が，ある程度共通した形式で執り行われたことを示すものであろう。なお，木棺墓を囲むように小ピットが検出されており，何らかの上屋施設が存在した可能性がある。ピットは直径 10～15 cm，深さ 20 cm程度であり，建物とした場合簡易的な施設であったと推測される。本木棺墓は，副葬品は貧弱であるが，上屋の存在が想定出来，大形の墓坑を穿って棺を埋設して土器を供献したと推測され，埋葬方法の点で厚葬と呼べるものである。墓坑の深さと遺物出土状況から古墳のような高塚は考えにくいが，遺跡内でのコハク玉の出土も含めて被葬者の性格が問題となろう。

3　古墳時代の遺構の変遷について

土器の時期と遺構の新旧関係および配置状況から，古墳時代の遺構変遷を第 72 図に示した。

前期は，1 号周溝墓と平面形から方形周溝墓と推測される遺構（2 号周溝墓），土坑が構築される。土坑は，い



第72図　空毛遺跡古墳時代遺構変遷図

ずれも周溝墓に近接し，土坑墓の可能性がある。建物に関する遺構がないこと，周溝墓と土坑（墓）の位置関係，二本松東山遺跡の周溝墓群の配置から，この時期調査区が墓域として使用されたと考えられる。

後期は，土器の時期，１号井戸と２号周溝状遺構の新旧関係，遺構の重複状況により２時期に分けられる。

前半期は，１・２号周溝状遺構と１号木棺墓，土坑が構築される。周溝状遺構は，平面形がいびつで底面の深さも一定でないため，周溝を持つ建物（岡本 2003）や周溝式住居（宮本 1998）と呼ばれる建物の周溝と考えた。１号周溝状遺構は，３号周溝状遺構との重複関係と２号周溝状遺構の位置からこの時期とした。周溝状遺構を建物の周溝とした場合，木棺墓に近接することが問題となるが，新潟県では，弥生時代中期以降下谷地遺跡（高橋ほか 1978）など居住域内に建物に近接して墓が築かれる例が多く（笹澤 2010），先述した笹山前遺跡 150 号土坑も竪穴建物や掘立柱建物群に近接する。こうした事例の増加は，県内では，墓が建物に付随することが普遍的にあったことを示し，墓（死者）の扱い方が地域により多様であったことの表れとして注目される。

後半期は，前半期と遺構構成がほとんど変わらず井戸が構築されるなど，引き続き居住域であったと判断できる。４号周溝状遺構は，20 号掘立柱（平地）建物と主軸がずれ一部が重複することから，ほかの建物の周溝と考えられるが，両遺構の遺物に明確な時期差を見いだせず，20 号建物の建て替えに関する溝の可能性もあろう。

４　古代の土器の位置付け

古代の遺構出土一括資料は，建物の周溝・雨落ち溝，土坑から多く得られた。このうち，２号土坑と６号溝は，前者が１度掘り返され，後者が７号溝と重複して一定期間使用されており，一部新しい時期の遺物を含む。ここでは，遺構一括出土資料を須恵器窯跡および集落遺跡出土資料と比較し，土器の年代的な位置付けを試みる。

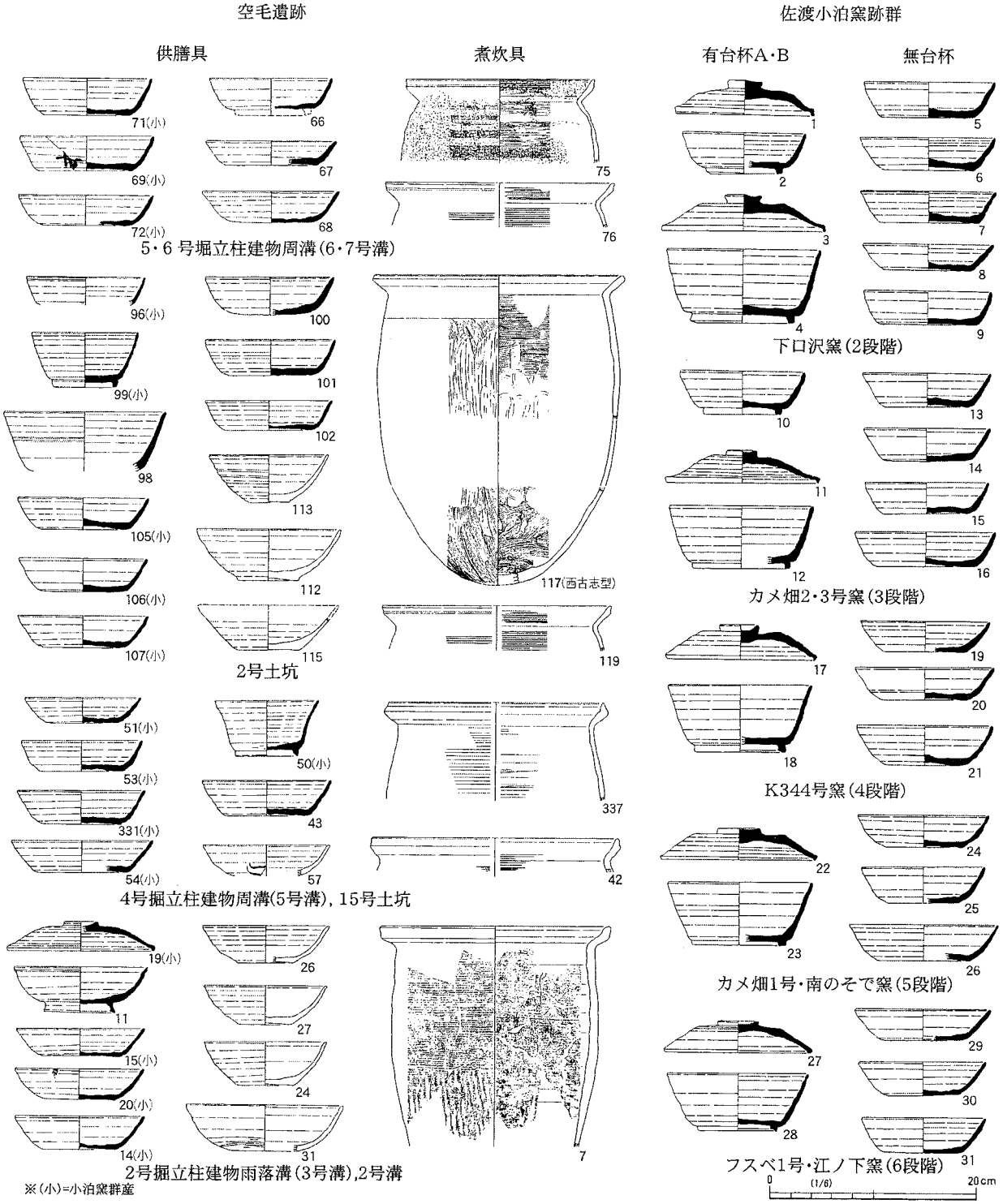
（１）生産地の状況

小泊須恵器窯跡群（第 73 図）　小泊窯跡群の資料は，供膳具の組成・特徴から６段階に区分できる。詳しくは七社遺跡の報告（笹澤 2011）に譲り，要点のみ触れる。２・３段階は，わずかに有台杯Ａ類が組成し，盤，高杯も生産されるなど，奈良時代の器種組成が維持される。瓷器系器種は，有台皿が２段階に出現している。３段階では杯類の法量がやや縮小し，無台杯の口縁部の外傾度が強まる。この段階で有台椀が出現する。４段階は，有台杯Ａ類が消滅し，有蓋器種が大・小２種の有台杯Ｂ類に統一される。無台杯は，底径の縮小と外傾化が進み，腰部に丸みを持つものが増加する。５段階以降は，杯類の法量の縮小と薄作りが一層進行し，６段階では無台杯が扁平丸底で口縁部がより外傾するものが主体となる。有台杯は椀形を指向し，瓷器系器種が増加する。

在地須恵器窯（第 74 図）　８世紀後半～９世紀の在地須恵器窯の年代的な序列は，おおむね貝屋窯→高山寺窯→馬上３号窯→狼沢２号窯と理解されている（春日ほか 2004）。貝屋窯と高山寺窯を同時期とする春日氏の見解（春日 2004）もあるが，高山寺窯の杯類は，貝屋窯に比べ小型であること，ロクロ襞が明瞭な薄作りであること，折縁杯の口縁有段部が強調されるなど後出的な要素が多く，新しく位置付けるのが妥当と考える。馬上３号窯は，杯類の小型化と器種の減少が高山寺窯より進んだ状況を示す。狼沢２号窯は，有台杯Ａ類が欠如し，大小２種の有台杯と折縁杯Ｂ類及び椀形の無台杯により供膳具が構成される。道婦窯は，折縁杯Ｂ類と椀形の無台杯との単純な組成であり，在地須恵器生産の最終段階の状態を示す。

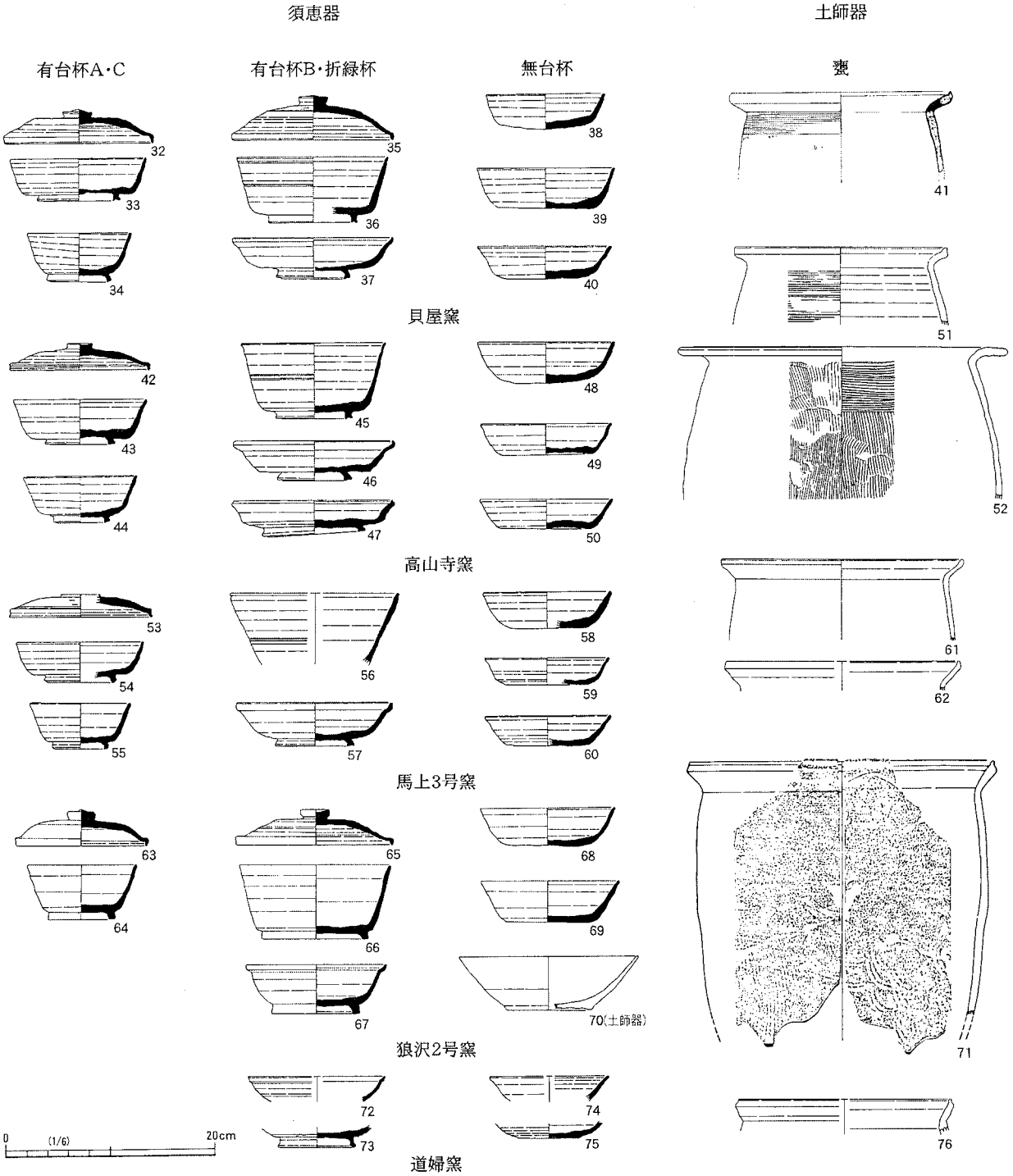
（２）空毛遺跡出土資料の位置付け

５・６号建物周溝（６・７号溝）の供膳具は，須恵器杯類９点に対し土師器椀が１点のみという組成である。須恵器杯類は，有台杯が少なく小泊窯群産が５割以上を占める。在地産は，法量と器形の特徴から，高山寺窯段階であろう。小泊窯群産は，72 が３段階まで降る可能性があるが，ほかは下口沢窯の特徴と一致し，２段階に位置付けられる。土師器甕は，ロクロ成形され，器壁が薄く口縁端部が弱く摘み上げられる。２号土坑は，土師器椀が



第73図　空毛遺跡の古代の土器と対比資料(1)

定量組成し，6・7号溝資料の器種組成とやや異なる。須恵器は，在地産が6・7号溝資料より若干口径が小さく，馬上3号窯段階とするのが妥当であろう。小泊窯群産は，105・106がカメ畑3号窯資料に法量，器形とも一致し，3段階に位置付けられるが，107は4段階とすべきか。土師器椀は，Ⅳ章で触れたように寺道上遺跡SK3資料中に類例がある。4号建物周溝（5・13号溝）と15号土坑資料は，有台杯A類がなく，小泊窯群産須恵器が7割以上を占める。土師器椀は少ないが，在地産須恵器無台杯が椀形(43・56)主体であり，小泊窯群産無台杯が5段階と



第74図　空毛遺跡の古代の土器と対比資料(2)

できることから，２号土坑より新しく位置付けられる。土師器甕は，口縁端部の器壁が肥厚する。２号建物雨落ち溝（３号溝）資料は，道婦窯段階の折縁杯Ｂ類１点と６段階の小泊窯群産無台杯で須恵器供膳具が構成される。土師器甕は，器壁が肥厚する。２号溝資料は，土師器椀が供膳具の５割近くを占め，須恵器杯類は３割に留まる。土師器椀は，Ｂ類のみであり坂ノ沢Ｃ５期の１号竪穴資料に近いが，法量・器形の特徴は４期の 10 号土坑と一致する。６段階の小泊窯群産須恵器の共伴から，坂ノ沢Ｃ４期並行と捉えておく。本資料は，土師器椀が卓越し，須恵器杯類(19・21・23)が６段階新相の江ノ下窯に近いことから，もっとも新しい時期に位置付けられる。

5　建物形式について

宮本長二郎氏の分類（宮本 1998･2002）をもとに，検討を行う。空毛遺跡の古代の建物形式は，壁立式竪穴建物（住居），周溝式建物（住居），２間梁間型側柱掘立柱建物（E類），総柱型掘立柱建物（H類）に区分される。

１号竪穴建物は，壁立式で主柱穴がなく，壁溝内に直径約５cmと約 10 cmの２種類の柱を 10～20 cm間隔で据えて壁体を構築し，屋根を支えたと推測される。竪穴が約 2.9m 四方と小型であるため，主柱穴なしで屋根が架けられたのであろう。また，竪穴から１m外側に壁溝と同程度の溝が囲んでおり，垂木受けの壁溝跡の可能性があろう。なお，壁溝内の柱がAMS 年代測定法で 649calＡＤ－720 calＡＤ(78%)と出ているが，７・８号建物も含めて古代の柱の測定値が７世紀中葉から８世紀前葉に集中し，遺物の年代観と大きくかけ離れている。

周溝式建物は，２軒検出され，同一地点で建て替えをしている。当初は，掘立柱建物と考えたが，宮本氏の「平地住居は竪穴住居と同様の平面形式をもち主柱や炉を備える」（宮本 1998）という指摘を踏まえ，火床は不明だが方形区画の周溝を伴い，主柱間が一辺約 2.9m の方形で１号竪穴とほぼ同規模であることから，周溝式建物と判断した。周溝は，雨水等の浸入対策と考えられる。なお，周溝底面の小ピットは，垂木受けが存在した可能性を示す。５号周溝式建物は，主柱間が梁行１間，桁行２軒以上で，周溝（６･14 号溝）の東側が一部開口する。６号周溝式建物は，主柱間が梁行１間，桁行１間か２間で，周溝（７･16 号溝）は東側がいびつな方形区画となる。

２間梁間型側柱掘立柱建物は，１～４，14，18，19 号掘立柱建物が該当し，２～４，19 号建物には周溝または雨落ち溝が付く。このうち，建物規模，柱間が確定したのは，１･19 号建物のみである。１号建物は，梁行２間(2.4m)，桁行２間(3.8m)，床面積 9.12 ㎡で，小型の南北棟建物である。19 号建物は，梁行２間(4.8m)，桁行３間(5.5m)，床面積 26.4 ㎡の南北棟建物である。３・４号建物は，梁行２間で 19 号建物に梁行長，柱間寸法が近いことから，同規模程度の建物の可能性があろう。２･18 号建物は，梁行２間の建物であるが，桁行柱間に対して梁行の柱間寸法が長い。梁行が４･19 号建物の約 1.2 倍，5.6m前後で，川畑誠氏が「平面プランを変更せずに柱間寸法を長くとることで面積増加を図る」（川畑 1995）としたｂ手法が採用されたと推測される。

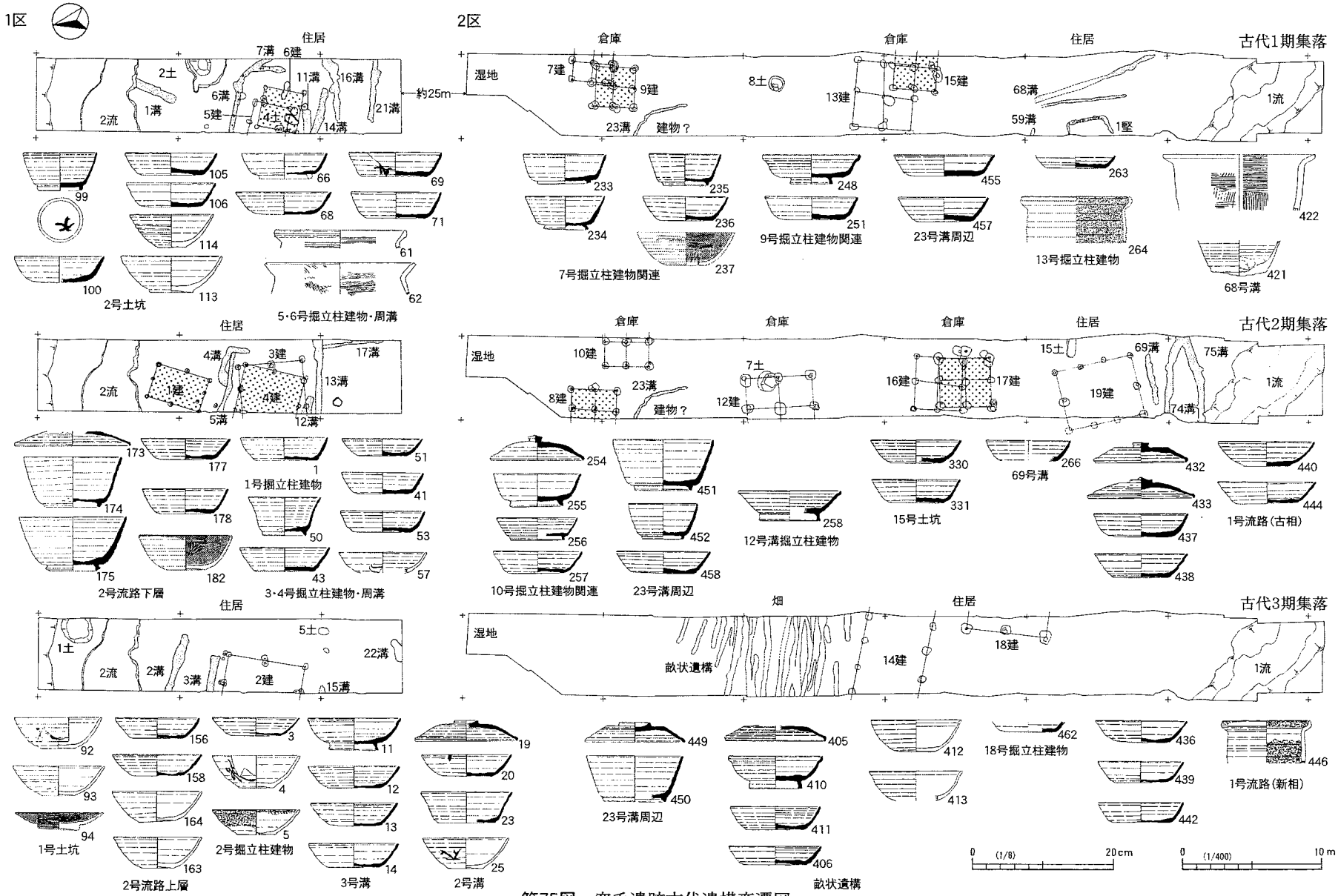
総柱型掘立柱建物は，柱掘り方が方形で柱が太く，梁･桁の柱間比がおおむね１：１となり，全容が判明した建物が２×２間の所謂「田の字形配置」の総柱掘立柱建物であることから倉庫とできよう。建物平面形は，13 号建物の桁行が梁行に対してやや長いが，ほかは一辺 2.9～3.8mの方形となる。ただし，12 号建物は，柱掘方が一辺 0.8～１mとほかのものより大きく梁行長が 4.8mに達することから，桁行３間以上の建物となる可能性がある。

6　集落の変遷について

遺物の時期と遺構の配置･重複関係を考慮して３時期に大きく区分し，第 75 図に示した。各時期内での建物の先後関係は，周溝･柱穴の新旧関係と建物の主軸方向で判断し，新しいとした建物にトーンを張って示した。

なお，ここでは，竪穴建物，周溝式建物，２間梁間型側柱掘立柱建物を住居，総柱型掘立柱建物を倉庫と捉えて記述を進める。総柱型掘立柱建物以外を住居としたのは，鉄滓など手工業生産に関わる遺物の出土がなく，同一地点で数回建て替えられて長期間使用されるという継続性を評価したことによる。

１期　５・６号住居および２号土坑出土土器を基準とし，高山寺窯～馬上３号窯，小泊２・３段階に並行する。居住域は，南北２つの流路で挟まれた微高地に立地し，周溝式住居と壁立式竪穴住居，倉庫で構成される。住居は，調査区両端にそれぞれ１軒見つかっている。５・６号住居の北西にある２号土坑は，遺構の深さから井戸として使用されたと考えられる。倉庫は，小型でおおむね同規模であり，23 号溝が住居の周溝または区画溝と推定できることから，住居に近接して築かれ個々の住居または建物小群（田嶋 1983）に付属していたと想定している。13･15 号倉庫の新旧は，切り合いでは不明であるが，より西偏する 15 号倉庫が新しいと考えた。建物は，住居･



第75図　空毛遺跡古代遺構変遷図

倉庫ともにすべて南側に移動させて建て替えており，田嶋明人氏が指摘する「建物グループの成立あるいは再編等を契機に，建物グループ全体を単位として建て替え，取り壊しが繰り返された場合もあった」（田嶋 1983）ことを示すものであろう。なお，７号倉庫の北辺にのみ柱が残存しており，北へ地形が傾斜していくことから，この辺りが２区の居住域の北端であったと推測される。

２期　４号住居周溝および 15 号土坑出土土器を基準とし，狼沢２号窯前後，小泊４・５段階に並行する。１期の遺構配置を踏襲するが竪穴･周溝式住居がなくなり，住居形式は，梁間２間型側柱掘立柱建物に変化する。同一地点に建てられており，居住者が入れ替わったとは考えにくく，集落全体の住居建物形式の変化を示すのであろう。住居は，前半期の建物が１期より大きく西に振れ，後半期には再び１期の主軸方向に近くなる。倉庫の主軸方向は，１期とあまり変わらない。16･17 号倉庫の新旧関係は，17 号倉庫の柱穴 P229 が 16 号倉庫の柱穴 P230 を切ることから，17 号倉庫を新しいと判断した。大型の 12 号倉庫の出現が注目されるが，集落内での位置付けは不明である。また，水路と推測される 74・75 号溝は，１期に掘削された可能性もある。２期は１期の建物（群）配置を踏襲するが，住居形式の変化があり，大型倉庫や付属（１号）建物が存在するころから，外部からのなんらかの関与と集落内の集団間に経済格差が生じた可能性が見て取れる。この時期，「律令（型）村落」の典型とされた山三賀Ⅱ遺跡の集落（坂井 1989）でも，住居形式が竪穴建物から掘立柱建物に変化しており，連動していることが注意される。

３期　２号住居雨落ち溝および２号溝出土土器を基準とし，道婦窯，小泊６段階に並行する。３期は土器様式の点でも土師器椀主体へと転換する画期となる。遺構構成は，１・２期から大きく変化し，倉庫が消滅し代わって畝状遺構（畑）が出現する。住居の位置が前段階とほぼ変わらないことから，倉庫が住居（建物小群）に付随していた状況が変わったことは確かであろう。住居は，柱間寸法の伸長（川畑ｂ手法）や柱間数の増加（川畑ａ手法）によって大型化する。また，２号住居の北西に位置する１号土坑は，２号土坑同様井戸の可能性があろう。３期の住居（掘立柱建物），土坑（井戸），畝状遺構（畑）からなる遺構構成は，坂井秀弥氏が「集落（宅地）と耕地が一体化した（農業経営が自立した）集落」と捉えた９世紀中頃に成立する「王朝国家（型）村落」（坂井 1989）に該当しよう。ただし，その経営母体は，同一地点で住居を使用し続けている状況から，空毛遺跡の場合前段階から継続する集団と捉えられ，入植や富裕有力者層の新たな新田開発などを契機として編成されたとするこれまでの理解は難しい。

７　まとめ

空毛遺跡は調査区が限定されており，遺跡の評価については，制約があるなかでのものでしかないが，当地域の歴史形成を理解する上で，新たな多くの知見，成果をもたらした。以下、時代ごとの評価をしてまとめとする。

古墳時代前期は，今回の調査と聖籠町二本松東山遺跡例により，３世紀後半頃には阿賀北地方でも周溝墓制による墓域が形成されていたことが明らかになった。近年会津地方では，桜町遺跡などで古墳時代前期の周溝墓群の発見が相次いでおり（福島ほか 2011），波及ルートも含め当地域の重要性がさらに高まったといえよう。なお，居住域は，地形と立会い調査の遺物出土状況から判断すれば，調査区東側の微高地上に求められよう。

古墳時代後期（６世紀前半）は，建物や周溝式建物の周溝と推測される溝，井戸，土坑が検出され，この時期の集落構成の一端を把握できたことが大きな成果であろう。居住域内の木棺墓の存在は，被葬者と居住者との密接な関係が推測でき，古墳以外に葬られた人の身分や階層を解明する上で貴重な資料となろう。

古代は，調査区が限定され不確定要素が多いものの，住居と倉庫のセットが確認でき当地域の平安時代前期（９世紀）の集落形態がある程度把握できたことが大きな成果であろう。調査区近辺は，各々倉庫を保有する２～３

つの集団が，それぞれ占有した一定の範囲に自立して生活を営んでいた状況を示す。漁労具の出土もこうした生活を補助する生産活動の痕跡と考えられ，県内の律令期集落の典型とされた山三賀Ⅱ遺跡のように居住域が耕地と隔離された生活形態とは異なったものとであったと推測される。また，住居は，同一箇所で何回も建て替えをしながら特定の家族に使用されたと判断でき，各集団は血縁関係をもとに形成されていた可能性がある。これは，単位集団（近藤 1959）や世帯共同体（和島・金井塚 1966）として把握された集団関係を想起させ，住居形式も含めて律令期に至っても古墳時代以来の集落形態（集団関係）が維持されていた可能性を示すものとして注目される。２号建物や１号土坑の墨書土器「大」，「太」はそのことと関わる可能性があろう。田中一穂氏は，岩船・沼垂両郡を「柵戸などの移民系住民と在来の蝦夷系住民からなる近夷郡として成立したと推測」（田中 2005）しており，空毛集落を在来の人々（蝦夷系）の集落との位置付けもありうるが，それを明示する遺物の出土もないため，現状では難しい。今後の課題である。最後に，古代の集落の大きな画期は，先述したように２期と３期の間となるが，この時期に呪符木簡や斎串，木製盤，墨書土器を使用した律令祭祀が流路で執り行われている。集落構造の変化と律令祭祀の出現は，おそらく不可分の関係にあったと推測され，この時期の変化が外的要因による可能性が高いが，これまで「王朝国家（型）村落」の成立時期とされた９世紀後半という時期であり，どのように捉えるべきであろうか。空毛遺跡では，１期から自立的な生活形態が見られることも含めて，今後社会的側面からのアプローチだけではなく，生活条件を規定している遺跡の立地環境や生業を，遺構・遺物構成と対応させて県内の古代集落を検討していく必要もあろう。

引用・参考文献

甘粕 健ほか　1996『磐舟浦田山古墳群発掘調査報告書』村上市教育委員会・新潟大学考古学研究室

飯坂盛泰ほか　2002『蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会

家田順一郎ほか　1981『曽根遺跡Ⅰ』豊浦町教育委員会

家田順一郎ほか　1982『曽根遺跡Ⅱ』豊浦町教育委員会

石田明夫　1993『会津大戸窯』福島県会津若松市教育委員会

伊藤廉倫・手島勇平　1993『二本松東山遺跡』聖籠町教育委員会

岡本淳一郎　2003「「周溝を持つ建物」の基礎的研究」『富山大学考古学研究室論集　蜃気楼　秋山進午先生古希記念』六一出版

荻野正博　1980「加地荘・豊田荘の荘域」『新発田市史』上巻　新発田市

春日真実　2004「第Ⅲ章沼垂郡の土器様相　４海岸部(南部)」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会

春日真実ほか　2004『越後阿賀北地域の古代土器様相』　新潟古代土器研究会

加藤 学ほか　2001『松影Ａ遺跡』新潟県教育委員会

金子拓男ほか　1975『水科古墳群発掘調査報告書』三和村教育委員会

金子拓男ほか　1983『緒立遺跡発掘調査報告書』黒埼町教育委員会

川上貞雄　1982『貝屋須恵窯址』加治川村教育員会

川上貞雄　1997『曽根遺跡Ⅲ』　豊浦町教育委員会

川上貞雄　1999『志村山須恵窯址』　豊浦町教育委員会

川上貞雄ほか　2002『腰廻遺跡』笹神村教育委員会

川畑 誠　1995「石川県内の古代建物に関する基礎的考察－掘立柱建物の平面プランを中心にして－」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報６』　社団法人石川県埋蔵文化財保存協会

川村浩司 1993「北陸北東部における古墳出現前後の土器組成」『環日本海地域比較史研究』第２号　新潟大学環日本海地域比較史研究会

川村浩司　2000「上越市の古墳時代の土器様相－関川右岸下流域を中心に－」上越市史研究第５号　上越市

川村浩司・笹沢浩　2002「第４章古墳時代　12 中島廻り遺跡」『上越市史』資料編２考古　上越市

木島 勉　2002「第４章古墳時代　17 高志古墳群」『上越市史』資料編２考古　上越市

桑原正史　1980「律令時代の阿賀北地方」『新発田市史』上巻　新発田市

桑原正史　1986「第４章第６節　大和政権と越佐」『新潟県史』通史編１　新潟県

小池邦明・藤塚 明　1993『新潟市的場遺跡』新潟市教育委員会

国土地理院　1993『1：25,000　土地条件図　新発田』

小林昌二　2005「コシと越辺ノート」『小林昌二編　古代の越後と佐渡』古志書院

小林 弘　2004「資料編　第Ⅱ章　沼垂郡　(26)高山寺窯跡，(32)道婦窯跡」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会

近藤義郎 1959「共同体と単位集団」『考古学研究』第６巻第１号　考古学研究会

斎藤あや　2008「古墳時代後期における琥珀棗玉の再検討－地域的偏在と大型化－」『日本大学史学会　史叢』第 78 号　日本大学史学会

坂井秀弥　1989「第Ⅴ章出土遺物　３奈良・平安時代」，「第Ⅶ章　まとめ」『山三賀Ⅱ遺跡』新潟県教育委員会

坂井秀弥　1990「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第１号　新潟県考古学会

笹澤正史　2010「北陸北東部の様相～弥生時代集落と方形周溝墓の様相～」『方形周溝墓の埋葬原理Ⅱ』福井県鯖江市教育委員会

笹澤正史　2011「第Ⅶ章　総括」『七社遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会

菅沼 亘・阿部恭平 2003『馬場上遺跡発掘調査報告書』十日町市教育委員会

関 雅之・本間信昭　1981『真木山製鉄遺跡』　豊浦町教育委員会

関 雅之　2001「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器」『北越考古学』第 12 号　北越考古学研究会

高橋 保ほか　1978『下谷地遺跡』新潟県教育委員会

田嶋明人　1983「奈良・平安時代の建物グループと集落遺跡－加賀・能登の掘立柱建物群を中心とした覚書－」『北陸の考古学』石川県考古学研究会

田嶋明人　1986「漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』Ⅰ　石川県埋蔵文化財センター

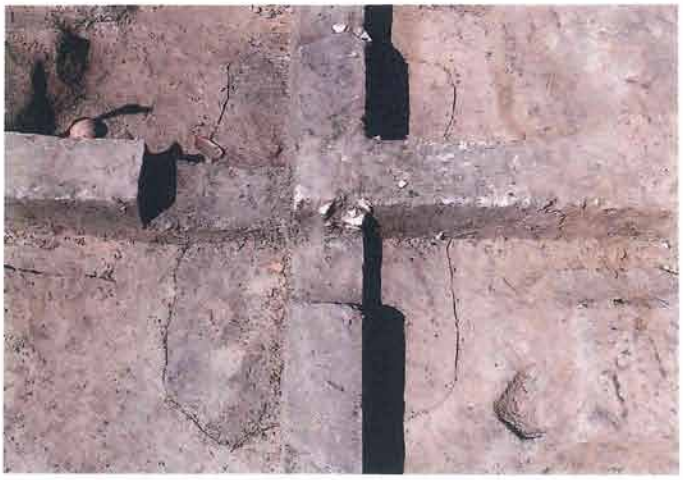
田中一穂　2005「古代の沼垂郡に関する一試論」『古代の越後と佐渡』古志書院

田中正治　1960『我が郷土の曙　佐々木厩坂遺跡を語る』(私家本)
田辺昭三　1981『須恵器大成』角川書店
鶴巻康志ほか　2005『荒神裏Ａ遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
鶴巻康志ほか　2008『蚤取橋遺跡・神明裏遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会
戸根与八郎　1986「付編二　生産遺跡　真木山窯址群」『新潟県史』通史編１原始・古代　新潟県
土橋由理子　1999『牛道遺跡』新潟県教育委員会
土橋由理子ほか　2006『馬見坂遺跡・正尺Ａ遺跡・正尺Ｃ遺跡』新潟県教育委員会
中川成夫・岡本 勇　1961『新潟県考古遺跡要覧Ⅱ－上越古墳編』新潟県教育委員会
中川成夫ほか　1962『新潟県北蒲原郡における二窯址の調査』　豊浦村教育委員会
中川成夫・土井義雄・川上貞雄　1973『狼沢窯址群の調査』笹神村教育委員会
廣野耕造　1997『笹山前遺跡・神明社裏遺跡・城山遺跡』新潟市教育委員会
福島雅義　2011『会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告書10　桜町遺跡(２次)』福島県教育委員会
福永伸哉　1985「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究』第32巻第１号　考古学研究会
藤井 整　2006「近畿地方の弥生墓制～墓場の考古学によせて～」『墓場の考古学』第13回東海考古学フォーラム実行委員会
松田時次　1981「治水と災害」『新発田市史』下巻　新発田市
水澤幸一・吉村光彦　2001『船戸桜田遺跡２次』中条町教育委員会
水澤幸一　2004『屋敷遺跡２次』中条町教育委員会
水澤幸一ほか　2006『市内遺跡Ⅰ』胎内市教育委員会
水澤幸一ほか　2009『天野遺跡３次・４次』胎内市教育委員会
宮本長二郎　1998「平地住居および竪穴住居の類型と変遷」,「掘立柱建物の出現と展開」『先史日本の住居とその周辺』同成社
宮本長二郎　2002「古代末から中世の住居建築」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』秋田県埋蔵文化財センター
和島誠一・金井塚良一　1966「Ⅵ生活の変化　集落と共同体」『日本の考古学Ⅴ　古墳時代下』河出書房
渡邊朋和・山田貴子・田中暁穂　2001『寺道上遺跡発掘調査報告書』　新津市教育委員会
渡邊美穂子　2001「第Ⅵ章　まとめ」『坂ノ沢Ｃ遺跡Ⅱ(平安時代編)』新発田市教育委員会
渡邊美穂子ほか　2006『荒神裏Ｂ遺跡発掘調査報告書』新発田市教育委員会

2区　完掘状態（南から）

1区　完掘状態（北西から）

2号溝　土器出土状態（西から）



1号木棺墓（9号土坑）　木棺上面検出状態（南から）

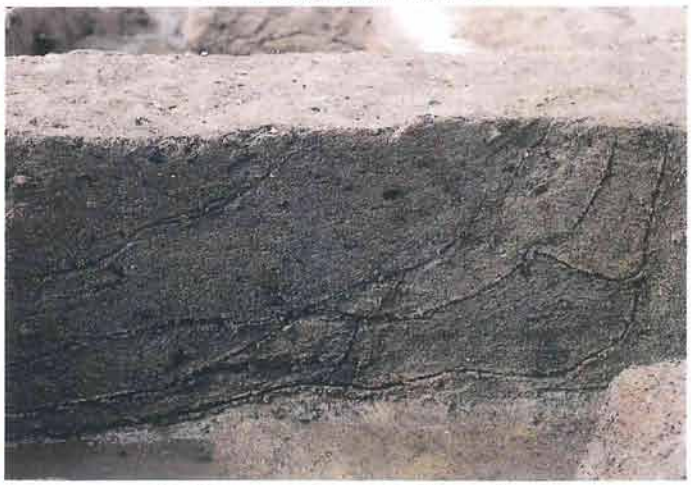
2区出土　コハク玉

図版2　基本土層、1区遺構確認面、木棺墓、井戸、流路、出土玉類

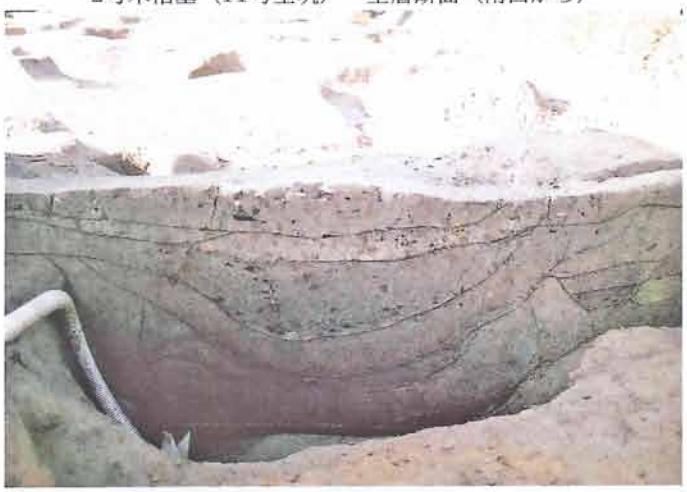
基本土層（Kp5-4東壁）

1区　遺構検出状態（南から）

2号木棺墓（11号土坑）　土層断面（南西から）



1号木棺墓（9号土坑）　土層断面（南から）

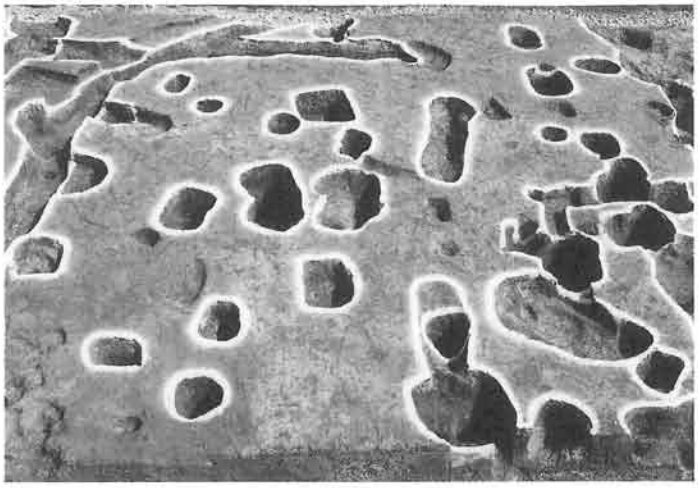


1号井戸　土層断面（南から）

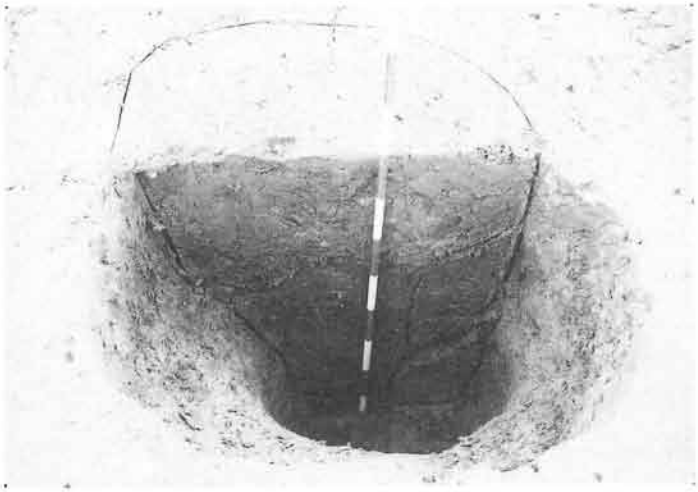
8号土坑・P307　土層断面（西から）

1号流路　木製品出土状態（北東から）

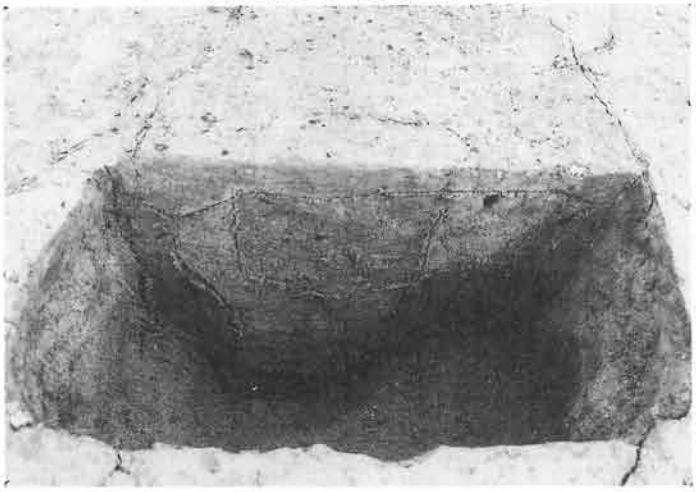
2区出土　管玉・コハク玉



3～6号掘立柱建物　完掘状態（西から）

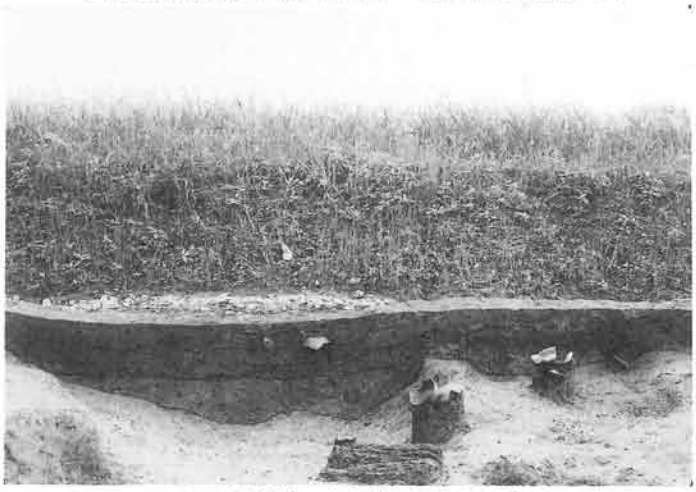


1号掘立柱建物柱穴④（P4）　土層断面（北から）



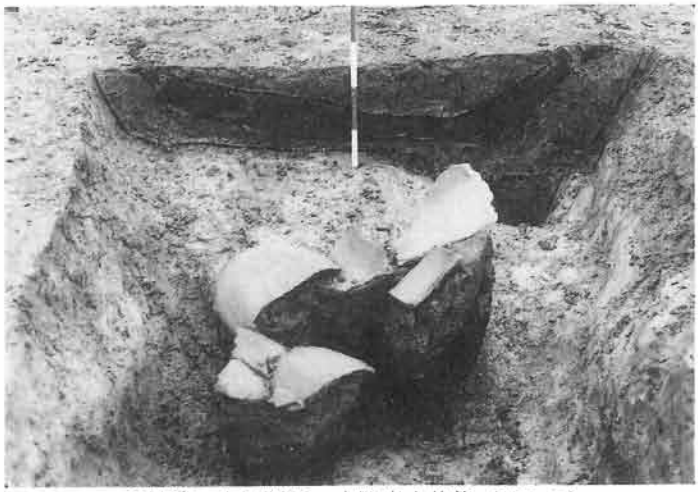
3号掘立柱建物柱穴②（P43）　土層断面（南から）

1号土坑　土層断面・土器出土状態（南西から）

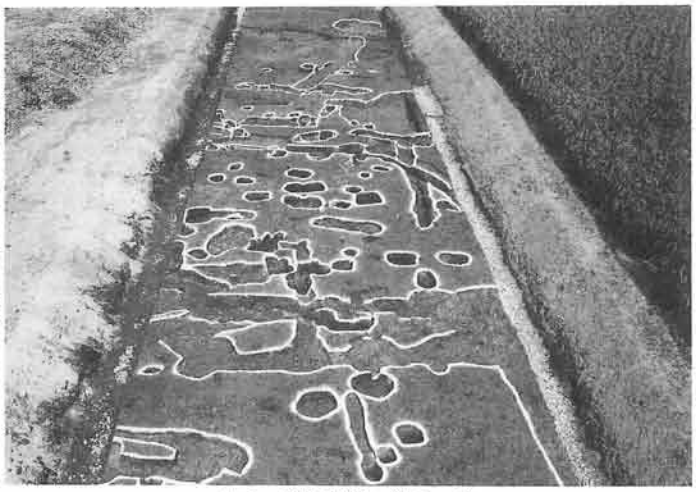


2・3号土坑　土層断面（西から）

4号土坑　土層断面（南西から）

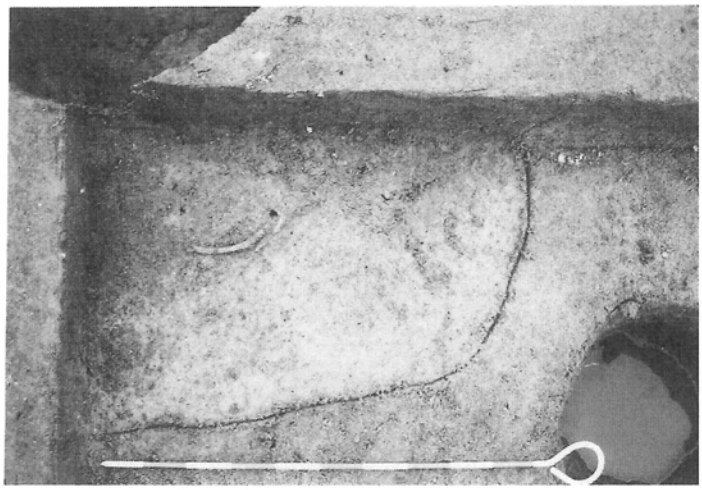


3号溝　土層断面・土器出土状態（西から）

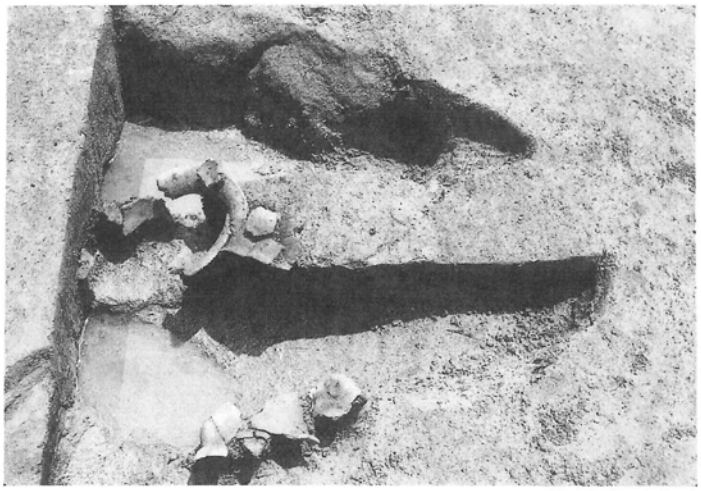


1区　完掘状態（南から）

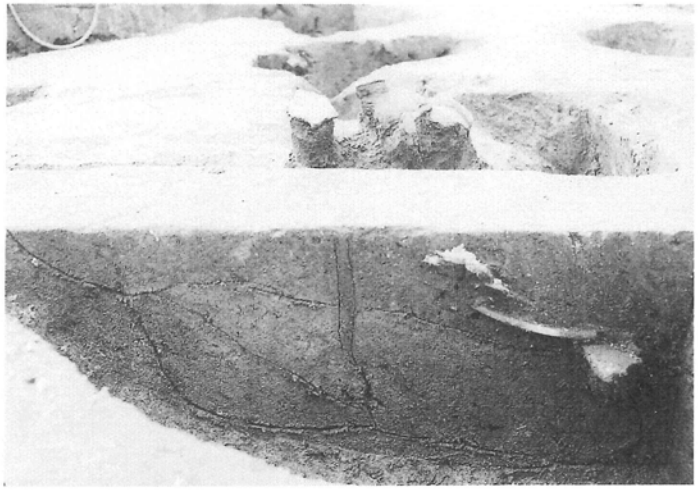
図版４　2区の調査（2号木棺墓、古墳時代の遺構）



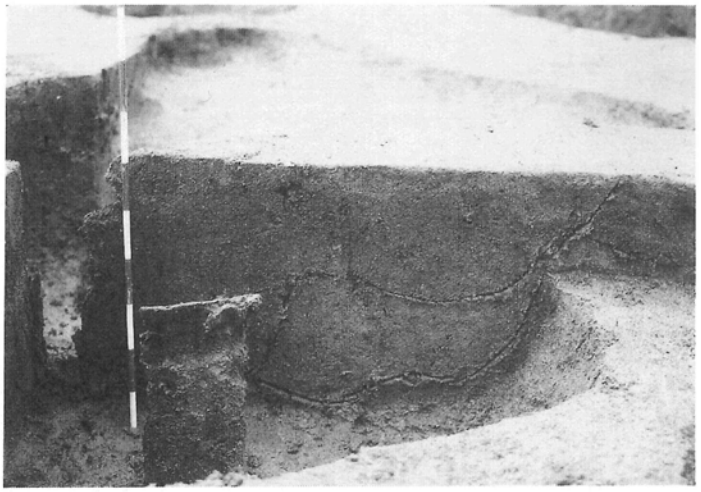
2号木棺墓（11号土坑）　墓壙検出状態（南東から）



2号木棺墓（11号土坑）　1層土器出土状態（北西から）

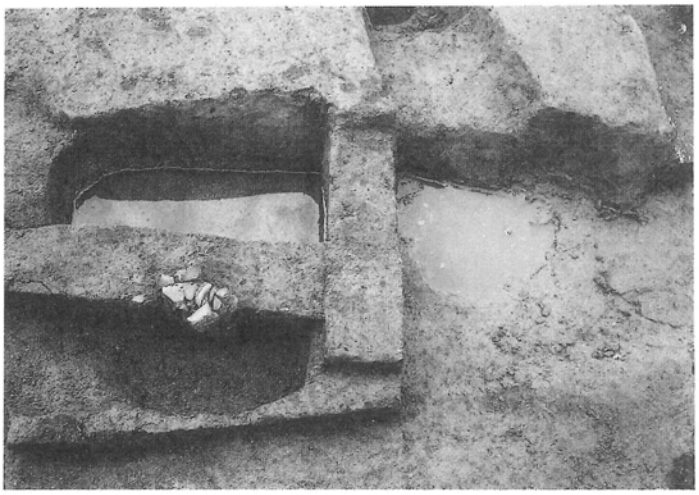


2号木棺墓（11号土坑）　南西部土層断面（南東から）



2号木棺墓（11号土坑）　北東部土層断面（南東から）

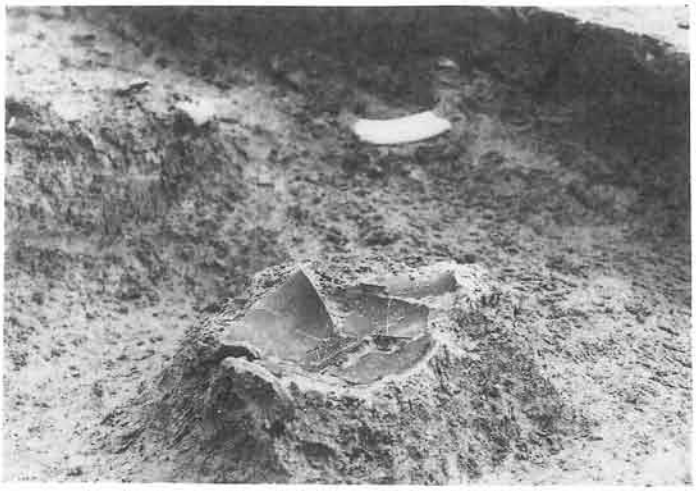
2号木棺墓（11号土坑）　木棺部完堀状態（西から）



10号土坑　完掘状態（西から）

2号木棺墓（11号土坑）・49号溝　完堀状態（南西から）

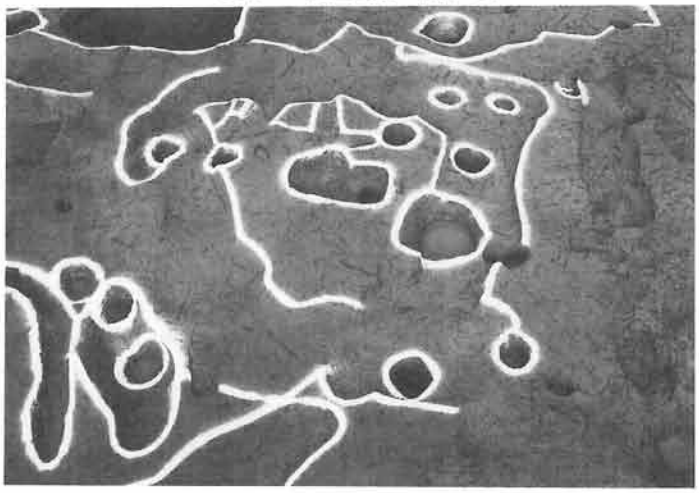
60a・b号溝　土層断面（南西から）



60a号溝　土器出土状態（北西から）

1号井戸　検出状態（南から）

1号井戸　土器出土状態（北から）



20号掘立柱建物　完掘状態（西から）

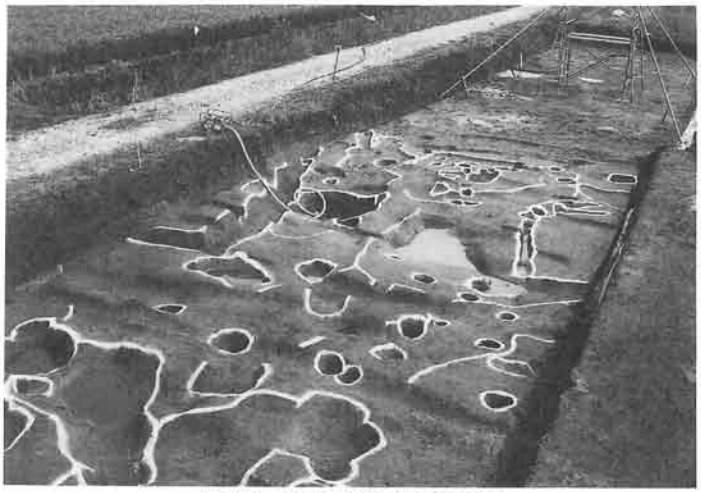
20号掘立柱建物　土器出土状態（西から）

1号竪穴　完掘状態（西から）

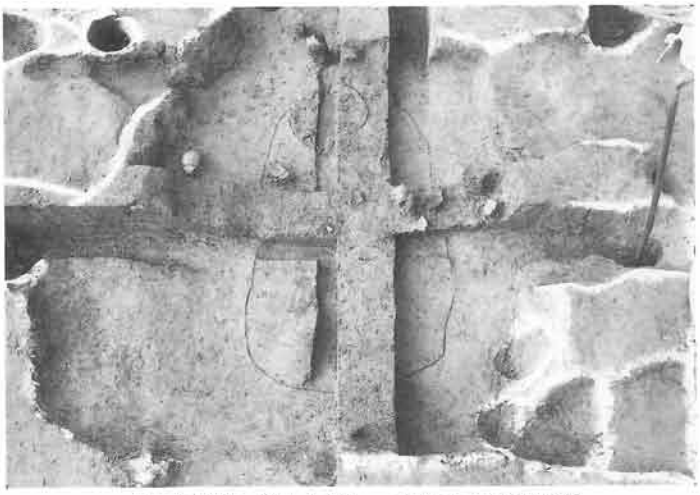
1号竪穴・14号土坑・61号溝　土層断面（北から）

61号溝　木柱検出状態（東から）

図版6　2区の調査（1号木棺墓、古墳時代の遺構）



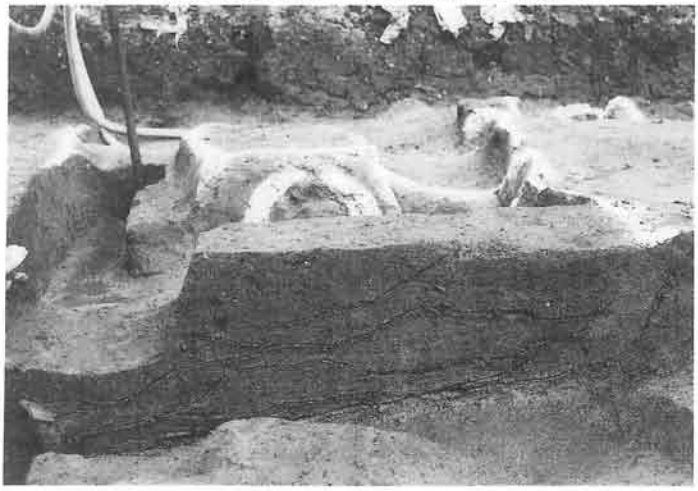
Kp区　完掘状態（北東から）



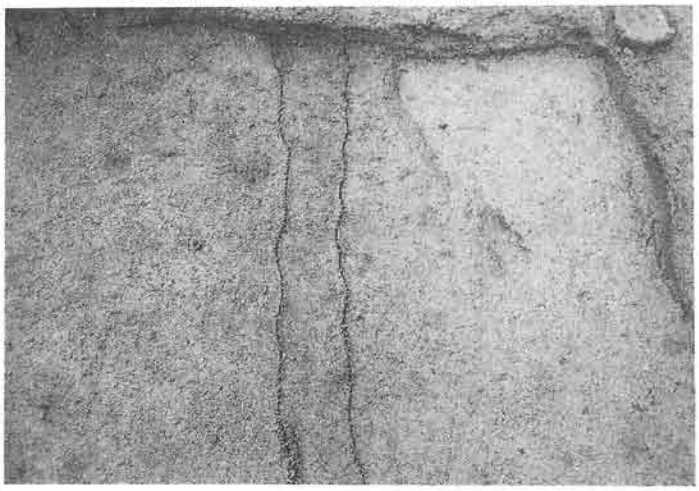
1号木棺墓（9号土坑）　木棺上面検出状態

1号木棺墓（9号土坑）　西側土層断面（南から）

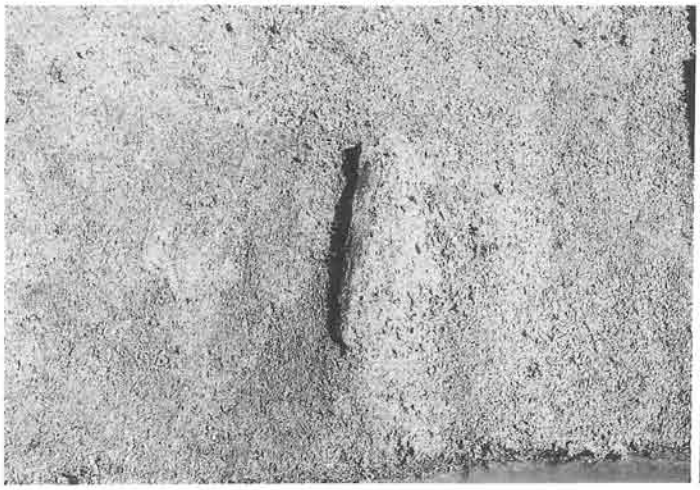
1号木棺墓（9号土坑）　東側土層断面（南から）



1号木棺墓（9号土坑）　南側土層断面（南から）

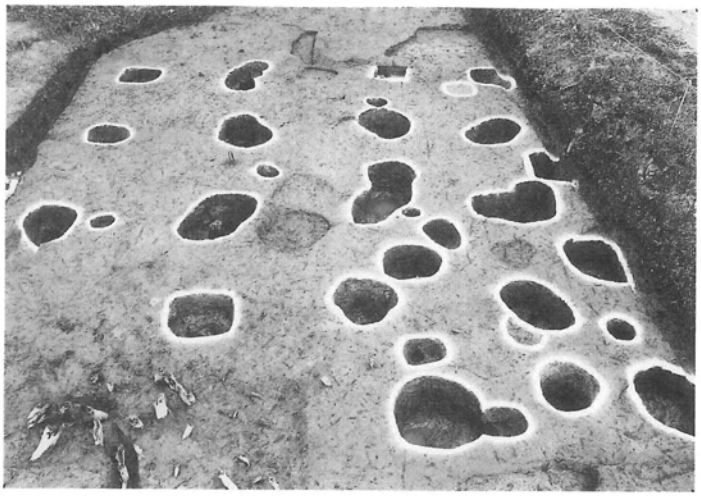


1号木棺墓（9号土坑）　木棺側板痕跡検出状態（南から）

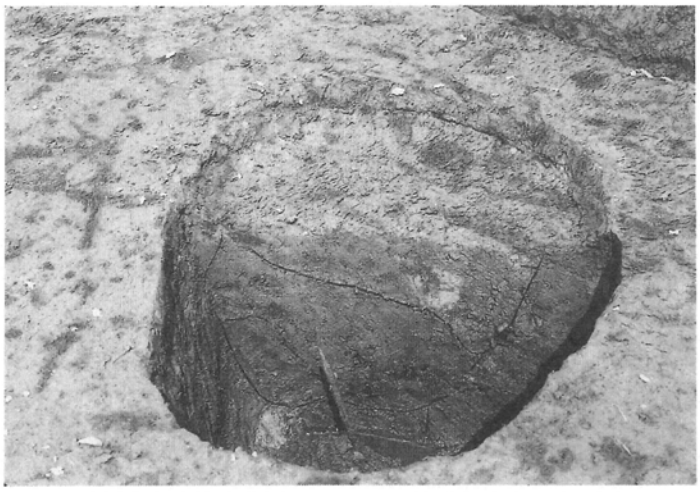


1号木棺墓（9号土坑）　木棺側板片出土状態（南から）

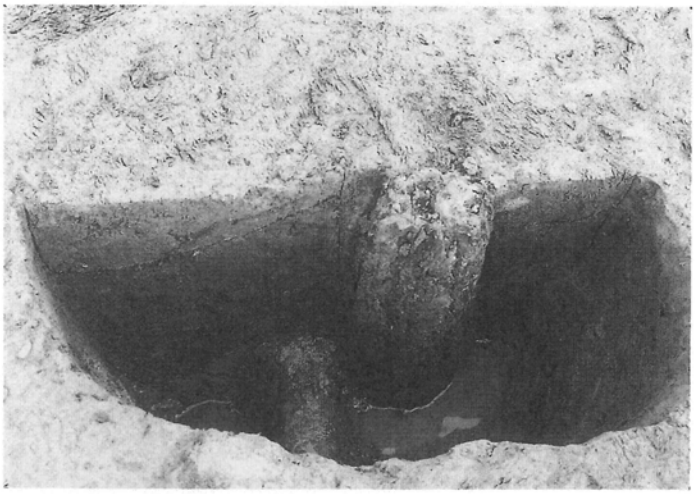
1号木棺墓（9号土坑）　完掘状態（南から）



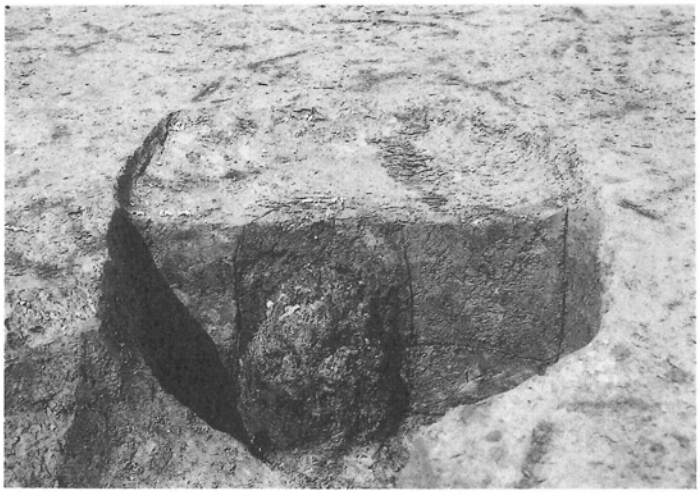
7～10号掘立柱建物　完掘状態（南から）



9号掘立柱建物柱穴①（P87）　土層断面（南西から）

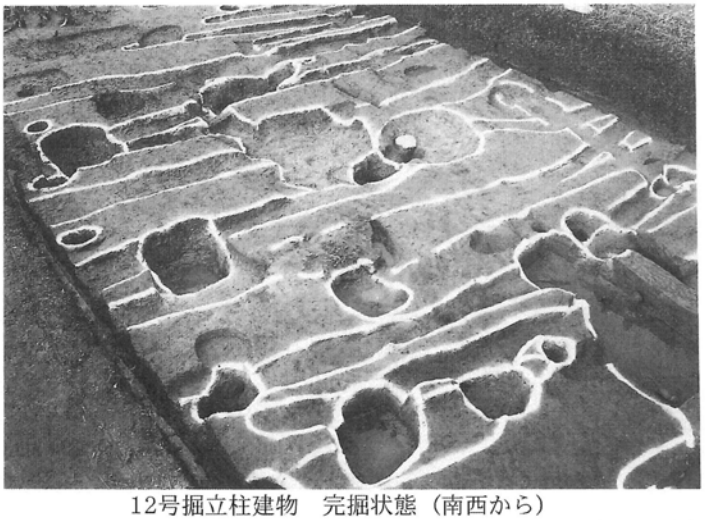


9号掘立柱建物柱穴⑧（P122）　土層断面（西から）

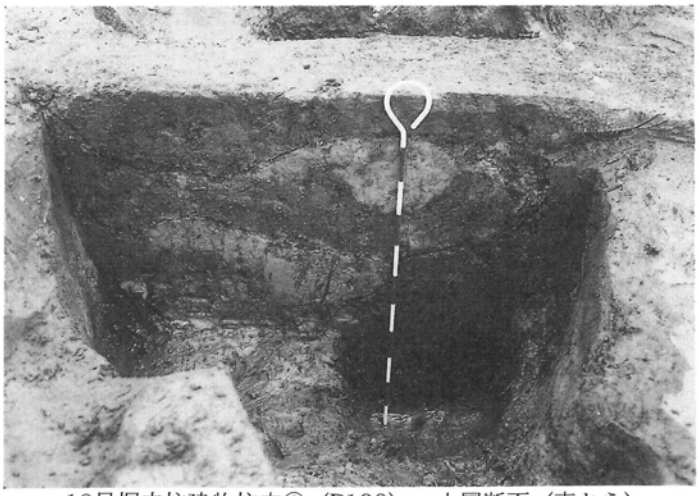


8号掘立柱建物柱穴⑥（P124）　土層断面（南から）

Kl・m区　掘立柱建物上面　遺物出土状態（北から）



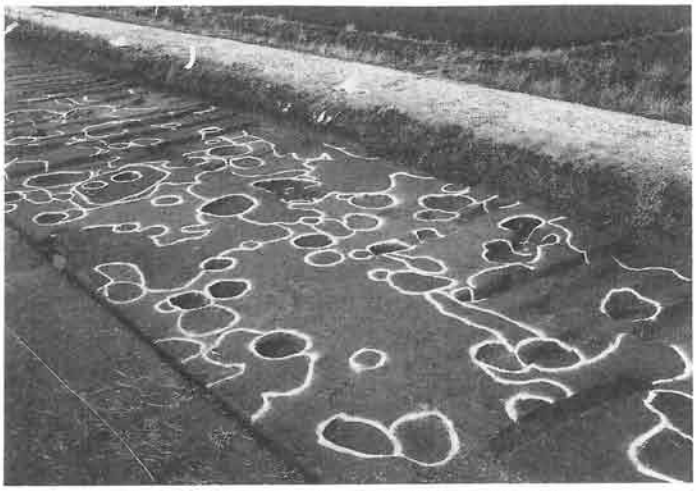
12号掘立柱建物　完掘状態（南西から）



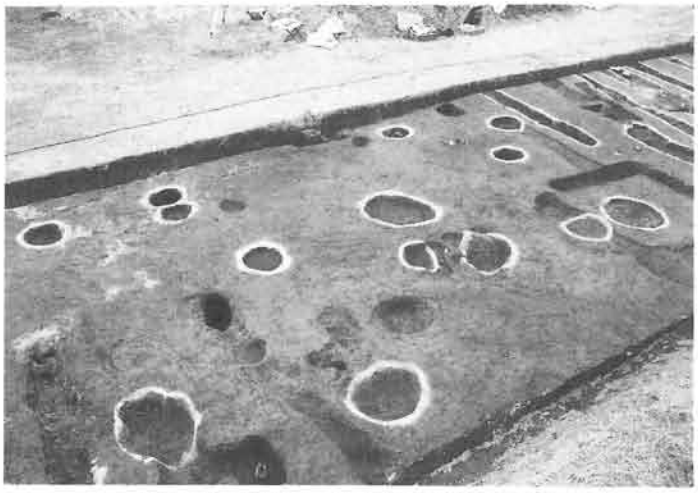
12号掘立柱建物柱穴①（P133）　土層断面（東から）

12号掘立柱建物柱穴③（P141）　完掘状態（東から）

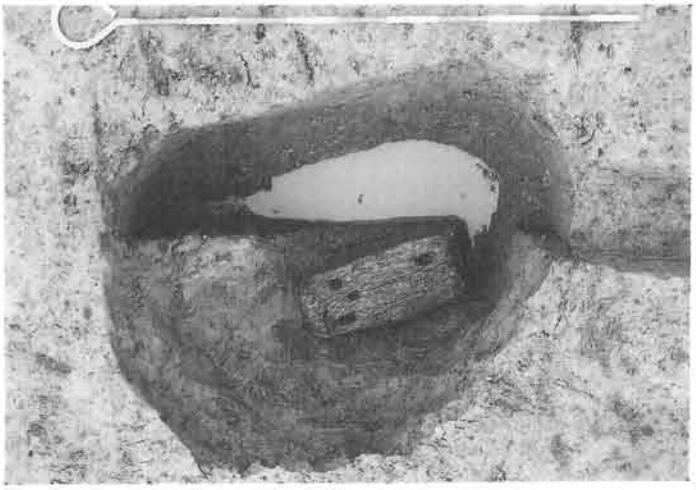
図版８　2区の調査（13～19号掘立柱建物、1号流路）、完掘状態



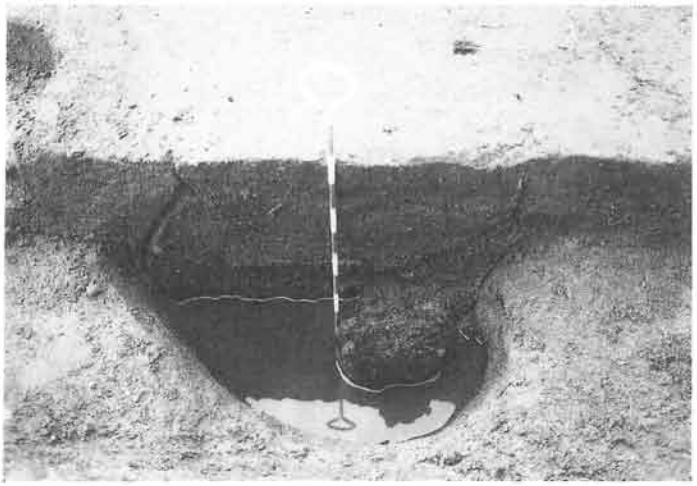
13～16号掘立柱建物　完掘状態（南西から）



17号掘立柱建物　完掘状態（南東から）

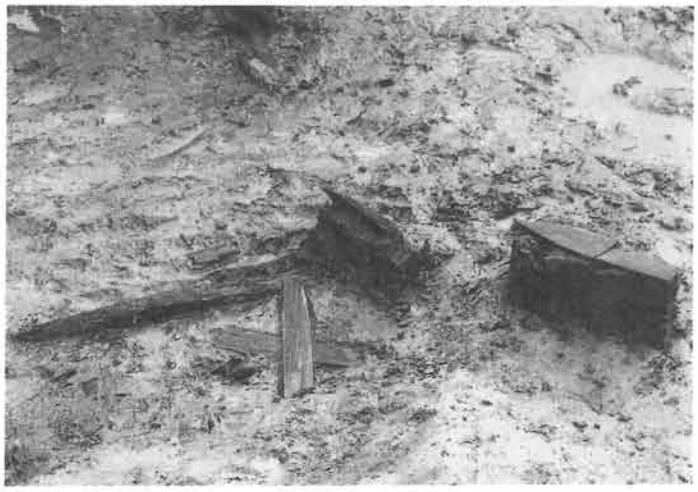


19号掘立柱建物柱穴⑦（P286）　完掘状態（北から）



14号掘立柱建物柱穴①（P174）土層断面（東から）

1号流路　土層断面（北から）



1号流路　木簡出土状態（北東から）

1号流路　完掘状態（南西から）

1区・2区完掘状態（北から）

1

20

4

8

51

26

13

53

24

15

12

25

11

12

28

7

38

18

66

69

93

68

105

92

99

86

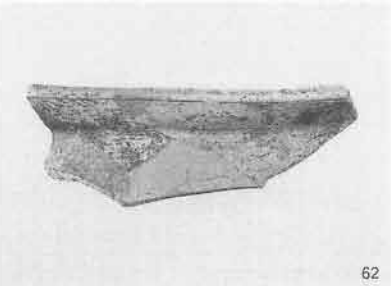
90

99

86

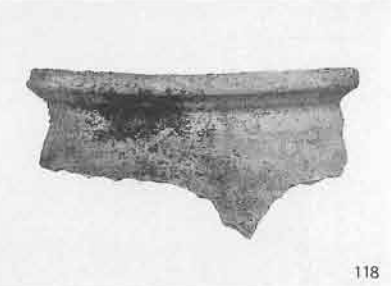
90

80


62

77

58

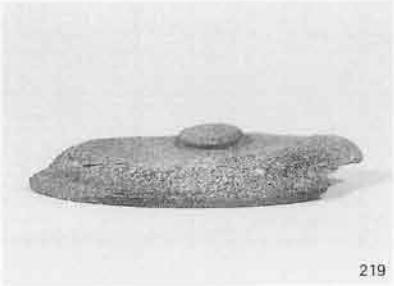

118

79

196

107

113


219

151

162

199

154

166

174

156

94

135

156

125

187

185

254
233

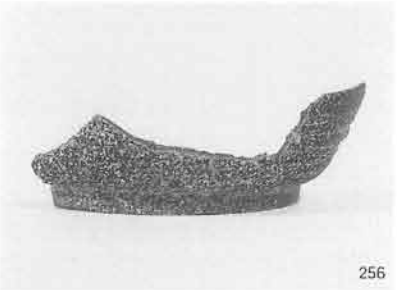
222

204

255

236

257


256

236

257

234

258

212

235

221

218

253

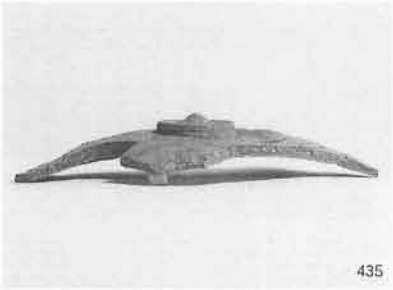
260

240

433

436

439


435

436

439

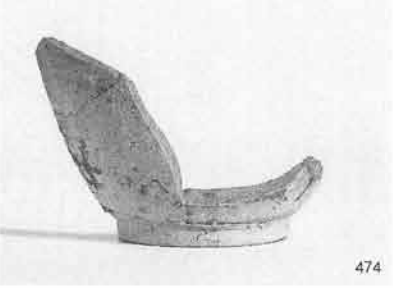
453

326

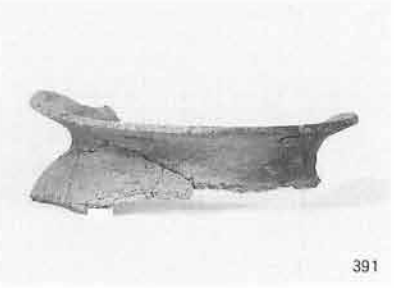
331

410

412


474

394


391

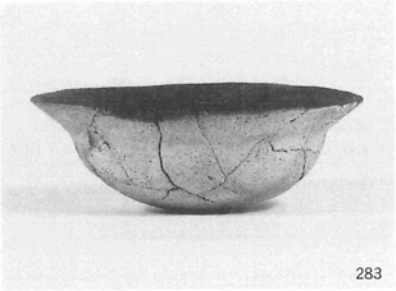
392

393

430

429b

314

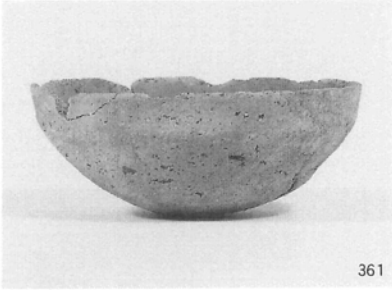

283

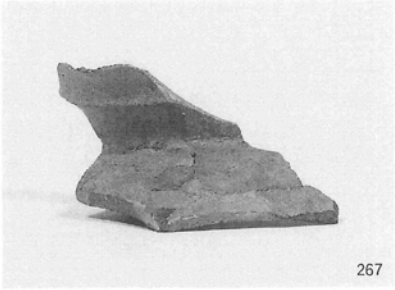
490

310

282

275


361

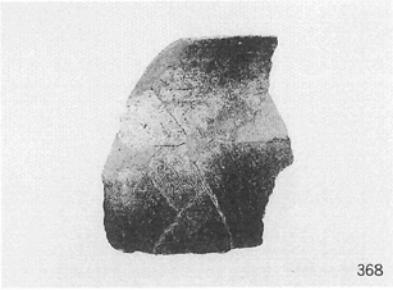

267

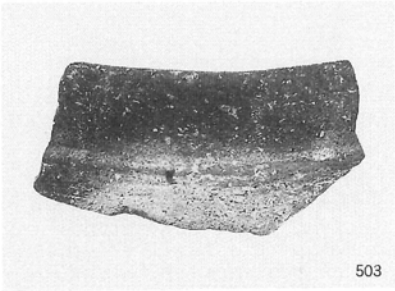
268

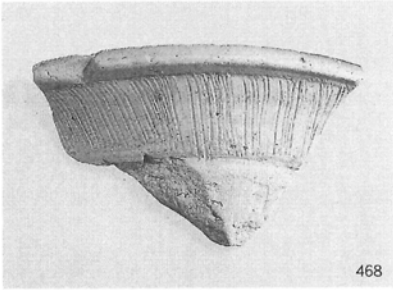
272

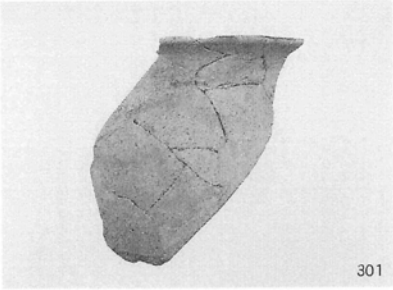
366

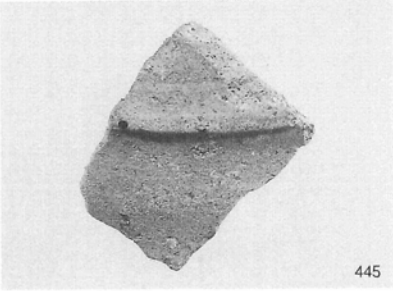
271

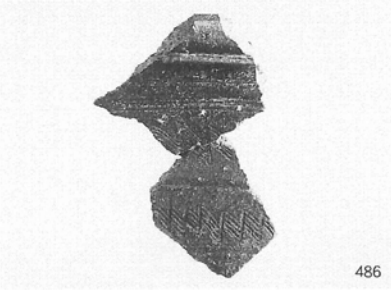

368


503


468


301


445


486

57

209

441

476

2

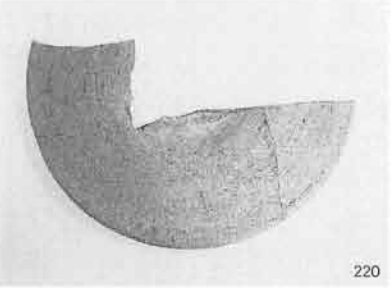
213

335

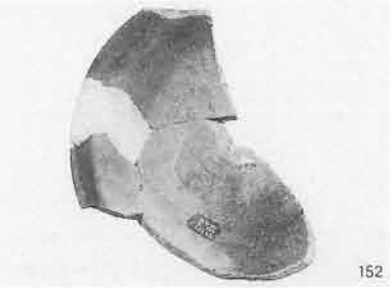
480

30

47


220

421


152

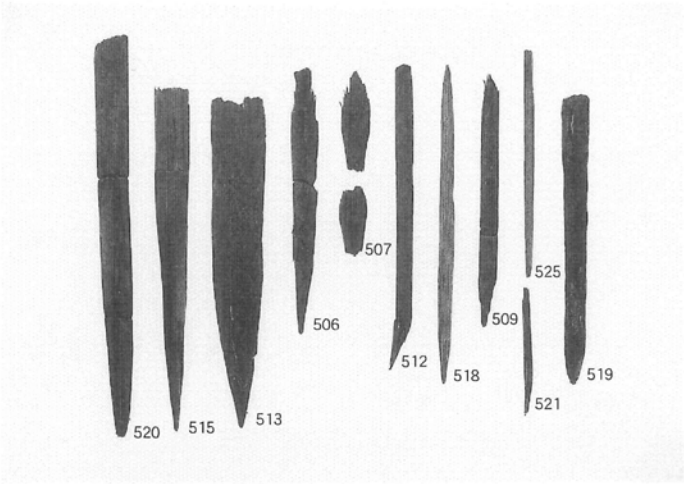
161

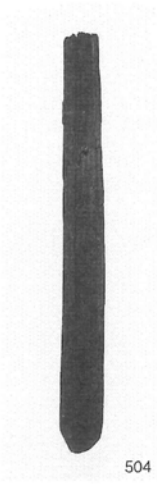
446

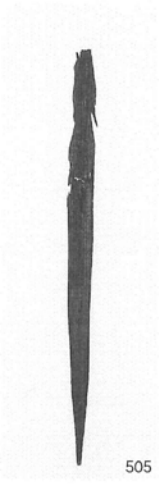
152

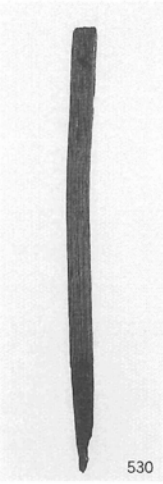
161

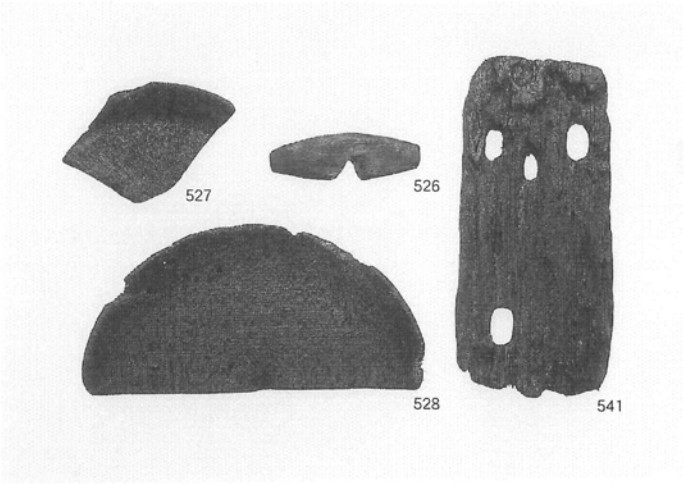
446


507
525
506
509
512
518
519
521
520
515
513

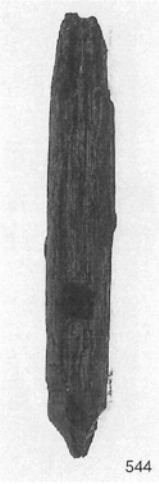

504

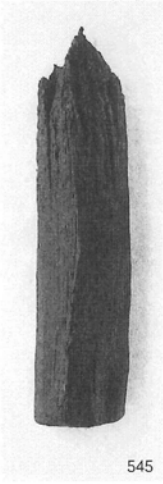

505

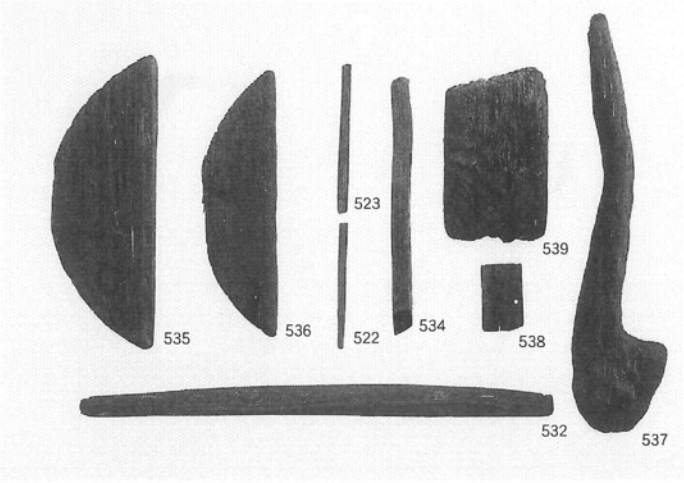

530


527
526
528
541

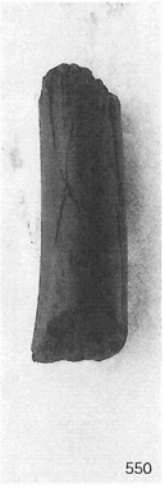
543

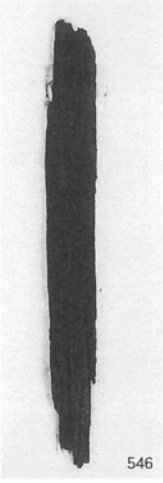

544

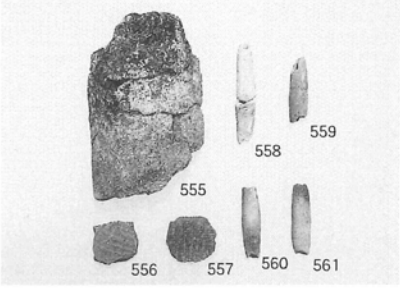

545


523
539
535
536
522
534
538
532
537

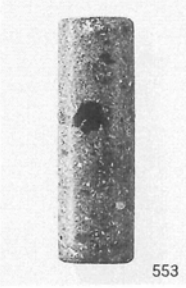
551

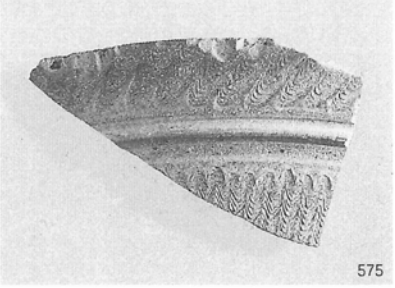

550


546


559
558
555
556
557
560
561

552


553


575

報　告　書　抄　録

ふりがな	そりげいせき　はっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	空毛遺跡　発掘調査報告書
副 書 名	経営体育成基盤整備事業（佐々木南部郷２期地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　Ⅰ
シリーズ名	新発田市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第43
編著者名	鈴木　暁・笹澤正史
編集機関	新発田市教育委員会（教育部　生涯学習課　文化行政室　埋蔵文化財係）
所 在 地	〒959－2323　新潟県新発田市乙次281番地２　　TEL. 0254-22-9534
発行年月日	平成24（2012）年３月19日
体　　裁	Ａ４判　横組１段　本文128頁　写真図版16頁

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
空毛遺跡（そりげいせき）	新発田市飯島字空毛1410番地ほか	15-206	527	37°55′52″	139°16′37″	20090615～20090916（53日間）	630㎡	経営体育成基盤整備事業（佐々木南部郷２期地区）

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
空毛遺跡（そりげいせき）	集落跡	古墳時代前期	木棺墓１基 土坑・溝	土師器・管玉	
		古墳時代後期	掘立柱建物１棟 井戸１基 木棺墓１基 土坑・溝	土師器・須恵器・黒色土器・コハク製棗玉	
		奈良・平安時代	掘立柱建物16棟 竪穴建物１棟 周溝式建物２棟 流路跡２条 土坑・溝	土師器・須恵器・黒色土器・木製品・土製品・石製品・木簡	

要　　約

調査の結果，空毛遺跡は古墳時代前期・後期および奈良・平安時代の集落跡と判明した。古墳時代では前期・後期とも木棺墓と考えられる遺構を検出し注目される。奈良・平安時代では複数の時期にわたる集落跡がみつかった。土地利用を変化させつつ集落が営まれたと考えられる。流路跡からは呪符木簡や斎串などが出土し，水辺での祭祀行為が確認された。

空毛遺跡 発掘調査報告書

経営体育成基盤整備事業（佐々木南部郷２期地区）

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 Ⅰ

発　行　　平成24（2012）年３月19日
新発田市教育委員会
新潟県新発田市乙次281番地２

印　刷　　株式会社　エンジュ

本書は，本文・図版ともに中性紙を使用しています。